

る者と雖も代位相続を爲すことを得るや
長子相続の起源
相続法上に於ける胎兒の地位
家族に非ずして相続人に指定せられたる者の戸主権の取得
留保と遺留分
家族制度と長子相続
婿養子の相続権に就て
被相続人を死に致したる者の刑の確定前爲したる行為の効力
被相続人を死に致したる者の刑の確定前爲したる行為の効力
遺留分の規定に違反したる財産留保の効力
代位相続に就て
民法第九七三條の意義
法定推定家督相続人の復縁と廢除の取消
復縁と廢除取消との關係を

森	榮	〔新聞〕	四三六	三九	
岡村	司	〔京法〕	四四〇	一一二	
牧野菊之助	〔法政〕	四四〇	二	三	
牧野菊之助	〔志林〕	四四二	一〇	一	
掛下重次郎	〔明學〕	四四二	一	二二	
石阪音四郎	〔京法〕	四四二	三	二二	
大原	早利	〔新聞〕	四四二	一	四九
乃川	覺治	〔新聞〕	四四二	一	四九
阪口	去水	〔新聞〕	四四二	一	四九
杉野菊之助	〔志林〕	四四二	二	二〇	
梅	謙太郎	〔志林〕	四四二	二	三
島田	鐵吉	〔新報〕	四四二	二	一
A S	生	〔新聞〕	四四二	一	六九

論ず
復縁と廢除取消との關係論に付て
家督相続人の指定に付て承祖相続
家督相続人たる胎兒を論ず
家督相続回復請求權拋棄の契約
家督相続回復請求權は拋棄することを得ざる乎
仲繼相続に付て
相続人選定の必要と戸主たる親族一人のみ存する場合
法定推定家督相続人の廢除及他家入籍後に於ける廢除の取消及復縁と相続權の回復
家督相続人選定の爲めの親族會に就て
分家より復縁せし者と他の卑屬との相続争
分家より復縁したる者と他の卑屬間の相続順位

齋藤	巖	〔新聞〕	四四四	一	七〇六
渡邊菊之助	〔新聞〕	四四四	一	七二五	
牧野菊之助	〔評論〕	大二	二	一〇	
柳川	勝二	〔評論〕	大三	三	一三
松本	丞治	〔新報〕	大三四	一	一
牧野菊之助	〔新報〕	大三四	八	八	
横山勝太郎	〔辯協〕	大三八	一	一九	
牧野菊之助	〔評論〕	大四	四	四	
牧野菊之助	〔新報〕	大四五	八	八	
牧野菊之助	〔新報〕	大四五	二	九	
大橋	誠一	〔新聞〕	大四一	一〇〇八	一
大橋	誠一	〔辯協〕	大五二〇	一	一
大橋	誠一	〔新聞〕	大五一	一〇九九	一

家督相続人排斥の方法及效力
相続權回復、後見人免職、親族會決議の無効又は取消、身分關係確定の訴と事物の管轄
他人の養子たると同時に被相続人の家族たる直系卑屬と家督相続の順位
我が家督相続法と英國の 一八八二年の Settled Land Act
民法施行前法定の推定家督相続人他家に入り其後該單身戸主死亡して家督相続開始したるも絶家と爲らざる場合と家及財産の處分方
家督相続人たる婿養子の離縁と其效力に就て
胎兒と代位相続
胎兒と代位相続論を讀み大橋君に質す
推定家督相続人たる身分を

菱川	憲正	〔新聞〕	大五	一	二二	二二	二二	二二
牧野菊之助	〔新報〕	大六	二七	七	七	七	七	七
乾	政彦	〔志林〕	大六一	九	七	七	七	七
松崎藏之助	〔國家〕	大六	三二	八	九	九	九	九
牧野菊之助	〔新報〕	大六	二七	九	九	九	九	九
神谷	健夫	〔法論〕	大七	一	八	八	八	八
大橋	誠一	〔新聞〕	大七	一	一四	一四	一四	一四
三枝	生	〔新聞〕	大七	一	一四	一六	一六	一六

回復せざる廢除取消の訴に就て
家督相続人選定の親族會の存続を論ず
代位相続法沿革一斑
家督相続開始と相続人選定との間に於ける權義の歸屬
被相続人の爲したる納税と家督相続人の公民資格との關係
胎兒の家督相続に關する地位
家督相続と胎兒
法定の推定家督相続人たる婿養子なる者は男子を養子と爲すことを得ざるや
女戸主の法定推定家督相続人たる私生子と認知
被廢除者の指定及び選定に就て
相続缺格とその有恕
推定家督相続人廢除の效力
朝鮮の慣習上男子なき者死

齋藤	巖	〔新聞〕	大七	一	二七	二七	二七	二七
齋藤	巖	〔新聞〕	大七	一	三三八	三三八	三三八	三三八
中田	薫	〔法協〕	大七	三	二	二	二	二
穂積	重遠	〔新報〕	大八	二九	二	二	二	二
關口健一郎	〔國家〕	大九	三四	二	二	二	二	二
長島	毅	〔新報〕	大九	三〇	三	三	三	三
白旗	文一	〔新聞〕	大九	一	一六七	一六七	一六七	一六七
鈴木	久作	〔新聞〕	大九	一	二七	二七	二七	二七
島田	鐵吉	〔新報〕	大一〇	三二	八	八	八	八
中川善之助	〔法政〕	大一〇	二八	八	八	八	八	八
中川善之助	〔法協〕	大一一	四〇	五	六	六	六	六
鬼澤藏之助	〔法政〕	大一一	一九	九	九	九	九	九

亡したる場合に於ける
相続順位に就いて
私生子の認知と女戸主の法定推定家督相続人に就て
民法第九八六條と同第一〇〇一條との解釋に付き通説に反す
法定の推定家督相続人は認知に因りて父の家に入るか
農業禁忌と廢除に關する東京控訴院判決の批評
民法第九八六條と倫理との調和
未成年者と相続人の指定及轉籍の能力に關する宮城控訴院判例批判
家督相続回復請求權
分家の法定推定家督相続人が本家相続を爲す場合に於ける廢除手續の要否
相続人廢除に關する裁判管轄權に就て
最近の一大審院判決に對す

金 廣 植〔朝司〕大二二二 二卷 五號
藤井 清治〔新聞〕大二二二 一 二二〇
藤井 清治〔新聞〕大二二二 一 二二〇
長島 毅〔法曹〕大二三 二 一
荒木 櫻洲〔新聞〕大二三 一 二二三
松倉慶三郎〔新聞〕大二三 一 二二三
荒木 櫻洲〔新聞〕大二三 一 二三四
中島 玉吉〔法曹〕大二四 一 二
三谷錦太郎〔正義〕大二四 一 六
福井才一郎〔新聞〕大二四 一 二四七

る疑問(相続人指定の遺言を無視せる親族會決議の效力に付いて)
相続人指定の遺言を無視せる親族會決議の效力に就て
廢除の原因止みたるの意義に就いて
家督相続權の順位に就いて
勞働問題の上より見たる家内工業
家内工業と工場工業
英國家内工業制度の變遷の現況
家中工業に就て
家内工業管見

中川善之助〔法政〕大二三 三
菰淵 清雄〔法政〕大五二三 四
中川善之助〔法曹〕大五 四
福井才一郎〔新聞〕大五 一 二五七
參照II 苦行制度。

氣賀 勘重〔國經〕四四〇 二 二二三
河津 進〔日經〕四四二 二 七
關 一〔國經〕四四二 七 一
瀧本 誠一〔經叢〕大五 二 三
上田貞次郎〔商經〕大六 一 七
杉山 義夫〔洋經〕大九 一 五九〇
土屋 喬雄〔經論〕大九五 四 四

柄内學士著「舊加賀藩地割制度」を讀みての雜感
福田 徳三〔國經〕大九二 三號

【加 奈 陀】

南亞憲法草案と加奈陀及瀋洲聯邦憲法
加奈陀の移民問題
加奈陀排日案の運命
加奈陀の異民族問題
加奈陀現時の移民
加奈陀下院總選舉の意義
聯邦加奈陀の研究
加奈陀の國際的地位
剖目すべき加奈陀の經濟的發展
米加互惠協定の過去未來
加奈陀の保險業法改正案
加奈陀に於ける生命保險事業の現況及其概評
加奈陀保險法の綱領
加奈陀に於ける最近經濟事情

江木 翼〔法協〕四四二 二七 四
米田 實〔外時〕大二三 二〇 二二三
渡邊 誠吾〔外時〕大四二 二二 二二五
米田 實〔國經〕大七六 一〇 一〇
高田 熊雄〔國經〕大八二 二二 二二三
藤山 政道〔新報〕大二三 一 一
森口 繁治〔法叢〕大二三 一〇 二一六
小山精一郎〔外時〕大二三 三六 四三
田中 穂積〔外時〕四四二 一三 九
田中 穂積〔外時〕四四二 一四 一六八
麻生義一郎〔保業〕四四二 一 二六九
武井 俊夫〔保評〕大六二〇 五 五
武井 俊次〔保評〕大六二〇 六 六七
原田 龍平〔長叢〕大三二 二 二四

加奈陀銀行制度の概要
加奈陀工業紛議調査法實施社會政策より觀たる加奈陀官營年金制度
英領加奈陀に於ける勞働組合運動概況
加奈陀製鋼職工罷業の顛末
印度に於ける金貨業者高利貸業の新現象
札差に就きて

青木 一夫〔銀叢〕大二三 四 四六
堀江 歸一〔三學〕大三八 六
松崎 壽〔三學〕大五二〇 二
水上鐵治郎〔社政〕大二 一 三六
大江 武男〔社政〕大三 一 四三
津島 壽一〔法協〕四四二 二九 六
黒澤 和雄〔東經〕四四五 六六 一六六〇
幸田 成友〔三學〕大四九 八 八九

【株】 株式を見よ
【株】 株式を見よ
【株】 株式を見よ
【株】 株式を見よ

【株式】

【株式】

参照 株式會社。株主總會。株式取引所。社債。優先株。利益配當。

株式の性質	松本 丞治 [新報] 四五二
株金の拂戻を論ず	岡野敬次郎 [法政] 四三二
株式の拂込に就て	杉本貞治郎 [志林] 四三三
株式譲渡に因りて生じたる	和仁 貞吉 [志林] 四三四
餘剰金の歸屬權利者に就て	
競賣に依り株式を取得したる者か大回の拂込を爲さざる場合に於ける前株主及其譲渡人の擔保義務に就て	
記名株式の質入	岡崎 正也 [新聞] 四五五
株式の消却	高根 義人 [内外] 四三六
株式譲渡人の責任消滅を防ぐ方法	岡野敬次郎 [新報] 四三六
株金の拂込は必ず金錢を以てするを要することを論ず	岸本 晋亮 [新聞] 四五六
株金不拂に因る株主の失權に就て	志方 敏 [法記] 四五六
會社の自己の株式の取得を	松本 丞治 [法協] 四三七

論ず

記名株式に付き設定したる質權實行方法如何

商法第一五三條の競賣

株金の拂込に就て

株式譲渡人の責任に就て

株金の拂込に就て

記名株式譲渡の禁止

株式の競賣

所謂權利株買買の無効

株式競賣に就て

一時に株金の金額を拂込ひべき場合に限り株式の金額を二十回までに下すことを得」との條文の意義

株金の拂込に就て

記名株式の擔保に就て

所謂權利株の買買に就て

相續に因る株式の取得は果して會社の定款を以て禁止するを得べき乎

株式の性質並に會社存在中の株式と會社解散後の株式

松本 丞治 [志林] 四三七	六	五五
櫻 隆 [新聞] 四三七	一	二〇五
清家 宇吉 [新聞] 四三八	一	二八六
三橋 久美 [法協] 四三九	一	五
毛戸 勝元 [法政] 四三九	一〇	九
三橋 久美 [明學] 四三九	一	一〇一
松波仁一郎 [明學] 四三九	一	一〇三
平井彦三郎 [新聞] 四三九	一	三五六
松波仁一郎 [新聞] 四三九	一	三五八
飯島 喬平 [法協] 四四〇	二五	二
松本 丞治 [志林] 四四〇	一	四二六
志田鈿太郎 [國經] 四四〇	三	二
岩井 尊文 [法協] 四四〇	二五	八
石原 三郎 [志林] 四四〇	九	一〇
原 高道 [辯協] 四四〇	二一	一〇九
一柳 貞吉 [新聞] 四四〇	一	四二六

式との差異

募集設立に於ける有價物の出資	梅 謙次郎 [志林] 四四一年
定款の規定により専ら事を得る株主權と然らざる株主權	和仁 貞吉 [志林] 四四二
株式會社破産後に於ける株金の拂込	和仁 貞吉 [志林] 四四二
商法第一五三條第三項の場合にも第四四條第二項の適用ありや	加藤 正治 [志林] 四四二
記名株式を目的とする質權の實行に就て	西脇 晋 [志林] 四四二
會社の合併と株主の權利	飯島 喬平 [法協] 四四二
株券と債券	森 作太郎 [新聞] 四四二
權利株の賣買は果して株式譲渡の豫約なりや	雨 夜 亨 [東經] 四四二
株式消却の爲めにする權利	山口 弘一 [國經] 四四二
株の買買は有効なりや	西脇 晋 [志林] 四四二
株式社債の發行及引受	戸田 海市 [國經] 四四二
株主の固有權を論ず	竹田 省 [京法] 四四二
優先株主の優先權は均一なることを要するや	和仁 貞吉 [志林] 四四二
優先株に就て	鳩山 一郎 [辯協] 四四二

權利株の賣買と不法原因の給付に就て

大株主の壓迫に對する小株主權利の保全

株式投資の理由

株式法産業組合法萬國會議混水株の弊害を論ず

株式會社の自己の株式の取得に就て

約束手形を以てする株式の拂込

商法第一五三條第二項の二週間は發着何れの日より起算すべき歟

權利株の賣買と民法第七〇八條の適用に就て

會社解散の際に於ける未拂込金を對する處置

株式譲渡人は會社の資本減少の決議に對して第三者に非ず

無記名株券に就て

優先株の種類及性質

株主の拂込に益金を充當す

西脇 晋 [志林] 四四二	三	九
ロイヤリス [新聞] 四四二	一	六六二
服部 春一 [東經] 四四二	六	一五四
毛戸 勝元 [京法] 四四二	六	二
海老原竹之助 [國經] 四四二	二	四
西脇 晋 [志林] 四四二	三	八九
黒澤 龍濱 [東經] 四四二	六三	一五九二
松澤常四郎 [新聞] 四四二	一	七二二
吉野千代吉 [新聞] 四四二	一	七三二
花園 敏夫 [新聞] 四四二	一	七四七
森 作太郎 [新聞] 四四二	一	七四八
佐藤 雄能 [東經] 四四二	六五	一六四八
佐藤 雄能 [東經] 四四二	六六	一六四九
佐藤 雄能 [東經] 四四二	六六	一六五〇
佐藤 雄能 [東經] 四四二	六六	一六五一

る方法
 國民經濟上に於ける株式界の地位を論ず
 株式名義書換に關する委任狀全廢論に就て
 株式放棄論
 記名株式の譲渡に付て
 株式の種類
 株式の消却
 株式未發行の株式の譲渡に付て
 白紙委任狀附株式の流通を論じて株式の裏書に及ぶ
 拂込未済株式の整理法
 第一回及資本増加の場合の拂込株式
 我商法に於ける株金拂込請求權と株式質權との關係を論じ英國會社の Limited Companies の觀念に及ぶ
 株式會社の自己株式取得の禁止に就て

佐藤 雄能〔東經〕四四二 一六六
 丹羽 豊〔東經〕四四二 一六六
 大橋萬太郎〔東經〕四四二 一六六
 黒澤 和雄〔東經〕四四二 一六六
 竹田 省〔新報〕六二二 一六六
 上田貞次郎〔國經〕六二二 一六六
 西本辰之助〔三學〕六二二 一六六
 松本 丞治〔志林〕六二二 一六六
 毛戸 勝元〔京法〕六二二 一六六
 佐藤 雄能〔東經〕六二二 一六六
 佐藤 雄能〔東經〕六二二 一六六
 花岡 敏夫〔新報〕六三二 一六六
 鳥賀陽然良〔京法〕六三二 一六六

白紙委任狀附株式譲渡と株主の失權
 白紙委任狀附記名株式譲渡無効論に就き石坂博士に質す
 株式の金額を論ず
 株式會社應募超過額分當法
 株式の消却
 株式會社發行證券の性質
 株式の消却
 工的企業に於ける株式資本と株式資本と株式發行相場
 記名株式の質權と失權の效果
 記名株式の質權と失權の効力との關係に付商法の不備を論ず
 株式失權後競買手續完了前從前株主より株金拂込の申出ありたる時會社之を受領して失權株を從前株主に復活せしむることを論ず

松本 丞治〔新聞〕六三二 一六六
 猪股 洪清〔新聞〕六三二 一六六
 佐藤 雄能〔東經〕六三二 一六六
 佐藤 雄能〔東經〕六三二 一六六
 富永藤兵衛〔東經〕六三二 一六六
 丹羽 豊〔東經〕六三二 一六六
 鳥賀陽然良〔京法〕六三二 一六六
 高垣寅次郎〔國經〕六四二 一六六
 花岡 敏夫〔新聞〕六四二 一六六
 花岡 敏夫〔辯協〕六四二 一六六

得るや
 商法第一一條と簿記計算
 株式名義の書換
 株主の株金拂込義務と消滅時効を論ず
 株式の消却に就て
 株式發行前に於ける株式の譲渡
 額面以上の株式發行を論ず
 株式の額面超過額と所得稅
 株式の額面超過と所得稅に關する普國、索遜及伊國の判例
 新株のプレミアアムに就て
 額面以上の株式發行を論ず
 株金第一回の拂込を論ず
 株金拂込の延滞日歩に就て
 株式募集及引受
 記名株式の移轉と名義變換
 株式發行前の株式の譲渡に就て
 株式に就いて
 白紙委任狀附株式の譲渡に就て

柳田宗一郎〔新聞〕六四二 一〇五七
 下野直太郎〔國經〕六五二 一〇五七
 水口 吉藏〔國國〕六五二 一〇五七
 谷口 嘉雄〔新聞〕六五二 一〇五七
 竹田 省〔新報〕六六二 一〇五七
 有賀 成可〔辯協〕六六二 一〇五七
 眞野 毅〔法協〕六六二 一〇五七
 毛戸 勝元〔京法〕六六二 一〇五七
 毛戸 勝元〔京法〕六六二 一〇五七
 中村 茂男〔國國〕六六二 一〇五七
 佐藤 雄能〔東經〕六六二 一〇五七
 佐藤 雄能〔東經〕六六二 一〇五七
 富永藤兵衛〔東經〕六六二 一〇五七
 佐藤 雄能〔東經〕六六二 一〇五七
 西本辰五助〔三學〕六六二 一〇五七
 泉田吉次郎〔新聞〕六七二 一〇五七
 佐藤 雄能〔會計〕六七二 一〇五七
 入江眞太郎〔新報〕六八二 一〇五七

株式譲渡の禁止を論ず
 株式譲渡自由の制限に就て
 會社の合併に因る株式併合に就て
 後取株に就て
 株式のプレミアアムを論じて其課税問題に及ぶ
 未拂込株式の性質と其會計整理法
 白紙委任狀添付の株式と公示確告に因る除權判決との關係を論ず
 株式の分布と課税(株式會社株主に對する武藤氏の誤解)
 沙見法學士に答ふ
 武藤 山治〔經叢〕六九二 一〇五七
 眞野 毅〔辯協〕六九二 一〇五七
 大崎 範一〔會計〕六九二 一〇五七
 安田與四郎〔洋經〕六九二 一〇五七
 水口 吉藏〔新報〕六九二 一〇五七
 水口 吉藏〔新報〕六九二 一〇五七
 小池 國三〔東經〕七〇二 一〇五七

松波仁一郎〔法政〕六八二 一〇五七
 高根 義人〔辯協〕六八二 一〇五七
 原 嘉道〔辯協〕六九二 一〇五七
 佐藤 雄能〔會計〕六九二 一〇五七
 中村 茂男〔會計〕六九二 一〇五七
 増嶋 信吉〔會計〕六九二 一〇五七
 武田貞之助〔新聞〕六九二 一〇五七
 沙見 三郎〔經叢〕六九二 一〇五七
 武藤 山治〔經叢〕六九二 一〇五七
 眞野 毅〔辯協〕六九二 一〇五七
 大崎 範一〔會計〕六九二 一〇五七
 安田與四郎〔洋經〕六九二 一〇五七
 水口 吉藏〔新報〕六九二 一〇五七
 水口 吉藏〔新報〕六九二 一〇五七
 小池 國三〔東經〕七〇二 一〇五七

他人名義株式擔保に就て
株式打歩を準備金となすべ
き時期
株式發行割増金を論ず
取締役の供託したる株券の
性質
株式金融論
株式金融の研究
議決權株
株式市價と金融内景氣との
關係
株式の消却と資本との關係
に就いて(松本博士の所
論を感ず)
銀爲替と株式と金融
株式金融の方法及批判
株式の消却を論ず
株式の消却と資本との關係
に就いて(佐藤雄能君の所
論に答ふ)
名義株の配當は誰に課税さ
れるか、及之に對する判
例
株券發行前に於ける株式讓

草島定太郎	〔銀研〕六二	三	二
中島 精二	〔會計〕六二	一〇	一
下野直太郎	〔商研〕六〇	一	一
三谷錦太郎	〔辯協〕六二	二七	一
荒木 秀一	〔銀研〕六三	四	一
荒木 秀一	〔銀叢〕六三	一	一六
西本辰之助	〔法研〕六三	二	二一四
池田 龍藏	〔銀研〕六三	四	三
佐藤 雄能	〔會計〕六二	三	三
丹羽 豊	〔銀叢〕六二	一	三
荒木 秀一	〔銀叢〕六二	一	三
吉川信太郎	〔法政〕六二	二〇	四
松本 丞治	〔會計〕六二	三	四
松野健太郎	〔會計〕六二	三	四

渡の對抗條件
白紙委任狀附株券の危險
債務の擔保を目的として自
社株式に付き締結する契
約
株金を拂込さざる株式引受
人も他の者と等しく權利
を行使することを得るや
白紙委任狀附株券の危險を
讀む
金融統計の種類と株式
被合併會社の清算所得と其
株主の取得する拂込済株
式金額
株式金融とコールマネー
株式擔保に就て
白紙委任狀附記各株式の讓
渡性
記名株券の喪失と公示催告
株式金融政策
大株整理問題
株券法論
株主責任に關する判例の研
究

猪股 洪清	〔法治〕六二	二	五
片山 千里	〔銀叢〕六二	三	一
漢 潤生	〔新聞〕六二	一	二〇八九
齋藤 巖	〔新聞〕六二	一	二五五
高木武比古	〔銀叢〕六三	二	一
石卷 良夫	〔銀研〕六三	六	二
織田 吉藏	〔會計〕六三	一四	三
荒木 秀一	〔銀叢〕六三	二	五
牧野清一郎	〔銀叢〕六三	三	五
小野 久	〔辯協〕六三	二八	五
太田 義繁	〔銀研〕六三	七	六
荒木 秀一	〔銀叢〕六三	三	一
長永 義正	〔財經〕六三	一	一六
赤尾 元彦	〔早法〕六三	三	一
濱田 德海	〔會計〕六四	一六	一

利益を以てする株式の消却
に就て
無額面株式及轉化社債に就
て
本邦株式金融市場の構成
商法第一五一條の研究(銀
行が自己株を擔保として
受領することに就て)
株主の二重責任
失權豫告附株金拂込催告に
於ける拂込期間の起算點
株配當の課税を論ず
株主の失權と其株式の所屬
株式現物業者の所得税改正
希望
投資物として公債、株券並
に社債の優劣
債券及び株券の保護預り業
務
新株の價格を論ず
歳末株式の高潮と警戒要

三邊 金藏	〔三學〕六四	一九	三
山本 俊慶	〔正義〕六四	一	四
加藤 和根	〔銀叢〕六四	四	二一五
多田 喜一	〔法叢〕六四	一三	五
濱田 德海	〔會計〕六四	一六	五
竹田 省	〔法叢〕六四	一三	六
稻森 實	〔經研〕六四	二	二
岡村 玄治	〔法曹〕六四	三	二〇
神戸 正雄	〔時經〕六四	一	三〇
高城仙太郎	〔法研〕六五	五	一
栗栖 越夫	〔イン〕六五	三	二一六
原口 亮平	〔國經〕六五	四〇	三
神戸 正雄	〔時經〕六五	一	三

社會問題の解決として株式
會社を論ず
現今經濟社會に於ける株式
會社を論ず
英國の有限責任會社(株式
會社)に關する新法律
發起人團體論
株式會社組織の弊害に就て
株式會社を論ず
株式會社の支店に備付くへ
き定款及總會の決議に付
て
株式會社の發達及立法
經濟上の株式會社
株式會社と營利事業
株式會社の通弊
株式會社の統計的研究
株式會社の形式と實質
株式會社に關する上田教授
の論説を讀みて、附松波
青木兩博士の起源論に就
て
獨逸に於ける株式會社利潤
統計調査に就て

伊吹山徳司	〔國家〕四五	一四	一六四
甲野 吉藏	〔明學〕四五	一	三四
セリム	〔法記〕四五	一五	一六〇
松波仁一郎	〔法政〕四五	一〇	二
河津 源	〔日經〕四五	〇	一三四
佐野 善作	〔國經〕四五	四	三
河西善太郎	〔新聞〕四五	一	四七九
松波仁一郎	〔國經〕四五	七	二
福田 徳三	〔東經〕四五	六〇	一五九
黒澤 龍演	〔東經〕四五	六	一五四
久米 良作	〔新報〕四五	二	五
福田 徳三	〔統集〕四五	一	三六七
上田貞次郎	〔國經〕六二	一五	三
福田 徳三	〔國經〕六二	一五	五六
福田 徳三	〔統集〕六二	一	三九一

株式會社の三大奇觀	兒林百合松 [東經] 六二六七 一六八
株式會社の起源に關して福田博士の教を請ふ	花岡 敏夫 [國家] 六三二八 二
獨逸の有限責任會社と株式會社の比較並に其設立に就て	渡邊 鐵藏 [法協] 六三三三 四
株式會社の起源に關する花岡學士の所説を讀む	松崎 壽 [國家] 六三二八 四
株式會社論に就て福田博士に答ふ	上田貞次郎 [國經] 六三二六 四
株式會社に於ける有限責任主義の經濟上の價值	關 一 [新報] 六三二四 五
變態株式會社を論じて三井物産會社に及ぶ	福田 德三 [財經] 六三一 五
花岡松崎兩氏の論文に就て株式會社の有限責任制度に就きて關博士に答ふ	福田 德三 [國經] 六三二六 五
獨逸株式會社の營業成績	上田貞次郎 [新報] 六三二四 九
大正三年下半年株式會社營業成績	本庄榮治郎 [京法] 六三九 一〇
本邦株式會社企業の利潤に就て	渡邊 鐵藏 [國家] 六四二九 九
獨逸株式會社の營業成績	渡邊 鐵藏 [統集] 六四一 一〇七
	渡邊 鐵藏 [國家] 六五三〇 一

株式會社整理論	毛戸 勝元 [京法] 六五二 一
株式會社の整理に就て	荒井誠一郎 [法協] 六五三四 四
株式會社課税問題	町田 成美 [國家] 六六三一 二
支那に於て設立する日本株式會社に就て	柏田 忠一 [亞經] 六六一 二
近世株式會社の起源に關する Lehmann の所説	小栗福國道 [京法] 六七一三 一
株式會社の起源に就て	上田貞次郎 [國經] 六八二七 一
發起人團體の性質及設立行為との關係	猪股 洪清 [國國] 六八七 六
株式會社起源考	阿部 秀助 [三學] 六八三 二
株式會社法の改造	猪股 洪清 [國國] 六九八 一
株式會社實務法	橋本 良平 [商事] 六一 二
株式會社資本組織の缺陷	兒林百合松 [會計] 六一 九
株式會社の起源及沿革と株式會社法の發達	平野義太郎 [新報] 六一 二
近世初期の英國株式會社に對するスコットの觀察	高木 壽一 [三學] 六一 七
株式會社の概念	猪股 洪清 [辯協] 六二七 七
日本に於ける株式會社の起源	上田貞次郎 [商研] 六二 二
株式會社の一觀察	小林 茂 [金融] 六三 一

佛蘭西法に於ける勞働參加株式會社

佛蘭西法に於ける勞働參加株式會社	西島彌太郎 [法叢] 六三二 三
ミード氏著、株式會社財政論(第五版)	佐々木道雄 [經論] 六三三 一
株式會社法と比例代表制度米國に行はるゝ使用人を株主とする株式會社の政策に就て	田中 誠二 [國家] 六三三 一〇
株式會社の人格	吉川 義弘 [商事] 六四 五
株式會社は其定款中に先取株に關する規定を設けることを得るや否を論ず	前田卯之助 [企社] 六五 一
株金の拂戻を論ず	N N [法記] 四七 二九
株金の拂込に就て	杉本貞治郎 [志林] 四三 二
株式引受の法律上の性質	和仁 貞吉 [志林] 四四 三
發起人の地位を論ず	松本 丞治 [新報] 四六 一
株式會社に於ける現物出資論	鈴木雄次郎 [新聞] 四八 二六
株金の拂込に就て	鈴木雄次郎 [新聞] 四八 二七
株金の拂込に就て	三橋 久美 [法協] 四九 二四
株式會社不成立の場合に於ける發起人の責任	岩井 尊文 [法協] 四九 二五
	柏木 山人 [志林] 四九 九

株式會社の發起行為に關する疑義	飯島 喬平 [法協] 四二 一
募集設立に於ける有價物の出資	和仁 貞吉 [志林] 四一 一〇
商法第三五條但書の注意財產出資の場合	和仁 貞吉 [志林] 四一 一〇
創立總會に於ける資本額變更の決議	片山 義勝 [新報] 四一 一八
發起人の性質及責任	西脇 晋 [志林] 四一 一〇
各株式に付き四分の一株金拂込は創立總會開催の前提條件なりや	和仁 貞吉 [志林] 四二 二
設立前の株式會社の性質無能力者による株式引受取消の會社設立に及ぼす効力	石阪音四郎 [京法] 四二 三
發起人論	岡野敬次郎 [新報] 四二 一九
株式會社發起人の責任に就て	服部 春一 [東經] 四二 二六
株式會社の財産の評価に就て	竹田 省 [京法] 四二 五
株式會社の機關と實際的運用に就て	岡野敬次郎 [新報] 四二 二
株式會社發起人の利得を論ず	上田貞次郎 [國經] 四二 一〇

約束手形を以てする株式の拂込

有價物の出資に就て

株式會社の設立費用

發起人に此惡弊あり

會社の發起人に經營の責任ありや

英國會社法に於ける目論見書に關する發起人の責任

創立總會の權限に關する定款の規定

株式會社の現物出資を論ず

發起人の形式

株式會社の機關と其作用

株式會社の發起人が受くる特別の利益及報酬に就て

株式會社の現物出資を論ず

株式會社發起人の責任に就て

株式會社の創立總會の權限を論ず

出資義務に就て

株式會社に於ける金錢以外

上田貞次郎	〔國經〕	二二	八
黒澤 龍演	〔東經〕	六三	一五九
高根 義人	〔辯協〕	四二	一六四
佐藤 雄能	〔東經〕	四六	一六七
海老原竹之助	〔日經〕	六九	二二五
丹羽 豊	〔日經〕	六二	二二八
花岡 敏夫	〔評論〕	六二	二二八
池田 秀雄	〔新聞〕	六二	二二八
鈴木富士彌	〔辯協〕	六三	二二八
猪股 淇清	〔新聞〕	六三	二二八
渡邊 二郎	〔國經〕	六四	二二八
佐藤 雄能	〔東經〕	六四	二二八
佐藤 雄能	〔東經〕	六四	二二八
松波仁一郎	〔新聞〕	六四	二二八
松波仁一郎	〔新聞〕	六五	二二八
烏賀陽然良	〔京法〕	六六	二二八

の財産を以て出資の目的とする場合の會計問題

株式引受及第一回株金拂込の欠缺と創立總會終結

株式の引受又は拂込の欠缺と會社の成立

株式會社發起人の責任を論ず

株金第一回の拂込を論ず

株式の引受又は第一回拂込の未済と會社の不成立

株式會社設立無効の判決後の法律關係

株主名簿に就て

株式會社の設立無効を論ず

株式會社發起人論

現物出資論

發起人の意義

株式會社財産の意義を論じて

商法第一七四條第二項に及ぶ

株式會社設立費用の負擔者

株式會社資本の概念

株式會社募集設立の場合に

原口 亮平	〔會計〕	六六	二二
猪股 淇清	〔辯協〕	六六	二二三
水口 吉藏	〔國經〕	六六	二二五
田中耕太郎	〔法協〕	六六	二二五
佐藤 雄能	〔東經〕	六六	二二五
岡村 玄治	〔志林〕	六七	二二〇
齋藤 巖	〔新聞〕	六七	二二〇
佐藤 雄能	〔東經〕	六七	二二〇
松本 丞治	〔新聞〕	六八	二二〇
西本辰之助	〔三學〕	六九	二二〇
猪股 淇清	〔辯協〕	六九	二二〇
津田 進	〔法記〕	六九	二二〇
持田 訣	〔辯協〕	七〇	二二五
豊原 清作	〔辯協〕	七〇	二二五
岡田 誠一	〔經究〕	七〇	二二五

於ける物的出資は發起人に限る力

有價物出資者が金錢拂込を爲し得べき範圍

發起人の利益として現物出資を論ず

株式會社發起人論

設立經過中の株式會社に就て

所謂會社設立無効判決の確定したる場合に於ける發起人の責任を論ず

株式會社定款の記載事項

勞務出資を論ず

勞務出資に就きて

出資の目的物を論ず

株式會社の設立

發起人論

株式會社の現物出資に就て

株式引受の性質(法律的觀念に對する根本問題)

株主名簿記載の効力

株主に對する發起人の責任

堀江專一郎	〔辯協〕	六〇	二二五
江口 繁	〔辯協〕	六二	二二六
橋本 良平	〔商事〕	六二	二二六
西本辰之助	〔法研〕	六二	二二六
石田文次郎	〔國經〕	六二	二二六
大西 利夫	〔辯協〕	六二	二二六
佐藤 雄能	〔會計〕	六二	二二六
中村 茂男	〔商事〕	六二	二二六
太田 哲三	〔計理〕	六二	二二六
下野直太郎	〔商研〕	六二	二二六
佐藤 雄能	〔會計〕	六三	二二六
佐藤 有恭	〔新聞〕	六三	二二六
中川十一郎	〔法新〕	六三	二二六
西本辰之助	〔法研〕	六四	二二六
水口 吉藏	〔法治〕	六四	二二六
猪股 淇清	〔法公〕	六五	二二六

株式會社の準備基金を論ず

少數株主權論

利益配當請求權に付て

定款に定めなき場合に於ける利益配當の標準

準備金利用の方法

配當金支拂請求權に就て

新株式が事業年度の中途に於て拂込を爲したる場合には日割を以て利益配當を爲すべきや

商法第一九六條に所謂開業の意義

商法第一九六條に所謂開業の意義

株式會社の虚偽計算

株式を見よ

株主總會を見よ

取締役を見よ

監査役を見よ

參照準備金。利益配當。

本野 一郎	〔法協〕	七二	二二三
アタダム	〔内外〕	七三	二二三
鈴木雄次郎	〔新聞〕	七三	二二三
片山 義勝	〔新報〕	七三	二二三
和仁 貞吉	〔志林〕	七二	二二三
岡野敬次郎	〔新報〕	七二	二二三
松本 丞治	〔評論〕	七二	二二三
高窪喜八郎	〔評論〕	七二	二二三
猪股 淇清	〔新聞〕	七二	二二三
毛戸 勝元	〔法記〕	七三	二二三
桑田 熊蔵	〔新報〕	七三	二二三

商法第一九六條に於ける開業の意義に付て
 商法第一九六條第一項に所謂開業の意義を論ず
 第一九四條に於ける利益の意義
 商法第一九六條の開業の意義に付き
 商法上株式會社の利益に關する疑點
 少數株主の本質を論ず
 建設利息の不當配當を受けたる株主に對する會社債權者の權利存否
 株式を以てする配當は所得であるか
 株式會社の利益配當保證に就て
 會社の配當と賃價
 株式會社の爲めにする配當擔保契約
 利益金の動搖と配當率の決定
 株式會社の決算

松本 丞治	〔法記〕	六三二	二
志田 輝太郎	〔法記〕	六三二	二
鳥賀 陽然良	〔京法〕	六四一〇	五
岸 清一	〔辯協〕	六四一九	一五
太田 哲三	〔會計〕	六六一	三一
鳥賀 陽然良	〔新報〕	六六二七	三
田中 耕太郎	〔新報〕	六八二九	六
舞出 長五郎	〔國家〕	六八三三	二
打田 傳吉	〔辯協〕	六九二四	七
佐藤 賢次	〔計理〕	六二〇	六
竹田 省	〔法叢〕	六一七	二
橋本 良平	〔商事〕	六二二	三
橋本 良平	〔商事〕	六二三	四

商法第一九四條第一項の法定準備金に就て
 株式會社の利益金に就て米國に於ける株式會社の行ふ利益配當に就て
 定款の変更
 株式會社資本の減少に就て一箇月を下らざる期間内の意義
 資本増加の法律的説明
 創立總會に於ける資本額變更の決議
 商法第二〇九條第四項の解釋
 株主に配當すべき利益を以て爲したる株式の消却と資本との關係
 各株主に付一株宛消却すべしとの決議の效力
 株主に配當すべき利益を以て未拂込額ある株式を消却する場合の手續
 優先株主の優先權は均一な

加島 五郎	〔新報〕	六二二	一三二
吉川 義弘	〔商事〕	六二四	五
吉川 義弘	〔商事〕	六二四	六
吉川 義弘	〔商事〕	六二四	六
岡野 敬次郎	〔新報〕	六三六	三
平出 修	〔新報〕	六三七	一
岡野 敬次郎	〔新報〕	六三八	一
片山 義勝	〔新報〕	六四一	八
和仁 貞吉	〔志林〕	六四二	一〇
和仁 貞吉	〔志林〕	六四二	一〇
西脇 晋	〔志林〕	六四二	一〇
和仁 貞吉	〔志林〕	六四二	一〇

ることを要するや
 資本減少論
 資本減少の登記期間
 拂込株金額減少
 株式會社の資本増加を論ず
 株式會社の資本増加を論ず
 株主に配當すべき利益を以て爲す株式消却は資本減少と爲るや
 新株發行に因る株式會社資本増加論
 株式會社の資本増加に就て
 缺損填補の方法としての拂込株金額の減少
 合併に因る株式會社資本増加の登録税に就て
 資本減少方法の一例
 商法第二〇九條に違反したる所謂特別決議の効力に就て
 株式會社の資本増加と新株の成立
 合併に因る増資と優先株
 株式會社に於ける資本減少

和仁 貞吉	〔志林〕	四二二	七
横山 勝太郎	〔辯協〕	四四三	一三五
佐藤 雄能	〔東經〕	四四五	一六六
松本 丞治	〔評論〕	六二二	一
佐藤 雄能	〔東經〕	六五七	一八四
竹田 省	〔京法〕	六六二	四
水口 吉藏	〔會計〕	六七三	五
入江 眞太郎	〔法協〕	六七三	六
猪股 洪清	〔國國〕	六七六	二
泉田 吉次郎	〔新聞〕	六七七	一
毛戸 勝元	〔新聞〕	六七七	一
佐藤 雄能	〔東經〕	六七七	一
齋藤 巖	〔新聞〕	六八八	二〇〇
梅 謙次郎	〔志林〕	六二〇	三
近藤 民雄	〔辯協〕	六二二	七

の原因
 資本減少の方法
 株式會社資本減少論
 株式會社の整理復興と追加拂による優先株制度
 變態増資論
 株式會社の資本減少に就て
 株式會社の減資
 株式會社合併に關する問題を論ず
 合併に因りて消滅したる會社の株式に對する質權者の權利
 會社合併前の株式に對する質權
 再び合併會社の株式に對する質權に就て
 謂ゆる株式會社の事實上の合併を論ず
 會社の合併と株主の權利
 會社解散の際に於ける未拂込金に對する處置

橋本 良平	〔商事〕	六二二	三
佐藤 雄能	〔會計〕	六二二	三
赤尾 元彦	〔早法〕	六二二	三
眞野 毅	〔法曹〕	六二二	三
橋本 良平	〔會計〕	六二二	三
松本 丞治	〔民衆〕	六二二	三
橋本 良平	〔商事〕	六二二	三
高窪 喜八郎	〔新聞〕	六三九	一
森 作太郎	〔新聞〕	六三九	一
岩田 宙造	〔辯協〕	六四九	一〇
高窪 喜八郎	〔辯協〕	六三九	一〇
片山 義勝	〔新報〕	六四〇	一七
森 作太郎	〔新聞〕	六四二	一
花岡 敏夫	〔新聞〕	六四四	一

【株式會社】 【株式合資會社】 【株式取引所】

裁判所の解散命令に付て
合併に因る株式會社資本増
加の登録税に就て
會社の合併に因る株式併合
に就て
合併に因る増資と優先株
株式會社の合併に關する疑
義
株式會社の合併
株式會社の解散
株式會社の解散
清算
株式會社清算の場合に於ける
損益分配
株式會社が事業に着手した
る後其設立の無効を發見
したる場合に及すべき清
算を論ず
株式會社破産後に於ける株
金の拂込
白紙委任狀に因る代理權の
效力と會社の清算
一旦定めたる債權申出期間
を清算進行上の都合に依

田中耕太郎	〔志林〕	六七〇	一
毛戸 勝元	〔新聞〕	六七〇	一三三
原 嘉道	〔辯協〕	六九二	一
近藤 民雄	〔辯協〕	六二七	二
三田 勝	〔法曹〕	六三三	二
橋本 良平	〔商事〕	六四四	一
橋本 良平	〔商事〕	六四四	五
佐藤 雄龍	〔會計〕	六四一	二
岡野敬次郎	〔志林〕	四三六	四七
志田鈿太郎	〔法協〕	四二六	四
加藤 正治	〔志林〕	四一〇	一〇
梅 謙次郎	〔志林〕	四一〇	二

り清算人に於て任意に延
長短縮することを得るや
株式會社の利益及び殘餘財
産分配の割合を論ず
株式會社の殘餘財産
株式會社の清算に就て
清算中の會社に就て
株式會社の清算

和仁 貞吉〔志林〕四四二 一
毛戸 勝元〔京法〕四四二 三
佐藤 雄龍〔東經〕六二六 九
烏賀陽然良〔京法〕六三九 五
烏賀陽然良〔新報〕六七二 三
佐藤 雄龍〔會計〕六七三 三

【株式合資會社】

株式合資會社を論ず
株式合資會社存廢論

小澤 政許〔新報〕四三三 九
松波仁一郎〔新報〕四四一 八

【株式取引所】

我國株式市場に於ける立會
の方法
株式取引所と金融市場との
關係
佛國巴里株式取引所の取引
紐育株式取引所と金融市場
株式相場高低の原因を論ず
株式市場と經濟狀態

參照 株式。貨幣。恐慌。銀
行。投機。取引所。

佐野 善作〔國經〕四四〇 三
北内 楯雄〔國經〕四四三 八
藤田 藤吉〔國經〕四四四 一〇
山室 宗文〔法協〕四四二 九
米澤 貞二〔日經〕四四四 一〇
遠藤竹次郎〔東經〕四四四 一〇

株式取引所改善策
歐米株式取引所の現況
株式相場論
株式取引所増資問題に關し
教を戸田博士に請ふ
指定落による株式取引所仲
買人の建株損益調査方法
倫敦株式取引所の監督に就
て
現物市場としての株式取引
所
株式取引所の計算整理方法
及び仲買人の損益調査方
法改良案
島本君の株式取引所の計算
整理方法改良案に就て
株式仲買人と小口落
紐育株式取引所の精算方法
と我國取引所の小口落方
法
株式相場
株式市場と金利と金融市場
株式取引二重上場問題の研
究

奥田 吉郎	〔國經〕	四四四	一
神田 龍藏	〔洋經〕	六二二	一
丹羽 豊	〔東經〕	六三三	一
荒山 泰	〔國經〕	六六三	四
島本 得一	〔會計〕	六七三	五
栗田 藤吉	〔國經〕	六七二	五
井上豊太郎	〔新聞〕	六七二	一三六
島本 得一	〔會計〕	六七三	一
小山正之助	〔新聞〕	六七二	一四〇
松永 義雄	〔辯協〕	六九二	一
島本 得一	〔會計〕	六九二	一
丹羽 豊	〔國經〕	六九三	一
左右田誠一	〔銀研〕	六九五	三
島本 篤次	〔商事〕	六九二	六

【株式取引所】 【株主總會】

紐育株式取引所に於ける新
施設
東京株式取引所の早受渡制
度に就て
物産の定期取引と株式定期
取引の本質的差異
新設紐育株式交換團
株式限月短縮の經濟的考察
株式長期市場に於ける早受
渡制度
株式取引限月復活論
株式取引所に於ける違約處
分
米、株の相場（取引）と法
律
株式取引所に於ける早受渡
制度に付て

井浦仙太郎〔商研〕六三二 一
岡田 純夫〔商事〕六三三 四
向井 鹿松〔三學〕六三三 二
栗田 藤吉〔商經〕六三三 二
北崎 進〔經商〕六三三 二
山田敬太郎〔取引〕六三三 一
渡邊 五郎〔金融〕六三三 二
島本 得一〔商事〕六三三 五
原田鹿太郎〔民衆〕六三三 四
長滿 欽司〔銀叢〕六三三 四

【株主總會】
商法第一五六條の解釋及適
用に就て
株主總會決議事項の範圍に
就て

新井要太郎〔辯協〕四五五 六
三浦 雄城〔新聞〕四五五 一

る批評に就て
 正貨保留の價值如何
 グレシヤムの法則に就て
 銀貨の前途如何
 カルタル、テラリーの骨子
 拙著「貨幣と價值」に對する
 福田博士の批評に答ふ
 自由鑄造に就て
 貨幣法改正の結果に關する
 桂首相及び武富時敏氏の
 意見を論評す
 指數と貨幣の購買力
 ホアギユベールの貨幣論と
 三浦梅園の貨幣論に就て
 の愚考
 賦除と貨幣の關係に就ての
 愚考
 通貨税と銀行税
 アダム・スミスの貨幣學說
 金貨の流通せざる金本位國
 貨幣の價值を論ず
 高橋日銀總裁の通貨と物價
 論に就て

原稜	威雄	〔國經〕	四四	三號
河津	暹	〔日經〕	四二	三
山崎覺次郎	〔國家〕	四四	三	八
芝本善次郎	〔洋經〕	四四	一	四九
河田 嗣郎	〔京法〕	四四	四	三
左右田喜一	〔國經〕	四四	七	六
山崎覺次郎	〔國家〕	四四	二	一
山崎覺次郎	〔志林〕	四四	三	四
財部 靜治	〔京法〕	四四	五	四
福田 徳三	〔國家〕	四四	二	六
福田 徳三	〔國家〕	四四	二	四
河津 暹	〔國經〕	四四	一〇	七
松崎 壽	〔國經〕	四四	二	一
山崎覺次郎	〔法協〕	四四	九	七
山崎覺次郎	〔日經〕	四四	九	五
山崎覺次郎	〔國家〕	四四	二五	五
天野 爲之	〔洋經〕	四四	一	五九二

貨幣の意義
 金の國際移動
 金産増加の貨幣上の影響
 を除去する方法に就きて
 正貨の危機
 世界的物價騰貴に於ける金
 と信用
 貨幣の將來
 貨幣の本質
 貨幣價值に就きて
 貨幣價值の不動に就て
 日本に於ける貨幣の流通速
 度
 金貨國と銀貨國との間に於
 ける爲替相場の變動と買
 易の消表
 通貨膨脹、物價騰貴、生活
 難の關係に就いて福田博
 士の批評に答ふ
 貨幣數量説と貨幣制度との
 關係を論じて通貨の膨脹
 と生活難との交渉に關す
 る福田博士對河上教授の
 論争に及ぶ

十龜 盛次	〔國經〕	六三	一三	一
神戸 正雄	〔京法〕	六二	八	二
神戸 正雄	〔新報〕	六二	二三	三
近澤 定吉	〔日經〕	六二	四	四
戸田 海市	〔京法〕	六二	八	二
神戸 正雄	〔國經〕	六二	一五	三
神戸 正雄	〔三學〕	六二	七	一
神戸 正雄	〔京法〕	六二	八	二
神戸 正雄	〔京法〕	六二	八	三
河上 肇	〔京法〕	六二	八	三
海老原竹之助	〔國經〕	六二	四	一
河上 肇	〔京法〕	六二	八	四
寺尾 隆一	〔國經〕	六二	四	四

寺尾教授に答ふ
 誤解されたる貨幣數量説
 通貨膨脹、物價騰貴、生活
 難の關係に就て(河上教
 授の答へに答ふ)
 再び寺尾教授に答ふ
 通貨膨脹、物價騰貴、生活
 難の關係に就て
 貨幣の價值を調整せんとす
 るフイツシャ教授の考
 案に就て
 フイ氏調整貨幣案の批評の
 批評の批評
 貨幣價值に就て神戸博士に
 答ふ
 貨幣と預金との關係に就き
 て河上教授に答ふ
 貨幣問題に就きて重ねて高
 城教授に答ふ
 三度び貨幣數量税と物價調
 節策とに於けるフイツシ
 ヤー氏の論理的矛盾を指
 摘して河上教授の再答に
 答ふ

河上 肇	〔國經〕	六二	一四	五
高城仙次郎	〔國經〕	六二	一四	五
寺尾 隆一	〔國經〕	六二	一四	六
河上 肇	〔國經〕	六二	一五	一
寺尾 隆一	〔國經〕	六二	一五	一
山崎覺次郎	〔國家〕	六二	二七	六
神戸 正雄	〔國家〕	六二	二七	八
高城仙次郎	〔國家〕	六二	二七	八
高城仙次郎	〔日經〕	六二	二三	九
神戸 正雄	〔國家〕	六二	二七	一〇
寺尾 隆一	〔國經〕	六三	二六	一

貨幣の價值に關して再び高
 城教授に答ふ
 寺尾教授の駁論に答ふ
 貨幣價值に就きて神戸山崎
 兩博士の反問に答ふ
 河上學士の誤算と誤解と矛
 盾
 高城君に答ふ
 高城ドクトルの數理上の矛
 盾
 寺尾氏に答ふ
 河上學士に答ふ
 高城氏の答文に就て
 再び金貨の流通せざる金本
 位國に就て
 將來の貨幣
 伊藤氏の新貨幣案に就て
 理想的貨幣果して得らるべ
 きや
 憂慮すべき正貨問題
 金と物價と貨銀
 在外正貨と兌換制度
 交戦國に於ける正貨在高
 我兌換券の制度の危機

山崎覺次郎	〔國家〕	六三	二八	一
高城仙次郎	〔國經〕	六三	二六	三
高城仙次郎	〔國家〕	六三	二六	四
高城仙次郎	〔京法〕	六三	二九	四
河上 肇	〔京法〕	六三	二九	七
高田 保馬	〔京法〕	六三	二九	八
高城仙次郎	〔國經〕	六三	二七	三
高城仙次郎	〔京法〕	六三	二九	一〇
河上 肇	〔京法〕	六四	一〇	二
山崎覺次郎	〔法協〕	六三	三三	四
伊藤増太郎	〔國經〕	六三	二六	一
海老原竹之助	〔國經〕	六三	二六	三
堀切善兵衛	〔財經〕	六三	一六	四
近澤 定吉	〔日經〕	六三	一六	九
伊藤 欽亮	〔財經〕	六三	一	二
戸田 海市	〔京法〕	六三	二七	四
戸田 海市	〔京法〕	六三	二九	二

ベルナルド・ダウソフ

チの貨幣論

正貨準備問題に關する積極主義の誤謬

兌換停止の議

兌換制度の本體と變體

正貨補充問題と積極政策

國際貨幣制度論

通貨政策と歐洲大戰

正貨政策と爲替政策の矛盾を奈何

造幣局と其の職分

正貨と日本經濟

正貨の激増と其の利用

日貨排斥と其の善後策

排貨政策と經濟外交

金貨流出防止策

貨幣本質新説

不換紙幣論

利子論上の貨幣説

河上博士の資本の概念及利子論の貨幣説を讀む

續正貨蓄積論

小川博士の正貨蓄積論を讀

高橋誠一郎〔三學〕六三九

戸田 海市〔財經〕六三一

本多 精一〔財經〕六三一

堀江 歸一〔三學〕六三八

高城仙次郎〔三學〕六三八

青木 得三〔法協〕六三三

高島佐一郎〔國經〕六四一

北崎 亡羊〔東經〕六四二

三枝 茂智〔國家〕六四二

尾上登太郎〔國家〕六四二

加藤敬三郎〔財經〕六四二

中橋徳五郎〔財經〕六四二

尾上 新〔外時〕六四三

尾上 利治〔國經〕六四三

松浦 要〔國經〕六四三

神戶 正雄〔京法〕六四三

河上 肇〔商經〕六四三

池田 實〔商經〕六四三

小川郷太郎〔經叢〕六四三

維新後に於ける通貨數量と物價

維新後に於ける通貨制度の概観

歐洲戰亂と通貨の減價

元文年度に於ける金銀貨改鑄

交戦國貨幣低落と其防止策

正貨の増加と物價騰貴の關係

貨幣の對外價值と其維持策

猫眼の如き政府の正貨政策

紙幣の減價に關するウヒテ

カノ教授の分類に就て

貨幣辨濟力

不換紙幣流通の根據に就て

吉宗時代の貨幣問題及以米價問題

不換紙幣の價格に就て

不換紙幣流通の根據に就て

戸田博士の不換紙幣論を讀みて

不換紙幣流通の根據に就て

三宅嘉十郎〔三學〕六五〇

飯島 幡司〔國經〕六五三

飯島 幡司〔國經〕六五三

飯島 幡司〔國經〕六五三

飯島 幡司〔國經〕六五三

中村 孝也〔國經〕六五四

三宅嘉十郎〔三學〕六五〇

三宅嘉十郎〔三學〕六五〇

三宅嘉十郎〔三學〕六五〇

山崎覺次郎〔國家〕六五三

堀江 歸一〔財經〕六五三

山崎覺次郎〔國家〕六五三

尾上 利治〔國經〕六五三

作田 莊一〔經叢〕六五二

中村 孝也〔國經〕六五四

戸田 海市〔經叢〕六五二

戸田 海市〔經叢〕六五二

福田 徳三〔經叢〕六五三

福田博士に答ふ

青木學士著「貨幣論」を讀む

紙幣の下落

不換紙幣論

正貨重視の思想排す可からす

代表紙幣と獨立紙幣

正貨の激増と其利用

紙幣の下落と國際貿易

金本位制の將來

貨幣の價值差と會計とに就いて

貨幣の職分を論ず

慶長より元文に至る貨幣制度の變遷

不換紙幣の價格に付て河上博士に答ふ

グレシャムの法則と徳川時代の經濟學説

「貨幣問答」を中心として

觀たるサー・キリアム・ベチの貨幣論

國民經濟に於ける貨幣の地

戸田 海市〔經叢〕六五三

松崎 壽〔國經〕六五〇

河上 肇〔經叢〕六五二

大野 辰見〔國經〕六五二

飯島 幡司〔國經〕六五〇

作田 莊一〔經叢〕六五三

武富 時敏〔東經〕六五四

丸谷 喜市〔國經〕六五三

山崎覺次郎〔國家〕六六二

中村 茂男〔會計〕六六一

西村文太郎〔國經〕六六五

増井 幸雄〔三學〕六六一

戸田 海市〔經叢〕六六四

増井 幸雄〔三學〕六六一

高橋誠一郎〔三學〕六六一

位 歐洲戰時に於ける通貨、物價、爲替相場

貨幣論上の限界効用學説

貨幣の價值

文政年度に於ける金銀貨の改鑄

明和安永の金銀貨改鑄

銀貨に關する研究

小額紙幣に就て

元祿年間貨幣改鑄の由來

流通貨幣の數量と信用

ハリファックス卿の貨幣改鑄を中心として喚起せられたる貨幣論等

貨幣價值の成因に關する諸説に就て

戰亂と紙幣増發

戰爭と信用通貨並に財政

小額紙幣の發行と其將來

漫然たる通貨縮少論を排す

通貨の膨脹

通貨膨脹を論ず

本邦通貨指數の算定に就て

安原 太郎〔國經〕六六三

堀江 歸一〔三學〕六六一

左右田喜一郎〔國家〕六六三

田中 金司〔國經〕六七二

中村 孝也〔國經〕六七六

中村 孝也〔國經〕六七六

小林 武男〔三學〕六七二

山崎覺次郎〔國家〕六〇三

藤田 元春〔經叢〕六七六

高城仙次郎〔三學〕六七三

高橋誠一郎〔三學〕六八二

松崎 壽〔商經〕六七二

堀内 泰吉〔國經〕六七二

堀江 歸一〔三學〕六七二

上田貞次郎〔財經〕六七五

氣賀 勘重〔財經〕六七五

舞出長五郎〔國家〕六七三

田中 金司〔國經〕六七二

飯島輔司君に教を乞ふ
通貨と物價との統計的比較
に就て福田博士に答ふ
所謂通貨收縮論の眞價
通貨膨脹と物價騰貴
通貨の膨脹
物價調節と通貨收縮に就て
我國現時の物價騰貴と通貨
との關係
當面の通貨問題と公債政策
紙幣の減價に就て
歐洲戦亂と貨幣制度
物價騰貴と通貨との關係に
就て沙見學士の教を乞ふ
物價騰貴と通貨との關係に
就て福田博士に答ふ
貨幣價值の變動に關する私
見
文化的欲望と貨幣消費
惡貨横行か優貨弘通か
貨幣價值調節策
貨幣の新觀念
貨幣價值と限界利用説
貨幣論上の限界效用學説

福田 徳三〔國經〕大七二五	飯島 輔司〔國經〕大七二五
氣賀 勲重〔三學〕大七三三	神戶 正雄〔經叢〕大七七二
堀江 歸一〔三學〕大七三三	藤山 雷太〔財經〕大八二〇
沙見 三郎〔經叢〕大八八二	濱口 雄幸〔財經〕大八六三
高田 保馬〔經叢〕大八八三	山崎覺次郎〔國家〕大八三三
福田 徳三〔經叢〕大八八三	沙見 三郎〔經叢〕大八八三
松崎 壽〔商經〕大八一五	岡田 重次〔國經〕大八二七
作田 莊一〔亞經〕大八二三	山崎覺次郎〔國家〕大八三三
坂西 由藏〔國經〕大八二六	左右田 齊一郎〔國經〕大八二七

徳川時代紙幣の諸名辭
徳川時代の紙幣
戦後の通貨收縮と物價
物價騰貴に因る通貨膨脹
通貨縮少に就て
カンリツフ委員會の報告を
讀みて
通貨收縮の急務
通貨の膨脹と物價との關係
に就て沙見學士の教を乞
ふ
通貨殊に兌換券の増減と銀
行預金との關係
ラフリン新著「貨幣及物價」
を讀みて
幣制改革に依る物價調節策
兌換制度の改善問題
國際貨幣制度論
衣食住と貨幣と經濟生活
補助貨幣に就て
通貨及物價政策について
デウイド・ヒームの貨幣論
ロバート・トリフマンの貨
幣學説

今田 知二〔政治〕大八一	今田 知二〔政治〕大八一
舞出長五郎〔國家〕大八三三	高木友三郎〔國家〕大八三三
河津 遷〔國家〕大八三三	山崎覺次郎〔國家〕大八三三
戸田 海市〔經叢〕大八九	南 嘉一〔國經〕大八二七
岡本兵太郎〔商經〕大八一	高島佐一郎〔國經〕大九二九
豊崎善之介〔財經〕大九七	松崎 壽〔商經〕大九一
三浦 武美〔國經〕大九二九	大野 辰見〔商經〕大九一
山崎覺次郎〔經學〕大九一	北崎 進〔東經〕大九八一
高橋誠一郎〔三學〕大九二四	福田 徳三〔我等〕大九二

貨幣の國際的移動
貨幣に關する獨想
戰時に於ける獨逸貨幣論の
發達
貨幣の價值に就て
銀行預金、物價及通貨
金と物價との關係
貨幣國定學說梗概
江戸時代に於ける尊米賤貨
論
希臘に於ける貨幣及び利子
學說
貨幣制度調整論
貨幣の價值成立論上の限界
效用説
自然貨幣と金屬貨幣
信用貨幣の意義
フィシャリの貨幣調節論
フイヒテの法律哲學に於け
る所有及び貨幣の理論
ジンメルの貨幣官能價值論
貨幣の經濟內在的機能
絶對本位貨幣論に就て
Ricardo に於ける貨幣概念

平井常次郎〔商經〕大九二〇	山口正太郎〔國經〕大九二九
瀬谷佐次郎〔同論〕大九二〇	松崎 壽〔志林〕大九三三
山口正太郎〔國經〕大九二九	マツケチ〔東經〕大九八二
竹内 謙二〔統集〕大九一五	宮田喜代藏〔國經〕大九二九
中村 孝也〔國圖〕大九六七	高橋誠一郎〔三學〕大九二五
三浦 武夫〔國經〕大九三〇	福田與四郎〔國家〕大九三三
竹島富三郎〔商經〕大九三三	竹島富三郎〔商經〕大九三三
古屋 美貞〔同論〕大九三三	久保 正夫〔同論〕大九三三
山口正太郎〔同論〕大九三三	増井 光藏〔國經〕大九三三
植野 勤〔國家〕大九三三	

の進歩
貨幣理論の一般的基礎
トリフマンの貨幣論
經濟的緊要政策II通貨收縮
法
正貨問題の解決策
戦後諸國の通貨問題
國際間の通貨並に信用問題
貨幣の交換經濟的職能
貨幣問題に關するキトソン
並にツイザアスの論等に
就て
リカルドの通貨論
マツケチ氏の通貨預金及物
價の關係に就て
貨幣の換算に就て
貨幣又は金融に關する卑見
の批評に對して
カッセル教授の「購買力平
價説」に就て
幣制改革と名目論
信用貨幣I特に補助貨幣I
に就て
Devaluation の概念に就て

福田敬太郎〔國經〕大九三三	福田敬太郎〔國經〕大九三三
福田敬太郎〔國經〕大九三三	志立鐵太郎〔財經〕大九〇八
武富 時敏〔財經〕大九〇八	平野 清〔商經〕大九〇一
堀江 歸一〔三學〕大九〇一	福田敬太郎〔國經〕大九三三
平野 清〔國經〕大九三三	小泉 信三〔三學〕大九二五
川口 西三〔商經〕大九〇一	山崎覺次郎〔統時〕大九〇一
山崎覺次郎〔經論〕大九〇一	山崎覺次郎〔經論〕大九〇一
山崎覺次郎〔經論〕大九〇一	田宮準一郎〔國圖〕大九二〇
竹島富三郎〔商經〕大九二一	鈴木 平吉〔商研〕大九二一

紙幣の特質並に種類に就て
貨幣及び貨幣制度の發達
貨幣中心の經濟學
戦後貨幣價值暴落問題に關する文獻
信用貨幣の分類標準
貨幣の効用に就て
貨幣の本質
貨幣論上に於ける金屬主義と名目主義
貨幣の「哲學」に就て
世界の貨幣問題
ヘルツフェルダの幣態貨幣價值説
貨幣の價值
通貨收縮と金解禁及在外正貨準備廢止問題
クナップ貨幣國定學説の研究
究方法
貨幣購買力變動の豫測
貨幣の論理
貨幣の價值
マシーナルの貨幣信用及貿易論

竹島富三郎	〔商經〕	六二	一	二七
石濱 知行	〔新報〕	六一	三	四
大野 辰見	〔商經〕	六二	一	三九
鈴木 平吉	〔商研〕	六二	一	一
竹島富三郎	〔商經〕	六一	一	二五
渡邊孫一郎	〔商研〕	六一	一	三
増井 光藏	〔國經〕	六二	三	六
宮田喜代藏	〔國經〕	六二	三	一
増井 光藏	〔國經〕	六二	三	一
平野 清	〔國經〕	六二	三	一
増井 光藏	〔國經〕	六二	三	一
生島廣次郎	〔國經〕	六二	三	一
三宅嘉十郎	〔銀研〕	六二	三	一
宮田喜代藏	〔國經〕	六二	三	一
高城仙次郎	〔法研〕	六一	一	六
山口正太郎	〔我等〕	六一	一	四
谷田 義一	〔國經〕	六二	三	七
平野 清	〔商經〕	六二	一	二

英國と金本位制回復
貨幣價值と金利歩合
自由貨幣運動
銀貨鑄造益金の使途
世界的貨幣問題とカツセル教授の學説
貨幣の概念の變遷に就て
貨幣の成生と其形態の變遷
貨幣價值の變動と損益計算
リーフマンの價格理論一斑
並に貨幣の側よりする其變動
貨幣價值の成立と租税の作用
ゼノア會議と通貨並に信用問題
貨幣の名目的概念
エルスターの貨幣概念
日貨排斥に就て
マシーナルの貨幣論
信用と通貨と物價
通貨と物價政策
貨幣價值低落問題
兌換券と物價指數との關係

野瀬秀太郎	〔銀研〕	六二	四	七
白井 廉久	〔銀研〕	六二	四	六
河田 嗣郎	〔經叢〕	六二	一	三
神戸 正雄	〔時經〕	六二	一	九
小川福太郎	〔經叢〕	六二	一	四
竹島富三郎	〔商經〕	六一	一	三
高垣寅次郎	〔商研〕	六一	一	一
増地庸治郎	〔商研〕	六二	一	三
小畑 茂夫	〔商研〕	六二	一	三
土方 成美	〔經論〕	六二	一	三
平野 清	〔國經〕	六二	三	四
宮田喜代藏	〔國經〕	六二	三	六
増井 光藏	〔國經〕	六二	三	二
下田 禮佐	〔長叢〕	六二	二	五
鈴木 平吉	〔國經〕	六二	三	六
片倉藤次郎	〔商事〕	六二	四	一
河津 暹	〔經論〕	六二	一	三
加藤 和根	〔銀叢〕	六二	一	二
蜂川 虎三	〔經叢〕	六二	一	四

クナップの貨幣國定學説に就て
初期の貨幣學説に就いて
物價趨勢より見たる通貨問題
貨幣の法制的研究
貨幣問題より見たるアダム・スミス
貨幣に關する若干の譬喩
日本及英國に於ける幣制史上の一考察
山崎博士と跋行本位
跋行本位に就て
山崎博士の跋行本位に就て
「跋行本位」問題に就て櫻田君に答ふ
ペンディクセンの貨幣學説
貨幣の對外價值と對内價值との關係を論ず
貨幣に關するカツセル教授の見解
貨幣起原の考察
貨幣債權説に就て
經濟社會と貨幣概念

宮田喜代藏	〔商叢〕	六二	一	六
久保田明光	〔國經〕	六二	三	六
左右田誠一	〔銀研〕	六二	四	六
今津 治助	〔商研〕	六二	二	三
山崎覺次郎	〔經論〕	六二	二	二
山崎覺次郎	〔經論〕	六二	三	一
平野 清	〔國經〕	六二	三	二
櫻田 助作	〔洋經〕	六二	一	二
山崎覺次郎	〔洋經〕	六二	一	二
櫻田 助作	〔洋經〕	六二	一	二
山崎覺次郎	〔洋經〕	六二	一	二
大竹 虎雄	〔法政〕	六二	二	七
青木 得三	〔國家〕	六二	三	六
橋爪 明男	〔經論〕	六二	三	二
中村 佐一	〔法政〕	六二	二	一〇
橋爪 明男	〔經論〕	六二	三	一
土方 成美	〔社叢〕	六二	一	一

貴金屬の貨幣商品たるに至る過程
貨幣論上の限界効用説に就て高垣教授に答ふ
貨幣概念を中心として（土方教授並に坂西教授の批評に答ふ）
通貨問題の一考察
通貨膨脹の意義と對策
勢州松坂に於ける銀札の沿革
我國に於ける正貨の増減と金融繁閑との關係
世界の貨幣交通
購買力の平價に就て
國富論に現はれたる貨幣理論
英國に於ける貨幣問題に關する二論争
貨幣價值に關しての私論二題（左右田博士の所論を中心としたる Polemic に就て）
近時貨幣論考

松下 芳男	〔法政〕	六二	二	二
土方 成美	〔經論〕	六二	三	一
左右田誠一	〔商研〕	六二	三	三
岩崎 博	〔銀研〕	六二	六	六
竹島富三郎	〔商經〕	六二	一	三
三井 高陽	〔三學〕	六二	一	五
小川郷太郎	〔經叢〕	六二	一	六
作田 莊一	〔經叢〕	六二	一	六
下林 一生	〔銀研〕	六二	七	六
谷口彌五郎	〔金融〕	六二	一	二
平野 清	〔商經〕	六二	一	五
高垣寅次郎	〔商研〕	六二	三	三
平野 清	〔商經〕	六二	一	三

外資輸入と通貨膨脹に就て
正貨減小對策に就て
キーンズの貨幣改革論
貨幣の價値の變動と會計問
題
貨幣廢止論
名目派の貨幣論と貨幣の本
質
キーンズの貨幣改革論を讀
みて
貨幣の必然性
カッセル教授の金本位制復
歸論
ギルドと幣制に就て
晩近金本位制に對する挑
戰
金利引下論に於ける通貨論
の誤謬
金本位制の回復に就て
世界的金本位復活問題
經濟組織の發達と貨幣の職
能
仙臺通寶と琉球通寶
圓價下落に就て國際投機の

神原 二郎	〔銀研〕六三	六	三
神原 二郎	〔銀研〕六三	六	三
木村 重夫	〔商經〕六三	一	三
木村 重夫	〔商經〕六三	一	三
木村 重夫	〔會計〕六三	一	三
中西 仁三	〔經叢〕六三	一	八
中西 仁三	〔經叢〕六三	一	八
中西 仁三	〔經叢〕六三	一	八
平野 清	〔銀研〕六三	七	二
平野 清	〔銀研〕六三	七	二
ヒルファイック	〔原叢〕六三	二	一
松崎 壽	〔銀研〕六三	七	三
田中 忠夫	〔國經〕六三	三	六
アレン	〔商叢〕六三	二	一
遠山 貞一	〔銀研〕六三	六	四
黒川 芳藏	〔同論〕六三	一	五
山下 春三	〔銀研〕六三	七	六
増井 光藏	〔國經〕六三	三	七
土屋 香雄	〔經論〕六三	三	二

一考察
アダム・スミスの觀たる貨
幣理論
中世寺院法の貨幣說
金貨本位制度に關する根本
問題
兌換制度に關する疑問
我國幣制改革論に對する堀
江博士の所說
キーンズの「幣制改革論」
購買力平價說批評
フアイレン著「貨幣の循環
速度」貨幣經濟の對象論
並縮略論に關する研究」
を讀みて
徳川時代の通貨政策
通貨の購買力と其測定
通貨と資金とを區別する理
由
通貨政策に於ける算術と迷
妄
通貨の價値の變動及び長期
貸借の決済に就て
銀行と貨幣との關係

丹羽 豊	〔銀叢〕六三	三	六
高垣寅次郎	〔商研〕六三	三	一
山口正太郎	〔我等〕六三	六	二
堀江 歸一	〔三學〕六四	一	九
堀江 歸一	〔エコ〕六四	三	七
平野 清	〔銀研〕六四	八	四
大内 兵衛	〔原叢〕六四	一	八
平野 清	〔商經〕六四	一	三
本多 謙三	〔商研〕六四	五	一
倉持 徳久	〔經研〕六四	二	二
土方 成美	〔社科〕六四	一	二
高橋 龜吉	〔銀研〕六四	九	三
廣瀬圓一郎	〔銀研〕六四	八	四
藤澤利喜太郎	〔國家〕六四	三	九
高宮 誠	〔金融〕六四	二	九

貨幣數量說並に貨幣品質說
を否定す
マーカーテイリズムに於け
る貨幣觀念の發展
圓價下落は重大問題
シムムベーターの「貨幣理
論基本方程式」に就て
貨幣經濟發展極致としての
振替及支拂現象
貨幣と價値
貨幣概念の經濟學的社會學
的意義
貨幣並に通貨の成立
貨幣價値の靜的考察
貨幣及銀行兩主義の貨幣理
論と銀行券發行制度
貨幣指圖證說の主張と其批
判
再びキーンズの所謂
Managed currency に就て
初期貨幣理論に現はれたる
貨幣の實體觀と法律觀
オウイン及び其一派の貨幣
觀

勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	四
高垣寅次郎	〔商研〕六四	五	二
武藤 山治	〔洋經〕六四	一	二
德重 伍介	〔國經〕六四	三	九
谷田 義一	〔國經〕六四	三	八
林 要	〔同論〕六四	一	六
土田 杏村	〔銀研〕六四	五	三
土方 成美	〔經研〕六四	二	三
三宅鹿之助	〔經研〕六四	二	三
中西 仁三	〔經研〕六四	二	二
高垣寅次郎	〔商研〕六四	四	三
平野 清	〔商經〕六四	一	三
谷田 義一	〔國經〕六四	三	九
赤神 良讓	〔經商〕六四	一	二

鑄貨の起原と最古商業國の
考證
勝矢學士の考證的批評に對
して
信用と通貨とに關する一考
察
Gold Standard & Managed
currency 考
スミス以前に於ける貨幣價
値論の二潮流
現在不換紙幣問題
貨幣の價値と其否定
金本位の復歸に對するカッ
セル教授の論文
名目學說と貨幣制度改革
金本位制の回復の價値如何
正貨拂下の效果
カッセル教授購買力平價說
に於ける一疑點
貨幣購買力の意義と景氣の
基調
貨幣の對内及び對外價値の
變動と貿易並びに爲替と
の關係を論ず

勝矢劍太郎	〔經商〕六四	四	七
赤神 良讓	〔經商〕六四	四	八
土方 成美	〔經研〕六四	二	二
岩崎 博	〔銀研〕六四	八	五
萩原吉太郎	〔三學〕六四	一	九
小島 淑郎	〔銀叢〕六四	五	三
高垣寅次郎	〔商研〕六四	四	三
青木 孝義	〔法政〕六四	三	六
内藤 章	〔商研〕六四	五	二
鈴木 喜藏	〔銀叢〕六四	四	二
成瀬 義春	〔財經〕六四	三	五
柴田三四治	〔銀叢〕六四	四	二
勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	一
谷口 吉彦	〔經叢〕六四	二	四

貨幣と物價との關係を論ず
銀行と通貨創設
金貨本位へ復歸の経路
通貨政策に就て
金紙幣本位制
不換紙幣と物價
貨幣法の改正は不可
徳川時代に於ける悪貨濫造の結果に就て
金本位制復歸問題に就て
金本位の將來に就て
金本位制復歸の謬妄
通貨は多過ぎるか少な過ぎるか
マッケンナア氏の金本位復舊問題
金本位論
備前岡山の藩札
リカードオの貨幣理論と貨幣制度論
貨幣の起源に關する考古學的及び土俗學的考察
藩札の濫發と農民の疲弊
貨幣制度に於ける金の地位

勝田 貞次	〔銀研〕	六二四	九
越智 昌三	〔經叢〕	六二四	二
藤澤利喜太郎	〔國家〕	六二四	三
橋爪 明男	〔經論〕	六二四	一
作田 莊一	〔經叢〕	六二四	一
高城仙太郎	〔三學〕	六二四	一
菊川 早三	〔洋經〕	六二四	一
瀧本 誠一	〔三學〕	六二四	一
山内 一雄	〔銀研〕	六二四	一
岩崎 博	〔銀研〕	六二四	一
川島清治郎	〔エコ〕	六二四	一
遠山 貞一	〔銀研〕	六二四	一
春日井 薫	〔銀研〕	六二四	一
川村 環一	〔計理〕	六二四	一
黒正 巖	〔社科〕	六二四	一
橋爪 明男	〔經論〕	六二四	一
西村 眞次	〔早商〕	六二四	一
黒正 巖	〔經叢〕	六二四	一
田中 金司	〔國經〕	六二四	一

封建制度の崩潰、中央集權的國家出現の時代に於ける貨幣學說
貨幣價値と物價指數
マシーナル教授の貨幣及價格論
新貨幣の觀念と金融
我國に於ける正貨準備の維持と外債政策
貨幣の起源に關する一考察
金本位制
兌換券流通高とコール歩合
アリストテライーズの貨幣論
貨幣政策と物價安定論
貨幣論の出発點に就て
物價と通貨の數量
印度貨幣制度改革及其影響に就て(講演)
印度幣制改革始末抄録
金貨本位と印度通貨
印度の貨幣並に金融制度に關する研究

高橋誠一郎	〔社科〕	六二五	二
森田 優三	〔國經〕	六二五	六
土方 成美	〔社科〕	六二五	二
川島清治郎	〔金融〕	六二五	三
土方 成美	〔經研〕	六二五	三
谷田 義一	〔國經〕	六二五	三
橋爪 明男	〔經研〕	六二五	三
高城仙太郎	〔銀研〕	六二五	三
高橋誠一郎	〔三學〕	六二五	一
安藤 國雄	〔商經〕	六二五	一
中西 仁三	〔經研〕	六二五	一
土方 成美	〔經研〕	六二五	一
阪谷 芳郎	〔國家〕	六二六	七
向井 鹿松	〔三學〕	六二六	八
堀江 歸一	〔三學〕	六二六	一〇

印度金貨史
印度幣制に關する高島學士の所説に就て
海老原學士の批評の批評
印度現時の金貨問題
再び印度の幣制に關する高島學士の所説を難す
近世印度通貨政策史論
印度幣制上の二問題
印度幣制委員報告を讀む
銀價騰貴時代の印度通貨問題
印度幣制に關するメルワンデーダラル氏の少數報告に於ける經過
支那及印度兩替の實際
印度の金貨本位制に就て
印度の幣制を論ず
印度に於ける日貨排斥問題
倫敦金融市場と事變通貨の供給
英國兌換制度の將來

海老原竹之助	〔國經〕	六二〇	四
高島佐一郎	〔國經〕	六二〇	六
海老原竹之助	〔國經〕	六二〇	一
海老原竹之助	〔國經〕	六二〇	一
徳重 伍介	〔亞經〕	六二〇	一
海老原竹之助	〔商經〕	六二〇	一
尾山 利治	〔國經〕	六二〇	一
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	一
尾山 利治	〔國經〕	六二〇	一
尾山 利治	〔國經〕	六二〇	一
小林 四三	〔商事〕	六二〇	一
利倉文之助	〔商事〕	六二〇	一
平野 清	〔商經〕	六二〇	一
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	一
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	一
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	一

英國戰時貨幣政策に對する批評
英佛兩國の金貨爭論
英國に於ける貨幣問題に關する二論争
日本及英國に於ける幣制史上の一考察
英國の貨幣政策
英國銀行の發行法と新貨幣制度の樹立
英國金本位復歸の意義
英金貨本位制の報告書を讀む
英國新金本位法と幣制改革論
支那
清國貨幣改革難
上海に於ける貴金屬及通貨の賣買習慣
支那に於ける紙幣の起源に就て
清國の幣制に就て
清國に於ける貨幣通用の實況

三浦 武美	〔國經〕	六二九	六
青木 得三	〔國知〕	六二九	三
平野 清	〔商經〕	六二九	一
堀江 歸一	〔エコ〕	六二九	二
堀江 歸一	〔エコ〕	六二九	二
太田黒敏男	〔經商〕	六二九	二
田中 金司	〔國經〕	六二九	三
堀江 歸一	〔エコ〕	六二九	三
中村 重夫	〔銀研〕	六二九	五
根岸 信	〔國經〕	六二九	一
大平 實作	〔國經〕	六二九	一
淺井 虎夫	〔京法〕	六二九	一
佃 一豫	〔日經〕	六二九	一
吉野 作造	〔日經〕	六二九	三

清國の四國借款と幣制改革	山本唯三郎	〔東經〕六三	一五六
清國幣制の改革如何	植松 考昭	〔洋經〕四四	一五六
支那上古の貨幣並に貝に因める文字の研究	田崎 義介	〔日經〕六二	一五二〇
支那貨幣事情	堀内 干城	〔京法〕六三	一九
支那の貨幣制度及其沿革		〔資料〕六四	一
支那に於ける日貨排斥の真相	山本唯三郎	〔財産〕六四	二
支那幣制改革論	作田 莊一	〔亞經〕六六	一
支那幣制改革問題の經過	只見 徹	〔亞經〕六六	一
支那上古の貨幣に就て	田中 忠夫	〔亞經〕六六	一
宋の理宗時代の貨幣	田中 忠夫	〔亞經〕六六	一
ワッゲル氏の支那幣制改革案と其批評	三枝 茂智	〔國家〕六六	三
貨幣流通の現状	善生 永助	〔財經〕六六	四
支那の新補助貨幣に就て	黃 英 廣	〔國經〕六六	二
三國貨幣史論	田中 忠夫	〔亞經〕六七	二
最近支那幣制整理に關する公文	井上 翠	〔亞經〕六七	二
支那金本位制の實行に就て	作田 莊一	〔亞經〕六七	二
支那幣制改革の實行方法如何	善生 永助	〔財經〕六七	五
支那の紙幣改革に就て	村田 俊彦	〔國家〕六七	三
支那幣制改革雜記	堀江 歸一	〔三學〕六七	三

支那幣制改革問題	服部文四郎	〔國經〕六八	二六
支那の幣制改革問題	河田 嗣郎	〔經叢〕六七	七
支那の金本位問題に就て	戸田 海市	〔經叢〕六七	七
支那の銀貨統一計畫	吉田 虎雄	〔亞經〕六八	三
支那の日貨排斥運動	戸田 海市	〔經叢〕六九	一〇
近代貨幣史論	田中 忠夫	〔亞經〕六九	四
北宋貨幣史論	田中 忠夫	〔亞經〕六九	四
銀元	清水 久行	〔國經〕六九	二九
グイセリソグ氏の支那幣制改革意見と青島及關東州の貨幣制度	三枝 茂智	〔國家〕六九	三〇
上海兩と上海の通貨	池田 龍藏	〔三學〕六九	一四
唐代貨幣史論	田中 忠夫	〔國經〕七〇	一〇
南北朝貨幣史論	田中 忠夫	〔國經〕七〇	一〇
北宋貨幣史論	田中 忠夫	〔國經〕七〇	一〇
漢代貨幣史論	田中 忠夫	〔亞經〕七〇	五
支那の銀幣に就て	谷 喬木	〔亞經〕七〇	五
上海に於ける近時の貨幣及金融に就て	西山 榮久	〔亞經〕七二	七
短陌に就て	田中 忠夫	〔亞經〕七二	七
支那及印度兩替の實際	小林 四三	〔商事〕七二	三
莊票論	西山 榮久	〔亞經〕七三	八
銀錠に就て	田中 忠夫	〔亞經〕七三	八
支那近代の貨貨に就て	田中 忠夫	〔亞經〕七三	八

飛子に就いて	田中 忠夫	〔國經〕六三	三七
支那に於ける日貨排斥運動		〔資料〕六三	一〇
支那貨幣の進化に就て	田中 忠夫	〔亞經〕六四	九
錢莊の發行する莊票について	及川 恒忠	〔三學〕六四	一九
獨逸に於ける金貨準備		〔國經〕六四	一八
戰爭と獨逸の金融及通貨政策	高島 誠一	〔國經〕六七	二四
獨逸に於ける貨幣價值下落の原因及之が救済策	今田 知二	〔政治〕六八	一
戰後獨逸の貨幣政策	山口正太郎	〔商經〕六八	一
獨逸貨幣の對内購買力	平野 清	〔商經〕六一	二五
獨逸貨幣の對内購買力補遺	平野 清	〔商經〕六一	二七
馬克相場場の安定に關する國際委員會の提案を評す	高城仙次郎	〔法研〕六三	二
馬克安定策如何	青木 得三	〔國知〕六三	三
獨逸馬克下落の經過	山口 巖	〔銀研〕六三	二
獨逸馬克貨幣事情と獨逸の物價	神戸 正雄	〔時經〕六三	一
大戰勃發前後に於ける獨逸の兌換制度	松島 喜作	〔銀叢〕六三	二
獨逸國貨幣價值の安定を論ず	青木 得三	〔金融〕六三	一

マルクの下落と私法關係	小町谷操三	〔志林〕六三	二六
戰後獨逸の財政通貨及び獨逸レンテン・パンク並にレンテン・マルクに就て	鈴木 平吉	〔國經〕六三	三六
馬克の安定問題に於て現行の獨逸貨幣法	佐久間 勝	〔保難〕六三	二九
獨逸の金本位制	宇都宮 鼎	〔國家〕六三	三〇
獨逸の通貨問題に就て	竹島富三郎	〔商經〕六四	一〇
佛蘭西銀行の紙幣發行制限擴張に就て	宮田喜代藏	〔國經〕六四	一六
佛蘭西の戰時紙幣發行	宇都宮 鼎	〔國家〕六四	一六
佛蘭西現行貨幣制度變遷を論ず	宇都宮 鼎	〔國家〕六四	一六
佛蘭西に於ける通貨と物價との關係	堀江 歸一	〔國經〕六九	一
英佛兩國の金貨爭論	松崎 壽	〔國家〕六三	二八
米	松崎 壽	〔國家〕六三	二八
米國に於ける應急通貨の發行並に回收	青木 得三	〔國知〕六三	三
米國の金準備問題	十龜 盛次	〔日經〕六四	一六
北米合衆國の通貨制度	三宅嘉十郎	〔三學〕六六	一一
米國貨幣制度發達史論	三宅嘉十郎	〔三學〕六六	一一
米國舊準備制の缺陷と新準備	松崎 壽	〔商經〕六七	一

備制の組織及運用

一九一四年歐洲戰亂と金貨

歐洲交戦國に於ける金貨

と兌換停止

歐洲諸國現時の紙幣に就て

北歐諸國の貨幣問題

歐洲現下の通貨問題と金

歐洲に於ける通貨改革問題

露國紙幣問題

重大なる露國貨幣問題

誤れる過激派の貨幣經濟

露國と其正金の運命

勞農露國に於ける幣制改革

問題

勞農露西亞の通貨と銀行業

戦時共產主義時代に於ける

勞農露國通貨改革の趨勢

ロシアに於ける一九二四年

の本地改革

奥田 勳〔銀研〕六三 七 九

宗像 久敬〔法協〕六三 三 九

山崎覺次郎〔國家〕六四 二 九

山崎覺次郎〔國家〕六九 三 九

平野 清〔商研〕六三 一 三

青地玄三郎〔長業〕六三 四 一

岩崎 博〔銀研〕六四 八 一

野村 徹〔外時〕六八 三 三

野村 徹〔國際〕六九 一 七

松野清次郎〔商研〕六九 一 九

柏田 忠一〔亞經〕六〇 五 四

谷口 吉彦〔經叢〕六三 一 一

平野 清〔商研〕六三 一 一

鈴木 平吉〔國經〕六四 三 九

波多野義熊〔亞經〕六〇 一 〇

宮田喜代藏〔商研〕六二 三 一

海峽植民地幣制改革

アルゼンタインの幣制額末

臺灣に於ける貨幣制度

膠州灣保護領貨幣制度

全米貨幣制度統一の計畫

全米貨幣統一案

滿洲に於ける金貨普及問題

滿洲洋票兌換問題

西伯利亞の通貨事情

滿洲の通貨と金建問題

青島の通貨並に金融

埃國幣制安定經過概要

チエツコ國幣制改革問題

法の變遷の一例として見た

るポーランド・マルクの

下落問題

貨幣數量 量説

通貨數量説に就て

貨幣數量説に就て

フィッシャー氏の新貨幣數

量説

貨幣數量説に關する諸説

貨幣及び信用に關する數量

説に就きて

内池 康吉〔國經〕五九 一 二

笠間 景雄〔國家〕四四 二 〇

菅 武時〔日經〕四四 九 六

瀧波 正勝〔國家〕六四 二 九

堀江 歸一〔三學〕六五 一 〇

河田 嗣郎〔經叢〕六五 二 〇

一宮房次郎〔財經〕六六 四 七

尾上 利治〔國經〕六六 三 六

肥田 啓造〔財經〕六九 七 二

西原 龜三〔東經〕六〇 三 二

武田 和吉〔長業〕六四 六 二

鈴木 平吉〔國經〕六四 三 九

鈴木 平吉〔國經〕六四 三 九

西島彌太郎〔商論〕六五 一 一

豐澤 昌貞〔洋經〕四三 一 五

上田貞次郎〔國經〕六三 三 五

高城仙次郎〔國家〕六三 二 六

神戸 正雄〔三學〕六二 七 三

飯島 幡司〔國經〕六三 一 七

利子論上に於ける貨幣數量

説

戦前の物價と貨幣數量説

アンダソン教授の貨幣數量

説の反對論に就て

數量説

貨幣數量説の研究

Das Geld als Qualitat .

デイビット・リカードと貨

幣數量説

貨幣數量説の史的考察

需要供給論と貨幣數量説

貨幣數量説に就て田中學士

の教を乞ふ

貨幣の數量に就て

ウキザースの貨幣數量説

貨幣數量説並に貨幣品質説

を否定す

數量説管見

高城仙次郎〔三學〕六六 二 一

三浦 武美〔國經〕六八 二 七

古屋 美貞〔同論〕六九 一 三

田中 金司〔國經〕六〇 三 〇

山口 茂〔商研〕六二 二 二

Beilmer〔經論〕六二 二 一

長谷田泰三〔經論〕六三 三 二

萩原吉太郎〔三學〕六三 一 八

山口 茂〔商研〕六四 四 三

佐野 包治〔銀叢〕六四 四 五

山崎覺次郎〔經論〕六四 四 二

小津 新一〔銀研〕六四 八 一

勝田 貞次〔銀研〕六四 八 四

平野 清〔商研〕六五 一 四

水野 良高〔日經〕四〇 一 八

山内 正康〔國家〕四四 二 三

【紙】

本邦西洋紙の需用と製紙業

製紙場に於ける職工待遇法

【貨幣】

【硝子】

本邦に於ける製紙業の趨勢

支那に對する紙の販賣政策

日本産業發達の裏面II和洋

製紙業

戦後の製紙市場

支那の外國紙需要

本邦の製紙工業

我が製紙業の現状と將來

舊岩國藩の制紙原料保護政

策

我が製紙工業の大勢

本邦硝子業の現状

硝子製品

支那硝子工業

湖南省の硝子工業

硝子保險に就て

米國硝子工場に於ける團

體交渉

支那ガラス工業の既往と現

在

河東田經濟〔東經〕四五 一 三

河東田經濟〔東經〕四五 一 三

一知半解樓〔財經〕六四 二 六

足立 正〔洋經〕六五 一 四

西村 生〔洋經〕六六 一 六

加藤 銀藏〔統集〕六七 一 八

藤原銀次郎〔財經〕六八 六 二

吉川 元光〔經叢〕六〇 二 五

穴水 要七〔財經〕六一 九 六

赤沼孝四郎〔日經〕六四 二 五

〔財經〕六六 四 一

〔資料〕六九 六 四

田中 忠夫〔亞經〕六〇 五 三

瀬戸彌三次〔經商〕六一 一 四

ゾオル〔社政〕六一 一 七

西山 榮久〔亞經〕六三 八 二

一八七

一八六

本邦硝子工業労働事情

吉田 孝 [社政] 六三 一 一

【樟太】

樟太の漁業問題に関する研究

高橋 作衛 [國際] 四九 四 一〇

臺灣又は樟太に法律を施行する勅令の効力

長岡隆一郎 [法協] 四四 二七 六

樟太に於けるライオン製販賣組合

川口順次郎 [東經] 六三 七 一七

樟太國勢調査事務取扱規定

外交時報社 [統維] 六八 一 四〇

樟太接境地方の鮮支兩民族に就て

稻葉 岩吉 [亞經] 六〇 五 三〇

樟太と日本との歴史的關係

[外時] 六三 三 七

樟太に於ける法令の整理に就て

杉生 札 [新聞] 六二 一 二二

樟太問題年表

二宮 丁三 [亞經] 六四 九 三

國際石油問題と北樺平利權の價值

庵崎 貞俊 [外時] 六五 三 五二

【假差押】 假差押執行を見よ
【假處分】 假處分執行を見よ

【カルウイン】 (John Calvin, 1509-1565)

産業史上に於けるカルウイン

カルピンの政治思想

宗教生活と經濟生活、カル

ウイニズムの英國經濟に

及ぼせる影響につて

佐藤 建三 [商經] 六四 六 一

【カルカー】 (Fritz von Calker, 1864-)

「完成」の思想 (カルカーの法理論)

杉山 茂顯 [國家] 六二 五 一

【カルテル】 參照II企業、トラスト。

カルテルの法律上の形式と決定するの困難

佛國に於けるカルテルの法律上の形式

企業家組合の起因及保護的關稅に對する其關係

我國に於けるカルテル熱の

烏賀陽然良 [國經] 四九 一 三

烏賀陽然良 [國經] 四九 一 五

氣賀 勲重 [國經] 四〇 三 四

物與

商業政策に於けるカルテルの地位

カルテルとトラストの關係に就て

カルテルとダンピング

戰時に於けるカルテル運動

獨逸に於ける強制カルテル問題

カルテル法律論

津村 秀松 [國家] 四二 四 六

笠間 泉雄 [國家] 四四 一 二

海老原竹之助 [國經] 四四 一〇 三

松田 知之 [外時] 六六 二 六

田中 金司 [國經] 六八 二 六

田中 誠二 [法協] 六一 二 四

【カルナー】 (Joseph Karner)

カルナー「法律制度の社會的機能」(譯)

恒藤 恭 [我等] 六九 二 一〇

【ガルニエ】 (Joseph Clémens Garnier, 1813-1881)

利子利息説上に於けるセニ

オルとガルニエ

寺尾 隆一 [國家] 四四 二 五

【革】

本邦牛皮製革業の現在及將

【カルテル】 【カルナー】 【ガルニエ】 【革】 【爲替】

來

皮革及び皮革製品

戦後の皮革市場

我が製革工業の將來

支那南洋貿易と爲替資金

銀行内國爲替尻の操縦に就て

爲替貸借の原理を論ず

爲替資金の調達策に就きて

爲替貸借理論

爲替貯金局より觀たる地方別金融

最近三年間に於ける爲替貯金業務の實況

買入外國爲替轉賣の整理法

支店間爲替取引の本店集中計算制

爲替事務(内國)取扱手續

銀爲替取引法

他店爲替尻拂込方法改良私案

水郷 生 [東經] 六四 七 一 六

[財經] 六五 三 一 三

浦邊 襄夫 [洋經] 六五 一 七 四

浦邊 襄夫 [財經] 六九 七 二

山成 香六 [財經] 六三 一 二

細井安太郎 [商經] 六五 一 二

兒林百合松 [會計] 六六 二 六

稻山 始 [東經] 六六 五 一 七

中島 精二 [會計] 六七 三 三

天岡 直嘉 [財經] 六八 六 二

天岡 直嘉 [財經] 六九 七 九

木村秀太郎 [銀研] 六〇 一 一

横山千代材 [銀研] 六二 三 一

藤野 豊治 [銀研] 六二 三 三

古矢 岩雄 [銀研] 六二 四 一

岡上虎三郎 [銀研] 六二 五 一

【爲替】 參照II外國爲替、銀行、金融。

輸入爲替取立實務誌
電信爲替と銀行の權利義務
爲替尻整理方法私見
内國爲替實務誌に就て水野氏に就て乞ふ

小林 弘三〔銀研〕大二三
妹尾 一雄〔銀研〕大二三
小坂 珠城〔銀研〕大二三
貴田 秀一〔銀叢〕大二三
松川 隼治〔銀研〕大二三
大久保正喜〔銀研〕大二三
水野 淳二〔銀研〕大二三
小坂 珠城〔銀研〕大二三
松岡 都城〔銀研〕大二三

内國爲替取引方法改良私案
爲替尻資金操縦に就て
爲替取引の無貨越制度
内國爲替事務要論
爲替取引の發生事情に就て
外國爲替の賣買取引と其註文

利倉文之助〔銀研〕大二三
妹尾 一雄〔銀研〕大二三
三好 和夫〔銀研〕大二三
堤 正元〔銀研〕大二三
桑野 傳三〔銀叢〕大二三
小坂 珠城〔銀研〕大二三
廣瀬 清三〔銀研〕大二三
松川 隼治〔銀研〕大二三
相良 最〔銀研〕大二三

電信送金爲替の法律的考察
内國爲替決済の理想に就て
爲替取引口座制の法律的解釋

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

内國爲替實務
爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

爲替尻付換の實益
變則的なる爲替取引方法
爲替尻付替の研究
爲替取引の用紙統一に就て

【爲替手形】 手形を見よ

【川名象四郎】

鳴呼川名象四郎先生
末弘殿太郎〔法協〕大二三

【川俣】

川俣羽二重に就て
川俣羽二重救済策
其完成〔譯〕
ベノジュツオトリナリ「國民保險論」(譯)
小額保險分離の必要
小口保險の改善

【簡易保險】

玉木爲三郎〔保雜〕四四六
栗津 清亮〔保雜〕四四五
栗津 清亮〔保雜〕四四五
矢野 恒太〔保雜〕四四五
麻生義一郎〔保雜〕四四五

貯蓄銀行の小口保險兼業
小口保險の意義並に英米に於ける其仕組

麻生義一郎〔保評〕四四二
鈴木 太郎〔保評〕四四二
伊藤萬太郎〔保評〕四四二
瀧谷 善一〔國經〕四四二
矢野 恒太〔保評〕四四二
海老原介太郎〔保評〕四四二
稻田周之助〔日經〕四四二

英國の郵便局保險に就て
英國國民保險法案に就て
小口保險官營の是非(講演)
小口保險官營に就て(講演)
簡易保險論
ブルデンシアル會社の小口保險改善

麻生義一郎〔保雜〕四四五
麻生義一郎〔保評〕四四五
下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

小口保險官營反對論
小口保險官營の可否
最近獨逸に於ける小口保險會社の設立に就て
小口保險官營の得失如何
小口保險官營の可否
小口保險官營是非
所謂小口保險の官營を論ず
簡易保險法案解説
簡易保險官營の理由
小口保險制度調査委員會に

下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

貯蓄銀行の小口保險兼業
小口保險の意義並に英米に於ける其仕組

麻生義一郎〔保評〕四四二
鈴木 太郎〔保評〕四四二
伊藤萬太郎〔保評〕四四二
瀧谷 善一〔國經〕四四二
矢野 恒太〔保評〕四四二
海老原介太郎〔保評〕四四二
稻田周之助〔日經〕四四二

英國の郵便局保險に就て
英國國民保險法案に就て
小口保險官營の是非(講演)
小口保險官營に就て(講演)
簡易保險論
ブルデンシアル會社の小口保險改善

麻生義一郎〔保雜〕四四五
麻生義一郎〔保評〕四四五
下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

小口保險官營反對論
小口保險官營の可否
最近獨逸に於ける小口保險會社の設立に就て
小口保險官營の得失如何
小口保險官營の可否
小口保險官營是非
所謂小口保險の官營を論ず
簡易保險法案解説
簡易保險官營の理由
小口保險制度調査委員會に

下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

貯蓄銀行の小口保險兼業
小口保險の意義並に英米に於ける其仕組

麻生義一郎〔保評〕四四二
鈴木 太郎〔保評〕四四二
伊藤萬太郎〔保評〕四四二
瀧谷 善一〔國經〕四四二
矢野 恒太〔保評〕四四二
海老原介太郎〔保評〕四四二
稻田周之助〔日經〕四四二

英國の郵便局保險に就て
英國國民保險法案に就て
小口保險官營の是非(講演)
小口保險官營に就て(講演)
簡易保險論
ブルデンシアル會社の小口保險改善

麻生義一郎〔保雜〕四四五
麻生義一郎〔保評〕四四五
下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

小口保險官營反對論
小口保險官營の可否
最近獨逸に於ける小口保險會社の設立に就て
小口保險官營の得失如何
小口保險官營の可否
小口保險官營是非
所謂小口保險の官營を論ず
簡易保險法案解説
簡易保險官營の理由
小口保險制度調査委員會に

下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

貯蓄銀行の小口保險兼業
小口保險の意義並に英米に於ける其仕組

麻生義一郎〔保評〕四四二
鈴木 太郎〔保評〕四四二
伊藤萬太郎〔保評〕四四二
瀧谷 善一〔國經〕四四二
矢野 恒太〔保評〕四四二
海老原介太郎〔保評〕四四二
稻田周之助〔日經〕四四二

英國の郵便局保險に就て
英國國民保險法案に就て
小口保險官營の是非(講演)
小口保險官營に就て(講演)
簡易保險論
ブルデンシアル會社の小口保險改善

麻生義一郎〔保雜〕四四五
麻生義一郎〔保評〕四四五
下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

小口保險官營反對論
小口保險官營の可否
最近獨逸に於ける小口保險會社の設立に就て
小口保險官營の得失如何
小口保險官營の可否
小口保險官營是非
所謂小口保險の官營を論ず
簡易保險法案解説
簡易保險官營の理由
小口保險制度調査委員會に

下村 宏〔國經〕大三二
窪田隆次郎〔日經〕大三一
清水文之輔〔保評〕大三七
日吉 平吉〔法協〕大三三
高野 金重〔保評〕大三七
宮島 綱男〔財經〕大三一
大多和耕人〔東經〕大三九
栗津 清亮〔保險〕大四一
松本 丞治〔法協〕大四三
下村 宏〔國家〕大四二

於ける調査決定の要領
簡易保險尙早論に對する意見
社會政策學會に於ける簡易保險案討議の經過
簡易保險官營反對意見
所謂簡易保險に付て
簡易保險反對論に對する辯明

〔國家〕大四二
下村 宏〔國經〕大四二
矢野 恒太〔國經〕大四二
志田錫太郎〔國家〕大四二
下村 宏〔國經〕大四二
戸田 海市〔京法〕大四二
矢野 恒太〔國家〕大四二
石川 文吉〔新報〕大四二

簡易保險と郵便貯金
簡易保險官營問答
官營簡易保險及び之に關する當局の提案
簡易保險案に對する生命保險協會の批評を讀みて
獨逸に於ける國民保險問題
社會政策としての簡易保險
簡易保險法
日本政府簡易保險の將來をトす

三邊 金藏〔三學〕大四九
三浦 義道〔保雜〕大四一
堀切善兵衛〔三學〕大五〇
淺野 陽吉〔國國〕大五四
森 莊三郎〔保雜〕大五〇
財部 靜治〔經叢〕大五三
行徳 三郎〔保雜〕大六六
星野 苑衛〔保雜〕大七六

簡易保險更張の一方面
英國國民保險法解説
英國國民保險法解説
小口保險會社の契約者に對

〔國家〕大四二
下村 宏〔國經〕大四二
矢野 恒太〔國經〕大四二
志田錫太郎〔國家〕大四二
下村 宏〔國經〕大四二
戸田 海市〔京法〕大四二
矢野 恒太〔國家〕大四二
石川 文吉〔新報〕大四二

刑法草案に對し監獄學上より觀察したる管見

獄制改正の前途

監獄の目的

日本に於ける監獄現時の實況

索國司法監獄署に就て

衛生上より觀察したる分房制

支那監獄の起原

支那監獄の起原を讀みて

獄制改良の著手に關して當局有司の注意すべき要件を論ず

監獄統計調査法

獄制に對する事蹟の一斑に就て

監獄外に於ける囚人の獄友に就て

監獄統計に就て

普國監獄視察談

囚人の樂書

青年感化監獄の必要

清國の獄制

小河滋次郎 [國家] 三三 二二

小河滋次郎 [國家] 三三 二二

仲小路 廉 [法記] 三三 二二

和田千松郎 [統雜] 三四 一

小秋元三八吉 [法政] 三四 五

小秋元三八吉 [法政] 三四 五

田能村梅士 [法協] 三五 二

鈴木 宗吉 [法協] 三五 二

小河滋次郎 [法政] 三四 二

高橋 二郎 [統集] 三四 一

小河滋次郎 [法協] 三四 二

横山勝太郎 [辯協] 三四 一

花房直三郎 [統集] 三四 一

谷田 三郎 [法記] 三四 二

寺田 精一 [刑評] 三四 二

留岡 幸助 [刑評] 三四 二

小河滋次郎 [刑評] 三四 二

敢て全國の司獄官に訴ふ

獨逸國に於ける司法警察官と檢事との實務取扱上の關係及び檢事と司獄官との職務上の關係

獨房制の弊

忘れぬ獄中生活

コンホルド感化監獄の現況

獄中吟草

監獄改良私見

人種改良家の監獄觀

露西亞監獄の過囚一斑

出獄者と監獄の下附金司獄官

囚人の最大危機

米國に於ける監獄制度獄中生活

假出獄制度の實況

司獄官の感想(講演)

亞米利加の監獄改良策

監獄學の研究

未決囚の待遇を論ず

監獄最高政策の立場から

(監獄工業の刷新)

横山勝太郎 [辯協] 三四 二

石川三四郎 [刑評] 三四 三

福田 英子 [刑評] 三四 三

小豊 高恒 [刑評] 三四 三

栗原 亮一 [刑評] 三四 三

山口 弘劍 [刑評] 三四 三

海野 幸徳 [刑評] 三四 三

吉田 知道 [刑評] 三四 三

原 胤昭 [新聞] 三四 一

花井 卓藏 [辯協] 三四 一

泉二 新熊 [評] 三四 二

田宮平八郎 [辯協] 三四 二

宮本平八郎 [辯協] 三四 二

山岡萬之助 [新聞] 三四 一

花井 卓藏 [新報] 三四 二

泉二 新熊 [新報] 三四 二

佐々木英夫 [法政] 三四 二

杉本 榮次 [臺法] 三四 二

寺崎 勝治 [法政] 三四 二

接見禁止と飲食の差入禁止

監獄統計の現はれたる病者

監獄事業の教育的使命

監獄作業時間問題

監獄視察記

監獄制度改良私議

歐米に於ける少年裁判及監獄制度

國際監獄會議

拘禁者の自由研究

囚人と粗食

第九回國際監獄會議の議題

「監獄内の二十五年」を讀む

監獄見學の旅(國際刑務會議團の巡視旅行)

草野豹一郎 [志林] 三四 二

羽柴瑛之助 [統集] 三四 一

寺崎 勝治 [法政] 三四 二

辻 敬助 [臺法] 三四 二

中野 清 [社政] 三四 一

緒方 清繼 [臺法] 三四 二

笠井健太郎 [朝司] 三四 二

正木 亮 [志林] 三四 二

寺崎 勝治 [臺法] 三四 二

少 村 [新聞] 三四 二

大塚 郷二 [志林] 三四 二

大森 洪太 [法政] 三四 三

大森 洪太 [法政] 三四 三

大森 洪太 [法曹] 三四 四

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

片山 義勝 [法協] 三四 二

の間の關係に就て

會社重役の辭任に關する慣例の誤を正す

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

取締役又は監査役と會社との關係に就て

松本 丞治 [法協] 三四 二

岸本 辰雄 [明法] 三四 一

片山 義勝 [法協] 三四 二

松本 丞治 [法協] 三四 二

渡邊 暢 [新聞] 三四 一

鈴木雄次郎 [新聞] 三四 一

林 龍太郎 [新聞] 三四 一

清瀬 一郎 [京法] 三四 一

鹿野清次郎 [國經] 三四 一

林 瀧太郎 [新聞] 三四 一

角 利助 [新聞] 三四 一

林 龍太郎 [新聞] 三四 一

松波仁一郎 [法協] 三四 二

高橋 義雄 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

河東田經濟 [東經] 三四 二

【監査役】【管子】【慣習法】

監査役制度改革の方法如何
官選監査役の必要及公認人
をして之に當らしむるの
議

大越 盛徳	〔東経〕四四二	六〇	一五三
會場筆太郎	〔新聞〕四四二	一	五六一
森 作太郎	〔新聞〕四四二	一	五六五
岡野敬次郎	〔法協〕四四三	元	一
稲田周之助	〔日経〕四四三	八	四
松本 丞治	〔法協〕四四三	元	五
松波仁一郎	〔京協〕四四三	五	九
松本 丞治	〔新聞〕四四三	一	六五
高木祥二郎	〔辯協〕四四三	一四	一五元
高木祥二郎	〔新聞〕四四三	一	六九
大原 信久	〔新聞〕四四三	一	六〇
野村 嘉六	〔新聞〕四四三	一	六六
高窪喜八郎	〔評論〕六六	一	一
松波仁一郎	〔法記〕六二	二三	九〇
稲田周之助	〔日経〕六三	一五	七
鳥賀陽然良	〔新報〕六六	二七	三
吉田 良三	〔國経〕六九	二九	五

監査役たる株主は商法第一
九八條の検査役選任の申
請を爲し得るや
銀行重役の責任
會社重役の私財提供を論ず
松波博士の銀行重役の責任
を論じて偶感
監査役の制度改正に就て
監査役制度論
會社重役の責任について

廣瀬 正雄	〔新聞〕六〇	一	一八五元
松波仁一郎	〔新聞〕六二	一	二〇七〇
松波仁一郎	〔新聞〕六三	一	二〇七〇
高木友三郎	〔新聞〕六二	一	二二四
花岡 敏夫	〔イン〕六五	三	二
濱田 徳海	〔會計〕六三	二五	三
松本 丞治	〔エコ〕六一	四〇	二二
田崎 仁義	〔日経〕六二	二三	一〇
江木 真	〔法協〕四七	二	五
一木喜徳郎	〔法政〕三三	二	一七
松本 重敏	〔辯協〕三三	二	三
岡 實	〔志林〕三三	三	一六
島田 俊雄	〔法政〕三七	八	二
市村 光恵	〔京法〕三九	一	五

【慣習法】

慣習法起源諸説の批評
慣習法の性質
慣習法を論じて民法商法に
及ぶ
慣習法を論ず
慣習法の觀念に就て
慣習の法力

慣習法を論ず
南洋の土民間に於ける慣習
法
グミューン教授の慣習法論
【干渉】
参照||モノロー主義。

石池香四郎	〔京法〕四四〇	二	九
菊池 武夫	〔新報〕四四〇	二	四
山本美越乃	〔京法〕六五	一一	三
岩田 新	〔志林〕六九	二三	二二
花井 卓藏	〔新報〕四元	六	五九
長岡 春一	〔法協〕四四	一八	二
松原 一雄	〔國家〕四四	一七	二〇
松原 一雄	〔國家〕四四	一七	二〇
立 作太郎	〔國際〕四四	二	二
立 作太郎	〔國際〕四四	二	二
秋山雅之助	〔志林〕四四	一一	一〇
有賀 長雄	〔國家〕四四	二六	二
立 作太郎	〔國家〕四四	二六	三
立 作太郎	〔國際〕四四	一〇	三
立 作太郎	〔國際〕四四	一一	二

【官制】

高橋博士の干渉の説を批駁 す 干渉論 他國の君位繼承事件と干渉 出兵と干渉 干渉と協力	千賀鶴太郎	〔京法〕六三	九
	立 作太郎	〔國家〕六三	二八
	立 作太郎	〔外時〕六四	三三
	立 作太郎	〔外時〕六七	三七
	立 作太郎	〔外時〕六三	三九
	長陵 學人	〔新報〕四四	一
	小林丑三郎	〔法政〕四四	一
	織史樓主人	〔新報〕四四	一〇
	中田 薫	〔法協〕六元	一〇
	黒板 勝美	〔法協〕六八	一七
	田口 卯吉	〔國家〕四五	六
	岩村 茂	〔國家〕四七	八
	井上辰九郎	〔國家〕四八	九
	田島 錦治	〔新報〕四九	六

【慣習法】【干渉】【官制】【關稅】

日本海關稅論 三浦 朝道〔國家〕三四一—三四七

濠洲關稅事件 高橋 作衛〔外時〕三四五—三四六

關稅報復並關稅互惠を論ず 堀江 歸一〔國經〕三四九—三五〇

關稅同盟 山崎四男六〔國家〕三四九—三五〇

現行條約の不備と關稅定率法の改正 津村 秀松〔國經〕三四九—三五〇

關稅定率法改正の要點 武田 英一〔國經〕三四九—三五〇

我國の協定稅率を論じて條約改正に及ぶ 河津 暹〔日經〕三四〇—三四一

企業家組合の起因及保護的關稅に對する其關係 氣賀 勳重〔國經〕三四〇—三四一

關稅の改正及び內國稅の革新 加藤政之助〔日經〕三四〇—三四一

保護關稅と國民經濟 丹羽 實〔國經〕三四一—三四二

保護稅と國民福利 丹羽 豐〔國經〕三四一—三四二

帝國關稅政策論 丹羽 筑山〔東經〕三四二—三四三

關稅制度上に於ける內國稅と戻說 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

復關稅率問題に關して森本駿君に答ふるの書 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

米穀輸入稅改正につきて 河津 暹〔志林〕三四二—三四三

農業關稅論 矢作 榮藏〔日經〕三四二—三四三

條約改正に關し復關稅率制

の利害を論ず 津村 秀松〔國經〕三四一—三四二

米穀輸入稅改正に就て 福島 平〔新報〕三四二—三四三

歐州關稅政策の現狀 小倉 和市〔三學〕三四三—三四四

諸大家の關稅改正意見を讀む 河津 暹〔日經〕三四三—三四四

現行通商條約の最惠國條款に依り本邦輸出品が外國に於て受くる關稅利益 水野 良高〔日經〕三四四—三四五

米及米關稅に關する統計調査 津村 秀松〔國經〕三四四—三四五

原產地證明 水野 良高〔日經〕三四四—三四五

歐州諸國の關稅定率法及び關稅改革 津村 秀松〔國經〕三四四—三四五

オッグ〔國家〕三四二—三四三

大越 成徳〔東經〕三四二—三四三

井上辰九郎〔東經〕三四二—三四三

飯田 義一〔東經〕三四二—三四三

關稅問題に付て 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

關稅發達の概觀 飯田 義一〔東經〕三四二—三四三

關稅改正の問題 飯田 義一〔東經〕三四二—三四三

來るべき條約改正に關する 飯田 義一〔東經〕三四二—三四三

國定稅率及び協定稅率如何 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

關稅法上の復稅率制度 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

輸入關稅の負擔者 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

關稅問題の梗概 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

報復關稅論 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

殖民地關稅問題に付て 小林丑三郎〔東經〕三四二—三四三

再び關稅同盟と自由貿易說に就て 小林丑三郎〔東經〕三四二—三四三

關稅の内外に於ける利害の衝突 小林丑三郎〔東經〕三四二—三四三

關稅問題に付て 鹽澤 昌貞〔外時〕三四二—三四三

輸入品に對する內國課稅 天野 爲元〔洋經〕三四二—三四三

關稅改正と輸出貿易 安屋源次郎〔日經〕三四二—三四三

新關稅定率法第六條に就て 河津 暹〔日經〕三四二—三四三

關稅政策が社會政策か 關 一〔日經〕三四二—三四三

關稅改革頭末 河田 嗣郎〔國經〕三四二—三四三

誤解せられたる改正關稅定率 武田 英一〔國經〕三四二—三四三

關稅保護と萬國自由貿易大會 武田 英一〔國經〕三四二—三四三

關稅同盟論 鹽澤 昌貞〔外時〕三四二—三四三

ペイン關稅法を論じて其改正問題に及ぶ 津村 秀松〔國經〕三四二—三四三

正問題に及ぶ 松井 啓介〔國經〕三四二—三四三

新通商條約と關稅改正 河津 暹〔國家〕三四二—三四三

關稅及廉賣地域 川上英一郎〔東經〕三四二—三四三

對英關稅問題の解決如何(河津博士の意見を讀む) 植松 考昭〔洋經〕三四二—三四三

米價の將來と米稅 河津 暹〔日經〕三四二—三四三

米價暴騰と米穀輸入稅の關係 莊田 秋村〔東經〕三四三—三四四

米穀關稅廢止論 小林丑三郎〔東經〕三四三—三四四

汽船輸入稅輕減の急務 山本唯三郎〔東經〕三四三—三四四

關稅法上の貨物 坪根 久松〔評論〕三四三—三四四

關稅政策(講演) 田尻稻次郎〔新報〕三四三—三四四

外米關稅廢止問題と議會 莊田 秋村〔東經〕三四三—三四四

米の供給と關稅 鈴木梅四郎〔財經〕三四三—三四四

獨逸と穀物關稅問題 阿部 秀助〔三學〕三四三—三四四

戰爭と關稅制度 阿部 秀助〔三學〕三四三—三四四

日本及支那に於ける關稅の史的觀察 田崎 仁義〔國經〕三四三—三四四

中歐關稅同盟論 松岡 均平〔國家〕三四三—三四四

戰後の關稅團體の計畫 戶田 海市〔經叢〕三四三—三四四

禁輸及關稅に依る包圍攻撃 堀江 歸一〔三學〕三四三—三四四

殖民地の關稅制度を論ず 神戶 正雄〔經叢〕三四三—三四四

特惠關稅制度に就いて 渡邊 秀雄〔國家〕三四三—三四四

製鐵事業と保護關稅との關係 河津 暹〔國家〕三四三—三四四

我が製鐵事業と保護關稅の必要 今泉嘉一郎〔財經〕三四三—三四四

關稅警察事務と犯則の防止 井出秀和太〔臺法〕三四三—三四四

小麥定期取引と關稅問題 諸井 四郎〔財經〕三四三—三四四

關稅改正要項	志立鐵次郎	〔財經〕	大〇	八〇
生絲輸入稅撤廢問題	神戸 正雄	〔時經〕	大二	九
米穀關稅免除延期の可否	河田 嗣郎	〔エコ〕	大二三	二
應急關稅政策の更正	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一九
協定關稅の改訂	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	二三
奢侈品關稅の問題	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	二三
外米關稅と内地米價	半澤 耕貫	〔社政〕	大二三	四
誤れる關稅政策	稻畑勝太郎	〔エコ〕	大二三	一四
綿絲關稅撤廢論の不合理	神坂靜太郎	〔エコ〕	大二三	二
小麦及小麥粉關稅引上是非	河田 嗣郎	〔經濟〕	大二三	二
科學的關稅概論	小林 行昌	〔國經〕	大二三	八
毛織物關稅の引上は不可	垣内幸太郎	〔エコ〕	大二三	三
米價と關稅との關係に就て	河田 嗣郎	〔經濟〕	大二三	二〇
關稅自主權收回の根據	汪 榮 實	〔外時〕	大二三	二〇
關東州産品輸入稅免除法に就て	今井 俊彦	〔外時〕	大二三	四一
贅澤品關稅の經濟社會に及ぼせる影響	土方 成美	〔經濟〕	大二三	四
關稅の外國貿易に及ぼす影響に就て	菱沼 勇	〔經濟〕	大二三	二
わが關稅改正の目標	青木 得三	〔エコ〕	大二三	三
關稅と物價の關係	小林 行昌	〔早商〕	大二三	一
國際平和と關稅問題	野村 次夫	〔國經〕	大二三	九
砂糖關稅改正と本邦製糖業	三宅鹿之助	〔經濟〕	大二三	三

國際課稅の主義論争	神戸 正雄	〔經濟〕	大二三	二
我國の關稅	岸本誠二郎	〔經濟〕	大二三	二
本邦關稅の沿革と製鐵業	生松 淨	〔經濟〕	大二三	二
本邦關稅沿革と其生産業に及ぼしたる影響	鈴木 武雄	〔經濟〕	大二三	二
本邦綿絲關稅の沿革と紡績業	三宅鹿之助	〔經濟〕	大二三	二
本邦穀物並に砂糖關稅の沿革	松下 芳男	〔國家〕	大二三	〇
關稅政策と帝國主義	潮川 次郎	〔同論〕	大二三	〇
關稅と勞賃との關係について	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
銑鐵關稅引上問題	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
關稅調査委員會の當設	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
銑鐵關稅に代るべき製鐵獎勵金	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
印度綿製品關稅引上の可能性	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
我國綿製品の海外に於ける關稅攻め	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
印度の關稅改正と我對印貿易	町田 成美	〔外時〕	大二三	二七
印度地方各州と關稅	國吉 省三	〔亞經〕	大二三	六

英領印度の關稅政策

獨逸の海運擴張と英國關稅改革	瀧谷 善一	〔國經〕	大二三	三
英國特惠關稅論	小西 虎雄	〔國經〕	大二三	五
英國關稅問題の狀勢	丹羽 豐	〔日經〕	大二三	五
日英關稅問題に就て	河津 暹	〔外時〕	大二三	二
再び日英關稅問題を論ず	河津 暹	〔日經〕	大二三	八
日英關稅問題と我金市製織	河津 暹	〔外時〕	大二三	八
日英間の關稅問題に付帝國議會に期す	谷奥 利吉	〔洋經〕	大二三	一
英國特惠關稅問題	有賀 長雄	〔外時〕	大二三	一四
英帝國特惠關稅制度の我國貿易に及ぼす影響を論ず	戸田 海市	〔經濟〕	大二三	一
英國の特惠關稅問題に就て	河津 暹	〔國家〕	大二三	八
大英帝國互惠關稅問題	神戸 正雄	〔外時〕	大二三	三〇
最近に於ける英國の關稅政策	瀧谷 善一	〔國經〕	大二三	五
英國の關稅改革問題	瀧谷 善一	〔國經〕	大二三	三七
近世英國關稅政策	堀江 歸一	〔エコ〕	大二三	一
英國の絹物關稅	島田 靜夫	〔外時〕	大二三	四九
關東州特惠關稅に就て	神戸 正雄	〔時經〕	大二三	一
	野添 孝生	〔エコ〕	大二三	三

關東州特惠關稅

支那關稅改正問題	吉田 虎雄	〔日經〕	大二三	一
支那關稅增徴問題	津村 秀松	〔國經〕	大二三	一
支那關稅改正と帝國	根岸 祐	〔外時〕	大二三	二七
支那關稅改正問題と條約	及川 恒忠	〔外時〕	大二三	二九
日本及支那に於ける關稅の史的觀察	田崎 仁義	〔國經〕	大二三	八
關稅の制度及其の變遷	善生 永助	〔財經〕	大二三	一
(經濟上の支那十一)	根岸 佑	〔亞經〕	大二三	一
支那關稅改正と産業保護	木村増太郎	〔亞經〕	大二三	一
支那の關稅改正問題	河津 暹	〔國家〕	大二三	三
支那引入と關稅改正問題	善生 永助	〔財經〕	大二三	四
日支貿易と關稅改正問題	阿部 秀助	〔三學〕	大二三	一六
支那と關稅問題	馬場 義典	〔財經〕	大二三	四
支那關稅改正の要求を拒絶せよ	神戸 正雄	〔經濟〕	大二三	四
支那關稅引上と日本紡績業	河津 暹	〔國家〕	大二三	三
再び支那關稅問題を論ず	津村 秀松	〔國經〕	大二三	三
支那關稅問題と日本	河津 暹	〔國家〕	大二三	三
支那關稅引上反對意見書を讀む	河津 暹	〔國家〕	大二三	三
支那關稅問題と我對支貿易	稻山 始	〔東經〕	大二三	二八
支那の裁釐加稅問題	木村増太郎	〔經濟〕	大二三	五

支那引入と支那關稅改正問題	神戶 正雄〔外時〕大六二五 齋藤 良衛〔外時〕大六二五 高柳松一郎〔國家〕大七三三	田崎 仁義〔長覺〕大四五 堀内 干城〔外時〕大四四一
支那關稅問題の側面觀	齋藤 良衛〔外時〕大六二五	堀内 干城〔外時〕大四四一
支那に於ける内國關稅	高柳松一郎〔國家〕大七三三	勝田 主計〔外時〕大四四一
支那輸入關稅改訂實施の影響	善生 永助〔財經〕大八六 吉田 虎雄〔亞經〕大九四 善生 永助〔財經〕大八六	稻原 勝治〔外時〕大四四一
裁量加稅の研究	善生 永助〔財經〕大八六 吉田 虎雄〔亞經〕大九四 末廣 重雄〔經叢〕六一一	木村増太郎〔亞經〕大四九 末廣 重雄〔經叢〕六一一
支那關稅改訂と日本の立場	善生 永助〔財經〕大八六 末廣 重雄〔經叢〕六一一 木村増太郎〔亞經〕六一一	橋川 凌〔外時〕大四四一
支那の關稅改正に就て	木村増太郎〔亞經〕六一一 大村 欣一〔亞經〕六一一	後藤 新平〔外時〕大四四一
支那の關稅改正問題に就て	大村 欣一〔亞經〕六一一 高柳松一郎〔財經〕六一一	河瀬 善北〔國知〕大四五
支那古來の關稅と現行關稅	高柳松一郎〔財經〕六一一 吉田 虎雄〔亞經〕六一一	西澤 英一〔財經〕大四五
支那關稅改正と日支經濟關係	吉田 虎雄〔亞經〕六一一 下田 禮佐〔商濟〕大二三	堀江 歸一〔エコ〕大四五
支那の裁量加稅問題に就て	下田 禮佐〔商濟〕大二三 宮脇賢之介〔亞經〕大三八	西澤 英一〔財經〕大四五
支那關稅の過去及び將來に就て	宮脇賢之介〔亞經〕大三八 長永 義正〔財經〕大三八	木村増太郎〔エコ〕大四五
支那關稅引上と其對策	長永 義正〔財經〕大三八 宮脇賢之介〔亞經〕大三八	高柳松一郎〔外時〕大四五
民國財政部農商部會呈關稅臨時研究會決議案に就て	宮脇賢之介〔亞經〕大三八 長岡 克曉〔亞經〕大三八	高柳松一郎〔外時〕大四五
支那關稅金貨徵收案	長岡 克曉〔亞經〕大三八 吉田 虎雄〔亞經〕大三八	神戶 正雄〔時經〕大四五
支那關稅特別會議に就て	吉田 虎雄〔亞經〕大三八 長永 義正〔財經〕大三八	神戶 正雄〔時經〕大四五
日支關稅問題	長永 義正〔財經〕大三八 宮脇賢之介〔亞經〕大三八	神戶 正雄〔時經〕大四五
支那關稅の獨立問題	宮脇賢之介〔亞經〕大三八	神戶 正雄〔時經〕大四五
支那の關稅制度及び其改訂		神戶 正雄〔時經〕大四五

關稅特別會議と日本	末廣 重雄〔外時〕大五五	歐洲產と異りたる關稅待遇を受くるに至りたる顧	歐洲對米關稅戰闘	田中 穗積〔外時〕大二三
支那關稅會議は如何に進む可きか	末廣 重雄〔外時〕大五五	佛國關稅の研究	佛國關稅の研究	河津 暹〔法協〕大二三
民國の更生と關稅會議	河瀬 善北〔外時〕大五五	歐洲對米關稅戰闘	歐洲對米關稅戰闘	河津 暹〔外時〕大二三
支那關稅問題	陳 覺生〔外時〕大五五	米國輸入稅率改正に就て	米國輸入稅率改正に就て	津村 秀松〔國經〕大三一
支那關稅問題	根岸 信〔外時〕大五五	米國に於ける關稅改正	米國に於ける關稅改正	水野 智彦〔三學〕大〇一
關稅會議と日本原案の撤回	小林 行昌〔早商〕大五五	米國に於ける關稅改正の願	米國に於ける關稅改正の願	高橋 康順〔經叢〕大二七
對支關稅對策の變更	西澤 英一〔財經〕大五五	北米合衆國の關稅改正	北米合衆國の關稅改正	高橋 康順〔經叢〕大二七
支那關稅改正の影響	神戶 正雄〔時經〕大五五	米國の新關稅法と通商諸國	米國の新關稅法と通商諸國	高橋 康順〔經叢〕大二七
朝鮮の關稅に就きて	神戶 正雄〔經叢〕大五五	米國に於ける新關稅改革の概要	米國に於ける新關稅改革の概要	高橋 康順〔經叢〕大二七
朝鮮關稅定率令改訂意見	山内 勝雄〔亞經〕大七二	一九二二年亞米利加合衆國緊急關稅法制定	一九二二年亞米利加合衆國緊急關稅法制定	高橋 康順〔經叢〕大二七
朝鮮關稅制度の改正に就て	河津 暹〔國家〕大七三	米國の新關稅法に就て	米國の新關稅法に就て	高橋 康順〔經叢〕大二七
獨逸に於ける關稅法改正の願末	田中 穗積〔外時〕大一一	米國現行保護關稅法と其效果	米國現行保護關稅法と其效果	高橋 康順〔經叢〕大二七
獨逸輸出稅に就て	服部文四郎〔洋經〕大四三	亞米利加合衆國關稅制度の發達	亞米利加合衆國關稅制度の發達	高橋 康順〔經叢〕大二七
羽二重に對する獨逸の關稅待遇	守屋源次郎〔日經〕大八八	露國の關稅保護	露國の關稅保護	高橋 康順〔經叢〕大二七
獨逸の農業保護關稅と食料品自給力	河田 嗣郎〔國經〕大四一九	露國及極東露領の關稅政策	露國及極東露領の關稅政策	高橋 康順〔經叢〕大二七
獨逸關稅政策の沿革	牧野 義智〔國經〕大七六			高橋 康順〔經叢〕大二七
佛國に就て本邦産絹織物が				高橋 康順〔經叢〕大二七

【間接訴権】

債權—債權の效力を見よ

【官廳】

参照—官廳。

半官官衛の實況
官廳の觀念に關する管見
文部大臣權限論
官廳の訴訟行爲

- 木場 貞長 [國家] 三二 二
- 小原 新三 [法協] 四二 二〇
- 櫻井熊太郎 [辯協] 四二 二二
- 皮本 生成 [辯協] 六三 二八 一八四
- [新聞] 六三 一 九八

ペルナチツクの論文「人格の概念特に官廳の人格」の内容

- 田村 徳治 [京法] 六七一 六八

【同謀】

志士と同謀

同謀に關する佛國の法規
宣傳と同謀

- 淺 倫太郎 [新聞] 四七 一 三三六
- 石見 林生 [新報] 四七 五 一
- 建部 遜吾 [外時] 六一 吳 四〇

【カンチロン】

(Richard Cantillon, 1680-1734)

經濟學の發端 Richard Cantillon

- 福田敬太郎 [國經] 六九 二九 甲五

【森通罪】

告新の抛棄と強姦致傷罪
森通罪と婚姻方式との關係を論ず

森通を論ず
森通に就て
被殺者の強姦致死罪に對する強姦致傷者の責任の根據

男爵加藤先生の森通論を拜讀し民法八一三條刑法三五四條改正刑法一八四條に及ぶ

支那法と森通
新刑訴と森通罪其他との關係

強姦致傷の罪と刑法第二〇七條との關係に就て
森淫成傷罪に就いて

上田 和夫 [法叢] 六三 九 甲一五

- ト部喜太郎 [新報] 四三〇 七 七
- 岩味 隆次 [新聞] 四三六 一 二〇八
- 藤本勘三郎 [京法] 四四〇 二 五
- 加藤 弘之 [法協] 四四一 二六 一
- [辯協] 四四一 二二 二六
- 牧野 英一 [新報] 四四一 一八 三
- 一瀬勇三郎 [新聞] 四四二 一 四七六
- 東川 徳治 [志林] 六六 一九 四
- 上内恒三郎 [憲法] 六一 二六 九
- 伊藤 三秋 [新聞] 六一 一 二〇七
- 小齋甚治郎 [正義] 六一 一 四

【ガンディー】

(Mohandas Karamchand Gandhi, 1869-)

大聖ガンディーが事ども
ガンヂの非協英運動

- 村上源太郎 [社政] 六一 一 一九
- 鹿子木貞信 [外時] 六一 三五 四八

【鑑定】

鑑定を見よ

【カント】

(Immanuel Kant, 1724-1804)

カントの學說
カントの國家論
カント認識論と純理經濟學
カント國家及法律哲學と論
理形式主義經濟學
自由民政及永久平和 (カントの學說を評す)
カントと軌近の社會主義
新カント派認識論と經濟學
カント「法律學の形而上學的原理」の緒論
カント契約的國際社會論
カントの政治思想
カントの法理論

- 戸水 寛人 [法協] 四三八 二三 八九
- 上杉 慎吉 [法協] 四七三 二二 五
- 左右田善一郎 [國經] 六四 一九 五
- 福田 徳三 [三學] 六七一 二二 一〇
- 稲田周之助 [新報] 六七 二八 三
- 米田庄太郎 [經叢] 六七 七 三六
- 山口正太郎 [商經] 六七 一 二
- 恒藤 恭 [同論] 六〇 一 五
- 今中 次磨 [外時] 六一 三五 四九
- 今中 次磨 [同論] 六一 一 八
- 船田 享二 [法政] 六一 一九 九一 三

【ガンディー】【鑑定】【カント】

カントの法律哲學に就いて
カントに歸つて經濟學を論ず

フオルレンダー「カントと社會主義」(譯)
國際平和思想より觀たるカントとウキルソン

カントの國家論
ザウアーの新カント派法理學辯護論

カントとフランス革命
カントの歴史哲學と社會哲學

人としてのカント
カントの法理論
大哲カントに就て

近世文化の哲學者としてのカント
カントの生涯とその著書

カントの社會思想
カントの理性道德と現代の社會思潮

カントの「國際法」論
カントに至る平和思想の進

今川 赴夫 [國家] 六三 三六 甲四

- 船田 享二 [法政] 六三 二二 四
- 柳澤 泰爾 [法治] 六三 三 五六
- 高橋 正彦 [國知] 六三 四 早
- 大谷 美隆 [法治] 六三 三 早七
- 岸 興詳 [長叢] 六三 四 二六
- 桑木 嚴真 [社叢] 六三 一 七
- 松永 材 [社政] 六三 一 四
- 兒玉 達直 [社政] 六三 一 四
- 友枝 高彦 [社政] 六三 一 四
- 高橋 正彦 [國知] 六三 四 七

展

カントの法律哲學
カントと人類の結合
カント「判断力批判」の問
題と文化の合目的性
「純粹理性批判」に於ける
グマインシャフト即ち相
互作用の概念
デボーリン「カントに於け
る辯證法」(譯)

柳澤 泰爾【法治】大二三
山下 博章【法政】大二三
村瀬武比古【法治】大二四
川村 豊郎【商研】大四五
米田庄太郎【社雜】大四一
福本 和夫【社科】大五二

【關東州】

旅順威海衛に關する清英露
獨の交渉
浦潮斯徳と旅順及大連
旅順口法權問題
租借權の性質と關東州の租
借地
國際地役を論じて滿州鐵道
の布設權及關東州の租借
地の法律上の性質に及ぶ
獨逸帝國保護領たる膠州灣

有賀 長雄【外時】大三一
下村 宏【外時】大三五
松原 一雄【新報】大三二
篠田 治彦【國際】大五二
岩井 尊文【京法】大九九

制度の一二を説き我が關
東州に及ぶ
關東州に於ける我邦法權の
發動
清國領土の保全を研究して
關東州租借地の法律上の
性質に論及す
日清戰爭後の露佛獨三國干
渉、所謂「Clemens」密約及
び露國の旅大租借の真相
に就て
大連取引所建値問題
旅大租借地問題と國民の決
意
支那に於ける租借地還附に
ついで
關東州還附論に就て
遼東回收論の論理
旅大還附の條件
旅大問題と内外の議論
關東州租借地還附問題解決
案
旅大問題は華府會議失敗の
結果也

江木 眞【國家】大九九
川島 行司【新報】大二八
高橋 作衛【國際】大五七
矢野 仁一【外時】大〇三
善生 永助【財經】大〇八
尾川 新【外時】大一一
清水 泰次【外時】大二三
清水 泰次【國際】大二三
矢野 仁一【外時】大三七
末廣 重雄【外時】大三七
尾川 新【外時】大三七
青柳 篤恒【外時】大三七
副島 道正【外時】大三七

三國干渉から露西亞の旅大
租借まで(再び)
虐げられつゝある關東州民
關東州司法制度改善論
關東州阿片令に就て科刑不
當改正を要す
關東州特惠關稅に就て
關東州特惠關稅
關東應戶口調査(調査法)
に就て

矢野 仁一【外時】大二三
小野 實雄【新聞】大二三
小野 實雄【新聞】大二三
小野 實雄【新聞】大二三
小野 實雄【新聞】大二三
野添 孝生【ニユ】大三四
神戶 正雄【時經】大三四
宮本 基【統雜】大三四

興廢史論(譯)
カンニングガム博士近々
【カンパネルラ】
(Tommaso Campanella, 1568-
1639)
トマツソ・カムパネルラの
「日の都」
【官吏】
參照II官廳。官制。

河上 肇【日經】大九〇
本庄榮治郎【經叢】大九一〇

末岡 精一【法協】大五〇
斯波淳六郎【法協】大五三
木場 貞長【國家】大五五
高橋 二郎【統集】大五六
花井 卓藏【新報】大五六
穂積 八東【新報】大五七
渡邊清太郎【法政】大五八
山石 正文【新報】大五八
渡邊清太郎【法政】大五九
穂積 八東【法協】大五九

【關東大震災】
震災(大正十二年)を見よ
【カントロヴィッツ】
(Hermann Kantorowicz (Pseud.
Unaes Flavius), 1877-
參照IIフラウイウス。
カントロヴィッツの法律社會
學
カントロウキツチに於ける
「社會學建設」への試み

田中 誠二【法協】大三四
酒井正三郎【社科】大三四

【カンニングガム】
(William Cunningham, 1849-1919)
カンニングガム「自由貿易

英佛獨埃比較官吏法(殊に
登備法)
官吏の任命
國家と官吏
埃國文官統計
官吏侮辱罪意見
官吏の職務上の過失に因る
賠償責任
官吏の性質
俸給論
違法命令に對する官吏の責
任
何を官吏と謂ふか
官吏の職務執行の際損害を

高橋誠一郎【三學】大九一四

受けたる者は其賠償を請求することを得るや若し得るとせば其相手方々何

官吏に對する國家賠償責任

任官の性質に關する學說を論ず

國家は官吏の不法行為に對し民事上の責任ありや否や質問に答ふ

無資格者を官吏に任用したる場合の處分を論ず

官吏の民事上の責任

官吏の觀念に關する管見

懲戒及刑罰に就て

行政官吏服従の義務

官吏責任論

代理者の過失に因る國家の責任

官吏の身元保證金

會計法に依る保證金の性質

副島 義一 [法政] 三四 四七

岡田朝太郎 [國家] 三三 一六五 [明法] 三三 一三 [新聞] 三三 一三六

木澤 定夫 [明法] 三四 一 三三〇

松波仁一郎 [法政] 三四 五 五

遠藤 源六 [國家] 三五 一五 一六

織田 萬 [内外] 三五 一 一

小原 新三 [法協] 三五 二〇 二〇

岡 實 [新報] 三五 三三 三三

清水 澄 [新報] 三五 三三 三三

清水 澄 [法協] 三五 二二 二二

シムユイ [内外] 三五 二 二

織田 萬 [内外] 三五 二 二

中山成太郎 [志林] 三六 五 五

官吏の忠實の義務

官吏の俸給に付て

獨逸國に於ける「無罪の被逮捕者に關する損害賠償法」の制度

令限分の解釋と教授の言論

官吏の忠實義務に就て

外國人は之を官吏に任することを得るか

官吏公吏及議員の私心の效力

裁判所書記か其保管に係る

競落代金を費消したるときは國家は賠償の責を負ふや

國家か私人の利益を侵害したる場合に於ける賠償責任を論ず

ピンチングの職務犯罪論

官吏か職務違反の行為に因り他人に損害を加へたる

ときは民法不法行為の規定に従つて賠償の責に任

清水 澄 [志林] 三五 五 五

島村他三郎 [新報] 三七 二四 六

副島 義一 [新報] 三七 二四 七八

岡田朝太郎 [國家] 三三 一九 一〇 [志林] 三三 七 九

ラドニツキー [法協] 三五 三三 二二

市村 光憲 [明學] 三六 一 一

岩田 宙造 [志林] 三五 八 二

谷田 三郎 [法記] 三五 一六 二

美濃部達吉 [法協] 三五 二四 二六

美濃部達吉 [國家] 三五 一九 三

すべきか

官吏の任命は何れの時より其效力を生ずるか

官吏の從順の義務

官吏か公權執行に當りて爲したる不法行為に因る官吏の責任

官吏不法行為論

官吏責任論

官吏の任命に就て

官吏の品位に就て

同一人に對し二重になしたる官吏任命の效力

官吏の職務上の不法行為に基く民法上の賠償責任

殖民地官吏の養成及任用

官吏の本質を略説す

官吏と雇員

官吏服務規律と公共小學校

遺族扶助料を受くるの權利に關する疑義

官吏の忠實の義務

佐々木惣一 [京法] 三九 一 卷 四號

美濃部達吉 [法政] 三九 一〇 七

美濃部達吉 [法協] 三九 二四 二二

森 作太郎 [新聞] 三九 一 三五四

一柳 貞吉 [新聞] 三九 一 三五九

美濃部達吉 [志林] 四〇 九 一四

清水 澄 [法政] 四〇 二 一三

大演 隆 [新聞] 四〇 一 四三九

島村他三郎 [志林] 四一 一〇 一一

梅 謙次郎 [志林] 四一 一〇 二

江木 翼 [國家] 四一 三 三

寛 克彦 [新報] 四一 一八 六

佐々木惣一 [辯協] 四一 二二 一三

佐々木惣一 [新報] 四一 一八 七

島村他三郎 [志林] 四一 一〇 八

佐々木惣一 [國家] 四一 二二 一〇

佐々木惣一 [新報] 四一 一八 二

懲戒裁判制度

官吏の俸給

官吏法の制度に就き

獨逸民法に於ける官吏の賠償義務

官吏の不法行為に基く國家の責任

外國人を日本官吏に任するを得るや

懲戒裁判制度

在韓文官の登用法論

文官任用令の解釋に就て

判事側より見たる文官任用令

官吏登用試験と大學制度

官吏としての黨人

文官任用令問題

無辜者に對する國家の賠償問題

近世の國家に於ける官僚の地位

官吏の任用及其地位保障

印度文官任用試験規則

竊罪者に對する國家の賠償責任に就て

高窪喜八郎 [辯協] 四一 二二 二六

馬場 鏡一 [明學] 四一 一 二四

清水 澄 [志林] 四一 二 一

佐々木惣一 [國家] 四一 三 一三

キノール教授 [國家] 四一 三 三

美濃部達吉 [國家] 四一 三 二

高窪喜八郎 [辯協] 四一 二二 一六

羽 山 [新聞] 四一 一 五七

末松借一郎 [國家] 四一 一 八

○ △ 生 [新聞] 四一 一 八五

織田 萬 [京法] 四一 九 五

市村 光憲 [京法] 四一 九 二

小川 平吉 [國家] 四一 二 二

大場 茂馬 [新聞] 四一 一 九四

村田岩次郎 [三學] 四一 九 四

清水 澄 [法協] 四一 三 五

原 嘉道 [國際] 四一 三 八

原 嘉道 [新聞] 四一 一 一〇六

冤罪要償に法の存在を要せ

ず

誤判と國家の賠償責任

大場茂馬氏の「誤判と國家の賠償責任論」は根底に

誤あり

出納官吏の賠償責任

官吏の待遇を論じて警察官の優遇問題に及ぶ

憲法と文官任用令

文官の任用制度に就て

政府に對する保證金の返還

請求權の性質及其處分に就て

官吏の待遇を論ず

官吏組合權に關する佛國の

新法案

無罪免訴の場合に於ける國

家損害賠償論

清朝文官の任用について

官吏職務時間改正案の立消

に就て

文官任用の範圍

傳令と躬行（行政整理より

松本 重敏「新聞」大五 一 二二七
大場 茂馬「國家」大五 四 九

松本 重敏「新聞」大五 一 二七六
田中 貢「法政」大七 五 七八

小川郷太郎「法論」大七 一 一四
松本 重敏「新聞」大七 一 一四六
馬場 鏡一「國權」大八 七 七

作間 耕逸「辯論」大八 三 二
小川郷太郎「經濟」大九 一〇 三

末松殿太郎「法協」大〇 三 二
三上 英雄「新聞」大二〇 一 一九〇
清水 泰次「國家」大二 三 七

天 寛子「新聞」大二三 一 三四九
船田 中「法政」大四 三 九一一

も急務は行政官吏の心得

の改良

判檢事對普通文官俸給令の

制度比較論

社會民主國家に於ける官吏

法

文官任用令改正と裁判所書

記の境遇

生

官吏生活の窮狀

官吏の生活に就て

官吏増俸の必要

官吏社會の困難時代

官吏増俸に伴ふ吾人の希望

判任官生活の實狀

獨逸高等官の生活費

本邦に於ける官公吏教員及

會社員の生活費

播磨 龍城「新聞」大四 一 三三四
荒木 櫻洲「新聞」大四 一 三九五

杉村章三郎「國家」大五 四 五十六
豊島 武夫「新聞」大五 一 二五〇

三木 甫水「統論」大五 一 一四
河合 利安「統論」大五 一 二九
瀧本 美夫「日經」大四 一 三

瀧 臺水「東經」大四 一 五七
守屋源次郎「日經」大五 一 七
沙見 三郎「經濟」大九 一〇 一

岡崎 文規「經濟」大三 二 六
神原 平八「統論」大四 一 三三

キ 部

【キイデルレン・ウエヒター】(Kierlen-Waechter, 1852-1912)

キイデルレン・ウエヒター 重徳 泰助「外時」大 二 一七 一九

【生】 養蠶、蠶物、蠶業、蠶絲、製絲。

一八八二年世界生絲出產統計 本野 一郎「統論」大五 一 二二三

本邦生絲一ヶ年の産額 今井藤四郎「スタ」大五 一 二二三

生絲貿易と製絲業者 瀧 臺水「東經」大四 一 五七 二二三

本邦生絲業の生産組織 男全 萬治「國經」大四 一 六 四一五

敢て生絲業者に共同販賣所

の設置を勧告す

生絲相場の變動

生絲相場及其品質

生絲の直輸出と商館

生絲相場管見

如是生絲の前途

生絲市場活躍の時期

生絲貿易と取引所

生絲貿易の危機

生絲市場開戦後の失敗

河東田經濟「東經」大五 一 二五〇

飯島千代太「日經」大五 一〇 二

飯島千代太「日經」大五 二 一

河田以備三「日經」大五 二 七

飯島千代太「日經」大五 二 〇

河田以備三「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

河田以備三「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

河田以備三「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

飯島千代太「日經」大五 二 〇

生糸金融に就て

我が生絲市場に對する希望

本邦生絲の生産

群馬縣生絲販賣組合の研究

我が生絲貿易の前途如何

生絲貿易の前途

生絲輸入税撤廢問題

議論の餘地なき生絲輸出港

問題

生絲輸出港問題と農家の立

場

生絲金融の諸問題

生絲問屋金融制度の改善傾

向

生糸融資拒絶問題

生糸取引改善と共同市場問

題

生絲金融の問題

東西生絲市場優劣論

我國の生絲貿易と其將來

生絲輸出港の分散制に就て

生絲業者の金融實務

生絲の格付と清算取引の標

準格

内藤 章「國經」大五 二 六

上田貞次郎「財經」大五 三 七

丹治 三郎「統論」大五 一 三三

上田貞次郎「國經」大七 二 五

堀越善重郎「財經」大八 六 八

堀越善重郎「財經」大二〇 八 一〇

神戸 正雄「時經」大二 一 九

池田 龍藏「エ」大三 一 一七

河田 嗣郎「エ」大二 一 一八

太田 義繁「銀研」大三 六 四

高山 武雄「銀研」大三 六 六

池田 龍藏「エ」大三 二 七

一戸 正侯「エ」大三 二 九

神戸 正雄「時經」大三 一 三三

河上 福平「商經」大三 一 三三

大平 頼母「商經」大三 一 三三

高山 武雄「商事」大四 五 一

須戸 勇「商事」大四 五 一

井阪 孝「取引」大四 一 一

【生絲】【ギールケ】【キーンズ】【歸化】

神戸生絲金融問題管見。高山 武雄〔銀叢〕六二四 一
生絲清算市場の缺陷 河杉 信男〔取引〕六四一 二
輸出生絲市場論 太田卯之助〔商事〕六四一 二
生絲相場の騰落 井坂 孝六〔取引〕六四一 一
米國に於ける生絲買取引 頼戸 勇〔商事〕六四一 一
規定

【ギールケ】(Otto Friedrich von Gierke, 1841-1921)

ギルケー教授憲法論 小倉 和市〔三學〕四三三 五
雇傭契約發展の史的考察 (ギールケの「雇傭契約の起原」に就て) 末川 博〔法叢〕六〇五 五
ギールケ教授の永逝を聞きて 牧野 英一〔志林〕六一二 一
Otto Fr. von Gierke に就て 木村 龜二〔國家〕六一三 一
ギールケに於ける有機體の概念 船田 享二〔法政〕六三二 一
ギールケの有機體及び社會法の概念(グルキツチ) 能勢 克男〔同論〕六三一 一
Gierke 目錄(〇・五) 岩田 新〔商研〕六四一 二
【キーンズ】(John Maynard Keynes, 1883-)

キーンズの貨幣改革論 木村 重夫〔商叢〕六二三 一
キーンズの貨幣改革論を讀みて 平野 清〔銀叢〕六三三 七
再びキーンズの所謂 Man-aged currency に就て 平野 清〔商叢〕六四一 一
キーンズの「幣制改革論」 大内 兵衛〔原巴〕六四一 一
【歸化】 參照 外國人。

歸化學(講演) 三崎龜三助〔國家〕四二二 二
英國人は日本に歸化することを得るか 松井慶四郎〔法協〕四四一 九
歸化を論ず 卜部喜太郎〔新報〕四八五 五
米國歸化法に於ける日本人の排斥 山田福三郎〔明法〕四四一 三
米國歸化法に就て 山田 三良〔國家〕四四一 二
米國の新舊歸化法 川崎巳之太夫〔新聞〕四四一 一
川崎氏の米國新舊歸化法に就て 山田 三良〔新聞〕四四一 一
山田博士の答論に就て 川崎巳之太夫〔新聞〕四四一 一
日本人歸化權を論じて條約締結に及ぶ 米田 實〔國際〕四四三 八
敵國民の歸化 牧野 英一〔國際〕六五四 五

【機 械】

大工業と小工業との競争を論じて小發動機の經濟上に於ける効力に及ぶ 高野岩三郎〔國家〕四九二 一
機械を論ず 財部 静治〔京法〕四四〇 二
器械と失職との關係を論ず 佐々木三郎〔日經〕六三二 五
機械と道徳 植原悦二郎〔日經〕六三二 六
電氣機械製造業の發展 關口 眞靜〔洋經〕六五一 七
機械率配賦法に於ける補充率に就て 中西 寅雄〔國家〕六〇三 五
リカルドオの機械論 小泉 信三〔三學〕六〇三 二
機械と勞賃との相互關係に就てのマルクスの見解 山本 勝市〔經叢〕六三二 九
農業生産の機械化と其條件 河田 嗣郎〔エヒ〕六三二 一〇
機械生産の創生と其必要性に關するシスモンディ説 猪谷 善一〔商研〕六四一 五
【議 會】 參照 貴族院。憲法。國會議員。衆議院。政治。選舉法。比例代表。
ペンナム氏國會統御術(譯) 坂谷 芳郎〔國家〕四三〇 一
衆議院は選舉人の全體を代表せず 本野 一郎〔國家〕四三三 四
議院建築意見(講演) 金子堅太郎〔國家〕四四一 五

【機械】【議會】

帝國議會は立法の府なり 第七回臨時帝國議會 歐洲古代の國民總會 第十九世紀に於ける英國國會の發達
帝國議會の性質 社會代表 代表論 帝國議會の國法上の性質 議會の國法上の性質に關する一新説 議會は國民の代表機關なり 代人關係と代表關係との區別

英國代議制度の發達 歐米各國の議院に就て 國會と人民代表 社會道徳と議會政治 立憲君主國に於ける議會の地位
第三十一議會 第三十一議會の重要問題 法理上より觀たる第二臨時
花井 卓藏〔新報〕四五二 一
佐脇 安文〔國家〕四七七 八
美濃部達吉〔新報〕四五一 一
美濃部達吉〔法政〕四七六 七
美濃部達吉〔國家〕四三〇 二
美濃部達吉〔明學〕四八六 八
穂積 入東〔志林〕四九八 一
美濃部達吉〔國家〕四二二 七
林田龜太郎〔東經〕四二五 八
上杉 慎吉〔志林〕四四一 三
莊田 秋村〔東經〕四四一 一
村田岩次郎〔三學〕六二七 三
本多 精一〔財經〕六三一 二
鶴澤 總明〔國圖〕六三二 三

議會

第三十三議會小觀

民意代表

帝國議會

帝國議會に就て

民意論

國會と憲法

國民意思及び民意代表

人民の代表に就て

帝國議會に就て

ハツチニツク教授の獨逸帝

國議會論

露國の議會

議會の懲罰問題

國會開設勅諭煥發の事情

第三十九議會に於ける感想

英帝國議會の進展

平民政治家の議會觀

國會論

第四十議會觀

立憲政體に於ける帝國議會

と政府との關係

現代議院政治の試金石

植原悦二郎【國學】大二三二六

吉川 義章【國學】大二三二八

上杉 慎吉【法協】大二三三二

今村力三郎【辯論】大三八一九

清水 澄【新聞】大四一〇〇

上杉 慎吉【法協】大四一〇〇

上杉 慎吉【新報】大四一〇〇

稻田周之助【新報】大四一〇〇

佐藤丑次郎【京法】大四一〇〇

清水 澄【新聞】大四一〇〇

村田岩次郎【三學】大五〇〇

有川 治助【國家】大五〇〇

高野 金重【辯論】大六二二

市村 光惠【法論】大六二二

小川郷太郎【法論】大六二二

占部百太郎【三學】大六二二

布施 辰治【新聞】大六二二

松本 重敏【新聞】大六二二

不破 清馨【新聞】大六二二

松本 重敏【新聞】大七一〇

大山 郁夫【我等】大八一

見はれたる第四十三議會

混合代表に就きて

英國國會の起源

英國國會と種族會

帝國議會の規制

ノルマン國會

ルソーとコールの議會否認論

議會と政府

帝國議會批判

帝國議會史前記

アングロ・サクソン國會

内閣對議會關係の考察

イルバート「英國議會政治」

(譯)

議會と國民の實生活

佛國の新傾向と通級議會

議會制度の不信用と其改革

議會と大衆運動

職能代表と國會の組織

國會及び政黨の不信用

第五十一議會の趨勢觀

議會の組織

大山 郁夫【我等】大九二八

小栗栖園道【法學】大〇一五

占部百太郎【三學】大〇一五

占部百太郎【法研】大一一一

占部百太郎【法研】大一一一

稻田周之助【新報】大一一三

占部百太郎【法研】大一一三

今中 次廣【我等】大一一四

不破 清馨【新聞】大一一五

稻田周之助【新報】大一一三

尾佐竹 猛【法治】大一一三

占部百太郎【法研】大一一三

高木 信成【新報】大一一三

小山 基一【法政】大一二〇

成瀬 義春【財經】大一二〇

廣瀬 哲士【外時】大一二〇

板倉 卓造【法研】大一二三

エンゲルス【マル】大一二三

小野原善平【國家】大一二四

稻田周之助【新報】大一二五

播磨 龍城【新聞】大一二五

參照II貴族院。衆議院。選舉法。

議院法第一五條の解釋

二院制度論

二院制度と一院制度と孰れ

が立憲國の法制に適すべ

さや其根據如何

議會の二院制論及其根據の

概要

議會兩院制論

上院對下院

衆議院資格問題

上下兩院の權衡

貴衆兩院論

英國の衆議院

第二院の問題

何を兩院制度の精神と謂ふ

か

議長の表決權を論ず

帝國議會議事規則草案一斑

(講演)

契約と合議との區別

多數決

兩院協議會に關する法律上

の疑義

副嶋 義一【明學】四五二

美濃部達吉【國家】四七〇

吉野 作造【國家】四七〇

鶴澤 總明【國家】四七〇

佐藤丑次郎【明學】四七〇

水野鍊太郎【國家】四七〇

花井 卓藏【新聞】四七〇

清水 澄【新報】四七〇

村田岩次郎【三學】四七〇

伊藤 龜雄【外時】四七〇

佐々木惣一【法叢】四七〇

稻田周之助【新報】四七〇

林田龜太郎【國家】四七〇

有賀 長文【國家】四七〇

穂積 八東【新報】四七〇

戸水 寛人【法協】四七〇

小原 新三【國家】四七〇

選舉法に所謂請負の意義

貴衆兩院の協議會

所謂解散の法理を難す

多數決

衆議院の解散を論ず

議會の停會とは何ぞや

解散後の議會は如何なる議

會なるや

議院規則に關する疑義一則

議事の報告

議事規則と議事妨害

臨時議會の召集に就て

帝國議會の召集開會閉會停

會休會及衆議院の解散

議會無討論の原因

衆議院の解散に就て

政府の提出案と調査書

議會の會議日數の繼續委員制

解散

第三五回議會解散の真相

議會解散の一批判

帝國議會停會の要件

停會の先例

弦間照太郎【辯論】四七〇

丸山 長渡【新報】四七〇

家 本 生【新聞】四七〇

上杉 慎吉【法協】四七〇

清水 澄【新報】四七〇

清水 澄【新報】四七〇

清水 澄【新報】四七〇

小原 新三【法政】四七〇

佐々木惣一【法協】四七〇

上杉 慎吉【新報】四七〇

馬場 鏡一【新報】四七〇

上杉 慎吉【國家】四七〇

三浦鐵太郎【洋經】四七〇

清水 澄【新報】四七〇

工藤 重義【國家】四七〇

工藤 重義【國家】四七〇

上杉 慎吉【國家】四七〇

植原悦二郎【國學】四七〇

大山 郁夫【我等】四七〇

稻田周之助【新報】四七〇

花井 卓藏【新報】四七〇

總決算に對する帝國議會審

査權の範圍

豫算議定額の範圍に就て

軍備問題に對する議員の質

問に對し政府は答辯の責

務を有するや

議會の請願書受領及送附の

權

帝國議會の決算審査權

立法權と豫算議定權

議會の與ふべき事後承諾の

不成立

議會の質問權

佛國に於ける議會の豫算發

案權運用に就て

帝國議會と財政監督權

議會の質問權

議會の質問權に關する列國

制度の比較

【機會均等】

機會均一とは何ぞや
機會均等主義に就て

岩波 一郎	【新報】四七	四	五
加來竹次郎	【法政】四三	一	七
山谷 道人	【新報】四三	八	九
美濃部達吉	【國家】四三	三〇	四
副島 義一	【明法】四二	一	六
種積 入東	【新報】四〇	二七	二
清水 澄	【志林】四〇	一〇	四
ラバンド	【國家】四二	二	三
フニルリ	【日經】四二	五	六
稻田周之助	【新報】四五	二	八
美濃部達吉	【國家】四五	三	三
美濃部達吉	【國家】六三	一	四
有賀 長雄	【外時】四〇	一〇	二
菊池 駒次	【志林】四二	二	二

滿洲に於ける機會均等問題

に就て

權力平均と機會均等

經濟上にも門戸開放機會均

等

支那外交規範「機會均等」

主義と「廿一箇條」の考

察

門戸開放機會均等論

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

等

【機】

【企】

企業心理論

企業形態の變遷

企業倫理論

企業の意義

英國に於ける企業市營の状

況

企業聯合論

滿韓の企業

企業家組合の起因及保護的

關稅に對する其關係

米國の金融と事業

企業聯合及び合同の輸出獎

勵案

企業家の社會的設備

經營と企業の意義に就て

企業及經營の意義に關する

疑問

企業界と公債借換

【機業】【企業】

機業を見よ

參照ニカルチル。官業。金融。經營。事業。シンジケト。ト。トラスト。

坂西 由藏	【國經】四元	一	四
河津 暹	【國家】四三	二〇	九
小澤愛次郎	【明學】四〇	一	二
氣賀 勘重	【國經】四〇	三	四
山内 正瞭	【國家】四〇	二	二
關 一	【國經】四一	四	五
關 一	【國經】四二	七	二
關 一	【國經】四三	九	四
上田貞次郎	【國經】四三	九	五
黑澤 龍溪	【東經】四三	六	一

企業と經營
再び企業と經營との意義に

就て

企業の聯合及合同と労働者

の地位

企業同盟に關する注目すべ

き新立法

企業資金の財源

獨占企業の法律關係を論ず

企業合同の經濟上に及ぼす

影響を論ず

企業家破綻の原因

藝術の企業化に就て

支那に於ける企業

南洋貿易及企業

中世企業史に關する研究

大企業に於ける營業の發達

企業經營法と投機

民族の企業化

獨逸に於ける企業聯合の近

況

企業の危險と犯罪

興業界發展の根本的方針

企業者の本質

等

等

等

等

等

等

等

等

等

坂西 由藏	【國經】四四	一〇	一
關 一	【國經】四四	一〇	二
氣賀 勘重	【國經】四四	一〇	二
松岡 均平	【國家】四四	二五	三
山室 宗文	【國家】四四	二六	三
美濃部達吉	【法協】四四	三〇	三
海老原竹之助	【國經】六六	一一	六
黑澤 和雄	【東經】四五	六	六
岡田 重次	【國經】六六	一三	三
米澤 清治	【國家】六六	二六	二
松尾音次郎	【國經】六二	一	七
阿部 秀助	【三學】六三	八	一
氣賀 勘重	【三學】六三	八	二
安道 虎吉	【日經】六三	一五	三
阿部 秀助	【三學】六三	一八	四
松崎 壽	【國家】六三	二八	七
市村 富久	【評論】六三	二	九
二宮 基成	【日經】六三	二四	九
關 一	【國經】六三	二六	五

【發案の罪】

我刑法の發案の罪及其詳論
刑法二六一條の解釋に關し
文展展論事件の判決を評
論す
器物發案罪を論ず
發案罪の沿革

大場 茂馬	【新報】四二	一九	八
西村勸之助	【新聞】四五	一	七
泉二 新熊	【法政】六六	一四	五
岡田朝太郎	【法治】六二	二	〇
放野 充安	【新聞】六五	一	二
岡松參太郎	【新報】六〇	三	一
坂本 毅	【外時】六二	三	三
丸山嘉八郎	【外時】六二	三	三
本多 精一	【財經】六八	六	三
鹽澤 昌貞	【外時】四三	三	二
寺尾 亨	【法協】四四	二	九

大企業と經濟調査機關
 工業の企業に於ける株式資本
 と株式發行相場
 企業合同に對する米國の新
 立法
 企業の安全と準備金
 企業の流動力並に我國大銀
 行の實際研究
 我事業界の缺陷と其救済問
 題
 在支企業論
 現代事業と人物の研究
 企業財産評價の原則を論ず
 企業財産の組織
 南洋企業の前途
 銀行と企業金融
 近世經濟史上に於ける企業
 家の地位
 獨逸に於ける強制的企業合
 同
 最近企業統計の解剖
 現時の企業状態と限界生産
 力説
 企業と原價計算

高垣寅次郎	〔國經〕六四一九	三六
松崎 壽	〔志林〕六四一七	二〇
渡邊 鐵藏	〔法協〕六四三三	九
渡邊 鐵藏	〔國家〕六四三九	二
湯川 宗成	〔國圖〕六五〇四	七
木村増太郎	〔亞經〕六六一	一
南 川	〔法論〕六六一	一三
渡邊 鐵藏	〔新報〕六六二七	七
渡邊 鐵藏	〔國家〕六六三三	二
原 信江	〔東經〕六六五	一七
富岡久次郎	〔國家〕六七三	二一
阿部 秀助	〔三學〕六七三	二〇
河合榮治郎	〔國家〕六七三	六
中西 次郎	〔國家〕六八三	四
山口正太郎	〔國經〕六八七	六
吉田 良三	〔國經〕六九八	二

社會主義者と企業者の職分
 支那將來の企業と労働問題
 商工業大經營の現状と其
 經濟
 事業資金と資金銀行の發達
 事業濫興と財界反動の善後
 策
 企業聯合の促進を高唱す
 企業組織の改善問題
 民衆事業と官僚事業
 日支合辦事業經營の要諦
 企業の収益力を論ず
 資本主義の成熟と企業者の
 地位
 企業統計學に就て
 企業評價論
 事業整理の要諦
 企業算論より觀たる現物
 出資の一面
 企業財産の評價及會計損益
 企業算管理と銀行業
 企業としての農業
 企業の發展と有價證券
 企業に於ける危險負擔の數

上田貞次郎	〔國經〕六〇〇	三
前田幸太郎	〔亞經〕六〇〇	五
高島佐一郎	〔國經〕六〇三	二三
泉 俊秀	〔銀研〕六〇一	三
善生 永助	〔財經〕六〇八	四
諸井 四郎	〔財經〕六〇八	四
石塚 英藏	〔財經〕六〇八	四
清水文之輔	〔東經〕六〇八	三
小林陽之助	〔財經〕六〇八	二
中西 寅雄	〔國家〕六一三	二四
增井 光藏	〔國經〕六一三	二
中瀬勝太郎	〔會計〕六一〇	四
中西 寅雄	〔經論〕六一一	二
池田 龍藏	〔エコ〕六一二	一
中村 茂男	〔會計〕六二二	三
中村 茂男	〔會計〕六二二	三
菅谷 重平	〔銀叢〕六二三	三
大内 武次	〔經商〕六二三	三
福田敬太郎	〔國經〕六二三	五

理的解説
 事業經營の二大脅威
 リイビツヒの法則と企業資
 産の約合
 日支關係を中心として見た
 る支那企業並労働問題
 金融と事業
 企業能率の測定
 職業的企業家の成立と資本
 家との闘争
 事業界の不安と金融界の混
 亂
 市町村の混合企業に就て
 企業資金の供給と金融機關
 本邦企業集積の現勢
 如何なる企業を國營とする
 か
 内地人の經營にかゝる在支
 企業を撤退せよ
 對支企業家をとるべき態度
 經濟單位としての企業
 スラインネス企業團の蹉跌
 近代産業秩序の下に於ける
 企業原理

津田 武二	〔國經〕六三三	三
渡邊 廣重	〔エコ〕六三三	二八
中村 茂男	〔會計〕六四二	七
前田幸太郎	〔亞經〕六四九	三
松 崎	〔金融〕六	二
西尾 清一	〔會計〕六四二	二六
向井 鹿松	〔三學〕六四二	一九
越戸 佳三	〔銀叢〕六四二	五
小山田小七	〔經叢〕六四二	二
宗像 久敬	〔金融〕六四二	二
永富守之助	〔エコ〕六四二	三
山本願彌太	〔エコ〕六四二	三
大倉喜八郎	〔エコ〕六四二	三
林 健二	〔國經〕六四五	〇
西尾 清一	〔イン〕六四五	三
油木 豊吉	〔經論〕六四五	四

企業金融機關の新陣容
 企業經營者の服すべき道德
 的戒律の見地より科學的
 經營法を批判す
 後藤登喜男

〔飢〕
 飢饉は衛生に大關係あり
 飢饉の豫備
 露國の飢饉
 北支那の飢饉
 支那飢饉の現状と救済策
 ロシヤ大飢饉と其救済運動
 飢饉の話

〔菊池武夫〕
 故菊池博士と法學教育

〔期〕
 條件及期限
 期限附法律行為の性質
 期限に就て

後藤登喜男	〔イン〕六二五	三
村本 福松	〔商經〕六二五	一
杉 亨二	〔スタ〕六二二	一
杉 亨二	〔スタ〕六二二	一
伊東 祐毅	〔統集〕六二二	一
戸田 海市	〔經叢〕六二二	一
善生 永助	〔財經〕六二二	一
森戸 辰男	〔原バ〕六二二	一
佐野 學	〔我等〕六二二	一
石山 彌平	〔辯協〕六二二	一
志田御太郎	〔法政〕六二七	八
富井 政章	〔法協〕六二七	一
横田 秀雄	〔國圖〕六二八	一

【奇災保険】

傷害保険を見よ

【技術】

参照一覽表。

エコノミックスとテクノニツクス

技術と経済

工業の進歩及技術改良の前提たるべき職工の技能啓蒙に就きて

経済と技術

近代産業組織と技術者の地位

「工」及び「工」的技術

金井 延 [新報] 四三三
神戸 正雄 [國家] 四二六
坂田 貞一 [日経] 四二二
増井 光藏 [國経] 六四八
舞出長五郎 [國家] 六六三
出井 盛之 [我等] 六一
田崎 仁義 [長義] 六四五

浅野豊三郎 [明法] 三三三
戸水 寛人 [法協] 四二六
渡邊 暢 [新聞] 四二五

【偽造の罪】

刑事に關する偽造罪の性質
民事證人の偽造罪
偽造囑託罪に就て
貨物事實に偶中する偽造罪

浅野豊三郎 [明法] 三三三
戸水 寛人 [法協] 四二六
渡邊 暢 [新聞] 四二五

と論ず
偽造囑託罪に關する大審院の判例を讀む
偽造罪を論ず

【汽船】

故維本博士の回想

【起訴】

各國主要汽船會社財政一覽表

キエナード汽船會社の現況
モルガン汽船合同の過去及現在

最近十箇年汽船業概観
外國汽船輸入に就て
再び外國汽船の輸入に就て
汽船の發達

岩味 隆次 [新聞] 四七
横山勝太郎 [辯論] 四二
江木 真 [辯論] 六二六

牧野 英一 [志林] 六一

渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九

渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九

渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九
渡邊水太郎 [國経] 四九

小林俊太郎 [法論] 六七

貴族院の職分と構成
貴族院論
上院論
英國貴族院の改造
貴族院の組織につき考慮すべき條件
貴族院改造論
貴族院論
各國憲法に於ける上院の地位

貴族院伯子男爵議員選舉規則

貴族院令の改正増補

貴族院改造問題

貴族院改革問題

貴族院改造私見

貴族院自體の覺醒を待つ

貴族院改革の限度

貴族院員の互選方法に就て

貴族院令改正案の修正權

貴族院改革の可能性

見過し難き多額互選規則の缺陷と多額議員選舉に於ける現内閣及樞府の責任

上杉 慎吉 [法協] 六二
佐藤丑次郎 [京法] 六五
水野鍊太郎 [國家] 六五
占部百太郎 [三學] 六八

清水 澄 [新報] 六三
山田 保 [辯論] 六三
市村 光惠 [法叢] 六三

山崎又次郎 [法研] 六三

稻田周之助 [新報] 六三
稻田周之助 [新報] 六三
稻田周之助 [新報] 六三

占部百太郎 [財經] 六三
德川 義親 [新聞] 六三
森口 繁治 [新聞] 六三

上杉 慎吉 [國家] 六三
森口 繁治 [法叢] 六三
稻田周之助 [新報] 六三

稻田周之助 [新報] 六三

原 夫治郎 [新聞] 六四

貴族の研究
貴族小史
古典的貴族主義と近代的貴族主義の崩壞
私有財産制と貴族市民及勞働階級

貴族院の組織を論ず
貴族院の獨立
貴族院論
貴族院の選舉規則改正問題
昨年来の英國上院の憲法問題

英國上院の豫算拒否權
英國上院問題
英國の貴族院問題
輓近の英國政界に於ける上院問題

英國の上院問題
貴族院の將來
上院と豫算否決權
伯子男爵議員の選舉

【貴族】

【貴族院】

【起訴】

【汽船】

【偽造の罪】

【奇災保險】

【技術】

【貴族院】

【貴族院】【喜多梅二郎】【寄託】【キツチン】【ギディングス】

一一三三

貴族院改革と勞資問題 五來 欣造【社政】大八 一五
貴族院改革私見 齋藤 隆治【新聞】大八 一三
貴族院の改革 石井 謙吾【新聞】大八 一三
貴族院改善私案要綱 加藤順次郎【國家】大八 一三

【喜多梅二郎】

喜多梅二郎君を悼む 瀧川 幸辰【法政】大八 二五

【寄託】

無賃委託に約因なきや 高橋 捨六【法政】四二 六
無賃の受託者は委託物件に就き特別財産権を有するや否や 富岡恒二郎【法政】四二 六
高價品の意義に就きて 花岡 敏夫【辯論】四二 〇
物の保管の意義 吾孫子 勝【志林】四〇 九 二
不可抗力の意義(商法第三五四條第一項の解釋) 松本 無治【評論】大八 一
物上保證委託契約論 齋藤 巖【新聞】大八 一 九
委託玉の成否と其の報告 小山正之助【新聞】大八 一 三
解合の法性及解合の委託者に及ぼす效力 井上豊太郎【新聞】大七 一 一
委託玉の成否 井上豊太郎【辯論】大七 三 一〇

委託者の同一に關する錯誤 井上豊太郎【新聞】大八 一 二
受寄者の賠償義務と所有者に非ざる寄託者の請求 岡村 玄治【法政】大九 三
寄託物返還請求權と消滅時効 横田 俊夫【朝野】大八 二
消費寄託論 吾孫子 勝【志林】大八 二 一

【キツチン】

キツチン「火災保險の原理」(譯) 松本 高【保野】大八 一

【ギディングス】

ギディングス「近世社會學論」(譯) 若宮卯之助【東經】四一 天
ギディングスの歴史學說 野村象太郎【三學】大八 一 三
ギディングスの觀たる社會發達の方面 小松屋太郎【國經】大八 二
ギディングスの社會心の問題 不破 祐俊【法政】大八 三 一
ギディングスの社會哲學に對する二三の疑問 岩崎 卯一【社政】大八 一

徒達

【キトソン】(Arthur Kitson, 1860-)

貨幣問題に關するキトソン並にツイザアスの論争に就て 平野 清【國經】大八 三 六

【編】

國産として本邦絹工業 飯島 反島【日經】四二 八 五
絹業試験場設置論 岡部菊太郎【東經】四四 六 二
本邦絹業の動向 岡部菊太郎【東經】四四 六 二
本邦絹業の發達策 岡部菊太郎【東經】四四 六 二
絹布工場設備及經營 本庄榮治郎【京法】大八 九 二
戦中戦後の米國絹業界と我蠶絲業 古川 興山【洋經】大八 一 七
輸出絹業開發諸案 岡部菊太郎【洋經】大八 一 七
絹に關する外國語 財部 静治【經叢】大九 一〇 二
輸出絹業革新論 岡野菊太郎【東經】大九 一 二
人絹の發達と其對策 深澤甲子男【財經】大八 二 〇
英國の絹物關稅 神戸 正雄【時經】大八 一 三

【義務】

權利及び義務を見よ 權利及び義務を見よ

【キヤナン】(Edwin Cannan, 1861-)

カンナン教授の人口論 伊藤 眞雄【商經】大八 一 二
キヤナンの富の概念に就きて 石川 眞二【經叢】大九 一〇 一 三
全部效用と消費者餘利(キヤナン) 古屋 美貞【同論】大八 一 二

【キユウノー】(Heinrich Cunow, 1862-)

エアフルト綱領改正案に對するキユウノーの批評 竹内 徳治【國家】大八 二 三

【救濟】

救濟及其統計の概況 花房直三郎【統集】大八 一 四
救濟事業の調査に就て 神戸 正雄【經叢】大七 七 二
救濟調査會に就て 楠田 民藏【經叢】大七 七 二
救濟事業の動機と其範圍 生江 孝之【法政】大八 二 〇
救濟事業の研究 生江 孝之【法政】大八 二 〇
社會的救濟と善導 長尾 景徳【臺法】大八 三 二
救濟事業調査會の設置と我が社會政策 森戸 辰男【國家】大七 三 八

一一三三

明代の救済制度、清水 泰次〔経歴〕六〇三
救済事業調査会の重要任務、高野岩三郎〔國家〕六七三

【救】

救馬、ポルトリコ、比律賓の殖民、東 讓三郎〔國際〕四二〇 六七

【救】

貧民救済策一斑附貧困豫防法、濱田健次郎〔國家〕四三三

本邦窮民救済法の現況、早川千吉郎〔國家〕四七六

救貧論、財部 静治〔京法〕四九一

エルバールフェルト制度、神山 政良〔國家〕四三三

救貧法調査委員会報告と失業問題、堀江 歸一〔三學〕四四三

窮民救済制の方針、桑田 熊蔵〔國家〕四三二

萬國人道會議所觀望兒童救護一斑、真木 喬〔刑評〕四四三

エルバールフェルト救済制度、堀江 歸一〔三學〕四四三

戦亂と英國の救貧率、印度村落團體に於ける救貧、堀江 歸一〔國經〕六四一

標準に就て、堀 英文〔國家〕六二二

【教育】、參照II社會教育、商業教育、少年文化、政治教育、農林教育、勞働者教育、

學校生徒の近視眼、横山 雅男〔スタ〕四一九

學齡者の成長、吳 秀三〔スタ〕四一〇

小學校教育に関する意見、渡邊 洪基〔國家〕四二二

教育と犯罪との關係、河合 利安〔スタ〕四二二

教育スタヂオスタックに就て、横山 雅男〔スタ〕四三三

本邦教育の分配、横山 雅男〔スタ〕四三三

教育統計論、白井喜之作〔統雜〕四三五

徴兵と學生の關係(講演)、會我 祐華〔國家〕四三六

市立番町小學校生徒職業得點別、横山 雅男〔統雜〕四三七

本邦初等教育の狀況、岩井徳次郎〔統雜〕四三七

統計師範學校及一般の統計研究、吳 文聰〔統集〕四三七

教育と犯罪との關係、和田千松郎〔統雜〕四三八

市町村立小學校正教員の狀況、岩井徳次郎〔統雜〕四三八

小學校生徒の健康の有様、寺田 勇吉〔統雜〕四三九

小學校教員の健康の狀態、白井喜之作〔統雜〕四三九

臺灣總督府直轄學校生徒父兄職業及年齡別、堀内 八郎〔統雜〕四三〇

制度、扶養義務か救済籍か、徳重 悟介〔亞經〕六六一

國事救済の原理、財部 静治〔経歴〕六七七

エルバールフェルト式救済制度を論ず、平竹 辰〔社政〕六〇一

社會政策より見たる施療制度考、早田 正雄〔法政〕六三〇

救済策の前途、賀川 豊彦〔辯論〕六三六

救済立法促進感、高山 和雄〔辯論〕六四九

神社救済制度の一例、黒正 殿〔経歴〕六五三

市町村立小學校教員俸給の現狀、堀 英文〔國家〕六二二

給料支拂の根本方法、戸田 海市〔京法〕四三三

女子の給料勞賃に就きて、河田 嗣郎〔日經〕四三三

給料論、山崎 繁樹〔三學〕六六二

小學校教員俸給の國庫支辨増俸の研究、澤柳政太郎〔財經〕六六四

俸給及賃銀制度の改善に就て、小川郷太郎〔経歴〕六〇三

婦人の報酬、堀 英文〔國家〕六二二

俸給賃銀並に物價調査の規程、芳賀 榮造〔社政〕六二〇

學生生徒健康上の狀況、寺田 勇吉〔統雜〕四三〇

教育統計一斑、世良 太一〔統雜〕四三三

學校兒童發育取調報告、三島 通良〔統雜〕四三三

市民の普通教育、横山 雅男〔統集〕四三三

國際學藝教育協會、有賀 長雄〔外時〕四三三

教育統計大意、寺田 勇吉〔統雜〕四三三

教育家と統計の關係、花房直三郎〔統雜〕四三三

大學制度管見、高根 義人〔内外〕四三三

本邦學齡兒童の歩合、岩井徳次郎〔統雜〕四三五

半途退學者に就て、石川 惟安〔統雜〕四三七

統計と教育、横山 雅男〔統雜〕四三七

分限令の解釋と教授の言論、岡田朝太郎〔國家〕四三六

教育と統計との關係、横山 雅男〔統雜〕四三六

市町村立小學校教員俸給の現狀、巖水 惠〔統集〕四三九

在內國外人教育の權利義務、中村 進午〔外時〕四四〇

學齡兒童就學歩合、巖水 惠〔統集〕四四〇

日本現在の地位と教育方針、有賀 長雄〔外時〕四四一

レックス博士所説犯罪と遺傳及び教育との關係、ルイブラデル〔法協〕四四一

高等教育に関する意見、高木 信威〔日經〕四四一

犯罪と教育の關係、武田 慧宏〔刑評〕四四三

我國目下の社會問題、戸田 海市〔日經〕四四三

教育史上の自然主義、石田新太郎〔三學〕四四三

ブローダ「女子教育の将来」藤澤 穆〔日経〕四三 年 二二
 不良児の保護教育法 乙竹 岩造〔刑評〕四三 二
 公務及自由業就中教育に關する有業者の死に就て 二階堂保別〔統雅〕四三 一
 經濟上より見たる我教育 植松 考昭〔洋経〕四三 一
 高等小學讀本と統計 横山 雅男〔統雅〕四五 一
 高等小學校に於ける統計思想 横山 雅男〔統集〕四五 一
 政治と教育 鶴澤 總明〔國國〕六二 一
 國民教育と宗教 相原 介一〔國國〕六二 一
 良心の自由と學問の獨立 鶴澤 總明〔國國〕六三 一
 教育界の紛擾問題 松影 山人〔國國〕六三 一
 學生と政治運動 福田 徳三〔國國〕六三 一
 普通教育の刷新と經費問題 田中 穂積〔財経〕六三 一
 官吏登用試験と大學制度 織田 萬〔京法〕六三 一
 教育上の重要問題 鶴澤 總明〔國國〕六三 一
 新大學令に就て 田宮準一郎〔國國〕六三 一
 京大問題 吉田三市郎〔辯協〕六三 一
 學校兒童に於ける成績と服装との相關係數 小林 良輔〔日社〕六三 一
 ブレゾドルフ「丁抹の庶民高等學校より」(譯) 三浦 哲郎〔日社〕六三 一
 壯丁と小學校教育 横山 雅男〔統集〕六三 一
 政治と學生 松田 義雄〔國國〕六四 一

學制問題に就て 富井 政章〔新聞〕六四 一
 學制改革の急務 鶴澤 總明〔國國〕六四 一
 青年教育問題と獨逸 田中 義一〔國國〕六四 一
 大學令案に就て 鶴澤 總明〔國國〕六四 一
 我國教育の根本問題(講演) 川合 貞一〔日社〕六四 一
 教育と社會 吉田 熊次〔日社〕六四 一
 社會學と教育學 小林 照朗〔日社〕六四 一
 帝國教育の根本方針 日本社會學院 監修 藤澤 總明〔日社〕六四 一
 諸校學生入學年齡に關する統計 鈴木文太郎〔経集〕六五 一
 戦後教育の根本方針(講演) 下田 次郎〔日社〕六五 一
 戦後教育の根本方針(講演) 小西 重直〔日社〕六五 一
 戦後教育の根本方針(講演) 平沼 淑郎〔日社〕六五 一
 帝國教育の根本方針(講演) 諸橋 徹次〔日社〕六五 一
 戦後教育の豫想案 建部 遜吾〔日社〕六五 一
 教育制度の改正方針に就て 澤柳政太郎〔日社〕六五 一
 帝國教育の主義と手續 江部 淳夫〔日社〕六五 一
 教育界現状打破 山内雄太郎〔日社〕六五 一
 徳教の基準について 岩井 龍海〔日社〕六五 一
 智育の大方針について 諸橋 徹次〔日社〕六五 一
 體育について 今井 時郎〔日社〕六五 一
 帝國教育の根本方針 日本社會學院 監修 藤澤 總明〔日社〕六五 一

補習教育義務の可否 財部 靜治〔経集〕六五 一
 開戦前後に於ける獨逸の青年教育並青年團の活動 二宮 治重〔國國〕六五 一
 市町村財政と小學校費の負擔 本多 精一〔財政〕六五 一
 手の器用と其修養 財部 靜治〔経集〕六五 一
 歐洲戦後の教育問題 水野鍊太郎〔法政〕六六 一
 國定教科書に現はれたる法制問題の解説 市村 光惠〔法論〕六六 一
 文教の源泉如何 鹽入 太輔〔辯協〕六六 一
 小學校教員俸給の國庫支辨 澤柳政太郎〔財経〕六六 一
 義務教育費國庫補助の方法及び程度 本多 精一〔財経〕六六 一
 本邦の學事統計に就て 濱田 富吉〔統集〕六六 一
 子弟の教養と經濟的考慮 稻山 始〔東經〕六六 一
 教育家待遇問題 市村 光惠〔法論〕六七 一
 職前工業専修學校生徒概況 原田 高博〔統雅〕六七 一
 細民區兒童教育問題資料 朝倉 每人〔経集〕六八 一
 臨時教育會議の決議を讀む 中島 玉吉〔法叢〕六八 一
 國民教育改良案 櫻根考五進〔我等〕六八 一
 新學制異見 播磨 龍城〔新聞〕六八 一
 同志社創立の回顧 ラルネッド〔政治〕六八 一
 國民教育の普及程度 野村秀三郎〔統集〕六八 一
 大學教授の研究の限界 佐々木惣一〔法叢〕六九 一

萬國學士院聯合會創立巴里會議 小野塚喜平次〔國家〕六九 一
 教育者の生活難 高橋 正熊〔社政〕六九 一
 生活調査を論ず(京都市小學校教員生計調査) 沙見 三郎〔経集〕六九 一
 夜間中學校設立の急務 安東 正臣〔新聞〕六九 一
 夜間中學校制度設置の急務 安東 正臣〔新聞〕六九 一
 京都市小學校教員生計調査 沙見 三郎〔経集〕六九 一
 教育勸語に就て(講演) 山岡萬之助〔法政〕七〇 一
 市町村教育費輕減問題 澤柳政太郎〔財経〕七〇 一
 實業補習教育に就いて 青柳 榮司〔日社〕七〇 一
 教育費用(講演) 澤柳政太郎〔日社〕七〇 一
 我國の初等及中等教育に於ける改善の新局面(講演) 林 博太郎〔日社〕七〇 一
 教育組織(講演) 佐々木吉三郎〔日社〕七〇 一
 我國教育問題管見(講演) 江部 淳夫〔日社〕七〇 一
 教育問題に就て(講演) 塚原 政次〔日社〕七〇 一
 我國の補習教育(講演) 十倉 精一〔日社〕七〇 一
 教育問題特に女子教育行政に就て(講演) 小林 照郎〔日社〕七〇 一
 實業補習教育の刷新に就て(講演) 伊藤 仁吉〔法政〕七〇 一
 我國教育制度の缺陷と其改善策 増島六一郎〔財経〕七〇 一

小學教育費の研究
自由教育の制度的基礎
勞働運動、政治運動、教育運動
教育上の自由平等を論ず
大學生の一年間の學費
教育の國際化
最近教育運動の基調と勞働者教育
國定歴史讀本の解説
大學の使命に對する青年の態度の變遷
應報威嚇から教育指導へ
教育の社會性と國家性
對支研究と我中等教育
學校卒業生の就職難と生活難
九大事件起訴猶豫の批判
教育制度の法律化に就て
支那南洋より觀た日本教育
小學教育に對する監督官廳の無理解
教育の社會化
公民教育の施設に直面して

- 小山田小七「経世」六〇三三
- 大山 郁夫「我等」六〇三三
- 高橋 正熊「社政」六〇一〇
- 廣川 捨吉「法政」六二一九
- 藤野 靖「経世」六二二五
- 下中彌三郎「國聯」六二二七
- 中島久萬吉「社政」六一元
- 依田 豊「法政」六三二〇
- 大山 郁夫「我等」六三二五
- 寺崎 勝治「法政」六三二〇
- 大山 郁夫「我等」六三二〇
- 西山 榮久「亞細亞」六三九一
- 田中 貢「社研」六四一一
- 原 夫太郎「新聞」六四二〇
- 播磨 龍城「新聞」六四二四
- 後藤朝太郎「外時」六四四三
- 三浦鐵太郎「洋經」六四二二
- 岩井 龍海「社研」六五一
- 寺崎 勝治「法政」六五二三

教育の意義と學制改革の四綱領に就て
國家的教化と神話の創造
義務教育費の割當
獨逸に於ける大學と社會との交渉
伯林大學事情
獨逸植民地の教育制度
戰後獨逸の大學生數
學生隔離と米國憲法の保障
米國に於ける社會改良と教育
北米に於ける法科大學
米國教育界の危機
アメリカに於ける成人教育
佛蘭西の小學教育に就て
一九〇一年李鴻章教育統計調査法
清國國民教育の方針
普國未成年者保護教育法
韓國人の教育

- 石川 興二「彦」六五八
- 長谷川萬太郎「我等」六五八
- 神戸 正雄「時經」六五八
- 川島金五郎「國家」四四二五
- 小島愛三郎「新聞」六四一〇〇三
- 岡崎 文規「経世」六三二七
- 米田 實「國際」四三八
- 佐々木吉三郎「日社」六七六
- 中島 玉吉「法書」六八一
- 石川 文吾「新報」六八二九
- 澤田 謙「社政」六四一
- 日高 眞實「國家」四四五
- 相原 重政「統集」四六
- 青柳 篤恒「外時」四〇
- 黒澤 龍演「東經」四三六〇

伊太利大學一班
英國の成人教育

- 寺田 四郎「國圖」六九八八
- 菊池 勇夫「國家」六五五

【教育法】

寺院法を見よ

【恐喝の罪】

被教唆者の欺罔取財罪に對する恐喝取財教唆者の責任

- 牧野 英一「新報」四二八

脅迫と恐喝との區別及民法上の強迫との關係
恐喝罪の成立と被害の心理状態
恐喝取財に於ける不法の意義

- 牧野 英一「志林」四一〇
- 泉二 新熊「新報」四二九
- 川島 英見「刑評」四四五

【供給と需用】

需用と供給を見よ

【恐慌】

参照＝金融。景氣。投機。失業。

商業社會の恐慌を説く

- 土子金四郎「國家」四二二

【教育】 【教育法】 【恐喝の罪】 【供給と需用】 【恐慌】

經濟恐慌論

避くべきは恐慌の聲なり
最近の紐育恐慌の經過
恐慌觀

一九〇七年の恐慌

マクドナルド「最近米國五大恐慌通有の原因」(譯)
紐育恐慌が日英の輸出貿易に及ぼせる影響

スプリング「一九〇七年の米國恐慌」(譯)

米國恐慌の際に於ける現金代替制

一九〇七年の恐慌後の一年經濟恐慌に付て

恐慌の原因

恐慌と利子歩合

カウツキー「恐慌と資本家經濟」

目下の恐慌及び失業
恐慌の對策と銀行業者
恐慌と勞働市場
西紀三十三年の經濟恐慌
恐慌論

- 神戸 正雄「内外」四七六
- 吉川 宗光「日經」四〇一
- 瀧本 美夫「國經」四一四
- 熊崎 良「東經」四一九
- 内池 康吉「國經」四二四
- 河田 嗣郎「日經」四二二
- 河田 嗣郎「日經」四二二
- 河田 嗣郎「日經」四二二
- 筑山 生「東經」四二九
- 鹽田 環「國家」四四三
- 瀧谷 善一「國經」四四六
- 岩田 幸美「國家」四四三
- イングランド夫人「三學」四二七
- 高城仙太郎「三學」四二七
- 楠田 民藏「我等」六九二
- 戸田 海市「経世」六九〇
- 大森 研造「経世」六九〇
- 河津 暹「國家」六九四
- 高橋誠一郎「三學」六九四
- 河津 暹「新報」六九三

【恐慌】【共済組合】【共産主義】

1110

滞貨と恐慌
 恐慌の必然性
 恐慌の原因に就て
 恐慌に就ての一考察
 ヒルファアディングの「恐慌の原因」
 レーデラー教授の恐慌論
 ヒルファアディングの恐慌の意義について
 ヒルファアデンタル「恐慌の性質の變遷」(譯)
 恐慌と其對策

【共済組合】
 共済會に就て
 帝國鐵道職員救済組合に就て
 職工保護の要項(救済組合の組成)
 保險學理と救済組合
 經濟上より見たる濟生會
 官設共済組合制度の概要及批評

野崎 龍七〔洋經〕大九
 堀 潮〔經究〕大二〇
 松崎 壽〔國經〕大二〇
 川西 正鑑〔金融〕大二三
 友岡 久雄〔經研〕大四二
 大森義太郎〔經論〕大四四
 谷口 吉彦〔經叢〕大四二
 友岡 久雄〔法集〕大四一
 岩崎 靜也〔銀叢〕大五六
 磯谷敬之助〔保雅〕三四六
 栗津 清亮〔保雅〕四〇一
 栗津 清亮〔日經〕四一三
 栗津 清亮〔志林〕四〇九
 星野 勉三〔三學〕四四五
 桑田 熊藏〔國經〕四四三

專賣局現業員共済組合概説
 國有鐵道現業員保護救済施設
 鐵道院に於ける共済組合に就て
 我國最近の共済組合
 共済組合の基礎計算に就て
 北米合衆國に於ける協同組合運動
 ソヴィエット・ロシアに於ける協同組合運動
 綿絲紡績工場に於ける職工共済組合
 妙心寺派教團の共済制度

【共産主義】
 社會主義と共産主義
 村落共産體の發達
 トーマス・モリアのユートピアと共産主義的思想
 「社會主義及び共産主義文書」
 共産宣言に見はれたる唯物

青木 道〔國家〕四四五
 永井 亨〔國家〕六七三
 永井 亨〔法倫〕六七五
 芳賀 榮造〔社政〕六九一
 野坂竹太郎〔保雅〕二〇一
 澤田 謙〔社政〕六二二
 國際勞働局〔社政〕六四一
 片山 早苗〔社政〕六五二
 中川與之助〔經叢〕六五三
 高橋誠一郎〔三學〕六八三
 高橋誠一郎〔三學〕六八三
 楠田 民藏〔經學〕六九一

史觀
 獨逸共産主義者の暴動と其公判
 「共産宣言」の英譯本について
 ウキリアム・モリスの共産主義
 古代希臘に於ける共産主義的の革命
 原始基督教と共産主義的思想
 英國勞働黨と共産主義
 共産の原理
 「共産宣言」の一草稿たるエンゲルス稿「共産主義綱領」
 無政府主義、共産主義、國家社會主義
 スバルタに於ける共産主義
 エツセネ教團の共産主義
 カウツキーの「修道院的共産主義」を讀む
 共産社會の自存的形式と寄生的形式

河上 肇〔社問〕大九
 宮本 英術〔法叢〕六一八
 河上 肇〔經叢〕六一四
 加田 哲二〔三學〕六一六
 ベア ー〔我等〕六一四
 三邊 金藏〔三學〕六一七
 田中 貢〔經商〕六三二
 恒藤 恭〔經叢〕六三七
 福田 徳三〔商研〕六二二
 小泉 信三〔財經〕六三〇
 ベア ー〔我等〕六三五
 高橋誠一郎〔三學〕六三七
 小島 幸治〔三學〕六三七
 恒藤 恭〔我等〕六三五

ドイツ共産黨の現勢
 露國共産黨と勞働者教育(ジョツス)
 英國に於ける勞働黨と共産黨との關係
 フイジー島の原始共産制
 共産主義の經濟的基礎に就て
 共産黨インターナショナルの過去現在及未來
 「共産黨宣言」剽竊問題
 マルクス共産體の研究
 露西亞の共産主義
 獨逸共産黨の政策
 ニッの社會化綱領(ブハーリンの「共産黨綱領」とパウアーの「社會主義への道」とに現はれたる社會化諸方策の管見)
 ケルン共産黨事件の真相
 「共産黨宣言」前史の一齣
 露國共産黨内訌の真相
 支那反共産運動

上田 茂樹〔マル〕六三一
 西 雅雄〔マル〕六三三
 河上 肇〔經叢〕六三八
 伊藤 秀一〔三學〕六三八
 ジノヴィエフ〔マル〕六三一
 平井 新〔三學〕六四九
 石濱 智行〔社科〕六四一
 稻田周之助〔外時〕六四四
 稻垣 守克〔社政〕六四四
 岩城 忠一〔商論〕六五二
 嘉治 隆一〔我等〕六五八
 平井 新〔三學〕六五二
 茂森 唯士〔外時〕六五三
 高山 謙介〔外時〕六五三

【共産主義】

1111

【行政】

參照『普通物。官制。官廳。官吏。行政處分。行政法。警察。行政學。財政。訴訟。政治。地方行政。都市。』

行政科統計論	岡松 徑 [統集] 四五
行政及司法を論ず	奥田 義人 [法協] 四八
行政組織の一斑を論ず	富井 政章 [法協] 四九
行政學比較研究の必要を論ず	末岡 精一 [國家] 四〇
行政の目的及範圍	井上 毅 [國家] 四三
法治主義を論ず	穂積 八東 [國家] 四三
ブラーッタク「裁判所及行政廳の權限に付主義上の區畫」(譯)	應當 融 [法記] 四五
法治國の辯	冷 眼 子 [新報] 四六
内訓又は訓令の性質	式甫 散人 [新報] 四九
法治行政	穂積 八東 [新報] 四九
行政區の名稱境界に關する私議	那珂 通世 [國家] 四〇
法治國の行政	江木 真 [新報] 四七
行政の觀念に關する管見	小原 新三 [國家] 四三
行政統計	花房直三郎 [統集] 四八
行政的統計拾遺	光岡 正彰 [統集] 四八
蘭領爪哇行政一斑	岡 實 [志林] 四三

法治國の本義	菊池 武夫 [新報] 四二
行政の意義に就て	竹井耕一郎 [國家] 四五
モンテスキューの三權分立論	市村 光惠 [内外] 四二
國法學と財政學との關係	岡 實 [志林] 四五
權力分立論一斑	美濃部達吉 [新報] 四七
國家作用の區別	寛 克彦 [新報] 四七
訓令と服務命令	美濃部達吉 [法政] 四八
法治國の壓制	美濃部達吉 [法政] 四八
行政學の範圍及政治學との限界	藁谷 精吉 [法政] 四九
三權分立	一木喜徳郎 [國家] 四〇
立法司法及行政の區別及其意義	佐々木惣一 [新報] 四〇
自由行政と所謂「憲法上の大權」	美濃部達吉 [明學] 四〇
權力の分立	美濃部達吉 [志林] 四〇
國學作用と三權分立	穂積 八東 [法協] 四二
特別權力關係	佐々木惣一 [京法] 四三
特別の權力關係の性質に就て	一木喜徳郎 [法協] 四二
行政行為の性質及種類を論ず	美濃部達吉 [志林] 四二
立法、司法、及び行政	美濃部達吉 [國家] 四三
	上杉 慎吉 [新報] 四三

普魯西に於ける行政改革	井上 密 [京法] 四三
輿論政治と行政	村田岩次郎 [三學] 四四
立憲國に於ける行政、司法	植原悦二郎 [國家] 四五
立法三權の關係	松本 重敏 [新聞] 四六
立憲政體と立法司法及行政	美濃部達吉 [法協] 四九
行政行為の無効	財部 靜治 [經書] 四九
諸國行政統計書概観	磯山 政道 [國家] 六二
行政の概念構成に於ける「技術」の意義	田村 徳治 [法書] 六二
行政學の本領と法律學の使用命とに關する人生觀的考察	鈴木 義男 [社政] 六四
社會行政の新領域	リード [都問] 六四
新なる行政區劃の單位リジョン	宇治伊三助 [法書] 六五
ヤストロツ「行政學とは何ぞや」	成瀬 義春 [財經] 六五
行政及財政組織の單純化	
【行政裁判所】	參照『行政訴訟。』
行政裁判所及司法裁判所の權限	田部 芳 [法協] 四九
行政裁判所廢止論	石山 彌平 [新報] 四三

行政裁判所制度を概論して	清水 澄 [内外] 四一
改正法案に及ぶ	卜部喜太郎 [辯協] 四二
行政裁判所の改善問題に就て	水野鍊太郎 [辯協] 四三
行政裁判所の權限に關する疑義	清水 澄 [法協] 四三
行政裁判所に就て	清水 澄 [法協] 四三
再び行政裁判所に就て	清水 澄 [法協] 四三
行政裁判所の權限擴張に就て	副島 義一 [國家] 四三
行政裁判所の存在目的	花園 敏夫 [辯協] 四三
行政裁判所權限と所謂自由裁量問題	美濃部達吉 [新報] 四三
行政裁判所の再審制度に就て	元田 肇 [新報] 四四
行政裁判所評定官免官問題に就て	副島 義一 [志林] 四四
に就て副島博士の説を駁す	清水 澄 [志林] 四四
行政裁判所評定官免官問題に關する清水博士の駁論を駁す	副島 義一 [志林] 四四

【行政裁判所】【強制執行】

行政裁判所と司法裁判所
行政裁判所の権限擴張問題
と覆審制度問題
行政裁判例と権限擴張の可
否

清水 澄 [法記] 六二二三
南部 皆治 [辯協] 六六二二
加藤 勝藏 [新聞] 六三二一
三三二八
三三二九
三三三〇

【強制執行】

民事訴訟法第六編を讀む

長島繁太郎 [法協] 四七二二
[新報] 四七二四
三三二七

強制執行方法の變遷

吾孫子 勝 [新報] 四七二三
四

強制執行に於ける執達吏と
執行債権者との法律關係
に就て

富谷銆太郎 [法記] 四七二三
加藤 正治 [新報] 四七二五
三三二六
三三二七

強制執行權の基礎

加藤 正治 [新報] 四七二五
五

實質的訴權と強制執行との
關係

仁井田益太郎 [新報] 四七二五
六

強制履行及強制執行

維本 朗造 [京法] 六二八二
寺崎 福彦 [新聞] 六二八一
二二
八二

妻の同居義務と強制執行

維本 朗造 [京法] 六二八二
二二

強制執行の優先主義及平等
主義 (對人信用制度の消
長)

維本 朗造 [京法] 六四一〇
伊藤 正介 [臺法] 六八一三
二〇

執達者の賠償責任

伊藤 正介 [臺法] 六八一三
二〇

強制執行に依る權利保護條
件一般

宮田龜之助 [辯協] 六三二六
四六

強制執行改正私議

橋本 庸行 [新聞] 六五二二
二三四

強制執行の要件

錦山生 [新報] 四七二四
元

假執行に就て

木村誠次郎 [志林] 四七二二
中村 進午 [新報] 四七二三
四

假執行に關する諸國の法制
を論ず

木村誠次郎 [志林] 四七二二
中村 進午 [新報] 四七二三
四

外國判決の執行

木村誠次郎 [志林] 四七二二
中村 進午 [新報] 四七二三
四

內國民事判決の內國に於け
る效力

木村誠次郎 [志林] 四七二二
中村 進午 [新報] 四七二三
四

公正證書の正本に就て

泉二 新熊 [新報] 四七二二
會橋集太郎 [新聞] 四七二六
森 作太郎 [新聞] 四七二〇
三三〇

公正證書の效力に就て

泉二 新熊 [新報] 四七二二
會橋集太郎 [新聞] 四七二六
森 作太郎 [新聞] 四七二〇
三三〇

新國府判決と職權的假執行
の宣言

賤乃家學人 [新聞] 四七二九
三三九

確定判決の效力と執行文付
與

竹田孝太郎 [新聞] 四七二九
三三九

強制執行後に於ける承繼問
題

竹田孝太郎 [新聞] 四七二九
三三九

上告書に於ける假執行の宣
告

頓宮悟一郎 [新聞] 四七二〇
四六五

民事訴訟法第五〇一條第三
號第二の欠席判決の意義

加藤 正治 [志林] 四七一〇
廿九

控訴裁判所か第一審の本案
判決を是認したる場合に
於ける強制執行の債務名
義

板倉松太郎 [志林] 四七一〇
八

伊藤 佛治 [新報] 四七一八
二〇

韓國理事廳の判決は内地に
於て執行せられ得るや

清瀬 一郎 [法協] 四二二六
二二

假執行の宣言と判決

山田 正三 [京法] 六二〇七
二〇

脱退せる被告に對し執行を
なす場合の執行文附與手
續

菅原 春二 [新報] 六三二四
八

支拂命令送達後の債務者死
亡と相續人に對する執行
命令

前田直之助 [新報] 六四二五
七

公正證書の作成に就て

豊原 清作 [辯協] 六四一九
二〇一

事實上吻合せざる公正證書
の意義

齊藤 孝治 [新聞] 六四一〇
一〇三〇

公正證書に依り執行文の附
與を求め得べき者と給付
の訴

細野 長良 [新報] 六五二六
二〇

未成年者に爲されたる執行
行為の通知

細野 長良 [新報] 六五二六
二〇

公正證書不實記載と虚偽行
爲

藤波 元雄 [法記] 六六二七
三

社員の特分に對する執行と
現行法の缺陷

眞野 毅 [辯協] 六七三二
三七一

假執行免除の宣言に就て

小野村胤敏 [法政] 六九二七
九

執行機關改造の急務

山本 晴造 [新聞] 六九二七
一六五五

公正證書に對する執行文附
與

山本 晴造 [新聞] 六九二七
一六五五

【強制執行】

與の時期に就て

河保川生 [新聞] 六九二六
二六七六

公正證書の執行力を論ず

山崎 行一 [新聞] 六九二二
二九七〇

執行命令の送達に就て

太田孝之助 [新聞] 六九二二
三三〇〇

執行命令の送達に關する辯
護士太田孝之助君の所論
を讀みて

八ヶ代義則 [新聞] 六九二二
三三〇〇

民事訴訟法第五三六條に依
る執達吏の命令に債務者
應ぜざる場合

前田直之助 [新聞] 六九二二
三三〇〇

執行文附與に關する一二の
問題に付て

喜頭 兵一 [朝司] 六九二三
三

債務名義に就て

山崎 行一 [新聞] 六九二二
三三〇〇

強制執行に對する救濟方法

三宅 長策 [新報] 四七二六
三

強制執行の停止命令に就て

高橋 捨六 [新聞] 四七二六
一

競買手續の停止に付て

高橋 捨六 [新聞] 四七二六
一

民訴法第五四九條第一項末
段に付て

古谷新太郎 [新聞] 四七二七
二二八

執行参加に關する疑義、附
雇人の證人資格に付て

齊藤 夏次 [新聞] 四七二七
二二四

再び民訴法第五四九條を論
ず

古谷新太郎 [新聞] 四七二七
二二四

執行参加訴訟に就て

古谷新太郎 [新聞] 四七二七
二二四

請求に關する異議の訴の性
質に就ての學說

高橋已千治 [新聞] 四七二七
二二五

前田道之助 [明學] 四七二七
二二九

前田道之助 [明學] 四七二七
二二九

債務者占有中の第三者の所有物に對する強制執行に異議を申立ざりし第三者が執行完了後に爲す不當利得の主張
假執行の停止取消變更認可の當否に付ての判決
民訴第五四五條第三項の規定と訴の變更
第三者の執行異議の訴請求に對する異議の訴請求に關する異議と執行文附與に對する異議
強制執行停止命令の效力存続時期
民訴法第五〇一條第四號、第五四八條の規定に依る手續と強制執行
第三者の執行異議權と原因反對給付に關する強制執行に對し異議の訴を以て反對給付が契約の本旨に適合せざることを主張するの可否

中込 宗造	【新報】四一八	九
平井彦三郎	【新聞】四一	四八三
森 作太郎	【新聞】四三	一六四三
仁井田益太郎	【法協】四四	二九
雄本 朗造	【新報】六	三三
岡村 玄治	【志林】六七	二〇
阿部文二郎	【新報】六八	二九
阿部文二郎	【新報】六八	二九
伊藤 綱城	【新聞】六八	二〇〇四
阿部文二郎	【新報】六〇三	二

執行命令に對する故障申立に基く辯論に於て當年者一方の關席したる場合と其裁判
民訴法第五四七條末項の受訴裁判所の裁判を提出すべき機關
執行異議事件の判決
執行手續
轉付命令に就て
送達前の債權轉付命令の效力に就て
債權の差押に就て
恩給は差押ふべからず
取立命令と轉付命令の區別
強制執行の性質
保險金の差押に付きて
不動産強制執行の賣得金の配當に關し民事訴訟法は民法の規定に依り自然改正を受けたることを論ず
公債の差押に付て
競落不動産の引渡命令に就て

前田直之助	【新報】六一三	六
前田直之助	【新報】六一三	二
小野 實雄	【新聞】六四	一四八
高木 豊三	【法記】四六	三
高木 豊三	【法記】四六	三
平山銓太郎	【新報】四六	三
高橋 覺	【新報】四七	四
錦山 生	【新報】四七	四
本田 康直	【法政】四三	三
松岡 義正	【法政】四三	四
野村安次郎	【新報】四三	一〇
川島 龜夫	【辯協】四四	五
幽谷 居士	【新聞】四四	一
神尾 肇	【新聞】四五	一〇三

船舶の股份に對する強制執行に就て
取立命令に就て
民訴第六四九條に就て
永代供地權は強制執行の目的とすることを得るや
ヘッソ「電話機及び郵便爲替金の差押に就て」(譯)
タシヤウ「郵便爲替金の差押に就て」(譯)
合資會社社員に對する債權執行に就て
土地明渡強制執行に於ける執達吏の職權
土地明渡強制執行に於ける家屋取毀命令の要否
判事野村定次君に答ふ相續人が相續登記を爲さざる不動産の競買手續
不動産強制執行開始決定に對しては抗告を爲すことを得ざる乎
裁判所書記の其保管に依る競落代金を費消したると

長谷川協輔	【新聞】四五	一〇三
板倉松太郎	【志林】四五	一
櫻 隆	【新聞】四五	一
長谷川壽太郎	【新聞】四五	一
平島 及平	【法記】四七	一四九
平島 及平	【法記】四七	一四九
平島 及平	【法記】四七	一四九
永易政次郎	【新聞】四七	一七二
中西惣三郎	【新聞】四七	一七二
野村 定次	【新聞】四五	一
中西惣三郎	【新聞】四五	一
森 作太郎	【新聞】四五	一
森 作太郎	【新聞】四五	一
森 作太郎	【新聞】四五	一

きは國家は賠償の責を負ふや
民訴第六八八項前競落人に對する不足額等請求權は何人に在るや
差押假差押に關する補正私見
金銀債權に對する數個の差押の間に於ける效力
轉付命令と論ず
配當要求の時期と轉付命令との關係
民事訴訟法に依る競買と競賣法による競買との區別
市町村財産の差押
建物と撤去し土地を明渡すべしとの判決の強制執行
勳章年金の差押に就て
假差押を爲したる債權轉付命令を廢することを得るや
一個の債權に對して發せられたる數個の轉付命令が同時に送達せられたると

谷田 三郎	【法記】四五	二
村上亨三郎	【新聞】四五	一
池水 浩光	【新聞】四五	一
齋藤 軍次	【新聞】四五	一
梅 謙次郎	【志林】四〇	九
前田直之助	【明學】四〇	一
板倉松太郎	【志林】四〇	三
板倉松太郎	【志林】四〇	三
平井彦三郎	【新聞】四〇	一
守谷富之助	【新聞】四〇	一
岩本勇次郎	【志林】四〇	二

【強制執行】

さの効力

民事訴訟法第七三四條の意

公吏の俸給権は全部差押へらるべきものなるか

有體動産差押の効力を論ず清國に於ける執行の効力に就て

言渡を爲さざる決定と送達前の執行に就て

作爲及不作爲債權の強制執行

債權に對する強制執行と最近大審院の判例

讓渡禁止の特約ある金銭債權と轉付命令

民事訴訟法第七三六條の疑義

差押の競合と轉付命令

差押命令と移付命令とを同時に發することを得る乎

俸給歳費に對する強制執行所謂將來の收入に對する轉付命令

板倉松太郎 [志林] 四二二 七

岩本勇次郎 [志林] 四二二 二〇

川手 忠義 [新聞] 四二一 五九

法叢 學人 [新聞] 四三三 一六八

光井 深 [新聞] 四三三 一六四

雲外 居士 [新聞] 四三三 一六六

石坂香四郎 [京法] 四四六 三

横田 秀雄 [志林] 四四三 六

前田直之助 [新報] 四四二 七

武川 佳海 [新聞] 四四一 七〇

齋藤 巖 [新聞] 四四一 七〇

板倉松太郎 [志林] 四四二 六

天野宗太郎 [新聞] 四四一 八九

債權は二重に差押ふることを得るや

財産權に對する強制執行に關する主要問題

執行停止命令ありたる債務名義に基く再度の強制執行

金鶏勳章の年金に對して轉付命令を發することを得る乎

代替物と民法第七三二條の轉付命令

過分なる數箇の不動産の差押

銀行貸金契約に於ける擔保流用文句と債務者に對する強制執行及び債務者の破産

民事第六二五條第二項と其手續

照査手續の性質及び效力

強制執行處分の當否と家責分散の宣告

辨濟供託金に對する強制執行

横田 秀雄 [評論] 六二二 七

板倉松太郎 [志林] 六二五 九

岩田 一郎 [新報] 六二三 二

榊原周次郎 [新聞] 六二一 八九

庄野 理一 [新聞] 六二一 八九

加藤 正治 [志林] 六三六 七

維本 朝造 [京法] 六四〇 八

前田直之助 [新報] 六五二 六

板倉松太郎 [志林] 六五二 八

加藤 正治 [志林] 六六二 三

行

供託金に對する債權差押の

第三債務者に就て

船舶に對する強制執行を論ず

電話加入權に對する強制執行に就て

有體動産に對する強制執行は何時終了するや(執達吏が競買代金を受取りたる時乎債權者が其交付を受けたる時乎)

民事訴訟法第六二三條の法意

動産の同時差押

執行停止決定ありたる後に於ける照査債權者の差押手續續行の許否

滞納處分に因る不動産差押の效力發生時期

債權轉付命令と抵當權

家屋明渡の執行と抵抗

不動産引渡命令の效力

真下 五郎 [新聞] 六六二 一〇四

新田 繁永 [新聞] 六七二 一三四

小町谷操三 [新報] 六八二 六

作岡 耕逸 [辯論] 六八三 七

齋藤 巖 [新聞] 六八一 一九三

阿部文二郎 [新報] 六九三 一

片山 通夫 [法記] 六〇三 八

吉田常次郎 [新報] 六〇三 一〇

宿利 英治 [新報] 六一三 六

崎元武兵衛 [臺法] 六一六 七

前田直之助 [法政] 六二三 二

田崎 浩久 [新報] 六二二 三

田崎 浩久 [新報] 六二二 三

執行 保全

假差押の害

假差押を論ず

債權及不動産假差押に就て書損に因る假處分命令の更正

假差押假處分に就て

不動産假差押の効力に就て

假處分の效力

保證を立てしめて爲す假處分の取消に就て

差押假差押に關する補正私見

假處分執行の取消又は之を許さざるか

假處分命令に對する不服は如何なる裁判所が管轄するか

假處分執行の取消に就て本紙四六四號所載假處分執行取消申請事件の判決を評す

假差押の效力

期限の至らざる債權に付き

鈴木 充美 [法協] 四二〇 一〇

八重洲閑人 [新報] 四二九 六

飯田 半助 [新聞] 四三〇 一

梅 謙次郎 [志林] 四四一 四

高橋 捨六 [新聞] 四四一 一〇

森 作太郎 [新聞] 四四一 二七

根本仙三郎 [新聞] 四四一 二七

賤乃家學人 [新聞] 四四一 二七

池水 浩光 [新聞] 四四一 三三

平井彦三郎 [新聞] 四四〇 一〇

平井彦三郎 [新聞] 四四〇 一〇

板倉松太郎 [志林] 四四一 一〇

【強制執行】

假差押命令を發したる後
裁判所が申立により債權
者に對し本訴を提起すべ
きことを命じたる場合に
於ける訴の性質
假處分取消申立に對する違
法の裁判と不服申立の方
式に就て
假差押に付て所感を述べ
假差押と配當要求の效力
小作人の立廻假差押に就て
假差押執行の防止を目的と
する供託
假差押と假處分
私訴假差押處分の許否
不服の申立と假執行に關す
る裁判
假差押又は假處分命令若は
其執行と申請人の取消
民事訴訟法第七四六條に所
謂訴訟の意義に關する大
審院の判決に就て
假差押又は假處分保證供託

- 中込 宗造【新報】四一九八
- 大野 豹吾【新聞】四二九
- 一瀬房之助【辯論】四二九
- 前田直之助【新報】四二二
- 頓悟 道人【新聞】四七三
- 維本 朗造【京法】六三九
- 淺野 謙二【新聞】六三九
- 大橋 誠一【辯論】六三九
- 前田直之助【新報】六三二
- 阿部文二郎【新報】六二七
- 平井恒之助【新聞】六六一

金の取戻に就て
假處分に關する取扱
假差押命令の管轄
本案か上告審に在る場合と
假差押の管轄
急迫なる場合に於ける假處
分命令の管轄に就て
急迫なる場合に於ける假處
分命令の管轄に就ての尾
高判事の所論を讀みて
執行保全手續の性質と立法
に就て
本案審判前の假差押に於け
る起訴命令と支拂命令の
送達
裁判所管轄權を有する場
合に於て一裁判所の起訴
命令に依り(假差押に基
く)他の裁判所に其の事
件に關し起したる訴と假
差押との關係
敗訴と不法假差押の推定
現代の要求と假處分
不動産に對する假差押命令

- 齊藤 巖【新聞】六九
- 前田直之助【法記】六〇三
- 井上直三郎【法叢】六〇五
- 阿部文二郎【新報】六〇三
- 尾高 武治【新聞】六〇一
- 石井 純一【新聞】六〇一
- 宮田龜之助【法政】六二七
- 前田直之助【新報】六三三
- 多田 吉鍾【朝司】六三三
- 寺崎 勝治【法政】六三三

の執行に就て

【行政處分】

願届及許可認可
處分命令に對する新法語
執行罰に付て
行政の區域に於ける契約
公法上に於ける契約と合同
行爲
便宜の原則
行政官廳が法律に基き與へ
たる免許は誤謬ありとし
て其官廳自ら之を取消し
又は訂正する權能ありや
自由行政と所謂「憲法上の
大權」
行政上の私法行爲
行政處分の取消變更
行政處分の取消を論ず
行政犯の性質を論じて警察
犯に及ぶ
行政上の強制執行
默示の却下

- 渡邊 純【朝司】六二五
- 穂積 八東【法協】四三〇
- 倉知 鐵吉【法協】四三〇
- 副島 義一【志林】四三〇
- スタンゲル【法政】四三〇
- エリネツク【志林】四三七
- 上杉 慎吉【志林】四三七
- 鈴木 充美【辯論】四三九
- 美濃部達吉【志林】四四〇
- 織田 萬【新聞】四四〇
- 穂積 八東【新報】四四〇
- 美濃部達吉【新報】四四〇
- 佐々木惣一【京法】四四四
- 美濃部達吉【國家】四四三
- 織田 萬【京法】四四四

【強制執行】 【行政處分】

行政處分の成立及效力發生
行政裁判所の判決は違法の
行政處分を直接に取消變
更する效力ありや
公法上の契約を論ず
行政處分に對する救済を論
ず
行政處分の瑕疵附行政行爲
の觀念
執行罰
行政處分に就て
行政處分の無効及取消を論
ず
許可認可等の用語
行政執行法
行政處分の效力發生の時期
及確定の時期
行政法上の強制手段
公法上の金錢給付義務と其
の強制方法
行政處分と第三者殊に其の
行政訴訟提起の期間に就
て

- 清水 澄【新報】四四二
- 太田 資時【辯論】四四五
- 市村 光恵【京法】六二八
- 中村徳重郎【辯論】六二七
- 佐々木惣一【京法】六四〇
- 織田 萬【京法】六四〇
- 清水 澄【新報】六二七
- 市村 光恵【京法】六六二
- 織田 萬【京法】六六三
- 市村 光恵【法論】六六一
- 清水 澄【新聞】六七
- 田中 頁【法政】六八
- 織田 萬【法叢】六九
- 宿利 英治【新報】六三三

【行政整理】 【行政訴訟】

【行政整理】

行政整理の沿革
元貝淘汰の方針
行政整理と裁司法省
司法部の行政整理如何
行政整理と物價調節
行政整理と司法省
新行政整理案
司法省内部の行政整理には
供託局を廢止して賫いた

山崎四男六 [國家] 四三
森田三溪 [東經] 四二
莊田 秋村 [東經] 四二
磯部 尚 [辯協] 四二
原 嘉道 [新聞] 四二
成瀬 義春 [財經] 四二
三上 英雄 [新聞] 四二
神戸 正雄 [時經] 四二

【行政訴訟】

訴訟と行政訴訟の成立
行政裁判法第二三條中裁決
なる文字に就て
行政訴訟に於ける對手
行政訴訟と訴訟との區別
其關係
行政裁判及行政訴訟に關する諸法案
行政裁判と訴訟との區別に
行政裁判の缺點
行政裁判を論ず
行政裁判の確定力
獨逸の行政裁判制度
行政裁判の本質に就て
行政裁判法一斑
行政裁判再審法案に就て
行政裁判訴訟手續の改善策
獨逸行政裁判制度概要
行政裁判制度に關するシュ
ルツェンスタイン博士の
講話
行政裁判の効果を論じて神
戸裁判所の判決に及ぶ

會知 鐵吉 [法協] 四二
錦 城 [新報] 四二
江木 衷 [新報] 四二
長島繁太郎 [法政] 四二
織田 萬 [内外] 四二
美濃部達吉 [志林] 四二
石山 彌平 [辯協] 四二
清水 澄 [法協] 四二
藤井 眞信 [法協] 四二
美濃部達吉 [國家] 四二
磯部 康吉 [國家] 四二
美濃部達吉 [國家] 四二
石山 彌平 [辯協] 四二
石山 彌平 [辯協] 四二
渡邊 康吉 [國家] 四二
市村 光惠 [京法] 四二
太田 資時 [國家] 四二
渡邊 康吉 [國家] 四二
太田 資時 [新聞] 四二

行政裁判改正之議

オ・ミユルラト氏行政裁判論
營業稅課稅標準額の決定と
行政訴訟
行政裁判所の判決に對する
論評
行政裁判所の判決は違法の
行政處分を直接に取消變
更する效力ありや
行政裁判法論
行政裁判に就て
行政裁判法施行の必要
行政訴訟の疑義
行政裁判に就て
行政判決の參加人に對する
拘束力
行政裁判の觀念
行政處分と第三者殊に其の
行政訴訟提起の期間に就
て
行政裁判制度改正問題
行政訴訟事項の範圍

新井重太郎 [辯協] 四二
渡邊 康吉 [國家] 四二
高野 金重 [保評] 四二
宮本 英 [京法] 四二
宮古啓三郎 [辯協] 四二
田中 忠夫 [京法] 四二
木田 資時 [辯協] 四二
猿渡駒之助 [新聞] 四二
清水 澄 [新聞] 四二
原 嘉道 [辯協] 四二
石山 彌平 [辯協] 四二
竹内 熊二 [新聞] 四二
佐々木惣一 [京法] 四二
織田 萬 [京法] 四二
宿利 英治 [新報] 四二
美濃部達吉 [法協] 四二
清水 澄 [新聞] 四二

【行政法】

日本行政法を研究するの必
要及方法を論ず
憲法と行政法
行政法の研究に就て
行政法と公私法の接觸
行政法統一の必要
行政法に關する獨逸近著概
要
地方行政法規の效力
行政法學の將來
行政法の編別に就て
行政法總則に關する近時の
研究
美濃部博士著「日本行政法」
第三卷批評
海軍行政法規概観
拙著「日本行政法」上巻中
一の誤謬に就て
自由競争に對する新學派の

參照||行政。
山田 五三 [京法] 四二
金子堅太郎 [國家] 四二
西 學人 [新報] 四二
岡 實 [國家] 四二
織田 萬 [明學] 四二
織田 萬 [京法] 四二
美濃部達吉 [國家] 四二
山室 宗文 [法協] 四二
佐々木惣一 [京法] 四二
美濃部達吉 [新報] 四二
美濃部達吉 [新報] 四二
市村 光惠 [京法] 四二
村上 恭一 [海法] 四二
美濃部達吉 [國家] 四二

【行政訴訟】 【行政法】 【競争】

説を評す
自由競争に就て
専賣價格と競争價格の決定
競争の弊
不正競争取締論
不正競争を論ず
匿名組合の營業者と職業禁止

小林丑三郎〔明法〕四二
藤本幸太郎〔國經〕四九
下村 壽一〔東經〕二六
平田 東助〔日經〕二六
河津 暹〔日經〕三九
戸田 海市〔國經〕一五

不正競争法案の批評
不正競争取締法論
競争價格成立の理法を論ず
競争の公正に關する諸問題
自由競争と獨占
獨占の制限と競争の永存
競争價格と獨占價格
不正競争の制限に就て
クラアクの競争並に獨占理論

松本 丞治〔新報〕四二
伴 直之助〔東經〕四四
玉木 三郎〔商經〕四五
丸谷 喜市〔國經〕二六
東 晋太郎〔國經〕二六
土方 成美〔經論〕二二
上山辨太郎〔商經〕二二
土方 成美〔經論〕二二
田中 忠夫〔亞經〕二八

自由競争の限界
油本 豊吉〔經論〕二四
宮本 英雄〔法叢〕二五

供託論
石坂音四郎〔京法〕二八
假差押執行の防止を目的とする供託
雄本 朗造〔京法〕三九

供託の性質及其法律關係
供託局の事務改善に就て
供託法の改正に就て
日佛供託制度比較概論
一般供託局をして現貨に供託物の取扱をなさしめられんことを望む
供託局の存否に就て

雄本 朗造〔京法〕四〇
木 冠〔新聞〕六八
川村 淳〔臺法〕二〇
松岡 邦〔新聞〕二〇

共通法に就て
共通法に就て
共通法に就て
共通法に就て
第四十議會に於ける共通法に關する政府委員の答辯

天 寛子〔新聞〕二二
天 寛子〔新聞〕二二
松村真一郎〔志林〕二二
山田 三良〔法協〕二二
山田 三良〔法協〕二二
山田 三良〔法協〕二二

豫審事件より見たる京都京都に於ける破産統計
京都府の港灣
京都に於ける舊時の鹽屋仲

大濱 隆〔新聞〕二二
山田 正三〔京法〕二二
川崎 兼秀〔統雜〕二二

問
生活調査を論ず(京都市小學校教員生計調査)
京都市小學校教員生計調査
京都市に於ける家賃の統計的研究

本庄榮治郎〔經叢〕六七
沙見 三郎〔經叢〕六九
沙見 三郎〔經叢〕六九
岡崎 文規〔經叢〕二七
中田 兼〔國家〕二六
吉川季治郎〔都問〕二二

【共同海損】
海損を見よ

【共同訴訟】
訴訟當事者—共同訴訟を見よ

【競賣】
民事訴訟法に依る競賣と競賣法による競賣との區別
株式の競賣金額が滞納金額に満たざる場合と譲渡人の關係
強制競賣の場合に於ける賣主と擔保責任
強制競賣の場合に於ける賣主と擔保責任

板倉松太郎〔志林〕四一
黒澤 龍演〔東經〕二六
片山 義勝〔新報〕四三
横田 秀雄〔新報〕四三
西川 一男〔新報〕四三

維持に於ける官設競賣所の組織に就て
抵當不動産増價競賣に要する擔保提供の時期
抵當權の設定せられたる不動産の強制競賣と同地上永小作權
競賣法に依る競賣の性質及び競賣開始の効力
一個の不動産の一部に對する増價競賣の申立の適否
不動産再競賣の場合に於ける不足額請求權者及請求權行使方法に關する判例及其批評を評論す
競落不動産の管理人は法定果實を收集する權利なきか
他人の物の競賣と不當利得者
民法第五八條と競賣手續との關係
競落人の引受けざる農耕權増價競賣の請求及其申立

横田 五郎〔法記〕二二
松本 静史〔新聞〕二二
西村 孝三〔新聞〕二二
雄本 朗造〔京法〕二二
鈴木真一郎〔評論〕二二
西村勸之助〔新聞〕二二
奥戸善之助〔新聞〕二二
白旗 文一〔新聞〕二二
岡村 玄治〔志林〕二二
寺井 晴逸〔臺法〕二二
片山 通夫〔法記〕二二

就落人の引受けざる不動産
民事訴訟法第六編及競賣法
改正私見
久田 博人【新聞】六五 一三五
九

【脅迫の罪】

脅迫と恐喝との區別及民法
上の強迫との關係
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

【共犯】

正犯と從犯との區別
教唆の教唆は刑法上如何に
處分すべきや
平沼誠一郎【法政】四三 五
七

從犯を論ず
實行正犯と從犯との區別の
標準並共犯の一人犯罪を
中止したる場合の責任關
係を論ず
金子富次郎【新報】四三 一三
三

共犯
教唆罪
小崎 傳【法政】四三 一八
七

間接正犯
岡田朝太郎【法協】四三 三
三

間接正犯、間接教唆犯及間
接從犯
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

間接教唆及間接從犯に就て
責任共擔附因果關係の精神
的連絡
強竊盜の爲に見張を爲す所
爲は同罪の共同正犯なり
今將た從犯なりや
共犯論
共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
小崎 傳【新報】四三 一八
七

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
牧野 英一【志林】四一 一〇
三

共犯の處分に就て
責任無能力者の行為に對す
る共犯ありや
泉二 新熊【新報】四三 一五
八

【共犯】 【共有】 【漁業】

共同正犯
共犯の從屬的性質に就て
必要的共犯
間接正犯の著手時期を論ず
間接正犯の著手時期に就て
五十嵐君の所説を駁す
共同正犯と從犯との區別
共犯の從屬的性質に就きて
共謀と實行正犯
共同正犯の觀念と大審院判
例
共犯ある場合の追徴
從犯の從屬性説を駁す
共犯概論
教唆犯の本質を論じて其效
果に及ぶ
強竊盜の見張と共同正犯(正
犯と從犯との區別)
助勢過失論
或る共犯事件
【共】
【有】
共有權の意義
中山成太郎【法政】四三 二
二

共有物の分割に就て
共有物の競賣に關する判例
を讀む
共有者の持分の擔保に就て
共有物の分割
共有に就て
共有者は單獨に第三者に
對し共有物に付所有權確
認の訴を提起することを
得るや
共有及び持分
共有物分割の訴の構成及び
其の訴繫屬中共有權讓渡
の效力
【漁業】
【漁業】
參照II水産。
一八八三年佛國海洋漁業統
計
萬國公法上に於ける千島密
漁問題
英米國に於ける漁業問題
白令海鰹魚漁業に關する
英米兩國の爭議
伊藤 善人【新聞】四三 一
五
六
小林 繁三【新聞】四三 一
五
六
梅原 謙次郎【志林】四一 一
〇
三
杉山直次郎【法政】四三 一
八
七
池田寅二郎【法協】四三 三
三
三
横田 秀雄【新報】四三 一
五
八
富永 義通【朝司】四二 一
一
九
能勢 克男【同論】四二 一
一
九
加藤 正治【法協】四三 一
五
八
相原 重政【統集】四三 一
一
〇
七
稻垣清次郎【國家】四三 一
一
〇
七
高橋 作衛【國家】四三 一
一
〇
七
立 作太郎【國家】四三 一
一
〇
七

白令海の漁業問題
 白令海虎漁業問題
 白令海鷹虎漁業問題の概要
 白令海密漁問題に就て
 樺太の漁業問題に關する研究

遠洋漁業と我外交
 風船保護條約問題
 海獸會議の結果に就て
 トロール漁業問題に就て
 風船保護條約の目的
 海獸禁止救済法案の缺點
 汽船トロール漁業と海底電信

漁業に就て
 漁業論
 本邦の漁業統計に就て
 日本海獸漁業の發達
 トロール漁業に就いて
 我トロール漁業の將來に就て

クレールメル「沿岸海の範圍と漁業權」
 膠州灣の漁業

高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
秋山雅之助	〔國際〕	四九	一〇
秋山雅之助	〔志林〕	四九	一〇
寺尾 亨	〔法協〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
片山 潜	〔洋經〕	四九	一〇
米田 實	〔國際〕	四九	一〇
道家 齊	〔國際〕	四九	一〇
桑田 透一	〔東經〕	四九	一〇
北原 多作	〔外時〕	四九	一〇
角 利一	〔東經〕	四九	一〇
米田奈良吉	〔國際〕	四九	一〇
エ・ペリニ	〔國際〕	四九	一〇
坪根 久松	〔評論〕	四九	一〇
相原 重政	〔統集〕	四九	一〇
角 利一	〔國家〕	四九	一〇
山本美越乃	〔京法〕	四九	一〇
山本美越乃	〔京法〕	四九	一〇
田中耕太郎	〔法協〕	四九	一〇
	〔資料〕	四九	一〇

漁業の統計其の他に就て
 國際漁業警察
 本邦漁業に關する統計
 漁業使用漁業に就て
 漁船の遭難に就て
 有望なる魚類養殖事業
 漁業労働の季節的移動

公有水面の性質より漁業權と論ず
 公有水面に於ける漁業の争訟に關する裁判管轄
 漁業權及漁業法
 漁業權侵害に對する救済手段
 漁業法第四條及第五八條の解釋に就て
 漁業權假處分に就て大審院判例を論ず
 漁業權の賃借借登錄に就て
 漁業權告示の效力如何
 漁業權を論ず

吳 文聰	〔統集〕	四九	一〇
泉 哲	〔三學〕	四九	一〇
加藤 銀藏	〔統集〕	四九	一〇
元橋曉太郎	〔朝司〕	四九	一〇
嶋川 虎三	〔經叢〕	四九	一〇
田中 龍雄	〔洋經〕	四九	一〇
遊佐 敏彦	〔社政〕	四九	一〇
公道 學人	〔新報〕	四九	一〇
岸 清一	〔法政〕	四九	一〇
花井 卓藏	〔新聞〕	四九	一〇
島村他三郎	〔志林〕	四九	一〇
佐々木文治	〔新聞〕	四九	一〇
山本 喜男	〔新聞〕	四九	一〇
板倉松太郎	〔志林〕	四九	一〇
小林 俊三	〔新聞〕	四九	一〇
吉田 敬直	〔法政〕	四九	一〇

【局外中立】

國際公法先例(局外中立の部)

巴里宣言
 アラバマ號事件論
 アラバマ號事件論
 中立國の權利義務
 武裝中立
 日本帝國の中立始末
 被擄中立船舶の船長
 巴里宣言の將來
 巴里宣言の由來
 石炭供給問題
 マンジュール號事件を論ず
 朝鮮國中立の價值
 滿洲の永世中立を論ず
 マンジュール號事件論
 中立國領水内に於ける交戦國の軍艦地位を論ず
 二十四時間規則
 中立國の港灣並其沿海の利用に就て
 日露戰爭と清國の局外中立

高橋 作衛	〔法協〕	四九	一〇
戸水 寛人	〔法政〕	四九	一〇
清水 有國	〔新報〕	四九	一〇
山内 四郎	〔新聞〕	四九	一〇
ハイルボルン	〔國家〕	四九	一〇
遠藤 源六	〔法協〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔志林〕	四九	一〇
松原 一雄	〔法政〕	四九	一〇
松原 一雄	〔新報〕	四九	一〇
高橋 清一	〔國際〕	四九	一〇
嶋川 新	〔新報〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
石山 彌平	〔新報〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
佐分利貞男	〔國際〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔法協〕	四九	一〇
松山得四郎	〔法協〕	四九	一〇
嶋川 新	〔新報〕	四九	一〇

【局外中立】

中立國逃入の交戦國軍艦
 マンジュール號武裝撤去を論ず
 日露戰爭に於ける清國の國際法上の地位
 清韓の局外中立問題
 船舶賣買と中立政府の義務
 局外中立國船舶に關する露國の態度
 清國中立法規の缺點
 中立國船の擧沈
 中立國船の擧沈
 中立國留置者の裁判權
 ラブラデル教授の石炭供給拒絶論
 海上中立財産の過去現在を敘し巴里宣言に及ぶ
 日露戰爭と中立法規
 中立領海に於ける交戦國艦隊
 中立義務の種別
 中立に就て
 各中立國二十四時間法

中村 進午	〔志林〕	四九	一〇
榎 水生	〔明法〕	四九	一〇
有賀 長雄	〔外時〕	四九	一〇
松原 一雄	〔外時〕	四九	一〇
有賀 長雄	〔外時〕	四九	一〇
松原 一雄	〔外時〕	四九	一〇
中村 進午	〔外時〕	四九	一〇
パナ	〔國際〕	四九	一〇
ホルランド	〔國際〕	四九	一〇
中村 進午	〔法政〕	四九	一〇
榎 丹	〔法協〕	四九	一〇
立 作太郎	〔新報〕	四九	一〇
高橋 作衛	〔國際〕	四九	一〇
ホルランド	〔國際〕	四九	一〇
立 作太郎	〔法協〕	四九	一〇
中村 進午	〔法政〕	四九	一〇
中村 進午	〔内外〕	四九	一〇

【希臘】【基督教】

學說	高橋誠一郎	【三學】六二〇	二五	三三
希臘唯一の法曹テオフラストと希臘私法	寺田 四郎	【國圖】六二〇	九	七
古代希臘法制	寺田 四郎	【國圖】六二〇	九	一〇
希臘羅馬時代の同盟	牧野 義智	【國圖】六二〇	二〇	二〇
古代希臘及び羅馬に於ける經濟思想	關 未代策	【國圖】六二〇	二二	二二
古代希臘に於ける共產主義的の革命	ベアア	【我等】六二二	四	三
希臘經濟思想概観	梅北 未初	【商研】六二二	二	一
希臘思想の背景と經濟論の萌芽	谷口彌五郎	【我等】六二三	五	五
希臘に於ける自然法の觀念	船田 亨二	【法協】六二三	四	一四
ヒシオドスの「エルガ」	高橋誠一郎	【三學】六二三	八	八
古代希臘のデモクラシーとその國民性	三浦 新七	【商研】六二四	五	二
希臘悲劇の基調	伊東勇太郎	【長卷】六二四	五	二
希臘時代の金融業に就て	高野 忠雄	【金融】六二四	二	十八
古代希臘上期の詩歌中に現れたる社會狀態	高橋誠一郎	【三學】六二五	二〇	五
ギリシャの奴隸制度	柳澤 泰爾	【法治】六二五	五	六
【基督教】	參照 寺院法。宗教。			
國際法と耶蘇教との關係	井上 毅	【國家】四四	五	五三

支那人民の排外的精神殊に基督教に對する嫌惡な情は竟に變移するの途なき乎	矢野 仁一	【外時】四五	五	五
對米問題の難澁と日本基督教徒の責任	片山 潜	【洋經】四三	一	五〇〇
基督教と社會主義	久 古	【新聞】四三	一	六四二
基督教と法律問題	高橋誠一郎	【三學】六二七	二七	一三
舊約全書に現はれたる社會思想	高橋誠一郎	【三學】六二七	二七	一三
佛敎とキリスト敎との異同	高橋誠一郎	【法政】六二八	二四	八
支那の國敎問題と基督教徒ケツテレル僧正と其の「勞働問題及び基督教」	桑宗 隆藏	【外時】六二五	二五	二九七
道德生活に於ける敎會の位置	高橋誠一郎	【三學】六二八	二二	二二
基督教會と權利問題	佐々木英夫	【法政】六二九	一七	二二
舊約書中の律法	高橋誠一郎	【三學】六三〇	二五	二二
支那反基督教運動の一考察	石橋 智信	【法協】六三〇	四〇	五〇
基督教文明の發展概論	清水 安三	【我等】六三一	四	六
中世敎會史要領	財部 靜治	【經叢】六三一	一〇	一〇
原始基督教と共產主義的の思想	佐々木英夫	【法政】六三一	一〇	一〇

想	三邊 金藏	【三學】六二七	一七	一三
加特力敎の社會論者に就て	田島 鶴治	【經叢】六二七	二六	三
原始基督教と社會問題	高橋誠一郎	【三學】六二七	二七	五十六
原始基督教の社會思想	高橋誠一郎	【三學】六二七	二七	八
米國に於ける基督教會と勞働運動	水上鐵次郎	【社政】六二二	一	三〇
加特力敎經濟學の衰滅	高橋誠一郎	【社政】六二二	一	四九
加特力敎徒と對米問題	稻畑勝太郎	【外時】六二四	四	四九
基督教の影響を受けたる社會思想	尾形 繁之	【商經】六二二	一	四〇
舊約聖書の法律觀	穂積 重遠	【民衆】六二二	二	六
【寄留法】				
寄留法施行の結果と現住人口の調方	石川 惟安	【統集】六四一	四〇	八
戶籍法改正案及寄留法案に就て	山内確三郎	【法記】六三三	二四	三

【ギルド】	參照 組合。			
ギルドの起源に就て	石卷 良夫	【國經】四四七	七	六
ナショナル敎授のNational-Guilds 評論概観	三邊 金藏	【三學】六八三	二	二

【基督教】【寄留法】【ギルド】【ギルド社會主義】

中世 Guilds の文化史上に於ける意義	野村兼太郎	【三學】六九二	四	六
ナショナル・ギルズと國家主權との關係に就て	中島 重	【同論】六九二	一	二
ギルドの起源に就て	岡 乾治	【三學】六九五	一	一
ギルド制度の下に於ける産業組織	古賀 進	【社政】六〇〇	一	一五
ギルド政策論	土田 杏村	【我等】六一一	四	一
英國の建築ギルド	松岡 尚義	【社政】六一一	一	一八
ギルドと管制に就て	田中 忠夫	【國經】六三三	三	三
チュルゴのギルド解散令と水野越前守の同屋組合禁止令	瀧本 誠一	【三學】六四一	九	二
歐洲に於ける中世ギルドの起源に就て	松崎 實次	【商工】六五一	一	三

【ギルド社會主義】	參照 社會主義。勞働組合。			
集敎主義及サンデカリズム批評としてのギルドンシヤリズム	小泉 信三	【國家】六六三	五六	五六
ペンターの組合社會主義論	河田 嗣郎	【經叢】六八九	一	一
ギルドンシアリズムの社會學的考察	高田 保馬	【政治】六八一	一	二

【緊急命令】

就て
緊急命令を以て憲法上の立
法事項を規定することを
得るや

岩田宙造君に答ふ

緊急命令に事後承諾を與ふ
るを非とする説

緊急命令に關する疑義及私
見

法律に代るべき命令

憲法第八條第一項に依り法
律規定を變更又は廢止す
る命令を發し之を帝國議
會に提出し承諾を得ざる
爲め其將來に效力なきこ
とを公布したるときは元
の法律復た行はるべきや

緊急命令論

選舉取締に關する緊急命令
の發布は憲法違反なり

緊急命令に就て

緊急命令の承諾

緊急命令を以て議會承諾前
の緊急命令を廢止するは

上野 貞正【國家】四三 一四五

島田 俊雄【法協】四三 二〇

島田 俊雄【法協】四三 一八

花井 卓藏【新報】四三 二二三

會根虎之助【法協】四三 一九

江村忠之助【法協】四三 一九

副島 義一【法政】四三 五三

清水 澄【内外】四三 二

吉見謹三郎【新聞】四三 一

清水 澄【明學】四三 一

上杉 慎吉【志林】四三 七

違憲なり

緊急命令は議會の不承諾に
依りて當然其效力を失ふ
ものなりや否やを論ず

法律に代るの命令の議會承
諾前の廢止

非立憲

緊急命令の廢止及提出に關
する實例と學說

緊急命令の議會承諾前の廢
止に就て穂積博士に答ふ

緊急命令論

緊急命令の起源を論ず

緊急命令の廢止を論じ非常
大權命令及豫算との關係
に及ぶ

法律を廢止したる緊急命令
に就て

法律を廢したる緊急命令
帝國議會に提出するを要せ
ざる緊急命令有り得べき
や

美濃部達吉【新報】四三 二六

美濃部達吉【志林】四三 八

穂積 八東【新報】四三 二六

上杉 慎吉【法政】四三 二〇

水野鍊太郎【法協】四三 二四

美濃部達吉【國家】四三 二〇

井上 密【法政】四三 一〇

清水 澄【志林】四三 一〇

マンチエル【國家】四三 二三

井上 密【京法】四三 四

美濃部達吉【國家】四三 二四

花井 卓藏【新報】四三 二〇

副島 義一【法協】四三 二八

清水 澄【法協】四三 二八

日本銀行課税論に就て

國立銀行始末

銀行とは何ぞや

銀行及資本家の國民的義務

兌換券制限外發行法を論ず

外國通貨銀行金融に關する
要報

銀行の資本金に就て

國際銀行業の將來

日本興業銀行改正法と商法

銀行正貨準備論

兌換券制限外發行法を論ず

保證準備制限擴張論

中央銀行増資論

保證準備發行力擴張の議を
排す

我國の兌換券制度及其運用

理想的支那の標準に關する
提議を論じて金屬本位論
に及ぶ

銀行組織
保證準備擴張論を排す
日本銀行見返り品制度
日獨中央銀行の制限外發行

阪谷 芳郎【國家】四三 七

土子金四郎【國家】四三 七

山崎覺次郎【法協】四三 三

三倉 滋【京法】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

堀江 歸一【國經】四三 一

【緊急命令】 【キング】 【キングスレー】 【銀行】

憲法第八條の緊急命令に付
て

帝國憲法第八條緊急命令發
布の要件につきて

再び緊急命令につきて

緊急命令の提出

緊急命令論(大正十二年十
二月十七日貴族院に於て)

緊急命令の效力

【キ
ン
グ】
(Gregory King, 1648-1712)

グレゴリー・キングの法規

キングの法則と米麥價

【キ
ン
グ
ス
レー】
(Charles Kingsley, 1819-1875)

基督教社會主義者としての
キングスレー

【銀
行】

横濱 禮吉【三學】六二 一六

參照=貸付。株式。株式取引所。
貨幣。爲替。金融。金利。
證券。信託。信用。貯蓄
銀行。手形交換所。取引
所。農業信用。預金。利
子。割引。

に就て

殖民銀行政策論 山崎覺次郎〔國經〕四二五

移動銀行論 山内 正雄〔國家〕四三三

國際銀行論 阿部 輝司〔國家〕四三三

手形交換所の銀行検査 加賀覺次郎〔國經〕四三六

アプゾルハミットの財産及 武田 英一〔國經〕四三七

外國銀行 副島 義一〔外時〕四三二

中央銀行の制限發行に就て 山崎覺次郎〔保評〕四二二

日本興業銀行と外資論 添田 壽一〔東經〕四〇一

商法第二六條第二項の改正 米澤 貞二〔日經〕四〇八

と銀行業 上野 精一〔國家〕四〇三

不動産抵當銀行の資本金に 就て 横井 時敬〔日經〕三九七

勸業及農工銀行を土地抵當 氣賀 勘重〔三學〕三九六

銀行となすの不可を論ず 米澤 貞二〔日經〕三九二

銀行の投機的事業 管 武時〔國家〕三九七

當下半期の銀行業 日本銀行の營業年限延長に 就て 山崎覺次郎〔法協〕三九二

銀行間に於ける取引關係 長島 毅〔新報〕三九〇

日本銀行兌換銀行券發行稅 法に就て 堀江 敏郎〔新聞〕三七一

不動産銀行問題を論ず 矢作 榮藏〔法協〕三二四

銀行券の性質 菅 武時〔日經〕四九三

銀行の貸借對照表と其保證 宇佐美 力〔國經〕四〇〇

債務問題 河津 暹〔國經〕四〇〇

通貨税と銀行税 服部文四郎〔國經〕四〇〇

國際貿易と銀行 服部文四郎〔國經〕四〇〇

銀行資本金の性質並に其運 用法 服部文四郎〔國經〕四〇二

日本勸業銀行法第十七條に 就て 松崎藏之助〔日經〕四〇八

銀行預金準備論 山室 宗文〔國家〕四〇九

最近國際金融市場と日本銀 行 服部文四郎〔外時〕四一四

證券銀行論 服部 春一〔東經〕四一六

兌換券の膨脹と兌換準備 服部文四郎〔日經〕四二二

中央銀行の正貨準備 山崎覺次郎〔法協〕四三〇

商業銀行と工業資金 松崎 壽〔日經〕四二二

國民經濟上に於ける中央銀 行の地位 服部文四郎〔志林〕四二四

銀行の預金債權に就て 平能 北堂〔新聞〕四二五

平能北堂君の所論に就て Y. T生〔新聞〕四二五

銀行買入の現象 黒澤 和雄〔東經〕四二六

銀行員の不法行為の原因及 防止 黒澤 和雄〔東經〕四二六

歐洲に於ける特異なる三種

の銀行

保證準備發行額間接制限法 の得失 小原喜三郎〔三學〕六二六

動産銀行の債券 服部文四郎〔國經〕六一二

東西銀行の基礎並に營業振 りに就て 服部文四郎〔國經〕六一四

近世に於ける銀行の集中運 動に就て 積 羽 生〔日經〕六一四

商業銀行の工業放資を論ず 高島佐一郎〔三學〕六一七

晝夜銀行に就て 松崎 壽〔國經〕六一五

生命保險業者と銀行業者と の關係 黒澤 和雄〔東經〕六一七

銀行株を定取引に付するの 利弊 岩間 六郎〔保評〕六一六

銀行財政の交錯點並に預金 組織への進展運動殊に米 國の聯合準備の新法に就 て 黒澤 和雄〔東經〕六一七

無盡講と銀行條例 高島佐一郎〔三學〕六一八

保證準備制限を擴張すべき 岩田 宙造〔新聞〕六一九

六箇條 清水文之輔〔東經〕六三〇

銀行業と生命保險業 高島佐一郎〔三學〕六四九

日支銀行を論ず 村田 俊彦〔國家〕六四九

企業の流動力並に我國大銀

行の實際研究 渡邊 鐵藏〔國家〕六四二

銀行支店網の利益と其普及 難の理由 秋守常太郎〔洋經〕六四一

本邦銀行業の集中に就て 高野岩三郎〔統集〕六四一

銀行内國爲替尻の操縦に就 て 細井安太郎〔商經〕六五一

戦争と兌換銀行券 服部文四郎〔國經〕六五二

兌換券と物價と輸出入の關 係を論ず 小川郷太郎〔經叢〕六五三

日支銀行法案概評 三宅嘉十郎〔三學〕六五二

船舶抵當銀行問題 一宮房次郎〔財經〕六五三

日支銀行と滿洲銀行 堀江 歸一〔三學〕六五〇

兌換制度の停止と復興 服部文四郎〔國家〕六五〇

保證準備の内容及本位 眞下 五郎〔辯協〕六五〇

貯蓄銀行取締役の責任 本多 精一〔財經〕六五三

地方金融の改善と銀行組織 貯蓄銀行條例第六條の優先 權の性質及其の執行方法 板倉松太郎〔志林〕六五八

地方金融と銀行組織に關す る補論 本多 精一〔財經〕六五三

工業金融の改善と日本興業 銀行 添田 壽一〔財經〕六五三

地方銀行合同の急務 中根 忍〔東經〕六五四

銀行條例施行細則の改正が

銀行簿記勘定科目の分類に及ぼせる影響

銀行業の原価計算

銀行券發行の原理に就て

銀行の仕拂承諾勘定に就て

勸業農工銀行立法の精神

銀行類別の學理的根據

勸業農工銀行方法の精神に就て

取引所と銀行との關係

勸業兩行合併と銀行制度

日本銀行の見返品擴張と論

保證準備擴張問題

地方銀行の破綻に就て

銀行條例施行細則を論ず

銀行なる名辭の由來に就て

日本銀行保證準備擴張の議

日銀保證準備擴張を難す

普通銀行貸借對照表の公告

保證準備擴張論と兌換券發行法の復古

勸業銀行と農工銀行との合併問題

吉田 良三	〔會計〕	六六	一	二
松村 光三	〔會計〕	六六	一	二
飯田靜次郎	〔商經〕	六六	一	二
細井安次郎	〔商經〕	六六	一	二
添田 壽一	〔財經〕	六六	一	二
西村文太郎	〔國國〕	六六	一	二
佐伯 貴範	〔財經〕	六六	一	二
河津 暹	〔新報〕	六六	一	二
添田 壽一	〔財經〕	六六	一	二
中村 茂男	〔國國〕	六六	一	二
原 信太郎	〔東經〕	六六	一	二
輪澤 總明	〔新聞〕	六六	一	二
下野直太郎	〔會計〕	六六	一	二
武藤 長藏	〔國經〕	六六	一	二
添田 壽一	〔財經〕	六六	一	二
只見 徹	〔亞經〕	六六	一	二
服部文四郎	〔國經〕	六六	一	二
矢作 榮藏	〔國家〕	六六	一	二

日本銀行保證準備擴張の是非

勸業銀行と農工銀行との問題

銀行と企業金融

勸業及農工銀行の合併に就て

日本銀行兌換券發行法の改善に就て

銀行會計上の新科目解説

發券銀行と預金銀行

銀行の工業化に就て

銀行業に於ける繰延資産と負債

銀行會計組織の改善

我國銀行取引改善の根本方針

銀行引受手形の流通

我國の銀行と手形引受業務

國際銀行聯盟の必要

我國普通銀行の工業金融に就て

再び銀行なる名辭の由來に就て

本多 精一	〔財經〕	六七	一	二
河田 嗣郎	〔經叢〕	六七	一	二
富田久次郎	〔國家〕	六七	一	二
戸田 海市	〔經叢〕	六七	一	二
高岡 熊吉	〔經叢〕	六七	一	二
細井安次郎	〔商經〕	六七	一	二
飯田靜次郎	〔商經〕	六七	一	二
内藤 章	〔國家〕	六七	一	二
大崎 範一	〔會計〕	六八	一	二
兒林百合松	〔會計〕	六八	一	二
三宅嘉十郎	〔三學〕	六八	一	二
只見 徹	〔亞經〕	六八	一	二
松崎 壽	〔國經〕	六八	一	二
山成 喬六	〔財經〕	六八	一	二
松崎 壽	〔商經〕	六八	一	二
武藤 長藏	〔國經〕	六八	一	二

時代に逆行せる銀行

恐慌の對策と銀行業者

銀行業の對財界策

銀行の支拂承諾の内容に就て

我國銀行と貿易金融

近世銀行業の裏面

銀行原價計算の研究

銀行信用調査の科學的考察

事業資金と資金銀行の發達

銀行の本質に就きて

銀行資金發達概観

勸業兩銀行合併問題に就て

發券銀行の解放問題

有意義なる勸業兩銀の合併

日本銀行と輸入超過

勸業合併後の効果如何

東洋銀行設立の議

銀行簿記に關し初學者に與ふる書

信託業務と銀行業務の交渉

銀行犯罪の實務的豫防法

私案カード式特別當座預金

印鑑

岡部重一郎	〔財經〕	六九	一	二
大森 研造	〔經叢〕	六九	一	二
竹内 常治	〔東經〕	六九	一	二
三宅嘉十郎	〔三學〕	六九	一	二
松崎 壽	〔銀研〕	六九	一	二
目白 隱士	〔銀研〕	六九	一	二
木村秀太郎	〔銀研〕	六九	一	二
勝田 貞次	〔銀研〕	六九	一	二
泉 俊秀	〔銀行〕	六九	一	二
光山祐次郎	〔銀研〕	六九	一	二
飯田靜次郎	〔商經〕	六九	一	二
青木 得三	〔經究〕	六九	一	二
平野 清	〔商經〕	六九	一	二
黒田 英雄	〔東經〕	六九	一	二
今西 兼二	〔東經〕	六九	一	二
志村源太郎	〔東經〕	六九	一	二
後藤 新平	〔外時〕	六九	一	二
鈴木喜代助	〔銀研〕	六九	一	二
榎並 赴夫	〔銀研〕	六九	一	二
水津木 清	〔銀研〕	六九	一	二
森向 寛二	〔銀研〕	六九	一	二

銀行營業部の新組織ユニット・システム

地方開發上より見たる銀行支店制度

銀行組織問題管見

萬國中央銀行の提案

銀行信用狀の研究

銀行券の特質と其發行政策

銀行三大機關設立論

銀行内の諸規定

我國に於けるビルブローカー銀行

銀行の營業主義と專業主義

地方金融と勸業農工兩銀行の合同

事務取扱順序と所屬帳簿及傳票

保險及び銀行事業の相互化に就て

「銀行研究」の旅

特殊銀行解放の必要

私論銀行發展策

當座勘定に於ける積數の算定

木村秀太郎	〔銀研〕	六九	一	二
青森 忠恕	〔銀研〕	六九	一	二
遠山 貞一	〔銀研〕	六九	一	二
鈴木 良雄	〔三學〕	六九	一	二
柄澤 信吉	〔銀研〕	六九	一	二
松崎 壽	〔銀研〕	六九	一	二
遠山 貞一	〔銀研〕	六九	一	二
藤城 教二	〔銀研〕	六九	一	二
紀 清市	〔銀研〕	六九	一	二
春日井 薫	〔經商〕	六九	一	二
志村源太郎	〔財經〕	六九	一	二
鈴木喜代助	〔銀研〕	六九	一	二
栗津 清亮	〔國經〕	六九	一	二
中村三之丞	〔銀研〕	六九	一	二
堀江 歸一	〔銀研〕	六九	一	二
田邊 實郎	〔銀研〕	六九	一	二
白井 廉久	〔銀研〕	六九	一	二

ヴァンダリッップ氏の國際

銀行家	松崎 壽	〔銀研〕六二	二	三
當座勘定解法	木村秀太郎	〔國經〕六一	三	四
實地銀行事務	紀 清市	〔銀研〕六一	三	四
我國銀行經營の根本問題	松崎 壽	〔銀研〕六一	三	四
本邦地方銀行問題管見	榎並 越夫	〔銀研〕六一	二	三
本邦貨幣銀行制度管見	平野 清	〔銀研〕六一	三	三
銀行に於ける守衛の立場	守田 廣	〔銀研〕六一	三	三
交換所組合銀行の報告に就て	宮本 一郎	〔銀研〕六一	三	三
分業主義か兼業主義か	篠崎 成二	〔銀研〕六一	二	三
日銀兌換券發行高の季節的變動	沙見 三郎	〔經叢〕六一	二	三
預金と準備金と貸出に關する考察	木村秀太郎	〔銀研〕六一	二	三
生糸機關銀行設立論	草島完太郎	〔銀研〕六一	二	三
出納係の組織	水津木 清	〔銀研〕六一	二	三
證券銀行と兼管銀行	松崎 壽	〔銀研〕六一	二	三
銀行營業費に對する考察	遠藤 孝一	〔銀研〕六一	二	三
銀行の信用調査組織	寺澤進一郎	〔銀研〕六一	二	三
國際中央銀行論	清水文之輔	〔東經〕六一	二	三
日本銀行國有論	清水文之輔	〔東經〕六一	二	三
日銀制度改革の根本問題	平野 清	〔銀研〕六一	二	三
行員の技術的養成と人格的				

銀行員たるべき資格	川島 朝輝	〔銀研〕六一	二	三
銀行主要簿と其改善方法	藤城 敬二	〔銀研〕六一	二	三
銀行の企業的性質を論ず	石黒 武松	〔銀研〕六一	二	三
普通銀行の經營方針と銀行政策	細矢 祐治	〔銀研〕六一	二	三
工業銀行組織改善に對する考察	松島 喜作	〔銀研〕六一	二	三
爲替銀行本支店間計算制度に就て	川中 信也	〔銀研〕六一	二	三
電信爲替と銀行の權利義務	妹尾 一雄	〔銀研〕六一	二	三
銀行券の制限と預金の制限	奥田 勳	〔銀叢〕六一	二	三
金融機關の整備殊に銀行制度改善問題の要諦	杉 程次郎	〔新聞〕六一	二	三
銀行合同及地方銀行協會設立論	榎並 越夫	〔銀研〕六一	二	三
出納員に與へ併せて銀行關係者の一考を求む	不遇 多生	〔銀研〕六一	二	三
銀行検査制度に就て	藤城 敬二	〔銀研〕六一	二	三
銀行の被害程度と財界の前途	福井 源一	〔銀研〕六一	二	三
積銀破綻の真相と銀行改善の根本策	渡邊 仙南	〔銀研〕六一	二	三
財團金融と日本勸業銀行	松崎 壽	〔銀研〕六一	二	三
支店銀行制度に付て	奥田 勳	〔銀叢〕六一	二	三

養成	川中 信也	〔銀研〕六一	二	三	
傳票の改良方法に就て	松川 隼治	〔銀研〕六一	二	三	
支拂準備金問題の考察	奥田 勳	〔銀叢〕六一	二	三	
銀行犯罪の考察と豫防の研究	伊藤由三郎	〔銀叢〕六一	二	三	
銀行の廣告と預金吸收策	左右田誠一	〔銀研〕六一	二	三	
銀行と會計士の相互關係	佐藤 壽吉	〔銀研〕六一	二	三	
最近米國に於ける銀行論の	平野 清	〔銀研〕六一	二	三	
新著	松島 喜作	〔銀叢〕六一	二	三	
銀行概念明定の必要を論ず	杉 程次郎	〔銀叢〕六一	二	三	
金融機關の準備殊に銀行改善の要諦	安田銀行大合同の財界に及ぼす影響	神戶 正雄	〔銀叢〕六一	二	三
特殊銀行整理の標準	梶原 仲治	〔七〕六一	二	三	
當座元帳様式の研究	坂井 正	〔銀叢〕六一	二	三	
保證準備擴張問題私見	佐野 包治	〔銀叢〕六一	二	三	
銀行會計に於ける支出勘定と原價計算	藤谷 圓藏	〔銀研〕六一	二	三	
銀行の債券發行について	春日井 薫	〔經商〕六一	二	三	
出入金額欄位置改良私案	松川 隼治	〔銀研〕六一	二	三	
執務上より見たる組織改良の目標	松井 淳吉	〔銀研〕六一	二	三	
銀行代理事務獨立問題私見	榎並 越夫	〔銀研〕六一	二	三	

銀行資金の一考察	左右田誠一	〔銀叢〕六一	二	三
本邦普通銀行と外國爲替業務	加藤 和根	〔銀叢〕六一	二	三
特殊銀行の不始末を如何にする	堀江 歸一	〔エフ〕六一	二	三
銀行條例を改正すべし	成瀬 義春	〔財經〕六一	二	三
松崎教授著「銀行及金融」銀行會館なる名辭が二百年前支那に存せし事實の發見	細井安次郎	〔銀研〕六一	二	三
爲替書類の整理私案	武藤 長藏	〔商濟〕六一	二	三
銀行用度品購入の數理的研究	江浦 艇作	〔銀叢〕六一	二	三
執務上より觀たる他店勘定元帳の様式	二宮 皆太	〔銀研〕六一	二	三
我國銀行政策の缺陷	森田 桂山	〔銀研〕六一	二	三
銀行業整理問題	松崎 壽	〔銀研〕六一	二	三
殖民地銀行問題	堀江 歸一	〔エフ〕六一	二	三
銀行信用狀の統一	山本美越乃	〔銀叢〕六一	二	三
本邦金融組織と當面の銀行政策	柄澤 信吉	〔銀研〕六一	二	三
地方銀行と不動産金融	左右田誠一	〔銀研〕六一	二	三
災害防禦と銀行業務	小池 充彦	〔銀叢〕六一	二	三
爲替銀行改善問題私見	松島 喜作	〔銀叢〕六一	二	三
	松崎 壽	〔銀研〕六一	二	三

擔保商品調査の要諦	木原 三郎 [銀研] 六三	四七
本邦銀行帳簿式の創設者と その消息	瀨尾幸三郎 [銀研] 六二	四七
銀行員の智識養成に就て	川中 信他 [銀研] 六二	四七
銀行と保險會社との聯絡	荒木 秀一 [銀研] 六二	四七
平易なる銀行論	松島 喜作 [銀研] 六二	四七
地方銀行問題管見	榎並 越夫 [銀研] 六二	四七
救済問題と銀行及金融	横田 義夫 [銀叢] 六二	四七
銀行の保證債務の本質に就 て	石黒 武松 [銀研] 六二	四七
銀行恐慌と銀行革命	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
銀行と黨弊(實は日銀改革 問題)	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
信託會社と銀行	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
銀行監督問題	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
保證準備擴張と限外發行	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
銀行合同の氣運	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
銀行資本金制限の引上	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
普通銀行に於ける黨争の弊	神戸 正雄 [時經] 六二	四七
シドニー・ウェッブの銀行 國有論	松崎 壽 [商經] 六二	四七
銀行員の罪惡と部内突合法 との關係	川村 環一 [計理] 六二	四七
銀行重役の兼業を禁ぜよ	清水文之輔 [東經] 六二	四七

我國銀行の破綻の原因	大館 善壽 [洋經] 六二	一〇六
特殊銀行と普通銀行	松崎 壽 [商經] 六二	一〇六
銀行重役の責任	松波仁一郎 [新聞] 六二	一〇七
松波博士の銀行重役の責任 を讀みて偶感	高木友三郎 [新聞] 六二	一一四
我國銀行業の島歐的考察	石澤久五郎 [金融] 六二	一一
震災と銀行文書	藤城 敬二 [銀研] 六二	一一
營業報告書に就て	二宮 皆太 [銀研] 六二	一一
振替票計算區分に就て	松川 隼治 [銀研] 六二	一一
銀行保證業務の實際	妹尾 一雄 [銀研] 六二	一一
銀行合同より銀行聯合へ	石巻 良夫 [銀研] 六二	一一
經濟調査機關と銀行信用調 査機關	高村 光次 [金融] 六二	一一
銀行信用に關する一考案	五十子平 [金融] 六二	一一
Confirmed irrevocable bankers credits	松永 義雄 [辯協] 六二	一一
證券銀行を特設せよ	南波 禮吉 [エコ] 六二	一一
銀行原價計算と經費の解剖	藤城 敬二 [銀研] 六二	一一
銀行に於ける原價計算	太田 哲三 [金融] 六二	一一
「銀行に於ける原價計算」に 就て太田哲三氏の教を乞 ふ	木村秀太郎 [金融] 六二	一一
日銀發行制度改善と復興責 任	松崎 壽 [銀研] 六二	一一

銀行とは何ぞや	中村 光次 [銀叢] 六二	二二
銀行と信託會社の關係	細矢 祐治 [銀研] 六二	二二
銀行事務精査方法	三木 守 [銀研] 六二	二二
銀行業に於ける原價計算	陶山誠太郎 [商經] 六二	二二
銀行の本質	多田 喜一 [銀研] 六二	二二
今後の銀行界の趨勢	成瀬 正春 [銀叢] 六二	二二
一つの銀行理論	橋爪 明男 [經論] 六二	二二
フランスに於ける新刊銀行 論書	串本友三郎 [銀研] 六二	二二
企業豫算管理と銀行業	菅谷 重平 [銀叢] 六二	二二
商人救済と債權銀行援助策	正岡 勝男 [銀叢] 六二	二二
大陸銀行と英國銀行との差 異に就て	小山 英次 [銀叢] 六二	二二
銀行事業年度と其の名稱	高木 堅 [銀研] 六二	二二
送金案内に就て	小坂 珠城 [銀研] 六二	二二
銀行の本質	多田 喜一 [銀研] 六二	二二
富豪經營銀行の株式組織化 を論ず	橋本 良平 [銀研] 六二	二二
銀行破綻研究	米山 英利 [銀叢] 六二	二二
發行税廢止と銀行の合同	鈴木 穆 [エコ] 六二	二二
Confirmed bankers credits に就て	竹内 恕平 [銀研] 六二	二二
銀行分課制度の諸問題	藤城 敬二 [銀研] 六二	二二

出納係と計算係との連絡	松川 隼治 [銀研] 六二	二二
銀行積立金の考察	奥田 勳 [銀研] 六二	二二
地方銀行と信用調査組織	藤城 敬二 [銀研] 六二	二二
吾財界の前途と銀行の任務	保井 猶造 [銀叢] 六二	二二
銀行兼營と投資	竹内 恒吉 [銀叢] 六二	二二
労働銀行の物典	河島 海雄 [銀叢] 六二	二二
銀行の信用調査に就て	岩崎 静也 [銀叢] 六二	二二
工場財團抵當貸付手續	正岡 勝男 [銀叢] 六二	二二
臺銀鮮銀の發行制度改善問 題	松崎 壽 [銀研] 六二	二二
行詰れる都合大銀行の實務 對策	木村秀太郎 [銀叢] 六二	二二
銀行業の公共性を論じ山崎 博士の批評に答ふ	勝田 貞次 [三學] 六二	二二
財界恢復と銀行業者	高柳松一郎 [銀叢] 六二	二二
貸金庫取扱の理論と實際	山田 五郎 [銀叢] 六二	二二
相續法上の留保と不動産 抵當貸付	倉井 敏隆 [銀研] 六二	二二
銀行引受手形の發達を望む	今村 幸男 [銀叢] 六二	二二
銀行と保險との兼營	神戸 正雄 [時經] 六二	二二
銀行と信託會社との關係	松崎 壽 [商經] 六二	二二
支拂承諾を論ず	稻坂 碯 [銀叢] 六二	二二
銀行と手形引受業者との關 係	松崎 壽 [商經] 六二	二二

保證準備擴張論と金利問題	結城豊太郎	〔エコ〕六三	二	二〇
ギルド社會主義者の銀行管理論	上田貞次郎	〔財經〕六三	二	二
保證準備擴張の是非	堀江 歸一	〔エコ〕六三	二	二
銀行の取引擴張策	マク・グレー	〔銀叢〕六二	二	一
金融界の溝紋と銀行の安處	伊庭 謙造	〔銀研〕六四	九	一
銀行監督の現狀と銀行條例改正の急務	木村秀太郎	〔金融〕六四	二	一
銀行國有と獨立労働黨	春日井 薫	〔銀研〕六四	九	一
銀行の人事行政と其運用	藤城 敬二	〔銀研〕六四	九	一
銀行の新經營法	勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	一
銀行營業部の分課と其改善	藤城 敬二	〔銀研〕六四	八	一
銀行發展策と行員問題	勝田 貞次	〔銀研〕六四	九	二
銀行減配論(銀行業の裏面)	目白 隠士	〔銀研〕六四	九	二
取立の技術的並に省察的要素	松岡 都城	〔銀研〕六四	九	二
中世寺院法と銀行業	山口正太郎	〔銀研〕六四	八	一
銀行兼管論	松山 五葉	〔銀叢〕六四	五	一
銀行預金の原價計算法に就て	末松 留男	〔銀研〕六四	九	二
貨幣及銀行兩主義の貨幣理論と銀行券發行制度	中西 仁三	〔經研〕六四	二	二
若干時論に關説されたる銀行				

行論序説	高島佐一郎	〔國經〕六四	三九	二
銀行並に信託會社に對する政策	堀江 歸一	〔エコ〕六四	三	二
銀行問題短評	早川 清	〔銀叢〕六四	五	二
銀行營業部の分課組織改良案	勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	二
青年銀行員に對する希望	星野 行則	〔銀叢〕六四	五	三
銀行減配問題と銀行監督の革新	石卷 良夫	〔銀研〕六四	九	二
當座振入制度の改良を論じ併て各地組合銀行に望む信用受授と銀行の責任	水野 淳二	〔銀研〕六四	八	二
内外銀行金融島瞰	佐々木助之助	〔銀叢〕六四	四	二
再燃したる銀行合同及極致點	山村 峻吉	〔銀叢〕六四	四	二
財界の不況と銀行政策	松尾 藤平	〔銀叢〕六四	五	二
當座振込に就て小坂氏に質す	本田 文雄	〔銀叢〕六四	五	二
當座振込に就て水野氏に答ふ	水野 淳二	〔銀研〕六四	九	二
再び當座振込に關し小坂氏に質す	小坂 珠城	〔銀研〕六四	九	三
當座振込に關する檢討を評す	水野 淳二	〔銀研〕六四	九	四
	高木武比古	〔銀研〕六四	九	五

銀行經營上原價計算の應用に就て	桐生 梅吉	〔銀叢〕六四	年	四	六
家督相続による不動産擔保	太田 義繁	〔銀研〕六四	八	三	
貸越契約の承繼に就て	戸田 常造	〔銀叢〕六四	五	三	
地方銀行と不動産の制限的資金化	小坂 珠城	〔銀研〕六四	八	三	
銀行の出張所制度に就て	荒井 海一	〔銀研〕六四	九	三	
日銀營業週報の見方	勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	三	
全銀行分課組織の基調	勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	三	
銀行發展策と預金撥收問題	勝田 貞次	〔銀研〕六四	九	三	
銀行出張所の事務取扱方法	小坂 珠城	〔銀研〕六四	九	三	
銀行と通貨創設	越智 昌三	〔經研〕六四	三	三	
電話擔保の理論と其手續	市川 修三	〔銀叢〕六四	四	三	
支拂承諾に就て	岡上虎三郎	〔銀研〕六四	八	三	
再び仕拂承諾に就て	岡上虎三郎	〔銀研〕六四	九	三	
銀行に於ける保證業務に就て	妹尾 一雄	〔銀研〕六四	八	三	
保證準備擴張の説	堀江 歸一	〔エコ〕六四	三	三	
保證準備擴張論	神原 二郎	〔銀研〕六四	八	三	
銀行の諸給與規定研究	野口 作平	〔銀叢〕六四	四	三	
銀行關係法律問題	大田 孝平	〔銀叢〕六四	四	三	
銀行の信用と其利益	須佐美芳男	〔銀研〕六四	八	三	
普通銀行の國際金融業務	松崎 壽	〔銀研〕六四	八	三	
銀行と貨幣との關係	高宮 誠	〔金融〕六四	二	九	

我國に於ける銀行集中の趨勢と銀行政策に就て	黒川 芳藏	〔同論〕六四	一	二六
特殊銀行整理の目標	平野 清	〔エコ〕六四	三	二五
爲替副報告再使用より起る銀行犯罪豫防法	中山 茂樹	〔銀叢〕六四	四	四
銀行に於ける代表役員組織の運用と其效果	勝田 貞次	〔銀研〕六四	八	四
銀行發展策と貸付業務の改善	勝田 貞次	〔銀研〕六四	九	四
ブラットの「銀行破綻の原因と其對策」	木村 祐雄	〔銀研〕六四	九	四
銀行に於ける貸金庫事務	藤城 敬二	〔銀研〕六四	九	四
當座入金票の本質と印紙稅	早川 四郎	〔銀研〕六四	八	四
最近東京に於ける銀行勘定	前田 薫一	〔金融〕六四	二	九
銀行關係の稅制整理に就て	岡田 純夫	〔銀研〕六四	九	五
特殊銀行整理の前提	成瀬 義春	〔財經〕六四	二	一五
銀行の社會的考察	黒川 芳藏	〔同論〕六四	一	一八
銀行の本質と金融組織の歸趨	勝田 貞次	〔銀叢〕六四	五	五
銀行と改正破産法に就て	末松 留男	〔銀研〕六四	九	五
銀行制度の改善難	松崎 壽	〔銀研〕六四	九	五
銀行制度に於ける兼營主義と分業主義との接近	田中 金司	〔國經〕六四	三九	一
信託預金と銀行定期預金の				

送與を論ず
日英商銀行の對照
銀行制度の改善
普通銀行と不動産貸付
銀行組合論
銀行組合法の制定を望む
銀行の廣告法に就て
手形貸付動産擔保貸付の擔保品保管方法を論ず
銀行の減配報告と協定勵行
我國銀行界の病弊
送金の事務的要諦
銀行検査部實務誌
労働銀行運動
銀行に於ける原價計算
都下五大銀行損益計算
吾國商業銀行に適當なる信用調査方法
近代的銀行機能と經濟社會
吾が銀行生活
我國銀行の支拂準備金問題
銀行の活動寫眞宣傳

武田貞之助	〔新聞〕	六二〇	一	二五九
松尾 藤平	〔銀叢〕	六二〇	一	二六〇
高城仙太郎	〔金融〕	六二〇	二	二六〇
豊田久和保	〔金融〕	六二〇	二	二七〇
宗像 久敬	〔金融〕	六二〇	二	二七〇
石卷 良夫	〔銀研〕	六二〇	八	二七〇
小西 次郎	〔銀研〕	六二〇	八	二七〇
大森 繁治	〔銀叢〕	六二〇	五	二七〇
神戸 正雄	〔時經〕	六二〇	一	二七〇
神戸 正雄	〔時經〕	六二〇	一	二七〇
都上 城三	〔銀叢〕	六二〇	六	二七〇
藤城 敬二	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
木村秀太郎	〔銀叢〕	六二〇	一	二七〇
三木 守	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
稻葉新三郎	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
江崎 一造	〔銀叢〕	六二〇	六	二七〇
多田 喜一	〔銀研〕	六二〇	三	二七〇
松山 五葉	〔銀叢〕	六二〇	六	二七〇
山田 秀苗	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
大野 喜一	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
相野 喜一	〔銀研〕	六二〇	一	二七〇
林田和三郎	〔銀叢〕	六二〇	六	二七〇

日銀保證準備制度について
歐洲諸國の發券銀行と幣制
銀行の固定貸付と其整理
銀行破綻の救済策は銀行合同にあり
再割引依頼銀行の法律上の地位
銀行家の立場より見たる貸借對照表
銀行業務の刷新
銀行集中と銀行聯合
我國銀行取付原因の一考
特別當座預金利息計算便法に就て
銀行員の福祉的施設
「送金の事務的要諦」に關し都上氏の教を乞ふ
銀行の記帳規定
特別當座預金照査事務に就て
金錢信託と定期預金
銀行出張所原價計算の研究
景氣循環と銀行
コール資金の移動と株式受

井上辰九郎	〔銀叢〕	六二〇	六	二七〇
鈴木 平吉	〔國經〕	六二〇	三	二七〇
堀江 歸一	〔エゴ〕	六二〇	四	二七〇
岩崎 博	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
妹尾 一雄	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
長谷川忠平	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
成瀬 義春	〔財經〕	六二〇	一〇	二七〇
小西 次郎	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
堀井 品三	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
森下 武二	〔銀叢〕	六二〇	一〇	二七〇
早川 隆次	〔銀叢〕	六二〇	一〇	二七〇
佐藤 正雄	〔銀叢〕	六二〇	一〇	二七〇
松山 岩根	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
中村 進午	〔銀叢〕	六二〇	一〇	二七〇
細矢 祐治	〔銀研〕	六二〇	一〇	二七〇
竹田 英吉	〔會計〕	六二〇	一〇	二七〇
岩崎 勳	〔銀叢〕	六二〇	一〇	二七〇

波
行員待遇の精神及方法
預金係と出納係
銀行合同の銀行經營及利潤に及ぼす影響
銀行國營論に就て
普通銀行改善問題の要諦
特別預金通帖喪失無効廣告
銀行の本店支店及出張所に就て
貯蓄銀行法の供託制度
日本銀行改善の問題
日本銀行の兌換準備
銀行制度の改善
銀行社會化論
銀行と證券市場
獨逸式銀行簿記法
地方銀行の經營權
銀行合同
銀行合同と震災手形

岡田 純夫	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
都上 城三	〔銀叢〕	六二〇	六	二六〇
未吉 留男	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
岩崎 博	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
三上 太一	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
松崎 壽	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
松村 勝利	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
武谷 成直	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
服部 末治	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
堀江 歸一	〔エゴ〕	六二〇	六	二六〇
堀江 歸一	〔エゴ〕	六二〇	六	二六〇
堀江 歸一	〔エゴ〕	六二〇	六	二六〇
春日井 薫	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
菊本直次郎	〔イン〕	六二〇	六	二六〇
申本友三郎	〔銀研〕	六二〇	六	二六〇
神戸 正雄	〔時經〕	六二〇	六	二六〇
神戸 正雄	〔時經〕	六二〇	六	二六〇
神戸 正雄	〔時經〕	六二〇	六	二六〇
山内 正蔵	〔新報〕	六二〇	六	二六〇
山崎覺次郎	〔國家〕	六二〇	六	二六〇

英獨兩國に於ける中央銀行問題
英國銀行に關する研究
英國の銀行準備金問題
英國銀行の職務と組織
倫敦金融と外國銀行支店
英國銀行經營の比較研究
一九一四年八月に於ける倫敦金融市場と英國銀行
英國銀行條例停止願末史料
英國貿易銀行設立計畫
英國銀行條例改正論
英國銀行の一般備員に就いて
最近英國銀行界の趨勢
英國銀行制度の革新に就て
英國に於ける銀行合同の趨勢と其特色
英國銀行の兌換制度改善問題
英國銀行の比較研究
英國銀行合同論
英國銀行研究
英國銀行準備金問題

堀江 歸一	〔國經〕	六二〇	七	二六〇
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	七	二六〇
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	七	二六〇
池島 誠三	〔國家〕	六二〇	七	二六〇
高島佐一郎	〔國經〕	六二〇	七	二六〇
飯島 橋司	〔國經〕	六二〇	七	二六〇
飯島 橋司	〔國經〕	六二〇	七	二六〇
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	七	二六〇
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	七	二六〇
宿 瘤 子	〔財經〕	六二〇	七	二六〇
小野 壽三	〔銀研〕	六二〇	七	二六〇
藤城 敬二	〔銀研〕	六二〇	七	二六〇
堀江 歸一	〔三學〕	六二〇	七	二六〇
松崎 壽	〔銀研〕	六二〇	七	二六〇
松島 喜作	〔銀叢〕	六二〇	七	二六〇
十龜 盛次	〔銀研〕	六二〇	七	二六〇
北崎 進	〔經商〕	六二〇	七	二六〇
青地玄三郎	〔長彙〕	六二〇	七	二六〇

倫敦市場に於けるビルプロ ーカール業	池田 了實 [銀研] 大三 年 六 卷 三 號
大陸銀行と英國銀行との差 異に就て	小山 英次 [銀叢] 大二三 前田 惟一 [銀研] 大二三 松尾 藤平 [銀叢] 大二三 太田黒敏夫 [經商] 大三四 二
倫敦割引市場に就て	根岸 信 [國經] 四一 五 世古小次郎 [國經] 四三 八 村田 俊彦 [國家] 大四 二九 三宅嘉十郎 [三學] 大五 一〇 一宮辰次郎 [財經] 大五 三
日英商事銀行の對照	支那に於ける外國銀行と其 改良
英國銀行の發行法と新貨幣 制度の樹立	上海に於ける銀行組織 日支銀行を論ず 日支銀行法案概評 日支銀行と滿洲銀行 支那に於ける外國銀行の爲 替業務
	武藤 長藏 [商濟] 大二三 三 一
	木村増太郎 [亞經] 大七 二 木村増太郎 [亞經] 大七 二 善生 永助 [財經] 大八 二 及川 恒忠 [亞經] 大八 二
	支那の錢莊 支那新式銀行の發達 錢莊の發達に就て 銀行會館なる名辭が二百年 前支那に存せし事實の發 見

阪谷博士の朝鮮銀行監督權 論を駁す	黒澤 龍演 [東經] 四四 六三 一 神戶 正雄 [時經] 大三 一 三
鮮銀の改造	松崎 壽 [銀研] 大二三 六 鈴木 穆 [エコ] 大三四 三 八
臺銀鮮銀の發行制度改善問 題	平尾 丹治 [國經] 四〇 三 山崎覺次郎 [國經] 四一 五 神戶 正雄 [京法] 四一 三 一
鮮銀不始末の眞因	堀江 歸一 [國經] 四一 七 六
獨逸銀行界の集中的新傾向 日獨中央銀行の制限外發行 に就て	神戶 正雄 [京法] 大二 八 林屋友次郎 [三學] 大三 八 一 豊崎善三助 [財經] 大三 一 一〇 十龜 盛之 [東經] 大七 一七 四 高島佐一郎 [國經] 大九 一 一三 宗像 久敬 [國家] 大九 二九 八 大矢和 昇 [三學] 大七 三 一 森田 藤吉 [商經] 大八 一 一 大森 研造 [經叢] 大九 一〇 一
獨逸銀行事情一斑	
英國兩國に於ける中央銀行 問題	
獨逸に於ける地方團體共同 銀行の設立案	
獨逸大銀行の發達	
獨逸の海外銀行政策比較	
獨逸大商事銀行の一端	
英國銀行經營の比較研究	
獨逸帝國銀行の振替業務	
獨逸兼管銀行論	
戰時及戰後の獨逸銀行	
獨逸大銀行の取引所仲立業 に就きて	

英獨銀行の比較研究	松島 喜作 [銀叢] 大二三 年 一 卷 二 號
獨逸に於ける銀行及信用組 織發達の概要	住吉 四郎 [銀叢] 大二三 一 一 中村三之丞 [銀研] 大二三 五 二 オーブスト [銀研] 大二三 五 三
獨逸銀行物語	須美 芳夫 [銀叢] 大二三 一 六
獨逸大銀行の組織部	申本友三郎 [銀研] 大二三 四 七
獨逸大銀行の商工業に對す る關係	堀江 歸一 [エコ] 大二三 一 七
獨逸に於ける銀行論の二名 篇と其著者	濱野 壽 [銀研] 大二三 七 一 大森 研造 [經叢] 大二三 九 一 佐久間 勝 [保難] 大二三 二 三
獨逸の金融と中央銀行 信用狀に關する獨逸銀行の 協定	須美 芳夫 [銀叢] 大三四 四 一 菅谷 重平 [銀研] 大三四 五 二 城戸 住三 [銀研] 大三四 五 二
獨逸レンテン銀行に就て	申本友三郎 [銀研] 大三四 九 四
獨逸レンテン・バンク並に レンテン・マルクに就て	申本友三郎 [銀研] 大三四 八 四
獨逸に於ける銀行勘定の支 拂方法	申本友三郎 [銀研] 大三四 八 五
獨逸に於ける農業金融銀行	
獨逸信用銀行の私經濟的研 究の資料	
獨逸に於ける工業銀行の發 達	
獨逸に於ける銀行と工業と の關係	

獨逸信用銀行の本質	申本友三郎 [銀叢] 大三四 五 五
獨逸に於ける銀行と商業と の關係	申本友三郎 [銀研] 大三四 九 八 二 二 三 六
獨逸帝國銀行の金券發行制 度	增井 光藏 [國經] 大三四 三 三
獨逸銀行業に於ける原價計 算問題	申本友三郎 [銀研] 大三四 一〇 一 一 一 四 三
最近獨逸に於ける Aufrich- tungの問題	生島廣治郎 [銀叢] 大三五 六 一
佛蘭西銀行の紙幣發行制限 擴張に就て	堀江 歸一 [國經] 四三 一 一 豊崎善之助 [財經] 大三一 一 一〇
獨逸の海外銀行政策比較	高島 誠一 [國家] 大三四 二九 二 松崎 壽 [商經] 大六 一 六
佛蘭西銀行の戰時方策に關 する研究	高島 誠一 [國經] 大七 二 四 四
佛蘭西銀行論	藤村 忠 [銀研] 大三四 九 一
佛蘭西銀行特許延長と同行 及佛蘭西政府間の新協定	小川福太郎 [商工] 大三五 一 三
チエミナントの「佛伊の銀 行制度」	
佛蘭西に於ける銀行集中の 概観	
米國銀行概観	土子金四郎 [國家] 四三 四 三 六

紐育銀行の概況(講演)
米國中央銀行設立問題
北米合衆國々立銀行券
米國投資銀行家協會の設立
州立銀行の位置
銀行財政の交錯點並に預金
組織への進展運動殊に米
國の聯合準備の新法に就
て

州立銀行論
ヤツフエ教授の米國銀行制
度改革法案論
米國聯邦準備法の價值
米國聯合準備條例
米國銀行制度の新型
米國聯邦準備銀行の現在及
將來
合衆國に於ける非常座貸越
主義の傾向
再論米國聯邦準備制度の運
用
米國銀行實務に關する新著
米國に於ける割引改革の問
題

土子金四郎	〔國家〕	四二	三	二二
松田 暢	〔三學〕	四三	三	二二
山室 宗文	〔國家〕	四四	二五	八
丹羽 豊	〔東經〕	四五	六	一六七
武田 英一	〔國經〕	六二	二四	六
高島佐一郎	〔三學〕	六三	八	二
十能 盛次	〔日經〕	六三	一四	二一
飯島 幡司	〔國經〕	六三	二六	二一
高島佐一郎	〔國經〕	六三	二六	二一
飯島 幡司	〔國經〕	六三	二七	一
堀江 歸一	〔三學〕	六五	二〇	六
中村三之丞	〔銀研〕	六〇	一	一
深山真之助	〔銀研〕	六一	二	一
高島佐一郎	〔國經〕	六二	三	一三
細井安次郎	〔銀研〕	六二	三	六
松崎 壽	〔國經〕	六二	三	一四

聯邦準備銀行の割引歩合變
動の效果
北米合衆國聯邦準備制度
米國銀行經營の實際と學說
預金者の保護に關する米國
の制度
米國に於ける支店銀行制度
と獨立銀行制度
米國に於ける放資銀行
米國銀行組織の根本的精神
米國銀行と内國爲替業務
米國に於ける銀行信用制度
の發達
米國の聯邦農業銀行制度
米國銀行と信用調査部
米國労働銀行の發達
米國割引市場の諸問題
米國銀行制度史論
米國國立銀行制度史論
米國國立銀行制度の缺陷
聯邦準備制度の創設及組織
米國銀行業研究
米國に於ける預金通貨制度
の改革

平野 清	〔商經〕	六一	一	二六
太田黒敏男	〔經商〕	六二	二	一七
松崎 壽	〔銀研〕	六三	五	二
松崎 壽	〔國經〕	六三	四	三
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	四	三
北村廣太郎	〔銀叢〕	六三	一	六
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	四	六
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	四	六
スタイナー	〔洋經〕	六三	一	一〇
春日井 薫	〔銀研〕	六三	六	一
小山 英次	〔銀叢〕	六三	二	六
岩城 弘一	〔銀研〕	六三	六	三
岩崎 博	〔銀研〕	六三	七	六
奥田 勳	〔銀叢〕	六三	二	一
奥田 勳	〔銀叢〕	六三	三	一
奥田 勳	〔銀叢〕	六三	三	一
奥田 勳	〔銀叢〕	六三	三	一
奥田 勳	〔銀叢〕	六三	三	一
勝田 貞次	〔金融〕	六四	二	一
奥田 勳	〔銀研〕	六四	九	四

米國銀行業の悲劇
大戰後の聯邦準備銀行の機
能
紐育に於ける銀行貸付業務
の研究
預金者の保護に關する米國
の制度
聯邦準備制度史論
米國労働組合の銀行經營に
付て
合衆國に於ける労働銀行の
發達
米國聯邦準備銀行の割引政
策
米國に於ける労働組合の銀
行經營運動
米國聯邦準備銀行と其の累
進割引歩合
米國労働者運動の發達
米國に於ける支店銀行問題
合衆國に於ける労働銀行に
就いて
米國に於ける銀行支店設置
問題

三上 太一	〔銀研〕	六二	九	五
岩崎 博	〔銀研〕	六四	九	五
岩崎 静也	〔銀叢〕	六四	四	五
太田黒敏男	〔經商〕	六四	四	五
奥田 勳	〔銀叢〕	六四	五	六
岩崎 静也	〔銀叢〕	六四	五	六
陸奥國太郎	〔銀研〕	六四	八	六
中村 重夫	〔國家〕	六四	元	八
長岡保太郎	〔社政〕	六四	一	六〇
古坂 崑城	〔經評〕	六四	一	一
金内 良輔	〔金融〕	六四	二	一
岩崎 博	〔銀研〕	六五	一〇	一
松岡 孝兒	〔經叢〕	六五	三	三
加藤 信夫	〔國家〕	六五	四〇	三

米國銀行界の面接しつゝあ
る諸問題
聯邦準備制度の發展(米國
銀行制度史論五節)
米國に於ける銀行犯罪の實
例

滿洲
滿洲特設銀行問題に就て
日支銀行と滿洲銀行
日滿合辦滿洲中央銀行設立
の急務

歐 羅 巴
歐洲戰時の中央銀行
戰後に於ける歐洲各中央銀
行

歐 洲
歐洲に於ける銀行制度

露 西 亞
露國銀行業一斑
勞農露西亞の通貨と銀行業
ロシアに於ける銀行の發達

其 他
埃甸國銀行の外國爲替政策
瑞西の取引所及銀行
印度に於ける中央銀行問題

岩崎 博	〔銀研〕	六五	一〇	四
奥田 勳	〔銀叢〕	六五	六	六
富井政治郎	〔銀研〕	六五	二〇	七
日村伊三郎	〔日經〕	六三	一五	八
一宮辰次郎	〔財經〕	六五	三	三
西山 榮久	〔外時〕	六五	四三	五
堀江 歸一	〔三學〕	六四	九	二
松野清次郎	〔商經〕	六八	一	三
松野清次郎	〔資料〕	六五	二	三
平野 清	〔商經〕	六二	一	一〇
田中 九一	〔金融〕	六五	三	一
久山寅一郎	〔三學〕	四三	三	一
森田 藤吉	〔商經〕	六六	一	一
海老原竹之助	〔國經〕	六七	二五	一

埃倫銀行の破産及清算に就て
南亞に於ける中央銀行設立
加奈陀銀行制度の概要
チニミナントの「佛伊の銀行制度」

- 青木 得三〔経究〕大〇 一 卷一 一
- 松崎 壽〔國經〕大〇 三 卷一 六
- 青木 一夫〔銀叢〕大 四 二 卷一 四六
- 藤村 忠〔銀研〕大 四 九 卷一 一

【禁治産者】 参照能力。

禁治産者の行為の效力
禁治産者の法律行為と後見人の同意
法定代理人の同意を得て禁治産者が爲したる法律行為の效力
丁抹國禁治産制度と我法例の關係
禁治産者の爲したる單に權利を得義務を免るべき行為と其取消
禁治産宣告前心神喪失の常況に在る者に對する訴狀送達の效力

- 芳流 學人〔新報〕四九 六 卷一 六九
- 乾 政彦〔法協〕大 三 三 卷一 八二
- 石坂晋四郎〔志林〕大 四 一 卷一 一
- 謝花 寛濟〔新聞〕大 七 一 卷一 一四七
- 長島 毅〔新報〕大 九 三 卷一 三
- 多田 吉鍾〔朝司〕大 一 一 卷一 二

【禁酒】 参照アルコール。酒。
禁酒と法律
片山醫學博士の禁酒法案に就て
米國禁酒法の經過
禁酒論の根柢

【近東】 東方問題を見よ

- 海野 幸徳〔刑評〕四 五 卷一 四
- 牧野 英一〔法協〕大 三 三 卷一 二
- 大内 兵衛〔國家〕大 八 三 卷一 九
- 播磨 龍城〔新聞〕大 三 一 卷一 三三〇

【金融】

金融政策
金融に就て
全國要地に於ける資金移動の調査
郵便爲替貯金資金の運用
外國通貨銀行金融に關する要報
再び郵便爲替貯金資金の運用

- 岩村彌太郎〔國家〕四 四 二 卷一 一
- 服部文四郎〔外時〕四 四 一 卷一 一六九
- 井上準之助〔國家〕四 五 二 卷一 四
- 添田 壽一〔國家〕四 五 二 卷一 四
- 松崎 壽一〔日經〕四 五 二 卷一 五
- 北崎 進〔東經〕四 五 二 卷一 二六三
- 池島 誠三〔日經〕四 五 二 卷一 二七八
- 神戸 正雄〔日經〕大 〇 一 卷一 三
- 高島佐一郎〔國經〕大 二 五 卷一 一
- 小林丑三郎〔日經〕大 二 四 卷一 一
- 小島憲一郎〔日經〕大 二 四 卷一 二
- 服部文四郎〔日經〕大 二 四 卷一 二
- 池島 誠三〔日經〕大 二 四 卷一 三
- 小林丑三郎〔日經〕大 二 三 卷一 六
- 海老原竹之助〔日經〕大 二 三 卷一 七
- 松崎 壽一〔日經〕大 二 三 卷一 八
- 坂本 陶一〔國經〕大 三 二 卷一 一
- 志村源太郎〔財經〕大 三 一 卷一 一
- 船尾榮太郎〔三學〕大 三 一 卷一 二
- 鹽澤 昌貞〔財經〕大 三 一 卷一 三

用を論ず

財界の集權的傾向
經濟財政金融策
日本金融市場に就て
フアイナンシャを論ず
國庫と金融機關
戦後の金融
財界現下の趨勢
「現代金融史」を讀む
外資輸入
國際金融市場に於ける割引政策
外資輸入に就て
日本興業銀行と外資輸入
金融と公債
外資輸入に關する外人の意見
外資輸入に關する外人の意見
見
金融と外資
株式取引所と金融市場との關係
非外金借入論
資金調達論

- 下村 宏〔國經〕四 〇 三 卷一 一
- 松崎藏之助〔日經〕四 〇 三 卷一 一六
- 田尻稻次郎〔日經〕四 一 二 卷一 一
- 仁科真太郎〔國經〕四 一 二 卷一 一
- 關 一〔國經〕四 一 二 卷一 二
- 無名氏〔日經〕四 一 三 卷一 三五
- 小林丑三郎〔明學〕四 一 三 卷一 二五
- 山形 東根〔東經〕四 一 三 卷一 二六
- 丹羽 筑山〔東經〕四 一 三 卷一 二六
- 田中 榮〔國經〕四 一 三 卷一 二六
- 服部文四郎〔外時〕四 一 三 卷一 三
- 河津 暹〔日經〕四 一 三 卷一 七
- 添田 壽一〔東經〕四 一 三 卷一 七〇
- 阪田 實〔東經〕四 一 三 卷一 七〇
- ジエニキヤス〔洋經〕四 一 三 卷一 七二
- プレストン〔洋經〕四 一 三 卷一 七二
- 土方 久徹〔洋經〕四 一 三 卷一 七二
- 北内 楠雄〔國經〕四 三 八 卷一 一六
- 溝淵 實吉〔東經〕四 三 六 卷一 一六
- 服部 春一〔東經〕四 三 六 卷一 一六

資金輸出論

最近國際金融市場と日本銀行
工業資金の調達に付て
工業資金の調達に付て
商業銀行と工業資金
低利資金の米價に及ぼせる影響如何
在外資金に關する當局説明の矛盾
地方金融に就きて
金融界に於ける仲立人
下層金融機關に就て
資金利用の說
在外資金論
近時の財政と金融
工業資金問題
瀧澤氏の稿本日本金融史論を讀む
下層社會の金融機關の公營
農工資金充實の急務
金融會社の先驅及其類例
基金制定の條件

- 岩村彌太郎〔國家〕四 四 二 卷一 一
- 服部文四郎〔外時〕四 四 一 卷一 一六九
- 井上準之助〔國家〕四 五 二 卷一 四
- 添田 壽一〔國家〕四 五 二 卷一 四
- 松崎 壽一〔日經〕四 五 二 卷一 五
- 北崎 進〔東經〕四 五 二 卷一 二六三
- 池島 誠三〔日經〕四 五 二 卷一 二七八
- 神戸 正雄〔日經〕大 〇 一 卷一 三
- 高島佐一郎〔國經〕大 二 五 卷一 一
- 小林丑三郎〔日經〕大 二 四 卷一 一
- 小島憲一郎〔日經〕大 二 四 卷一 二
- 服部文四郎〔日經〕大 二 四 卷一 二
- 池島 誠三〔日經〕大 二 四 卷一 三
- 小林丑三郎〔日經〕大 二 三 卷一 六
- 海老原竹之助〔日經〕大 二 三 卷一 七
- 松崎 壽一〔日經〕大 二 三 卷一 八
- 坂本 陶一〔國經〕大 三 二 卷一 一
- 志村源太郎〔財經〕大 三 一 卷一 一
- 船尾榮太郎〔三學〕大 三 一 卷一 二
- 鹽澤 昌貞〔財經〕大 三 一 卷一 三

財界に對する我輩の希望
 利子歩合に及ぼす外資輸入
 の影響
 庶民金融に就て
 外資と戦争
 金融ツラスト論
 戦時財界雜感
 金融調節策如何
 最近の金融問題
 金融の大勢と金利
 戦時戦争と金融組織
 金融機關としての無盡業
 戦後の我が金融
 金融機關改善問題
 証券金融機關の將來
 戦後世界の金融
 歐洲戦争と資金の關係
 歐洲大戦と我國の財界
 憂ふべき財界の傾向
 米價の調節と農民の金融問
 題
 歐洲戦時に於ける米國の金
 融政策並に聯合準備金法
 の運用

藤田 主計	〔日經〕大	三二	二	四
高城仙次郎	〔三學〕大	三三	八	四
志水 美英	〔日經〕大	三三	六	四
服部文四郎	〔國經〕大	三三	二	四
十龜 盛次	〔國家〕大	三三	二	四
志立鐵次郎	〔財經〕大	三三	二	四
添田 壽一	〔財經〕大	三三	二	四
谷村一太郎	〔經叢〕大	三三	二	四
添田 壽一	〔財經〕大	三三	二	四
高島佐一郎	〔國家〕大	三三	二	四
馬場 儀一	〔新報〕大	三三	二	四
小林丑三郎	〔財經〕大	三三	二	四
添田 壽一	〔財經〕大	三三	二	四
丹羽 豊	〔東經〕大	三三	二	四
小川郷太郎	〔經叢〕大	三三	二	四
片山 潜	〔洋經〕大	三三	二	四
長島 隆二	〔國經〕大	三三	二	四
澁澤 榮一	〔財經〕大	三三	二	四
山本美越乃	〔京法〕大	三三	二	四
堀江 歸一	〔三學〕大	三三	二	四

金融に及ぼす大戦の影響
 對支經營と金融機關
 一九一四年末に當り金融の
 將來を憶ふ
 一九一四年十一月戦時金融
 の前途
 金融調節の愚策
 工業金融について
 下層金融と國民性
 金利と金融との關係
 再び金融と金利との關係に
 就て
 金融調節の效果如何
 金融界に於ける自然淘汰
 金融市場に於ける市況の研
 究
 長期貸借と短期貸借
 金融情勢の逆轉
 地方金融の改善と銀行組織
 資金供給論
 資金需用論
 戦後の財界と覺悟
 地方金融と銀行組織に關す
 る補論

向井 鹿松	〔三學〕大	四九	九	五
添田 壽一	〔財經〕大	四二	二	九
高島佐一郎	〔三學〕大	四九	九	四
高島佐一郎	〔三學〕大	四九	九	四
堀江 歸一	〔財經〕大	四二	二	九
山田 利洋	〔東經〕大	四七	二	八
神戶 正雄	〔經叢〕大	四一	一	二
渡邊 鐵藏	〔國家〕大	四五	五	五
渡邊 鐵藏	〔國家〕大	四五	五	五
伊藤 欽亮	〔財經〕大	四五	三	三
十龜 盛次	〔國經〕大	四五	二	二
渡邊 鐵藏	〔國家〕大	四五	五	五
高城仙次郎	〔三學〕大	四五	三	三
伊藤 欽亮	〔財經〕大	四五	三	三
本多 精一	〔財經〕大	四五	三	三
高城仙次郎	〔三學〕大	四五	三	三
高橋 是清	〔國經〕大	四五	四	四
本多 精一	〔財經〕大	四五	三	三

ウキザース氏の新著「國際
 金融」を讀む
 工業金融改良の點
 農工業金融に關する補論
 倉庫と金融
 工業金融の改善と日本興業
 銀行
 生絲金融に就て
 工業金融に就て
 戦中戦争の世界財界
 米價調節を兼たる農家金融
 便法
 金融調節は景氣持續の要道
 過去一ヶ年に於ける財政經
 済の大勢
 金融系統論
 本邦海外金融問題管見
 貿易に對する金融の改善
 金融政策に關する當面の諸
 問題
 不動産資金化と銀行系統
 地方金融改善の捷徑
 爲替資金の調達策に就きて
 戦後經濟準備と資金充實策

飯島 幡司	〔國經〕大	五二	二	五
佐伯 貴範	〔財經〕大	五二	二	五
本多 精一	〔財經〕大	五二	二	五
清崎 昌雄	〔三學〕大	五二	二	五
添田 壽一	〔財經〕大	五二	二	五
内藤 章	〔國經〕大	五二	二	五
志立鐵次郎	〔洋經〕大	五二	二	五
井上辰九郎	〔洋經〕大	五二	二	五
木村貞二郎	〔東經〕大	五二	二	五
本多 精一	〔財經〕大	五二	二	五
熊谷貞次郎	〔國經〕大	五二	二	五
服部文四郎	〔國經〕大	五二	二	五
飯島 幡司	〔國經〕大	五二	二	五
戸田 海市	〔經叢〕大	五二	二	五
本多 精一	〔財經〕大	五二	二	五
古島 安二	〔財經〕大	五二	二	五
若槻禮次郎	〔財經〕大	五二	二	五
稻山 始	〔東經〕大	五二	二	五
早川千吉郎	〔財經〕大	五二	二	五

小工業と金融
 東洋に於ける日本の經濟上
 及び金融上の位置
 國際金融中心の移動と我國
 の地位
 資金融通の性質と利子歩合
 との關係
 外交と金融
 我國に於ける船舶金融
 廢廉と資金との關係
 不動産金融の流通
 爲替貯金局より觀たる地方
 金融
 我國普通銀行の工業金融に
 就て
 滯貨と恐慌
 本邦現時の金融状態に關す
 る考察
 我財界は逆轉せしか
 財界の反動と工業上の對策
 金融市場の前途豫測
 財界動搖と金融機關の缺陷
 銀價の前途と我が財界
 銀行業の對財界策

服部文四郎	〔國經〕大	七二	四	五
井上準之助	〔國家〕大	七三	八	九
服部文四郎	〔國經〕大	七二	四	五
高城仙次郎	〔三學〕大	七二	二	八
小島 憲	〔國經〕大	七二	二	八
細矢 祐治	〔日經〕大	七八	一	四
中川 精吉	〔政治〕大	七八	一	四
志村源太郎	〔財經〕大	七八	一	四
天岡 直嘉	〔財經〕大	七八	一	四
松崎 壽	〔商經〕大	七八	一	四
野崎 龍七	〔洋經〕大	七八	一	四
高島佐一郎	〔國經〕大	七八	一	四
佐藤 三郎	〔國經〕大	七八	一	四
阪田 貞一	〔財經〕大	七八	一	四
米山 梅吉	〔財經〕大	七八	一	四
阪谷 芳郎	〔東經〕大	七八	一	四
梶原 仲治	〔東經〕大	七八	一	四
竹内 常治	〔東經〕大	七八	一	四

本年度豫算と財界の打撃
戦後各國の貿易金融施設
財界の前途と實業家の自覺
財界の大勢と注目すべき重
要事項

濱口 雄幸〔東經〕大九八二〇七
依田信太郎〔銀研〕六〇一
小林五三郎〔東經〕六〇八三二八三

財界の前途は平靜か
今後の財界に就て

井上辰九郎〔東經〕六〇八三二〇八〇
清水文之輔〔東經〕六〇八三二〇五

財界今後の進路

安田與四郎〔洋經〕六〇一
安田與四郎〔洋經〕六〇一
小松 綠〔東經〕六〇八三二〇八五

歐洲戦後財界の變化
最近に於ける内外財界の推
移

田中鐵三郎〔經究〕六〇一
諸井 四郎〔東經〕六〇八三二〇八

物價の漸落と財界恢復期
財界の前途と製粉界の豫想
製糖金融論

諸井 四郎〔東經〕六〇八三二〇八
荒木 秀一〔銀研〕六〇一

歐洲大戰後に於ける本邦金
融市場の發達

諸井鐵二郎〔經究〕六〇一
池田 謙三〔東經〕六〇八三二〇七

金融緩漫と財界の前途
マネーマーケット論

川口 西三〔商經〕六〇一
服部文四郎〔國經〕六〇一

貿易金融に就て
金融物價貿易考察

志立鐵次郎〔財經〕六〇一
志立鐵次郎〔財經〕六〇一

整理期金融方針日本銀行
金利引下不可

志立鐵次郎〔財經〕六〇一
田中鐵三郎〔經究〕六〇一

經濟界と金融機關
起業金融

春日井 薫〔國國〕六〇一
春日井 薫〔國國〕六〇一

我が大經營化の金融的源泉
我國金融市場の缺陷
金融機關と事業会社との特
殊關係

高島佐一郎〔國經〕六〇三
河合 良成〔經究〕六〇一

我國金融界の缺陷
金融季節を論ず

河津 暹〔東經〕六〇八三二〇七
河合 良成〔新聞〕六〇一

我國銀行と貿易金融
貿易金融機關設置の可否

松崎 壽〔商經〕六〇一
清水文之輔〔東經〕六〇八三二〇六

金融、金融市場及金融機關
財界先見性に就て

松崎 壽〔商經〕六〇一
島村 彦郎〔銀研〕六〇一

有價證券市場に於ける短期
金融

櫻田 勝三〔銀研〕六〇一
白井 康久〔銀研〕六〇一

資金融通の性質と預金利子
歩合

志村源太郎〔財經〕六〇一
タウシツク〔我等〕六〇一

地方金融と勸業農工兩銀行
の合同

細矢 祐治〔銀研〕六〇一
植野 勳〔銀研〕六〇一

金儲けの心理
本邦水産金融問題

細矢 祐治〔銀研〕六〇一
中山玖麻雄〔銀研〕六〇一

財界前途に關する一考察
農業金融と私考察

細矢 祐治〔銀研〕六〇一
細矢 祐治〔銀研〕六〇一

信託讓渡と動産金融
工場抵當及財團金融説論

細矢 祐治〔銀研〕六〇一
細矢 祐治〔銀研〕六〇一

金融機關としての信託會社
日米金融市場と市場利率

平野 清〔銀研〕六〇一
平野 清〔銀研〕六〇一

貨幣又は金融に關する卑見
の批評に對して

山崎覺次郎〔經論〕六〇一

金融機關の民衆化我金融
機關改善案

志立鐵次郎〔財經〕六〇一
田宮準一郎〔國國〕六〇一

物價問題と金融收縮
飯島橋司著「金融經濟講義」

増井 光藏〔國經〕六〇一
服部文四郎〔銀研〕六〇一

國際金融と國際貿易
ゼノア會議と國際金融問題

平野 清〔銀研〕六〇一
藤城 敬二〔銀研〕六〇一

政府に對する確定債權と銀
行資金の融通

藤城 敬二〔銀研〕六〇一
勝田 貞次〔銀研〕六〇一

財界循環と金融の法則
輸入貿易の金融問題

勝田 貞次〔銀研〕六〇一
清水文之輔〔東經〕六〇一

本邦金融組織と當面の銀行
政策

左右田誠一〔銀研〕六〇一
左右田誠一〔銀研〕六〇一

株式市場と金利と金融市場
會計と金融

左右田誠一〔銀研〕六〇一
太田 哲三〔會計〕六〇一

財界の循環性と金利政策に
就て

左右田誠一〔商事〕六〇一
左右田誠一〔銀研〕六〇一

外資輸入と金融市場の影響
如何

藤原銀次郎〔エコ〕六〇一
藤原銀次郎〔エコ〕六〇一

財界復興促進策
金融機關の整備殊に銀行改
善の要諦

杉 程次郎〔銀叢〕六〇一
横田 義夫〔銀叢〕六〇一

震災金融の諸問題
震災金融に直面して

平野 清〔銀研〕六〇一
堀江 歸一〔エコ〕六〇一

金融の趨勢と中間景氣
株式市價と金融及景氣との
關係

池田 龍藏〔銀研〕六〇一
杉 程次郎〔新報〕六〇一

金融機關の整備殊に銀行制
度改善問題の要諦

神戶 正雄〔時經〕六〇一
神戶 正雄〔時經〕六〇一

當面の金融問題
高島佐一郎著「金融經濟の
諸問題」

増井 光藏〔國經〕六〇一
山口竹次郎〔銀叢〕六〇一

災害と金融
震災後の復興と金融問題

星野 行則〔銀叢〕六〇一
神戶 正雄〔時經〕六〇一

其後の金融方策と其效果
外資輸入問題の考察

神戶 正雄〔銀叢〕六〇一
木島陽太郎〔銀叢〕六〇一

小産業に對する金融
モトリアム撤廢後の財界

勝田 貞次〔銀研〕六〇一
三宅嘉十郎〔銀研〕六〇一

循環の経路
支拂猶豫令撤廢後の金融界
推移

神戶 正雄〔銀叢〕六〇一
松崎 壽〔銀研〕六〇一

安田銀行大合同の財界に及
す影響
後興資金の財源
銀行の被害程度と財界の前

神戶 正雄〔銀叢〕六〇一
松崎 壽〔銀研〕六〇一

途
 事業金融と證券市場
 財團金融と日本勸業銀行
 經營資本循環速度並に收支
 相殺點の測定
 地方銀行と不動産金融
 工業金融と兼營組織
 工場抵當及財團金融貸借契
 約書案文例
 支拂猶豫令觀及向後の金融
 對策
 製糸資金論
 復興と外資輸入論
 株式金融の研究
 財界循環より觀たる震災財
 界の前途
 金融、金融市場及金融機關
 株式金融論
 株式金融の方法及批判
 銀爲替と株式と金融
 外資輸入計畫は何を語るか
 悲しむべき外資輸入
 帝都復興及商工業復興の金
 融對策

福井 源一	〔銀研〕	六三	二	三
松崎 壽	〔商經〕	六三	一	三
松崎 壽	〔銀研〕	六三	四	三
河谷 武夫	〔商經〕	六三	一	三
小池 充彦	〔銀叢〕	六三	一	三
松島 喜作	〔銀叢〕	六三	一	三
細矢 祐治	〔銀研〕	六三	四	七
三宅嘉十郎	〔銀研〕	六三	五	三
太田 義繁	〔銀研〕	六三	五	一
橋本 喜作	〔銀叢〕	六三	一	六
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	一	六
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	五	三
青木 誠一	〔銀研〕	六三	四	一
荒木 秀一	〔銀研〕	六三	四	一
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	一	三
丹羽 豊	〔銀叢〕	六三	一	三
成瀬 義春	〔財經〕	六三	一〇	二
堀江 歸一	〔エ、コ〕	六三	一	七
松崎 壽	〔銀研〕	六三	五	三

資本の流通と有價證券
 松崎教授著「銀行及金融」
 財界先見の認識論的基礎
 金融指導と預金協定
 財界先見認識に就き福田敬
 授の批評に答ふ
 景氣 動議和策と金融組織
 財界金融と財界循環
 財界先見の基構に就て
 我國に於ける正貨の増減と
 金融繁栄との關係
 世界の貨幣交通
 元祿享前後に於ける金融
 論
 世界金融市場の二大分野
 我邦金融資本の趨勢
 外債成立と金融
 財政々策と金融政策
 金融資本の貿易政策
 低資の對支融通を中止せよ
 株式金融政策
 工業金融研究の一方法
 金融會社及金融組合の本質
 社會問題解決策としての金

福田敬太郎	〔國經〕	六三	二	三
細井要次郎	〔銀研〕	六三	五	三
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	六	一
勝田 貞次	〔金融〕	六三	一	三
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	六	一
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	七	一
勝田 貞次	〔銀研〕	六三	七	一
小川福太郎	〔經叢〕	六三	一	九
作田 莊一	〔經叢〕	六三	一	九
中村 孝也	〔經商〕	六三	三	八
平野 清	〔エ、コ〕	六三	二	二
浦田 武雄	〔マル〕	六三	一	二
堀江 歸一	〔エ、コ〕	六三	一	二
土方 成美	〔經研〕	六三	一	二
猪俣津南雄	〔マル〕	六三	一	二
長岡 克曉	〔エ、コ〕	六三	二	一〇
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	一	二
松島 喜作	〔銀叢〕	六三	一	二
名和 聲	〔金融〕	六三	一	二

融機關

生絲問屋金融制度の改善傾
 向
 金融經濟國策確立の急務
 現下金融の大勢と將來の對
 策
 金融統計と其の材料
 金融統計の種類と株式
 支那動亂と内地金融
 財界當面の對策と將來の對
 策
 經濟復興資金の融通に就て
 最近の貿易と物價と金融と
 株式金融とコールマネー
 輸出貿易助長金融政策
 明治時代に於ける金融組織
 の發展
 復興經濟途上の財政及金融
 經濟復興金融の理論と實際
 金融循環より見たる震災財
 界の前途
 金融問題或問
 吾財界の前途と銀行の任務
 財界恢復と銀行業者

大森 繁治	〔銀叢〕	六三	二	六
高山 武雄	〔銀研〕	六三	六	六
三宅嘉十郎	〔銀研〕	六三	六	五
細矢 祐治	〔銀研〕	六三	七	七
石巻 良夫	〔銀研〕	六三	七	七
石巻 良夫	〔銀研〕	六三	六	七
熊 順一	〔金融〕	六三	一	三
遠藤麟太郎	〔銀叢〕	六三	二	五
堀江 敬吉	〔銀叢〕	六三	二	四
神戸 正雄	〔時經〕	六三	一	二
荒木 秀一	〔銀叢〕	六三	二	五
神戸 正雄	〔時經〕	六三	一	二〇
増井 光藏	〔國經〕	六三	三	五
細矢 祐治	〔銀研〕	六三	七	四
細矢 祐治	〔銀研〕	六三	六	一
遠山 貞一	〔銀研〕	六三	六	一
河津 遷	〔金融〕	六三	二	一
保井 猶造	〔銀叢〕	六三	三	一
高柳松一郎	〔銀叢〕	六三	二	六

震災前後に於ける金融界の
 變化と其後の趨勢
 我金融の根本的疾患
 蠶絲金融と倉庫關係
 建築金融論
 蠶糸低利資金觀
 建築金融組合の研究
 蠶糸金融策としての米資輸
 入問題
 生絲金融の諸問題
 原資金の調達に就て
 生絲金融の問題
 大震災と金融問題
 復興事業と不動産金融
 爲替問題と金融對策
 既設信用組合を無視せる小
 商工資金の融通
 不動産金融と地券制度
 ドーズ案の實施と財界の前
 途
 外資輸入と通貨膨脹に就て
 爲替戻資金操縦に就て
 財界復興に對する矛盾の要

山室 宗文	〔銀叢〕	六三	三	三
渡邊 廣重	〔エ、コ〕	六三	二	三
高山 武雄	〔銀研〕	六三	七	六
春日井 薫	〔銀研〕	六三	六	六
高山 武雄	〔銀研〕	六三	七	三
春日井 薫	〔銀研〕	六三	七	三
高山 武雄	〔銀研〕	六三	七	三
春日井 薫	〔銀研〕	六三	七	三
太田 義繁	〔銀研〕	六三	六	三
高山 武雄	〔銀研〕	六三	六	三
神戸 正雄	〔時經〕	六三	一	三
杉 程太郎	〔新報〕	六三	二	二
松崎 壽	〔銀研〕	六三	六	一
平野 清一	〔銀研〕	六三	六	一
松崎伊三郎	〔洋經〕	六三	一	一〇
平岡金兵衛	〔銀研〕	六三	六	五
三宅嘉十郎	〔銀研〕	六三	七	三
榊原 二郎	〔銀研〕	六三	六	三
大久保正喜	〔銀研〕	六三	七	三

求

輸出振興策と貿易金融

對外金融政策

金融資本現状

金融機關としての信託會社

地方銀行と不動産の制限的資金化

希臘時代の金融業に就て

爲替相場の理論と實際及び之が金融政策

財政整理の財界に及ぼす影響

財政と金融の改善

我國金融機關の發生及び其の發達

本邦株式金融市場の構成

普通銀行の國際金融業務

歐洲戰爭に基づく國際金融上の關係

失業對策としての金融政策

神戸生絲金融問題管見

商工金融と銀行支店制度の改善

水産資本融通問題

川口	西三	〔商業〕	六三	八	一
松崎	壽	〔銀研〕	六三	七	一
北崎	進	〔經商〕	六三	三	四
山田	幸太郎	〔金融〕	六四	二	四
大塚	良治	〔金融〕	六四	一	三
戸田	常造	〔銀叢〕	六四	五	三
高野	忠雄	〔金融〕	六四	二	七
服部	文四郎	〔早政〕	六四	一	一
結城	豊太郎	〔エコ〕	六四	三	六
堀江	歸一	〔エコ〕	六四	三	八
石澤	久五郎	〔金融〕	六四	二	七
加藤	和根	〔銀叢〕	六四	四	二
松崎	壽	〔銀研〕	六四	八	四
堀江	歸一	〔三學〕	六四	一	九
佐倉	重夫	〔社政〕	六四	一	六
高山	武雄	〔銀叢〕	六四	四	一
藤城	敬二	〔銀研〕	六四	八	四
山本	美越乃	〔經叢〕	六四	二	〇

内外銀行金融島歐

金融市場の意義

土地及建物の金融に就て

金融組織上に於ける金準備の作用と効果

季節的金融に関する調査

金融市場に之ぼす諸影響

地方金融に對する郵便貯金の地位

本年度蠶絲金融の特徴

不動産金融に就て

商工資金の移動量及其様式

我が財界と圓價恢復の將來

小賣業に於ける資金の廻轉率

爲替恢復と財界循環

財界現状と今後の景氣

財界の前途に就て

通貨と資金とを區別する理由

好轉の見込みなき財界の前途

金融の繁栄と公社債募集市場との關係

一般金融經濟と金銭信託政

山本	峻吉	〔銀叢〕	六四	二	六
道家	齊一郎	〔金融〕	六四	二	二
都上	城三	〔銀叢〕	六四	一	六
勝田	貞次	〔銀叢〕	六四	四	五
河村	重之	〔金融〕	六四	二	三
平野	清	〔金融〕	六四	二	七
平塚	米治郎	〔金融〕	六四	二	三
高山	武雄	〔銀研〕	六四	九	四
大久保	正喜	〔銀研〕	六四	八	二
都上	城三	〔銀叢〕	六四	五	二
山崎	靖純	〔イン〕	六四	二	六
矢野	剛	〔商事〕	六四	五	一
丹羽	豊	〔銀叢〕	六四	四	五
梶原	仲治	〔エコ〕	六四	三	五
濱岡	五雄	〔銀叢〕	六四	四	一
高橋	龜吉	〔銀研〕	六四	九	三
藤原	銀次郎	〔エコ〕	六四	三	〇
吉田	繁吉	〔銀叢〕	六四	四	四

策

天保十四年の御用金につき

企業資金の供給と金融機關

都市下層金融制としての質屋考

内國資本保護の商業政策的方法

財界の不況と銀行政策

正貨現送と外資抑制

財界の現状と其對策

資金の意味に就て

輸出及工業組合と輸出金融

自己資金と他人資本とに就て

金融界の満紋と銀行の安處

民間外資抑制の暴舉

金融界の現状と前途

我觀金融機關

事業界の不安と金融界の混亂

金の現送と財界の動搖

金融統計の大量觀察法

銀行の本質と金融組織の歸趨

細矢	祐治	〔銀研〕	六四	八	三
幸田	成友	〔商研〕	六四	五	二
宗像	久敬	〔金融〕	六四	二	八
岡野	文之助	〔都問〕	六四	一	七
菅谷	重平	〔銀叢〕	六四	四	五
本田	文雄	〔銀叢〕	六四	五	二
堀田	正由	〔金融〕	六四	二	二
佐藤	富士雄	〔銀叢〕	六四	五	四
中村	重夫	〔銀研〕	六四	八	六
神戸	正雄	〔時經〕	六四	一	三
中村	茂男	〔會計〕	六四	二	一
伊庭	謙造	〔銀研〕	六四	九	一
安水	安左衛門	〔エコ〕	六四	三	三
結城	豊太郎	〔エコ〕	六四	三	三
丹羽	豊	〔金融〕	六四	二	二
越戸	佳三	〔銀叢〕	六四	五	六
丹羽	豊	〔銀叢〕	六四	五	五
石卷	良夫	〔銀研〕	六四	九	四
勝田	貞次	〔銀叢〕	六四	五	五

財界指導と金融作用

金融と事業

企業金融機關の新陣容

山片樺桃の二つの意見書について

財界整理の意味と政府當局者

下期財界は尙不振

財界好轉の機運動く

財界の豫測に就て

財界の將來とその對策

財界好轉と金解禁問題

新貨幣の觀念と金融

債券市場と金融

金融界大觀

死線に立つた日本

金融問題短評

金融問題短評

本邦蠶絲金融の實際

農村振興と金融の改善

金融資本網の健全性

金融資本網の組織

プロレタリアの金融機關

金融制度の整理

勝田	貞次	〔銀叢〕	六四	九	一
松崎	壽	〔金融〕	六四	二	五
綾藤	登喜男	〔イン〕	六四	三	五
土屋	喬雄	〔國家〕	六四	〇	二
高橋	龜吉	〔銀研〕	六四	一	〇
梶原	仲治	〔エコ〕	六四	四	三
鈴木	島吉	〔銀叢〕	六四	六	一
松尾	藤平	〔銀叢〕	六四	六	五
高木	友三郎	〔新聞〕	六四	一	九
米山	梅吉	〔エコ〕	六四	四	三
川島	清治郎	〔金融〕	六四	三	一
神戸	正雄	〔時經〕	六四	一	四
神戸	正雄	〔時經〕	六四	一	四
神戶	正雄	〔時經〕	六四	一	四
田中	一郎	〔銀叢〕	六四	六	二
上村	照吉	〔銀叢〕	六四	六	一
高山	武雄	〔銀叢〕	六四	六	二
田尻	直人	〔エコ〕	六四	四	五
向井	鹿松	〔三學〕	六四	二	〇
向井	鹿松	〔三學〕	六四	二	〇
道家	齊一郎	〔金融〕	六四	三	一
堀江	歸一	〔エコ〕	六四	四	八

【金融】【金輸出解禁】

米國金融界の新氣運	雪堂 生 [財經] 六三 八
歐洲戦争と米國金融市場	色部 貢 [國家] 六六 三
米國戰時金融政策	大内 兵衛 [國家] 六八 三
一九二〇年米國財界の回顧 と其前途	青木 嗣夫 [經究] 六〇 一
米國の貿易金融施設とエツ デ法	依田信太郎 [銀研] 六二 〇
米國戰後の貿易金融會社	依田信太郎 [銀研] 六二 一
柔佛震災時の金融状態	池田 了實 [銀研] 六二 二
米國資本の輸出	荒山 泰次 [銀叢] 六二 三
上海に於ける近時の貨幣及 金融に就て	西山 榮久 [亞經] 六二 七
米國の金融商人と放資機關	勝田 貞次 [銀研] 六三 四
倫敦並に紐育の金融的地位	平野 清 [商經] 六三 一
米國に於ける金融の諸機關	北村廣太郎 [銀叢] 六三 二
米國の映畫金融に就て	石卷 良夫 [銀研] 六三 七
米國の金融政策	堀江 歸一 [エコ] 六三 二
米國商業金融研究	岩崎 静也 [銀叢] 六二 二
米國太平洋岸大都市在留日 本人の金融機關	小西 次郎 [銀研] 六四 九
米國に於ける銀行國庫關係 の革新	奥田 勳 [銀研] 六五 一〇
露國金融界の三大勢力と二	

大潮流	森田 善吉 [商經] 六五 一
露國金融制度の變遷	谷口 吉彦 [經叢] 六五 三
勞農露國に於ける金融制度 の復活	谷口 吉彦 [經叢] 六五 三
東洋金融市場論要綱	中村 忠彰 [法政] 六七 五
埃太利の食物供給及金融	門脇 龍雄 [國經] 六七 二
【金輸出解禁】	三宅喜十郎 [銀研] 六二 三
米國の金輸出解禁に就て	加藤 貞雄 [銀研] 六二 三
通貨收縮と金解禁及在外正 貨準備停止問題	戸田 海市 [經叢] 六二 五
金輸出解禁問題と我國際為 替に及ぼす影響に就て	阪谷 芳郎 [東經] 六二 八
金輸出解禁問題	武藤 山治 [財經] 六二 〇
金貨の輸出解禁に就て	神戶 正雄 [時經] 六二 一
吾國解禁問題に對する米國 専門家の意見	勝田 貞次 [銀研] 六三 七
正貨輸出禁止解除と外資輸 入反對撤回	高城仙太郎 [法研] 六三 三
金輸出解禁は是非か	
金解禁の可否	

正貨現送の尙早を論ず 圓價暴落と金輸出解禁論に 就て	三宅喜十郎 [銀研] 六三 六
現下尙金輸出解禁に適せず 蔵相の金解禁反對論を中心 として	杉本 正一 [銀叢] 六三 二
金の輸出禁止は亡國的政策 爲替安定と部分的金輸出解 禁	伊藤竹之助 [エコ] 六三 二
爲替政策と金輸出解禁問題 爲替恢復策としての金輸出 禁と兌換停止	成瀬 義春 [財經] 六三 二
所謂金解禁の悪影響	武藤 山治 [エコ] 六三 二
景氣の良否と金解禁問題	山室 宗文 [エコ] 六三 二
漢口蔵相の變説改論 (五十 議會に於ける金解禁問答)	松崎 壽 [銀研] 六四 八
金解禁問題不徹底	海老原竹之助 [銀研] 六四 八
英國の金解禁問題に就て	成瀬 義春 [財經] 六四 三
二十世紀のマーカンタイリ ズムと紀元千六百年代の 金自由輸出論	岡村 透 [銀叢] 六四 四
農相の金解禁亡國論	成瀬 義春 [財經] 六四 三
金輸出解禁の科學的基礎	成瀬 義春 [財經] 六四 三
金解禁議案の論戰	前田 董一 [金融] 六四 二
	春日井 薫 [經商] 六四 四
	成瀬 義春 [財經] 六四 三
	春日井 薫 [銀研] 六四 八
	成瀬 義春 [財經] 六四 三

【金輸出解禁】【金利】

金解禁非解禁問題の重點	土方 成美 [エコ] 六四 三
英國の金輸出解禁	堀江 歸一 [エコ] 六四 三
英國の金解禁とその影響	井上準之助 [エコ] 六四 三
正貨現送と外資抑制	堀田 正由 [金融] 六四 二
正貨の現送と外資輸入の制 限	神戶 正雄 [時經] 六四 一
我國金輸出解禁問題	大館 堯壽 [新報] 六四 三
英國の金輸出解禁と我國 爲替調節策と金輸出解禁問 題	神戶 正雄 [時經] 六四 一
正貨の現送と外資輸入の制 限	松崎 壽 [商經] 六四 一
金輸出解禁論に就いて	神戶 正雄 [時經] 六四 一
金解禁に代るべき方策	島田 徳 [新報] 六五 二
財界好轉と金解禁問題	成瀬 義春 [財經] 六五 二
金輸出解禁の利弊と世論	米山 梅吉 [エコ] 六五 四
銀の一部輸出解禁	松崎 壽 [銀研] 六五 〇
先づ正貨現送を止めよ	神戶 正雄 [時經] 六五 一
最近の爲替相場恢復と金解 禁の時機	伊東 四志 [洋經] 六五 一
	古矢 吉雄 [銀研] 六五 〇
【金利】	
銀行利率と市場利率との意	

參照 銀行。金融。利子。

義並に相互關係に就て
金利の物價に及ぼす影響
紐育金融市場に於ける利率
の趨勢

正味利廻りに關する新説
日本銀行の利子政策に就て
本邦金利の將來
英國に於ける銀行利率と市
場利率

借入金利子の決算方法
金利の趨勢
遊離資本と金利
利子歩合に及ぼす外資輸入
の影響

金融の大勢と金利
金利と金融との關係
再び金融と金利との關係に
就て
金利と有價證券相場との關
係
戦争と金利
戦後英國の金利と對外放資
戦後の金利
商品の金利の取扱

山崎覺次郎	〔國家〕	四九	二九
山室 宗文	〔法協〕	四一	二六
河津 暹	〔國家〕	四二	二三
高田 勝雄	〔國經〕	四三	二七
坂田 實	〔洋經〕	四四	二七
植松 考昭	〔洋經〕	四五	二七
池島 誠三	〔日經〕	四六	二〇
佐藤 雄能	〔東經〕	四七	二五
服部文四郎	〔日經〕	四八	二二
熊崎 良	〔國經〕	四九	二七
高城仙次郎	〔三學〕	五〇	二八
添田 壽一	〔財經〕	五一	二二
渡邊 鐵藏	〔國家〕	五二	三〇
渡邊 鐵藏	〔國家〕	五三	三〇
渡邊 鐵藏	〔國家〕	五四	三〇
渡邊 鐵藏	〔國家〕	五五	三〇
高城仙次郎	〔三學〕	五六	二〇
飯島 幡司	〔國經〕	五七	三三
飯島 幡司	〔國經〕	五八	三三
中島 精二	〔會計〕	五九	三三

資金融通の性質と利子歩合
との關係
銀行利率と市場利率
爲替關係より見たる内國金
利

整理期金融方針II日本銀行
金利引下不可
コールの利子及運用
公社債の放資と利引計算
日米銀行利率と割引政策
利子歩合論上に於ける信用
説

利下の必要ありや
財界の循環性と金利政策に
就て

金利引下問題
金利の騰落と債券市價
金利變動の統計的研究
現時の金利引下問題
貨幣價值と金利歩合
利子歩合に就て
金利引下の要望
株式市場と金利と金融市場
東西金利市場の相違に就て

高城仙次郎	〔三學〕	六七	三二
松崎 壽	〔商經〕	六八	二七
中山玖麻雄	〔銀研〕	六九	一
志立鐵次郎	〔財經〕	七〇	八
荒木 秀一	〔銀研〕	七一	二二
須藤 文吉	〔銀研〕	七二	二二
平野 清	〔銀研〕	七三	二二
勝田 貞夫	〔銀研〕	七四	二二
成瀬 義春	〔財經〕	七五	二二
左右田誠一	〔商經〕	七六	二二
神戶 正雄	〔時經〕	七七	二二
池田 了實	〔銀經〕	七八	二二
荒木 秀一	〔銀經〕	七九	二二
松崎 壽	〔銀研〕	八〇	二二
白井 慶久	〔銀研〕	八一	二二
山本恭次郎	〔長經〕	八二	二二
神戶 正雄	〔時經〕	八三	二二
左右田誠一	〔銀研〕	八四	二二
谷口 吉彦	〔經叢〕	八五	二二

金利引下論の誤謬

利子計算上の重要問題

金利問題の考察

金利引下論に於ける通貨論
の誤謬

金利引下問題

我事業界と金利政策を如何
金利引下に關する諸説を評
す

信託會社の興起と金利の將
來

保證準備擴張論と金利問題
利下の可能性と危険性

我國の金利は何故に高きか
金利引下論の根據

利子計算上の重要問題
利率低下の合理的考察

日銀利下の可否を論ず
金利に關する一研究

日銀利下の斷行を評す
日本銀行の金利引下

日本銀行の公定歩合引下に
就て

松崎 壽	〔銀研〕	六三	二六
荒木 秀一	〔銀叢〕	六四	二六
小池 充彦	〔銀叢〕	六五	二六
遠山 貞一	〔銀研〕	六六	二六
堀江 歸一	〔エコ〕	六七	二六
山成 喬六	〔エコ〕	六八	二六
松崎 壽	〔銀研〕	六九	二六
米山 梅吉	〔エコ〕	七〇	二六
結城豊太郎	〔エコ〕	七一	二六
成瀬 義春	〔財經〕	七二	二六
三浦鐵太郎	〔洋經〕	七三	二六
高橋 龜吉	〔洋經〕	七四	二六
荒木 秀一	〔銀叢〕	七五	二六
都 城 生	〔銀叢〕	七六	二六
高城仙次郎	〔銀研〕	七七	二六
堀川 虎三	〔經叢〕	七八	二六
松崎 壽	〔銀研〕	七九	二六
小川郷太郎	〔イソ〕	八〇	二六
杉 程次郎	〔新報〕	八一	二六
〔銀叢〕	八二	二六	二六

日本銀行の金利政策

金利と物價の關係に就いて

我國の金利は高きか
何故我國の金利は下らざるか

日銀利下と銀行の貸出政策
異論の餘地なき利下斷行

金利に關する諸相
我國の金利が米國より高き
理由

預金利子の協定難

金利引下と産業振興策

我國の金利は如何にして引
下げ得るか

金利と物價との相關關係に
就て

利子歩合の季節的變動

日銀の利下

印度に於ける銀行利率の季
節的變動と其調節策

吾國金利の諸相とその統制
紐育準備銀行の利上と世界
の金融大勢

日本銀行の金利政策

金融の實勢と預金利下問題

堀江 歸一	〔エコ〕	六四	三
土方 成美	〔社料〕	六五	三
高城仙次郎	〔銀研〕	六六	三
萬 雄一郎	〔金融〕	六七	三
土方 成美	〔エコ〕	六八	三
井上辰九郎	〔エコ〕	六九	三
春木忠三郎	〔銀研〕	七〇	三
高城仙次郎	〔銀研〕	七一	三
堀江 歸一	〔エコ〕	七二	三
松崎 壽	〔銀研〕	七三	三
高城仙次郎	〔銀研〕	七四	三
谷口 吉彦	〔經叢〕	七五	三
高城仙次郎	〔銀研〕	七六	三
神戶 正雄	〔時經〕	七七	三
平野 清	〔商經〕	七八	三
杉本 一雄	〔銀叢〕	七九	三
岩崎 博	〔銀研〕	八〇	三
堀江 歸一	〔エコ〕	八一	三
池田 成彬	〔エコ〕	八二	三

日銀歩合と市中歩合との關係
 大蔵省提案の債券植利計算の可否
 金利と物價との關係
 金利引下策の行詰

高城仙次郎【銀研】大五二〇 五
 高城仙次郎【銀研】大五二〇 五六
 神戸 正雄【時經】大五一 四七

ク部

【クインスランド】

クインスランドに於ける勞働仲裁裁判制度
 岩下 堅造【社政】大二 一 卷 三

【クウレイ】(Charles Horton Cooley, 1864-)

クーレイ教授 綿貫 哲雄【社雜】大五一 二四

【區劃整理】

區劃整理震災地跡の土地建物全部移動法に就て
 復堂 生【新聞】大三一 三三四
 小久江英代吉【新聞】大三一 三三九

區劃整理批判
 復堂 生【新聞】大三一 三三三
 小久江英代吉【新聞】大三一 三三六

問題と其の實行難
 再び區劃整理に就て
 區劃整理の缺陷
 區劃整理と無産階級
 區劃整理に関する一考案
 土地區劃整理と法の惡用

復堂 生【新聞】大三一 三三三
 小久江英代吉【新聞】大三一 三三六
 木内傳之助【新聞】大三一 三三八
 布施 辰治【新聞】大三一 三三九
 武田鬼十郎【新聞】大三四 一 三三五
 中山 利平【新聞】大三四 一 三三八

【クインスランド】 【クウレイ】 【區劃整理】 【苦汗制度】 【藥】 【グッドセル】 【工藤重義】

【苦汗制度】

スウエツチングを論ず
 スウエツチング・システムの經濟的機能に就て
 財部 靜治【京法】四九 一 四六
 山内 正暉【新報】四四〇 一七 三

【藥】

富山の賣藥業
 賣藥の本義及範圍
 本邦輸出入の藥材、化學藥及製藥
 富山賣藥業の經營
 和田 一郎【國家】四四一 三 三五
 窪田靜太郎【法協】大二三 七 七八
 加藤 銀藏【統集】大五一 三 三三
 猪谷 善一【國經】大二三 三 三三

【グッドセル】(Willystone Goodsell, 1870-)

グッドセル教授の父權的家族制度の研究
 渥美 鐵三【我等】大二 四 二二

【工藤重義】

工藤法學博士の本去
 河津 暹【國家】大七三 八

高城仙次郎【銀研】大五二〇 五
 高城仙次郎【銀研】大五二〇 五六
 神戸 正雄【時經】大五一 四七

山内 正暉【新報】四四〇 一七 三
 和田 一郎【國家】四四一 三 三五
 窪田靜太郎【法協】大二三 七 七八
 加藤 銀藏【統集】大五一 三 三三
 猪谷 善一【國經】大二三 三 三三

【クナップ】(Georg Friedrich Knapp, 1842-)

クナップ貨幣固定學説の研究
方法
クナップの三分ノ一準備法
觀
クナップの貨幣固定學説に就て
宮田喜代藏【國經】大二三
福定與四郎【國家】大二三
宮田喜代藏【商義】大三一

【クニース】(Karl Gustav Adolf Knies, 1821-1898)

クニース氏の「獨立の學問としての統計學」を讀む
高野岩三郎【統義】四七一九 二八四

【熊澤善山】

集義和來に現れたる熊澤善山の經濟學説
河上 肇【國家】四四二 一〇

【熊本】

熊本市職業調査と東京市勢調査
横山 雅男【統集】四四一 一三三

舊熊本藩の郷土制度

大竹 虎雄【農經】大四一
參照|| 共濟組合、ギルド、

【組合】

産業組合、消費組合、
信用組合、生産組合、
農産組合、勞働組合、
購買組合。

職業組合論
商工組合の起源に關する諸説一斑

ルツオン【法協】四七二 一三二

周代五家の組合

松崎藏之助【法協】四七二 一三二

佛國に於ける組合の統計

戸水 寛人【國家】四三三 一三三

組合契約論

大原 祥一【統集】四三五 一三五

獨身者の組合運動

吾孫子 勝【國經】四三七 一三七

商工業組合の活動

神戶 正雄【經義】四四一 一三三

支那の組合制度

森 貞二郎【東經】四四七 一三七

組合の性質に就て

田中 保平【亞經】四八三 一三三

伊太利の組合運動

森下憲之丞【會計】四二二 一三三

印度に於ける組合運動

高橋 正熊【社政】六一 一三三

支那の組合制度を論ず

水上鐵治郎【社政】六一 一三三

獨逸の通信吏員組合

木村増太郎【亞經】六一 一三三

組合の分類に就ての考察

若林 米吉【社政】六一 一三七

出荷組合の獎勵

森 重太郎【社義】六一 一三五

舊産組合の不法活動に對する救済方法

河田 嗣郎【エコ】大二三 一三五

齋藤 巖【新聞】二二三 一三三

【クラーク】(John Maurice Clark, 1884-)

クラークの競争並に獨占理論

油本 豊吉【經論】六四三 一三四

【クラッペ】(Hugo Krabbe, 1857-)

J. M. Clark 教授の「經濟學社會化論」(譯)

八木澤善次【新報】大二三 一三四

【クリーグスマン】(Nikolaus Herrmann Hartwig Kriegsmann, 1882-1914)

クラッペの「近代國家觀」

大山 郁夫【我等】大三六 一四一八

【クリート】

クリーグスマン教授戰死す

富田 山壽【京法】大四一〇 一三七

【グリム】(Jakob Ludwig Grimm, 1795-1863)

クリート問題の真相
最近クリート史

逸見 晋【國際】四四一 一三八
有賀 長雄【外時】四四一 一三三

社團と組合
銀行組合法の制度を望む
組合法問題に於ける資本家の「危険思想」
西本辰之助【法研】大四四 一四四
石巻 良夫【銀研】大四八 一四六
楠田 民藏【我等】大五八 一四二

【グミール】(Max Gmir)

グミール教授の慣習法論
岩田 新【志林】大九三 一三三

【クラーク】(John Bates Clark, 1847-)

資本觀念に關するクラーク教授の學説を評論す
クラーク教授の生産力説を難す
中川角太郎【新報】四四一 一八 一四七
五百廣國典【國經】大六三 一三三

クラーク教授の資本の機能に就て
金子實之助【三學】大〇一 一五六

利子説明の基礎に關するボエム・パツェルクとクラークとの論争
金原實之助【三學】大〇一 一五八 一八九

クラークの資本觀
クラークの分配理論の研究
クラーク「經濟靜態及び動態」(譯)
高田 保馬【國經】大二三 一四一
三宅鹿之助【經研】大三一 一四一
林 要【同論】大三一 一三三

【グリム】【グルウイツチ】【クルノー】【グレイ】【吳文聰】【クロース】
 【グロース】【グロスマン】

ヤコブ・グリムと獨逸法 寺田 四郎〔國圖〕大三 二卷 五號

【グルウイツチ】(Geog Gurwitsch)

ギールケの有機體及び社會法の概念(グルキツチ) 能勢 克男〔同論〕大三一 一三

【クルノー】(Antoine Augustin Cournot, 1801-1877)

クルノー研究 平塚 壽郎〔國經〕大九 二六
 三つの著述を通じて見たるオグユタン・クルノーの經濟學說 中山伊知郎〔商研〕大四 五 二

【グレイ】(Henry M. Grey)

グレイ氏の著書ロイドの過去と現在を讀みて 藤本幸太郎〔商研〕大三 二 一

【吳文聰】

吳副社長葬記 横山 雅男〔統雅〕大七一 三九〇
 副社長吳文聰君を吊ふ 横山 雅男〔統雅〕大七一 三九二

評議員吳文聰君を悼む 横山 雅男〔統集〕大七一 四五一
 故吳文聰君追憶學術講演會 故吳文聰先生を追慕す 細野 繁藏〔統雅〕大八一 三九九
 親友吳君を思ふ 高橋 琢也〔統雅〕大八一 四〇一
 吳君を追憶す 平塚 二定郎〔統雅〕大八一 四〇二
 吾郷の先輩吳氏を思ふ 松井 茂〔統雅〕大八一 四〇三
 先輩吳文聰君を憶ふ 水科 七三郎〔統雅〕大八一 四〇四
 統計界の先輩吳君を憶ふ 和田千松郎〔統雅〕大八一 四〇五

【クローース】(Benedetto Croce, 1866-)

ベネデット・クローースの新哲學 江木 真〔辯協〕大七三 一五

【グロース】(Hans Gross, 1847-1915)

故ハンス・グロース教授 牧野 英一〔志林〕大五一 八 六

【グロスマン】(Hermann Grossmann)

グロスマン「戦争と化學工業」(譯) 朴堂 學人〔財經〕大八 六一 一

【グロッチウス】(Hugo Grotius (de Groot), 1583-1645)

グロチアス氏以前に於ける國際法學者及グロチアス氏 花井 卓藏〔新報〕四九 年 六 卷 六 七
 國際法の始祖ヒュウゴ・グロチウス 高橋 作衛〔國際〕大元 一 四
 法及び戦争に關するグロチウスの思想 井川 恭〔京法〕大七一 三 二 一 四
 グロチウスに於ける國際法と自然法との關係 横田喜三郎〔國際〕大四 二 四 五
 フーゴー・グロチウス著「平戦法規論」の由來 穂積 陳重〔國際〕大四 二 四 五
 國際法の始祖フーゴー・グロチウス 山田 三良〔國際〕大四 二 四 五
 グロチアスの幼青年時代 泉 哲〔國際〕大四 二 四 五
 グロチウス及び其名著「戦争及平和法規論」の國際法學上の地位 立 作 太郎〔國際〕大四 二 四 五
 グロチウリスの戦争觀に就て 松原 一雄〔國際〕大四 二 四 五
 フーゴー・グロチウス 市村 光惠〔法叢〕大四 一 四 四 一 六
 戦争及び平和法論に於ける

【グロッチウス】【黒田如水】【クロボトキン】【軍艦】

海洋自由論 板倉 卓造〔國際〕大四 二 四 五
 グロチイウスを基點として 牧野 英一〔志林〕大四 二 七 六
 グロチウス著「平戦法規論」の版數に就て 山田 三良〔國際〕大四 二 四 六
 グロチウスの自由海洋論 立 作 太郎〔國家〕大四 三 九 七

【黒田如水】

黒田如水の刑法觀 福本 日南〔刑評〕四四 三 六

【クロボトキン】(Kniaz Peter Aleksievich Kropotkin (Krapotkin), 1842-1921)

クロボトキンの史觀 田中 幸一郎〔三學〕大四 九 四
 クロボトキンの社會思想の研究 森戸 辰男〔經學〕大九 一 一
 クロボトキンの生活の一面 森戸 辰男〔我等〕大九 二 五
 ラツセル、クロボトキン兩氏の過激派觀 田邊 忠男〔財經〕大九 七 一〇
 クロボトキンの相互扶助説 森戸 辰男〔我等〕大九 二 一三
 クロボトキンの「倫理學」 森戸 辰男〔我等〕大九 七 一

【軍艦】 参照ニ商船。 潜航艦。

【軍艦】 【軍國主義】 【軍事】

軍艦論	松波仁一郎 (國家) 四七九
私艦論	松波仁一郎 (國家) 四八〇
軍艦論	高橋 作衛 (法協) 四八二
外國の港灣に於ける艦船及其乘員取締法	伊藤巳次郎 (外時) 四八三
國際關係に於ける海軍用船の地位	相良 維男 (國家) 四八四
外國水兵の犯罪	石渡 敏一 (法政) 四八五
軍艦論	遠藤 源六 (法政) 四八六
ペレールス氏軍艦本質論	中村 進午 (新報) 四八七
軍艦に非ざる公船の取扱	立 作太郎 (國際) 四八八
回航中の日進春日に就て	松原 一雄 (新報) 四八九
御用船論	松波仁一郎 (法協) 四九〇
外國領水に於ける軍艦	立 作太郎 (國家) 四九一
軍艦の海難救助を論ず	松波仁一郎 (海法) 四九二
【軍國主義】 參照=軍艦、軍備縮少、戰爭、平和。	
現代獨逸の軍國主義とトラ	小野原喜平次 (國家) 四九三
イチケの學說	三上 正毅 (國圖) 四九四
獨逸の軍國主義	大山 郁夫 (國家) 四九五
マキアベリズムと獨逸の軍國主義	

獨逸大學に於ける軍國主義	織田 萬 (京法) 六五二
戰後に於ける軍國主義と民主主義	戸田 海市 (經叢) 六五三
米國の軍國主義化と日米問題の將來	秋山 襄 (辯協) 六五四
米國に於ける軍國主義と資本主義	森戸 辰男 (外時) 六五五
軍國主義及平和運動	稻田周之助 (新報) 六五六
軍國主義の辯	卜部正太郎 (三學) 六五七
國家主義、帝國主義、軍國主義、戰爭謳歌	杉村陽太郎 (外時) 六五八
華府會議と平和主義對軍國主義	石川安次郎 (外時) 六五九
米國に徴して軍國主義を省察す	村瀨武比古 (法政) 六六〇
Militarism in Japan	Masunami (海法) 六六一
軍國主義に就て	佐野 學 (我等) 六六二
互助作用の支配と軍國組織の崩壞	長谷川英次郎 (我等) 六六三
【軍】 參照=海軍、軍備、軍備縮少、軍法會議、徵兵。	
英國常備兵並に義勇兵人員の調査	磯部 四郎 (統集) 六六四

徵兵と學生の關係 (講演)	曾我 祐準 (國家) 四七〇
軍事統計	伊藤 祐毅 (統集) 四七一
軍事統計	鶴澤 總明 (統集) 四七二
デシヤルダン氏の「デザルマン」(解兵論)を讀む	高橋 黎三 (國家) 四七三
附萬國平和會議の前途	横山 雅男 (統集) 四七四
各地方に於ける軍事思想	光岡 安藝 (國家) 四七五
行政的武器使用に關する軍法	
師團長が徵兵及召集事務に關し所管内町村長に對する訓令權	島村他三郎 (志林) 四七六
軍隊と農業教育	矢作 榮藏 (國家) 四七七
陸海軍刑法改正案に就て	磯部 四郎 (辯協) 四七八
徵兵統計の話	横山 雅男 (統集) 四七九
外交軍事財政の兼修	匿名 士 (國際) 四八〇
軍隊の拘留權 (ツァーベルン事件の法律的觀察)	寺田 四郎 (國家) 四八一
三年兵役制批議	高田 保馬 (京法) 四八二
獨逸の軍閥と我國の軍閥	植原悦二郎 (國圖) 四八三
軍隊教育 (講演)	山梨 半造 (日社) 四八四
獨逸陸軍將校の生計費	松籟 仙史 (統集) 四八五
陸軍衛生統計に就て	石黒 忠恵 (統集) 四八六
尙武教育の必要	山川健次郎 (日社) 四八七

【軍事】

戰死者の孤兒に關する法律案	織田 萬 (京法) 六五二
英國の強制徵兵制度	卜部百太郎 (三學) 六五三
軍隊の解散と勞働市場	黒木 三太 (國家) 六五四
戰時に於ける軍機と外交との關係	牧野 義智 (國際) 六五五
軍事救護法の制定に就て	潮 惠之輔 (法政) 六五六
誤れる憲兵廢止論	某辯護士 (新聞) 六五七
誤れる憲兵廢止論を駁す	菊の舎主人 (新聞) 六五八
宋代に於ける兵制と社會政策	松井 等 (亞經) 六五九
步兵一年半現役論	某 氏 (國家) 六六〇
軍機保護に關する臺灣法制	三好 一八 (臺法) 六六一
海軍整理の根本方針	江木 翼 (財經) 六六二
軍事行政組織の政治的考察	今中 次磨 (我等) 六六三
世界の軍事大勢	蛭川 新 (外時) 六六四
震災と外交及軍隊	建部 遷吾 (外時) 六六五
廣兵の再教育	小林鐵太郎 (社政) 六六六
軍制問題と世論の諸相	中尾 龍夫 (外時) 六六七
工場能率と在郷軍人の利用	成田 篤 (エヨ) 六六八
英國に於けるOTCの効果	
及現狀	
佛國に於ける軍事豫備教育	伊丹 松雄 (外時) 六六九
元帥停年制度論	伊丹 松雄 (外時) 六七〇
	伊丹 松雄 (外時) 六七一
	荒木 櫻洲 (新聞) 六七二

軍人を起訴したる違法に對する非常上告の判決の主文

平井彦三郎〔新報〕六五三六
堤 隆〔法曹〕六五四

【軍事】

交戦國に於ける兵器問題
露國軍需注文と組製運送
戰時に於ける軍用金屬供給
問題

大河内正敏〔財經〕六四二
松崎伊三郎〔洋經〕六四一
松原 行一〔財經〕六五三
近藤兵三郎〔國圖〕六五四
刑部 齋〔國家〕六五〇
本多 精一〔財經〕八五三

軍費論

物價騰貴は軍費の増加に原因す

田島 錦治〔明法〕三六六

軍事費辯護説

莊田 秋村〔東經〕四五五
神戸 正雄〔京法〕六二八

軍事費整理の一端に就て

松原 政一〔辯論〕六二七
雪 堂 生〔財經〕六六四

獨逸の軍費と軍事公債

津村 秀松〔國經〕六六二
武藤 山治〔財經〕六一九

軍需費の見方に注意すべき要件

成田 篤〔エコ〕六三二

軍事工業と民間工業との關係

升田 憲元〔日經〕六三一
稻田周之助〔日經〕六四一

【軍需品】

歐洲交戦國の軍需品問題

大河内正敏〔財經〕六四二
辻村 補造〔財經〕六四二

兵器製造民營に就て

河田 嗣郎〔經叢〕六八五
上田貞次郎〔國經〕六七二

軍需品の製造と供給

河田 嗣郎〔經叢〕六八五
上田貞次郎〔國經〕六七二

クント「獨逸海外貿易發展策につきて」(譯)

河津 暹〔日經〕八一〇

【クント】(Walter Kundt)

クンツェ氏の「ゲザンムトアクト」論に就て

志田 鋼太郎〔法協〕五六二
澤永 太吉〔京法〕五六一

【クンツェ】(Johannes Emil Kuntze)

現戰争に於ける軍需品供給問題

立 作太郎〔國圖〕六六一
工藤 重義〔國家〕六六三
楠田 民藏〔經叢〕六七七
辻村 補造〔財經〕六七五

軍需物件の購入方法

立 作太郎〔國圖〕六六一
工藤 重義〔國家〕六六三
楠田 民藏〔經叢〕六七七

軍需工業動員法に就て

立 作太郎〔國圖〕六六一
工藤 重義〔國家〕六六三
楠田 民藏〔經叢〕六七七

工業動員法の運用と軍需工業

立 作太郎〔國圖〕六六一
工藤 重義〔國家〕六六三
楠田 民藏〔經叢〕六七七

【群馬】

群馬縣の製絲業
群馬縣生絲販賣組合の研究

河田 嗣郎〔經叢〕六八五
上田貞次郎〔國經〕六七二

【軍備】

軍備擴張休止の萬國會議
軍備擴張の大勢

有賀 長雄〔外時〕四三一
植松 考昭〔洋經〕四四一

豫算案と軍備擴張熱
米國の商業政策と軍備

植松 考昭〔洋經〕四四一
堀越善重郎〔東經〕四四一

軍備競争と其財源
太平洋上の國防問題

堀越善重郎〔東經〕四四一
稲田周之助〔日經〕六二二

滿洲放棄平軍備擴張乎
憲政上より見たる増師問題

稲田周之助〔日經〕六二二
沼田 照義〔國圖〕六二二

軍備擴張と財政の危機
コミッション付の海軍擴張

沼田 照義〔國圖〕六二二
植原悦二郎〔國圖〕六三二

と國民經濟
軍備充實の意義

植原悦二郎〔國圖〕六三二
八田祐二郎〔財經〕六三一

軍備、國防及國是の概念
軍備擴張と直接税の増收

八田祐二郎〔財經〕六三一
高城仙次郎〔日經〕六三一

無意義なる二個師團増設案
根本的軍備改良論

高城仙次郎〔日經〕六三一
安田與四郎〔日經〕六三一

西本國之輔
田邊 高雄〔三學〕六三八

安田與四郎〔日經〕六三一
西本國之輔〔國圖〕六三二

鎌田 榮吉〔財經〕六三一

田邊 高雄〔三學〕六三八
鎌田 榮吉〔財經〕六三一

【群馬】 【軍備】 【軍備縮少】

【増師問題と大陸主義】

增師問題と大陸主義

【對外政策と増師問題】

對外政策と増師問題

【軍備競争と軍備制限】

軍備競争と軍備制限

【平和が困難か】

平和が困難か

【日米軍備の現状】

日米軍備の現状

【世界の經濟と軍備】

世界の經濟と軍備

【國際間に於ける猜疑心と軍備】

國際間に於ける猜疑心と軍備

【太平洋防備問題】

太平洋防備問題

【軍備充實と世界の大勢】

軍備充實と世界の大勢

【歐米軍備競争の新勢】

歐米軍備競争の新勢

【軍事費より觀た列國軍備】

軍事費より觀た列國軍備

【Protocol for the Pacific settlement of international disputes】

Protocol for the Pacific settlement of international disputes

【民主政治と軍備標準法】

民主政治と軍備標準法

【經濟的軍備促進策】

經濟的軍備促進策

【軍備縮少】

軍備縮少

【平和會議と軍備制限問題】

平和會議と軍備制限問題

【英獨軍備制限問題】

英獨軍備制限問題

【生活難講究と軍備制限協商】

生活難講究と軍備制限協商

所謂華盛頓會議	稻原 勝治〔外時〕六二五	三〇一
軍備競争と軍備制限	神川 彦松〔外時〕六七八	三八
軍備縮少問題奈何	鮫川 新〔外時〕六八三	三三
國際聯盟と軍備制限問題	小山精一郎〔國際〕六九二	二
國際聯盟と軍備制限	鮫川 新〔外時〕六九三	三二
軍備縮少論	志立鐵次郎〔財經〕六〇八	二
軍備制限の小觀	田川大吉郎〔國際〕六〇一	四
軍備縮少太平洋極東問題會議について	阪谷 芳郎〔國際〕六〇一	六
實業家の見たる軍備制限問題	武藤 山治〔財經〕六〇八	六
軍備縮少會議に際し日本國民の覺醒を促す	尾崎 行雄〔國際〕六〇一	七
世界安定第一歩	志立鐵次郎〔財經〕六〇八	七
太平洋會議と軍備問題	上杉 慎吉〔財經〕六〇八	八
太平洋會議と帝國の態度	武富 時敏〔財經〕六〇八	八
歓迎可き太平洋會議	志立鐵次郎〔財經〕六〇八	八
軍備縮少と日本の將來	澁澤 榮一〔國際〕六〇九	八
太平洋會議と世界の民衆	陸奥 廣吉〔財經〕六〇八	九
華盛頓會議に就て	辻村 楠造〔財經〕六〇八	二〇
軍備制限と極東問題	田中幸一郎〔國際〕六〇九	二一
華盛頓會議と米國の輿論	志立鐵次郎〔財經〕六〇八	二二
軍備縮少會議の開幕		
經濟上より見たる軍備制限		

問題	瀧本 誠一〔東經〕六〇五	二〇八
陸軍縮少と經濟問題	宮島清次郎〔東經〕六〇五	二〇八
軍備擴張と物價關係	奥田 竹松〔東經〕六〇五	二〇七
軍備縮少及太平洋並極東問題會議に就て	阪谷 芳郎〔東經〕六〇五	二〇八
デナムマンの解(軍備制限の要諦)	高橋 兼三〔國際〕六一〇	二〇
海洋の自由と軍備制限	小山精一郎〔國際〕六一〇	二〇
海軍協定案と日英米海軍力	村田 憲慶〔外時〕六〇五	二〇
國際的軍備制限問題の史的		
研究	伊藤 述史〔外時〕六〇五	二〇
所謂太平洋會議	江木 翼〔外時〕六〇五	二〇
軍備制限と太平洋會議の提案		
軍備制限會議	稻原 勝治〔外時〕六〇五	二〇
太平洋會議と我國民の決心	松波仁一郎〔外時〕六〇五	二〇
華盛頓會議と英國	副島 道正〔外時〕六〇五	二〇
華盛頓會議觀	米田 實〔外時〕六〇五	二〇
軍備制限問題を中心として	石川安次郎〔外時〕六〇五	二〇
軍備制限に就て	村田 憲慶〔外時〕六〇五	二〇
華府會議交渉上の失敗	田中幸一郎〔外時〕六〇五	二〇
支那の將來と太平洋會議	高村 經徳〔外時〕六〇五	二〇
太平洋會議と軍備制限問題	鷺尾正五郎〔外時〕六〇五	二〇
帝國の華盛頓會議對策	小山精一郎〔外時〕六〇五	二〇
	村田 憲慶〔外時〕六〇五	二〇

太平洋會議と日本	望月小太郎〔外時〕六〇三	四〇七
華盛頓會議を達觀す	建部 遜吾〔外時〕六〇三	四〇九
華盛頓會議を評す	田中幸一郎〔外時〕六〇三	四〇〇
華府會議は平和主義對軍國主義		
海軍協定案と日本	石川安次郎〔外時〕六〇三	四〇〇
華盛頓會議評史	一海軍通〔外時〕六〇三	四〇〇
華盛頓會議を嚴戒せよ	外交時局記者〔外時〕六〇三	四〇〇
國防の基準と軍備縮少限度	三宅覺太郎〔外時〕六〇三	四〇一
陸軍半減論を提唱す	河野 恒吉〔財經〕六〇九	一
軍備制限に關する條約	關 直彦〔財經〕六〇九	二
華府會議と日米	立 作太郎〔國際〕六〇二	三
ワシントン會議所感	添田 壽一〔國際〕六〇二	四
華府會議と移民問題	林 毅陸〔國際〕六〇二	四
華府會議と戰時國際法	澁澤 榮一〔財經〕六〇二	四
軍備縮少の根本方針	立 作太郎〔國際〕六〇二	四
ワシントン會議と其の後	辻村 楠造〔財經〕六〇二	五
海軍制限條約に付て	澤田 節藏〔國際〕六〇二	五
ワシントン會議に於ける海軍軍備制限(講演)	杉村陽太郎〔國際〕六〇二	五
海軍制限條約	堀 悌吉〔法政〕六一九	七
新太平洋四國協約	末廣 重雄〔國際〕六一二	八
支那から見た華府會議の功罪	清水 泰次〔外時〕六一二	三

華盛頓會議批判資料	田中幸一郎〔外時〕六一二	四一五
海軍制限と國民	安岡 秀夫〔外時〕六一二	四一五
華府會議の賣せる支那の利益と不利益	矢野 仁一〔外時〕六一二	四一六
陸軍縮少問題に就て	惠美 孝三〔外時〕六一二	四一六
華盛頓會議の世界的失敗	建部 遜吾〔外時〕六一二	四一七
英佛の想敵關係と潛艇協定		
敗	伊藤 正徳〔外時〕六一二	四一八
四國協約の留保附批准	稻原 勝治〔外時〕六一二	四一九
華府會議に於ける支那の業績	檜崎 觀一〔外時〕六一二	四一九
我陸軍は果して縮少し得べきか	三宅覺太郎〔外時〕六一二	四一九
華府會議と我帝國	林 毅陸〔外時〕六一二	四二〇
華盛頓會議條約と世界の平和		
軍備制限と米國海軍	泉 哲〔外時〕六一二	四二〇
華府會議の功罪	松波仁一郎〔新聞〕六一一	四二五
海軍比率協定の真相	添田 壽一〔東經〕六一一	四二〇
加藤内閣と軍備縮少	小松 縁〔東經〕六一一	四二〇
軍備縮少の不可解點	末廣 重雄〔外時〕六一二	四二五
四國條約と保留	鮫川 新〔外時〕六一二	四二七
再び四國條約について	江木 翼〔外時〕六一二	四二七
江木氏の「四國條約論」を	江木 翼〔外時〕六一二	四二七

【軍備縮少】

讀む

華府會議の積極政策	平河 町人〔外時〕六一三六
支那の軍備縮少問題	澤田 謙〔外時〕六一三六
帝國の前途と軍縮の真意義	清水 泰次〔國際〕六三三
震災後の軍縮論批判	末廣 重雄〔外時〕六三三
軍備縮少會議の再開に就て	三宅覺太郎〔外時〕六三三
第二海軍々種會議と日本	泉 哲〔外時〕六三三
減師問題	森山 達枝〔外時〕六三三
世界の平和と軍縮會議	神戸 正雄〔時經〕六三三
一九二一、二年華府會議と	水野 廣徳〔國知〕六四五
來るべき軍縮會議	米田 實〔國知〕六四五
各國海軍費と第二軍縮會議	成田 篤〔エゴ〕六四三
華府會議に溢れた想敵觀念	伊藤 正徳〔財經〕六四三
海軍軍備制限條約の財政的	武井 大助〔國家〕六四三
意義	三枝 茂智〔國知〕六四三
安全保障問題に來るべき軍	川島清治郎〔エゴ〕六四三
縮會議	成田 篤〔エゴ〕六四三
補助艦建造計畫問題	稻田周之助〔外時〕六四四
姑息なる補助艦の一部承認	伊藤 三郎〔外時〕六四四
第二軍縮會議に直面して	大島 高精〔外時〕六四四
米國の軍備縮少外交	成田 篤〔外時〕六四四
列國海軍の配置と第二軍縮	成田 篤〔外時〕六四四

第二華府會議と日本の體面

問題	岡本 剛〔外時〕六四四
第二軍縮會議を中心に	稻原 勝治〔外時〕六四四
佛國と華府會議	坂本 俊篤〔外時〕六四四
列強の補助艦艇競争と日本	石丸 藤太〔外時〕六四四
平和議定書の末路と軍縮會	坂本 俊篤〔外時〕六四四
議	坂本 俊篤〔外時〕六四四
ロカルノ條約と軍縮問題	坂本 俊篤〔外時〕六四四
補助艦問題の嚴正批判	石丸 藤太〔外時〕六四四
聯盟六星霜の軍縮運動	三枝 茂智〔國知〕六四五
軍縮會議と日本	石丸 藤太〔國知〕六四五
補助艦建造と潛水艦廢止問	坂本 俊篤〔外時〕六四五
題	坂本 俊篤〔外時〕六四五
軍縮問題と日本	高木 信威〔外時〕六四五
暗礁上の補助艦問題	成田 篤〔外時〕六四五
國際聯盟と軍備縮少	奥野 七郎〔外時〕六四五
軍縮會議と日本の安全保障	石丸 藤太〔外時〕六四五
問題	石丸 藤太〔外時〕六四五
軍縮會議準備委員會の議題	坂本 俊篤〔外時〕六四五
を評す	町田 梓樓〔外時〕六四五
軍縮會議と日本	坂本 俊篤〔外時〕六四五
軍縮豫備會議の收穫	坂本 俊篤〔外時〕六四五
聯盟軍縮會議の根本觀	小林順一郎〔外時〕六四五

【軍備制限】

軍備縮少を見よ

【軍法會議】

軍法會議の公開を論ず	松波仁一郎〔國家〕六三二八
軍法會議論	松波仁一郎〔志林〕六三二八
軍法會議と辯護權	松波仁一郎〔新報〕六三二四
海軍軍法會議と上訴權	松波仁一郎〔法協〕六三三三
軍法會議の文官判士論	松波仁一郎〔國家〕六三二八
軍法會議(講演)	花井 卓藏〔辯協〕六三一八
海軍軍法會議の公開	松波仁一郎〔新聞〕六三一
軍法會議常設論	松波仁一郎〔國家〕六四二九
佛國軍法會議の裁判管轄權	寺田 四郎〔志林〕六五一八
軍法會議の本質に就て	富山 單治〔法叢〕六二〇六
軍法會議法に就て	志水小一郎〔新報〕六二〇三
軍法會議法の一瞥	田崎 治久〔新聞〕六二〇一
獨逸人に對する佛國軍法會	鹽田 環〔志林〕六二二五
議の判決	鹽田 環〔法協〕六二二四
マインツ佛國軍法會議の判	松永 義雄〔辯協〕六二二八
決	獨逸に於ける軍法會議廢止

【軍備制限】 【軍法會議】

ケ部

【刑】 刑罰を見よ

【經營】 經營

参照||科學的管理法。企業。事業。

- 企業及經營の意義に關する疑問
 - 上田貞次郎〔國經〕四〇五 九卷 五號
 - 關 一〔國經〕四〇三 九卷 四號
 - 坂西 由康〔國經〕四〇四 一〇卷 一號
- 經營と企業の意義に就て
 - 關 一〔國經〕四〇四 一〇卷 一號
- 再び企業と經營との意義に就て
 - 關 一〔國經〕四〇四 一〇卷 一號
- 事業經營の新勢と會計學
 - 二宮 丁三〔會計〕六六二 二卷 二號
- 事業經營學に就て(講演)
 - 志田紳太郎〔保評〕六七二 四卷 四號
- 日支共同經營論
 - 中橋徳五郎〔法論〕六七一 八卷 八號
- 經營權分配制度を論ず
 - 堀江 歸一〔三學〕六九二 四卷 七號
- 獨逸に於ける經營の社會化に就て
 - 岡田 重次〔國經〕六〇三 二卷 二號
 - 高島佐一郎〔國經〕六〇三 二卷 一號
- 我が大經營化の金融的源泉
 - 上田 孝三〔社政〕六〇一 二卷 二號

【景氣】 景氣

参照||恐慌。金融。經濟事業。

- 經營上より觀たる原價計算
 - 石黒 武松〔會計〕六二二 五卷 五號
- 經營學に於ける經營概念の方法論的研究
 - 伯林商科大學經營學研究室の組織及經營
 - 伯林商科大學經營學研究室 當期題材
 - 會計より觀たる物價と經營との關係に就て
 - 經營組織に關する勞働立法に就きて
 - 市場經濟と經營經濟
 - 杉村 廣藏〔商研〕六一二 一卷 一號
 - 平井泰太郎〔國經〕六二五 六卷 六號
 - 平井泰太郎〔國經〕六二五 六卷 六號
 - 原口 亮平〔國經〕六四六 三卷 三號
 - 森山武市郎〔法治〕六四四 三卷 三號
 - 向井 鹿松〔三學〕六四九 九卷 九號
- 商業不景氣回復論
 - 渡邊 洪基〔統集〕四〇一 七卷 七號
- 好景氣は何れの時を以て來るべき
 - 植松 考昭〔洋經〕四〇一 一五卷 一號
 - 飯島千代太〔東經〕四〇一 一五卷 一號
 - 植松 考昭〔洋經〕四〇一 一五卷 一號
 - 井上辰五郎〔日經〕六三二 五卷 五號
 - 氣賀 勸重〔三學〕六四九 九卷 九號
- 不景氣の再來
 - 本多 精一〔財經〕六四二 二卷 二號
- 不景氣の由來及び効果
 - 池田 實〔商經〕六六一 七卷 七號
- 不景氣は資本活用の好機
 - 池田 實〔商經〕六六一 七卷 七號
- 景氣循環論の一節
 - 池田 實〔商經〕六六一 七卷 七號

- 金融調節は景氣持續の要道
 - 本多 精一〔財經〕六六四 四卷 四號
- 好景氣の反動と物價
 - 神戸 正雄〔經叢〕六九二 一〇卷 一〇號
- 不景氣來と失業問題
 - 宇都宮治郎〔社政〕六〇一 一〇卷 一〇號
- 中間景氣の研究
 - 飯田 清三〔銀研〕六二二 五卷 五號
- 景氣は何時回復するか
 - 山形 東根〔東經〕六一八 二〇卷 二〇號
- 金融の趨勢と中間景氣
 - 堀江 歸一〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
- 株式市價と金融及景氣との關係
 - 池田 龍藏〔銀研〕六二二 四卷 四號
- 我國の景氣を刺戟する外部
 - 神戸 正雄〔時經〕六二二 一〇卷 一〇號
- 事業
 - 池田 龍藏〔三學〕六二二 七卷 七號
- 景氣循環による社會的弊害
 - 池田 龍藏〔三學〕六二二 七卷 七號
- の緩和策
 - 村本 福松〔商經〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 石橋 湛山〔洋經〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 神戸 正雄〔經叢〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 堀江 歸一〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 神戸 正雄〔時經〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣判斷と對策樹立の一材料としての物價指數
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 岡村 透〔銀叢〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 岡田喜三郎〔銀叢〕六二二 一〇卷 一〇號
 - 勝田 貞次〔商事〕六二二 一〇卷 一〇號
- 不景氣の原因
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 不景氣と租税
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣變動緩和策と金融組織
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣恢復の時期如何
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 不景氣策
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 貨幣購買力の意義と景氣の基調
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣の良否と金解禁問題
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 物價と景氣
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號
- 生活線より見たる景氣現象
 - 勝田 貞次〔銀研〕六二二 一〇卷 一〇號

- 景氣豫報の實現
 - 津田 武二〔國經〕六二二 五卷 五號
- 景氣不景氣の循環に就て
 - 道家齊一郎〔金融〕六二二 五卷 五號
- 今年の景氣
 - 神戸 正雄〔時經〕六二二 一〇卷 一〇號
- 財界推移と景氣の前途
 - 井上辰九郎〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣回復の道程
 - 堀江 歸一〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
- 金融景氣の特色と其限界
 - 橋本 庄藏〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
- 積極政策と景氣恢復
 - 堀江 歸一〔エコ〕六二二 一〇卷 一〇號
- 景氣循環と銀行
 - 岩崎 勸〔銀叢〕六二二 一〇卷 一〇號
- 社會の改善と藝妓問題
 - 寺尾 亨〔刑評〕四二二 一〇卷 一〇號
- 藝妓見番の會計
 - 中西新兵衛〔會計〕六二二 一〇卷 一〇號
- 經濟上に於ける強者と弱者
 - 松崎藏之助〔志林〕四二二 一〇卷 一〇號
- 戦争と經濟
 - 土子金四郎〔國家〕四二二 一〇卷 一〇號
- 經濟と法律
 - 添田 壽一〔新報〕四二二 一〇卷 一〇號
- 外交と經濟に關する實況並學理
 - 金井 延〔明法〕四二二 一〇卷 一〇號

法律と經濟	梅 謙次郎〔志林〕三四 年 卷 三 二五
エノノミツクスとテクニツクス	金井 延〔新報〕三五 二 一五
技術と經濟	神戸 正雄〔國家〕三五 一六 一八三
經濟と經濟行為の概念に關する誤謬	福田 德三〔國家〕三六 一七 二〇〇
穀價の高低と國民經濟	河津 暹〔法協〕三七 三三 二一〇
經濟の本則と營利主義	福田 德三〔法政〕三七 八 二二
國民經濟の堅忍持久	金井 延〔法協〕三八 三三 五八
經濟單位及經濟組織	山内 正隆〔新報〕三八 一五 八
自然と經濟との關係	石橋 五郎〔國經〕三九 一 四
先づ國民經濟の基礎を鞏固にせよ	加納 久宜〔日經〕四〇 一 二
經濟と道德	河上 肇〔日經〕四〇 一 二一三
國民經濟發展の標的を論ず	河津 暹〔日經〕四〇 一 九
經濟的活動の道義的指揮	神戸 正雄〔日經〕四〇 一 一〇
權力と法律と經濟	松崎藏之助〔法協〕四〇 二五 三
病的經濟論	前橋伊八郎〔明學〕四〇 一 二五
國際經濟競争と我が國民經濟政策の大本	神戸 正雄〔京法〕四〇 一 三
經濟組織に關する研究	阿部 秀助〔志林〕四〇 一〇 九
法律と經濟との關係についで	仁保 龜松〔京法〕四〇 一 三 二〇

「經濟十二論」梗概	河上 肇〔京法〕四〇 一 三
經濟範圍擴張の大勢	小林丑三郎〔東經〕四〇 二六 一五七
經濟上に於ける人格の價值	河田 嗣郎〔日經〕四〇 七 一
地方經濟に就て	床次竹次郎〔三學〕四〇 四 三
經濟行為の概念	河上 肇〔國經〕四〇 八 三
經濟行為の本質を論じて其の賤視せらるゝ所以に及ぶ	河上 肇〔國家〕四〇 二四 六
社會主義と經濟	莊田 秋村〔東經〕四〇 六二 一五七
Socialismus, Sozialwirtschaft und Sozialpolitik	H. Wendig〔國家〕四〇 二四 二二
社會主義、社會經濟及社會政策	ウエンテツヒ〔國家〕四〇 二五 一
經濟生活の内容及基礎を論じて河上教授の教を乞ふ	寺尾 隆一〔日經〕四〇 九 一
戰爭と財政及經濟	松崎藏之助〔法協〕四〇 三〇 一
經濟と道德の調和	桑田 熊藏〔新報〕四〇 三三 一
水力電氣と國民經濟との關係を論ず	早尾 博實〔國家〕四〇 二六 七
國民經濟上の杞憂	堀切善兵衛〔國經〕四〇 二一 一
經濟と倫理	豐澤 昌貞〔國經〕四〇 二二 一
外國貿易と國民經濟の權衡	堀切善兵衛〔三學〕四〇 二七 一
經濟生活の要素	山縣 憲一〔國經〕四〇 二五 一
盜賊と經濟	神戸 正雄〔日經〕四〇 二二 八

經濟法律演習論	小川郷太郎〔京法〕大 二 年 八 卷 九 號
經濟道德論	小林丑三郎〔東經〕大 二 六 八 七 七
續經濟道德論	大澤菊太郎〔東經〕大 二 六 八 七 七
支那古代に於ける法制經濟關係文字	後藤朝太郎〔國家〕大 二 二 七 一 六
經濟的努力論	堀切善兵衛〔三學〕大 三 二 八 一 一
經濟的進歩	米田庄太郎〔京法〕大 三 二 九 一 一
流行の心理と現代經濟生活	米田庄太郎〔國經〕大 三 二 七 一 一
商業學の意義と存在並に國民經濟に關する關係	熊崎 良〔國經〕大 三 二 六 二 一
經濟現象としての現戰役	安田與四郎〔日經〕大 三 二 六 三 五
經濟上の根本問題	添田 壽一〔財經〕大 三 一 一 一
經濟と道德との關係	田島 錦治〔京法〕大 三 九 五 五
經濟生活に對する國家の干渉	細井安次郎〔國經〕大 三 二 七 一
經濟生活論	鹽島 仁吉〔東經〕大 三 六 九 七 二
經濟と技術	增井 光藏〔國經〕大 四 一 八 一 一
基本的なる經濟的權利	米田庄太郎〔京法〕大 四 一〇 三 六
社會問題と經濟及び道德	山田 利淳〔東經〕大 四 七 二 九 六
經濟主義に就て	戸田 海市〔經叢〕大 四 一 一 八〇〇
危險分散主義の原則（合理的經濟並生活の原則）	神戸 正雄〔經叢〕大 四 一 一 四
ライプテヒ大學の經濟演習	西 彦太郎〔經叢〕大 五 二 一 一
戰爭と經濟國家主義	楠田 民藏〔國家〕大 五 三〇 九 三

經濟雜話	田島 錦治〔經叢〕大 七 六 一 一
經濟漫錄	瀧本 誠一〔經叢〕大 七 六 一 一
區別さるべき經濟生活の二様式	丸谷 高市〔國經〕大 六 三 三 四
經濟と技術	舞出長五郎〔國家〕大 六 三 二 一
國民經濟の基礎を擴大す可し	堀切善兵衛〔三學〕大 六 二 二 一
保險と經濟	小島昌太郎〔保叢〕大 六 一 二 一
經濟的行為と道德的行為との關係	田島 錦治〔經叢〕大 八 八 七 六 四
世界經濟の成立	作田 莊一〔亞經〕大 七 二 八 七 六 四
戰時經濟と「社會的最小限」	森戸 辰男〔國家〕大 七 三 三 一
經濟生活の意義	山口正太郎〔商經〕大 七 一 一 一
藝術と經濟	阿部 秀助〔三學〕大 八 一 三 一 一〇
經濟生活革新運動	河津 暹〔國家〕大 八 三 二 一 三
經濟道德の新解釋	石澤久五郎〔國經〕大 八 七 三 六
經濟循環期論	財部 靜治〔經叢〕大 八 八 二 六
經濟現象の定量的觀察	山口正太郎〔商經〕大 八 一 一 四
大經濟地域及小經濟地域	馬場 誠〔國經〕大 九 二 九 五
經濟生活の道德化	神戸 正雄〔經叢〕大 九 二〇 六
人格主義の立場に於ける經濟と人生の一考察	石川 典二〔經叢〕大 九 二〇 六

グセルの「自由經濟論」
論語に於ける經濟道徳
經濟社會に對する史的考察
無自覺なる經濟生活
古美術と經濟
經濟單位の概念と其變遷
經濟生活の本質
經濟進歩の一面觀
世界經濟の整理
世界經濟の思想と其實況
經濟生活と法律生活との矛盾

乾治〔三學〕六九二
齋藤 要〔法政〕六九七
淺野 研真〔法政〕六九七
波多野 堯〔洋經〕六九一
黒田太夫馬〔東經〕六九八
伊藤 久秋〔商經〕六九〇
大野 辰見〔商經〕六九〇
平井常次郎〔商經〕六九〇
小林丑三郎〔商經〕六九一
藤田敬太郎〔國經〕六九三

館田 謙吉〔商經〕六九一
作田 莊一〔經叢〕六九二
河津 運〔經商〕六九二
岡野文之助〔國聯〕六九二

橋本 増吉〔亞經〕六九二
堀 經夫〔經叢〕六九二
佐野 學〔我等〕六九二

加田 哲三〔三學〕六九二
堀江 歸一〔銀研〕六九二

納武 津〔東經〕六九二

社會及經濟
時局緊急の經濟關係諸助令
經濟と自然
經濟封鎖の研究
經濟行動と心理學
世界經濟と植民政策
經濟社會の存立及其發達を論ず

神戶 正雄〔經叢〕六九二
大内 武次〔經商〕六九二
齋藤 春次〔新報〕六九二
福富 一郎〔法政〕六九二
長田 三郎〔商經〕六九二

津田 武二〔國經〕六九二
アボット〔東經〕六九二
作田 莊一〔經叢〕六九二
土方 成美〔社經〕六九二
財部 靜治〔經叢〕六九二

増井 光藏〔國經〕六九二
山口正太郎〔國經〕六九二
田中 俊彦〔長叢〕六九二
松田 義雄〔國家〕六九二
田中 貢〔經商〕六九二
大内 武次〔經商〕六九二

竹島富三郎〔商經〕六九二
竹井 廉〔新聞〕六九二
大内 武次〔經商〕六九二

白人經濟對東洋經濟
宗教生活と經濟生活カルツ
イニズムの英國經濟に及ぼせる影響について
倫理と經濟との關係
法律及經濟の一元論的考察
經濟生活に於ける心理學的應用

柏田 忠一〔亞經〕六九二
笹森 健三〔商經〕六九二
財部 靜治〔經叢〕六九二
山内 正殿〔商研〕六九二
水上森太郎〔法治〕六九二
岸本誠二郎〔經研〕六九二

長谷川高太郎〔我等〕六九二
小林丑三郎〔經商〕六九二
川邊喜三郎〔社經〕六九二
高柳松一郎〔國知〕六九二
志村源太郎〔統集〕六九二

高木友三郎〔法集〕六九二
野村兼太郎〔我等〕六九二
高田 保馬〔經研〕六九二
小林丑三郎〔商經〕六九二
西 雅雄〔マル〕六九二
勝田 貞次〔イン〕六九二
松下 芳男〔法政〕六九二

經濟の原理
經濟學は應用せられたる人生學の結果
經濟學と統計學を論ず
統計學と經濟學との關係
ボアソナード氏の經濟論を評す
現時日本に於ける經濟學の地位を論じて所感を述ぶ
經濟學研究の方法としての統計

丸谷 喜市〔國經〕六九二
參照 價格、價值、貨幣、銀行、金融、經濟、經濟政策、限界效用、財產、財政、産業、資本主義、社會學、社會主義、需要と供給、商業、所得、消費、人口、信用、生産、租税、地代、賃銀、統計、富、農業、貧困、物價、分配、貿易、報關、漸進、利益分配、利子、利潤、勞働と資本、勞働及び勞働階級

歲市 利美〔統集〕六九二
殖田直太郎〔統集〕六九二
河合 利安〔スタ〕六九二
横山 雅男〔統集〕六九二
金井 延〔法協〕六九二
田島 錦治〔法協〕六九二
吳 文聰〔統集〕六九二

經濟學小史	岩政 憲三〔新報〕三四七七
ワグネル述獨逸諸大家の經濟學及社會主義	持地六三郎〔國家〕三四七三
經濟學の定義及分科に付て	高野岩三郎〔國家〕三四八二
經濟學の基本原理及其重要なる所以を論ず	神戸 正雄〔國家〕三四二一
經濟の意義、種類を論じ吾國歷史上經濟階級の實際的活動に及ぶ	山内 正敏〔國家〕三四二二
時勢と經濟學	金井 延〔志林〕三四五〇
經濟理法を論ず	小林丑三郎〔明法〕三四一五
經濟學の根本問題に關し現代諸大家の學說を評して自家の所見を述ぶ	河上 肇〔國家〕三四二一
トマス・ダキノの經濟學說	福田 德三〔國家〕三四二二
經濟學の起原と其沿革に就て	和田垣謙三〔法政〕三四八二
經濟學の分類に就て	山内 正敏〔志林〕三四七三
經濟基本論に對する疑義	山内 正敏〔志林〕三四七五
經濟意義論の概要	山内 正敏〔新報〕三四二五
正統經濟學派及歴史經濟學派の經濟政策に對する關係に地位を論ず	松崎藏之助〔國經〕三四一六
歴史並經濟學派と經濟的史	

獨逸經濟學派の趨勢	阿部 秀助〔志林〕三四九二
諸經濟學派の經濟政策觀	高岡 熊雄〔國經〕三四二
經濟學者無用論及其批評	松崎藏之助〔日經〕三四一
最新經濟學派殊に社會政策及社會主義の經濟政策に對する關係に地位を論ず	河上 肇〔明學〕三四一五
福田博士の「經濟學講義」集義和來に現れたる熊澤善山の經濟學說	松崎藏之助〔國家〕三四二
經濟學史の研究に就て	瀧本 美夫〔國經〕三四三
東洋經濟學の建設	河上 肇〔國家〕三四二
英國經濟學界の近狀	阿部 秀助〔志林〕三四九
中井竹山の草茅危言に於ける經濟學說	山路 愛山〔日經〕三四一
佛國經濟學界の近狀	原島 茂〔國經〕三四四
晚近伊太利經濟學の發達と斯學研究の新趨向	松崎 壽〔國經〕三四五
經濟學參考書搜索指針	高木 二郎〔國經〕三四一
アシュレー教授の大學經濟科繁榮策に就て	神戶 正雄〔京法〕三四三
經濟學史上の一奇觀	神戶 正雄〔京法〕三四三
	河上 肇〔京法〕三四四
	小川 節〔三學〕三四一

經濟原論の内容區分に付て	瀧本 美夫〔國經〕三四七
經濟學の内容區分に關する瀧本君の論文に就ての疑點一二	福田 德三〔國經〕三四七
歸納的真理の價値の大小	河上 肇〔國經〕三四七
經濟學研究法に就て福田博士に教を乞ふ	河上 肇〔國經〕三四七
陽明學と經濟學	山路 愛山〔日經〕三四五
經濟學上に法則なし	河上 肇〔日經〕三四五
經濟學の基本觀念に關する管見	吉野 作造〔日經〕三四二
正統學派の功罪及び經濟學の現狀	河上 肇〔日經〕三四二
法律學と經濟學の接觸點	山口 弘一〔國經〕三四八
實際經濟政策に對する經濟學の意義	小泉 信三〔三學〕三四三
經濟學上の常規を論ず	財部 靜治〔新報〕三四二
我國經濟學界の急務	他島 誠三〔日經〕三四〇
經濟學と經濟法則	河上 肇〔國經〕三四二
計理學と經濟學との關係に就て	佐野 善作〔日經〕三四九
日英經濟思想の相違	大越 成徳〔東經〕三四三
ロンドン經濟政治學校講義目錄	上田貞次郎〔國經〕三四二

福田博士著「經濟學教科書」を讀む	寺尾 隆一〔國經〕三四三
經濟學の原理に關する一疑點	稻田周之助〔日經〕三四八
レオン・クラア及びピロザンヌ學派	高田 保馬〔國經〕三四三
經濟學上の法則と其研究法	瀧 正雄〔京法〕三四二
左右田學士の「經濟法則の論理的性質」を讀む	高田 保馬〔京法〕三四一
福田博士に答ふ	左右田喜一郎〔國經〕三四二
獨逸最近の經濟學(講演)	阿部 秀助〔國家〕三四二
囚はれたる經濟學	大西猪之助〔國經〕三四二
「内外經濟名著」の刊行	河上 肇〔京法〕三四二
經濟學者と社會學者	山口鎌治郎〔國經〕三四二
徳川時代の經濟學說に就て(講演)	瀧本 誠一〔國家〕三四四
純理的國民經濟學の對象及根本概念	飯島 幡司〔國經〕三四四
十七、八世紀に於ける和蘭經濟學說	福田 德三〔三學〕三四九
維新前の經濟書に就いて(講演)	内田 銀藏〔國家〕三四六
經濟學の職分	作田 莊一〔國家〕三四六
世界經濟學の要求と其意義	阿部 秀助〔日社〕三四一

經濟學に自然法ありや カント認識論と純理經濟學	飯島 楠司〔國經〕六四一九	五
經濟學の三様式	左右田喜一郎〔國經〕六四一九	五
經濟學認識論の若干問題	安田典四郎〔日經〕六四二六	八
孔孟の政治經濟說管見	左右田喜一郎〔國經〕六四二六	八
經濟學の科學的性質の變遷	田島 錦治〔經叢〕六四二一	二
デヰキッド・ヒュームの經濟學說	大矢和 昇〔三學〕六四一九	二
經濟學に於ける法則の意義	福田 徳三〔經叢〕六四二一	二
瀧本誠一氏の草莽危言摘義の解題に就て	山口正太郎〔國經〕六四二二	二
本多利明の經濟說	鈴木券太郎〔經叢〕六五二三	二
ラッソー「ミール」學說の研究	本庄榮治郎〔經叢〕六五二二	一六
本多利明の經濟說に關し本庄學士の教を乞ふ	大塚金之助〔經叢〕六五二三	一四
本多利明の經濟說に關し福田博士の高教に答ふ	福田 徳三〔經叢〕六五二三	一
神惟孝の事に就き鈴木券太郎氏に答ふ	本庄榮治郎〔經叢〕六五二三	二
米國經濟學思潮の今昔	瀧本 誠一〔經叢〕六五二三	四
所得を中心とする經濟理論の結構	高島佐一郎〔三學〕六五二〇	一〇
グレシャムの法則と徳川時	小泉 信三〔三學〕六五二〇	一〇

代の經濟學說	增井 幸雄〔三學〕六六一一	一
フランソワ・ケネーの經濟論	高橋誠一郎〔三學〕六六一二	一
經濟心理學の組織的研究	米田庄太郎〔經叢〕六六一一	一五
「一經濟學者の第二思想」を讀む	河上 肇〔經叢〕六六一四	二
アーノルド・トインビーと經濟學	武藤 長藏〔經叢〕六六一四	三
沙翁の著書として誤傳せられたる匿名代の經濟論	高橋誠一郎〔三學〕六六一二	四
商業教育と經濟學	堀内 泰吉〔國經〕六六一三	四
心理學者の經濟學觀	山口正太郎〔國經〕六六一三	五
ムリア教授の經濟學說に就て	矢野 貫城〔國經〕六六一三	五
英國の産業革命當時と其後に於ける經濟思想と産業政策との關係	石澤久五郎〔國經〕六六一三	五六
希臘經濟思想の特質及び價值	舞出長五郎〔國家〕六六一三	八
經濟學史について	舞出長五郎〔國家〕六六一三	一〇
ナリ・キリアム・ベチイの國富論	高橋誠一郎〔三學〕六六一二	一〇
天理學派論	西村文太郎〔國經〕六六一二	一〇
カント國家及法律哲學と論		

理形式主義經濟學	福田 徳三〔三學〕六七一〇	一一
經濟學に於ける論理主義と心理主義	山口正太郎〔國經〕六七二四	一
經濟原理四分法の辯	三邊 金藏〔三學〕六七二二	一一
自然科學派經濟學	大西猪之介〔國經〕六七二四	三六
純理論派經濟學の立脚點と其限界	山口正太郎〔國經〕六七二五	四
名譯讀餘の感想	高島佐一郎〔國經〕六七二四	四
徳川時代の經濟學說	本庄榮治郎〔經叢〕六七二七	六
經濟學と社會的過程	舞出長五郎〔國家〕六七三三	八
Tableau Economique(經濟表)の解說	三邊 金藏〔三學〕六七二二	二〇
タセノフオンの諸著に現はれたる經濟思想	高橋誠一郎〔三學〕六七二三	三三
新カント派認識論と經濟學	山口正太郎〔商經〕六七二一	三三
徳川時代に於ける大阪の經濟學說	瀧本 誠一〔商經〕六七一九	一〇
近世に於ける經濟思想の變遷	高橋誠一郎〔我等〕六八一三	三
經濟學部の分立	河津 遜〔國家〕六八三三	四
Ophelmitéの極大を論ず	手塚 壽郎〔國經〕六八三七	四
フキッシャー「世界改造と經濟學者の任務」	三上 正毅〔國國〕六八七五	五
國民經濟學と私經濟學との		

關係	渡邊 鐵藏〔國家〕六八三三	七
トオマス・ホップスの政治哲學中に現はれたる經濟學說	高橋誠一郎〔三學〕六八三三	七
優生學と經濟學	米井 靖立〔國家〕六八三三	七
ジョン・ロツクの哲學と其經濟學說との交渉	高橋誠一郎〔三學〕六八三三	八九
私經濟學の本質及其研究範圍	渡邊 鐵藏〔國家〕六八三三	九二
デヰイド・ヒュームの經濟學說	高橋誠一郎〔三學〕六八三三	九二
私經濟學發達史	渡邊 鐵藏〔國家〕六八三三	九二
米國經濟學史略	財部 靜治〔商經〕六八一	一五
意志の自由と經濟學	舞出長五郎〔經學〕六八一	一
第十八世紀英國經濟學の道徳哲學的基礎	東 晋太郎〔國經〕六九二九	一一
アウスビッツ・リーベン曲線	手塚 壽郎〔國經〕六九二九	二
大西教授著「伊太利亞の旅」と「囚はれたる經濟學」	左右田喜一郎〔國經〕六九二九	四
附福田博士著「經濟學研究」合卷	石川 與二〔經叢〕六九二〇	四
經濟學不進歩の原因に就きて		

Tacitus 並に Caesar の記 録に對する一見解	津田 武二〔國經〕大九二六 五
ラスキン「ムネラ・ブルツ エリホツプスの政治	大熊 信行〔國經〕大九二九 一
經濟學の發端 Richard Cant- illon	福田敬太郎〔國經〕大九二九 四
アンドリュウ・ヤラントソ の經濟論	高橋誠一郎〔三學〕大九二四 六
英國現代の經濟學者と社會 主義	三田村一郎〔經叢〕大九二一 六
東洋の經濟思想と荒政	小島 憲〔國國〕大九八六 一〇
フイヒテの經濟觀	阿部 秀助〔三學〕大九二四 三
フォルトレイの經濟論	山口正太郎〔商經〕大九二一 九
ロオドベルトスの經濟學說 補遺	小泉 信三〔三學〕大〇一五 一
社會法學派經濟學	伊藤 久秋〔商經〕大〇一 一
リーフマン經濟原論の心理 的立脚地	山口正太郎〔國經〕大〇三〇 二
シュテフインガトの經濟哲 學の解説	山口正太郎〔同論〕大〇一 五
經濟學者と一社會主義者と の立會演說	河上 肇〔社問〕大〇一 二
經濟的合理主義の基礎	福田敬太郎〔國經〕大〇三二 六
戦後の經濟思想	小林丑三郎〔社政〕大〇一 〇

中世に於ける經濟思想	關 未代策〔國國〕大〇一〇 一
經濟學の革命	河上 肇〔經叢〕大〇一五 一
牛津劍橋兩大學經濟學科新 課程	北村 五良〔國經〕大〇三三 一
古代希臘及び羅馬に於ける 經濟思想	關 未代策〔國國〕大〇一〇 一
中世經濟思想史序論	向井 章〔法政〕大〇一九 一
經濟哲學の概念と其の限界	館田 謙吉〔經商〕大〇一 一
經濟學界の發表數種	小泉 信三〔我等〕大〇一四 一
Adam Smith 以前	關 未代策〔經商〕大〇一一 一
經濟學觀	高田 保馬〔國經〕大〇三三 一
清教倫理的經濟思想	福田敬太郎〔國經〕大〇三三 一
アダム・スミスと經濟學	河合榮治郎〔國家〕大〇三六 一
中世經濟思想の特色	向井 章〔法政〕大〇一九 一
ジエレミー・ベンサムと經 濟學	河合榮治郎〔經論〕大〇一一 一
サー・キリヤム・テンブル の經濟論	高橋誠一郎〔三學〕大〇二六 一
ジエイ・エス・ミルと經濟 學の定義	榎本 鎮治〔三學〕大〇二六 一
トウロブリアンド島人の原 始經濟學に就て(譯)	石田秀一郎〔同論〕大〇一 一
經濟學の自然科學的基礎	上原 好咲〔三學〕大〇二六 一
リスト歴史派經濟學	山口正太郎〔經叢〕大〇一五 一

原田法學士譯「ポリユー經 濟學原論」	小川福太郎〔經叢〕大二一五 六
現代經濟學の一面	加田 哲二〔財經〕大二一九 一
貨幣中心の經濟學	大野 辰見〔商經〕大二一九 一
心理學的經濟學說に關する 若干の考察	高垣寅次郎〔商研〕大二〇一 一
經濟學に於ける自然法則の 觀念(譯)	阿部 賢一〔同論〕大二〇 八
經濟學史上のウィリアム タムソン(譯)	波多野 鼎〔同論〕大二〇 九
ブラトリーの經濟思想	住谷 悅治〔同論〕大二〇 九
歴史派經濟學と史學方法論	山口正太郎〔商經〕大二〇 九
アダム・スミスの經濟學	關 未代策〔經商〕大二〇 九
飯島權司著「デイド修正經 濟學原論」を讀む	高島佐一郎〔國經〕大二〇 九
恒藤恭著「ジムメルの經濟 哲學」	増井 光藏〔國經〕大二〇 九
古典派、俗流、歴史派及マ ルクス派經濟學	ルクセンブルグ〔原雅〕大二〇 九
タブーとしての近代經濟學 說	出井 盛之〔我等〕大二〇 九
歴史派經濟學發達の経路	山口正太郎〔經叢〕大二〇 九
レーデラー教授の經濟學理 論上の結構	有澤 廣巳〔經論〕大二〇 九

希臘經濟思想概観	梅北 末初〔商研〕大二一 一
經濟學史上のベツカリヤ	小川福太郎〔經叢〕大二一 一
經濟學に於ける概念構成の 問題	李 永霖〔國經〕大二三四 一
經濟學及び社會思想の唯物 史觀概論	榎田 民藏〔我等〕大二三 一
希臘思想の背景と經濟論の 萌芽	谷口彌五郎〔我等〕大二三 一
クエイカの經濟思想	上田辰之助〔國經〕大二三 一
カントに歸つて經濟學を論 ず	勝田 貞次〔三學〕大二一 一
リカアド經濟論文集の刊行	谷口 吉彦〔經叢〕大二一 一
經濟原論と經濟政策	大内 武次〔經商〕大二一 一
所謂經濟法學の出現に就て	竹井 廉〔志林〕大二二五 一
アダム・スミスと其後の佛蘭 西經濟學說	増井 幸雄〔三學〕大二一 一
アダム・スミスの理論經濟學 概論	小島 信三〔三學〕大二一 一
アダム・スミスの理論經濟學 體系に就て	松浦 要〔新報〕大二三 一
經濟學の科學的性質と經濟 法則の意義	勝田 貞次〔三學〕大二一 一
現代社會思潮と最近の經濟 思想	永井 亨〔社政〕大二一 一

経済学と統計学	那 菊之助〔商叢〕六三	一
リストの國民経済学	古屋 美貞〔同論〕六三	一
経済学の自然哲學的基礎 (ブルガコフ)	恒藤 恭〔同論〕六三	一
アダム・スミスのフイデオク ラート批評	村松恒一郎〔商研〕六三	三
経済現象に於ける権力關係	長谷川萬太郎〔原雜〕六三	三
経済学の基礎觀念	小林丑三郎〔經商〕六三	三
ケネーの経済表と唯物史觀 との交渉	柳田 民藏〔原雜〕六三	二
スミスと浪漫派経済学	山口正太郎〔經叢〕六三	一八
和學者の経済学説	瀧本 誠一〔三學〕六三	一六
マルクスの経済学説を克服 する唯一の方法	カウツキー〔原雜〕六三	二
高橋龜吉著「経済学の實際 知識」	山川 均〔マル〕六三	一
ヘーゲルの哲學史とマルク スの経済学史	久留間敏造〔原雜〕六三	二
ラッサール経済学説の研究	山口正太郎〔我等〕六三	六
経済学の再建と消費問題	柳澤 泰爾〔經商〕六三	三
数理経済学に於ける二つの 傾向と其の綜合の試みと に就て	中山伊知郎〔商研〕六三	三
経済学理の基調としての人		二

性考察	東 晋太郎〔國經〕六三	三六
米國經濟學史上のケリーと 其の著述	武藤 長藏〔長叢〕六三	四
經濟學諸概念の社會心理學 的考察	上原 好咲〔三學〕六三	一八
パウエル「社會主義經濟論 の一發展」	赤松五百磨〔我等〕六三	六
經濟學方法論上の一疑問	土方 成美〔國家〕六三	三六
作用經濟學と其構成法に就 て	勝田 貞次〔國經〕六三	三七
西洋經濟思想の渡日は國富 論出版の年を以て嚆矢と ならずが如し	竹内 謙二〔國家〕六三	三八
新經濟學の曙光	八木澤善次〔新報〕六三	三六
エンゲルス「經濟學批判大 綱」(譯)	森田 信一〔我等〕六三	六
J.M. Clark 「經濟學社會化 論」(譯)	八木澤善次〔新報〕六三	三六
經濟學及び動態(クライク ゼノフォン經濟思想	林 要〔同論〕六三	一三
二、三、の經濟學教科書に 就て	住谷 悦治〔同論〕六三	一五
經濟學に於ける抽象的推理 の效用	大野 辰見〔商經〕六三	一
	小林 義雄〔商叢〕六三	二

經濟學の發達	淡川 康一〔商叢〕六三	二
快樂主義經濟學説の心理的 基礎(特にゼレミー・ベ ンサムの學説を中心とし ての研究)	高垣寅次郎〔商研〕六三	三
歴史派經濟學と社會政策	高橋誠一郎〔社政〕六三	一
加特力教經濟學の衰滅	高橋誠一郎〔社政〕六三	一
アインシュタイン相對性原理 と經濟法則の客観性	二木 保義〔社科〕六四	一
最近の巴里大學並に佛蘭西 經濟學界の一般	江藤 誠之〔國經〕六四	一六
理論經濟學の創始者として のリカルド	村松恒一郎〔商研〕六四	五
經濟學的認識の價値性質	杉村 廣藏〔商研〕六四	五
三つの著述を通じて見たる オグユタン クールノー の經濟學説	中山伊知郎〔商研〕六四	五
經濟學に就て	高田 保馬〔經研〕六四	二
經濟學批判の方法論	福本 和夫〔マル〕六四	三
英國經濟學發展の一大觀	財部 静治〔經叢〕六四	二〇
商書周書に見はれたる政治 經濟思想	田島 錦治〔經叢〕六四	二
徒然草に現はれたる經濟思 想	中村 信一〔法政〕六四	三

「マルクス經濟學大綱」を 讀む	西 雅雄〔マル〕六四	三
經濟哲學の二問題	本庄榮治郎〔經研〕六四	二
中井竹山の經濟思想	伊藤 秀一〔三學〕六四	一九
自然的地理的環境の經濟學 的考察	松下 芳男〔法政〕六四	三九
ベルンシュタインの經濟形 態論	青木 孝義〔法政〕六四	三三
重農主義と國民經濟學の成 立	高橋誠一郎〔三學〕六四	一九
「國富論」以後	村松恒一郎〔商研〕六四	四
フイデオクラット經濟學に 顯はるゝ二つの思想動機 と其哲學的基礎	高垣寅次郎〔商研〕六四	四
經濟概念の論理的前提に就 ての疑問		二
大學としての政治學經濟學 の過去を顧みて政治經濟 學部の使命に及ぶ	高田 早苗〔早政〕六四	一
經濟學方法論概説	二木 保義〔早政〕六四	一
新しい經濟學への一貢獻	出井 盛之〔早商〕六四	一
經濟學の基調としての社會 學に關する考察	小林 郁〔社叢〕六四	一
經濟學と經濟動學との調		一

和
經濟學の發達
マーシャル經濟思想に於ける綜合とその意義
現代印度の經濟學
通俗マルクス經濟學への一貢獻
マルクス「經濟學批判」の腹案に就いて(譯)
カッセル「理論的社會經濟學」の研究
グスタフ・カッセル「經濟學根本思想」の一節
經濟學の前提を爲す哲學心理學及社會學の諸條件と經濟學との關係
戦近佛國に於ける社會主義經濟學說
「大學」に見はれたる經濟思想
「經濟學批判」の完成
ケネー「經濟表の範式」に就て
經濟學史上より見たる最近

喜多村利雄	〔商經〕	大三四	一七
淡川 康一	〔商經〕	大二三	一
猪谷 善一	〔社科〕	大二二	一
出井 盛之	〔我等〕	大三八	一
北澤新次郎	〔我等〕	大三八	一
久留間敏造	〔原義〕	大三四	一
高島佐一郎	〔國經〕	大三四	一
高木 壽一	〔三學〕	大五二〇	二
井關 幸雄	〔法政〕	大五二三	二
關 未代策	〔商經〕	大五二五	二
田島 錦治	〔經義〕	大五二三	三
西 雅雄	〔マル〕	大五二四	三
三邊 金藏	〔三學〕	大五二〇	四

經濟學の地位
「經濟學批判」の批判
ケネーとアダム・スミス
Le fait socialの性質と經濟學の研究方法
經濟學と統計學
經濟學の倫理性
經濟學文獻の邦譯二つ
正統派經濟學に於ける人間性論
社會生活の進化と經濟學
經濟學の範圍及び研究方法
チャップマンの經濟學觀

【經濟史】
ラダザの帳簿に現はれたる伊太利經濟史の一節
ウグタラズの時代と其學說
經濟未生已前の人類狀態
日本經濟史研究の材料に就て
經濟史の材料に就て
室町時代の經濟史的事實の

大館 堯壽	〔新報〕	大五三六	四
西 雅雄	〔マル〕	大五三四	五
瀧本 誠一	〔三學〕	大五二〇	六
松浦 要	〔新報〕	大五三六	六
那 菊之助	〔統義〕	大五三六	六
高橋誠一郎	〔社政〕	大五三七	六
岩崎 卯一	〔社義〕	大五三七	六
古屋 美貞	〔同論〕	大五三六	六
酒井正三郎	〔商義〕	大五三三	六
前馬 治一	〔商義〕	大五三三	六
那 菊之助	〔商義〕	大五三三	六
參照 經濟。經濟學。經濟事情。經濟政策。産業。社會。法制史(尙各國名を見よ)			
福田 徳三	〔國經〕	大五三三	六
福田 徳三	〔國經〕	大五三三	六
河上 肇	〔國經〕	大五三三	六
内田 銀藏	〔國家〕	大五三三	六
内田 銀藏	〔東經〕	大五三三	六

一端
經濟發達階段の心理化
拙著「經濟史總論」に就き
松崎商學士の批判に答ふ
日本經濟史料(室町時代記録の部)
日本中世經濟史料
支那古代の社會史經濟史と其研究補助學としての說文學
日本經濟の發展
經濟史觀の前九年後三年の役
玉葉の經濟史的研究
第十九世紀に於ける獨逸經濟發達の一斑
ビュツヒアの經濟發達階段説は其獨創に非ず
リストの經濟發達階段説に就て
ヒルデブランドの經濟階段説に就て
「ヴェアギルド」の經濟史的研究

松本彦次郎	〔三學〕	大四二五	三
米田庄太郎	〔國經〕	大四二二	三
内田 銀藏	〔國經〕	大四二二	三
松本彦次郎	〔三學〕	大四二七	三
松本彦次郎	〔三學〕	大四二七	三
田崎 仁義	〔國經〕	大四二二	三
石井 宗吉	〔國經〕	大四二二	三
松本彦次郎	〔三學〕	大三八	六
松本彦次郎	〔三學〕	大三八	六
高島佐一郎	〔三學〕	大四九十二	三
神戸 正雄	〔經義〕	大五三三	三
本庄榮治郎	〔經義〕	大六五	四
本庄榮治郎	〔經義〕	大六五	五
津田 武二	〔國經〕	大八二七	二

ビュツヘルの經濟階段説に就て
經濟史の研究に就て
近刊の經濟史に關する三著述
本庄法學士の「經濟史研究」歐米經濟史界の趨勢と其研究法
竹越氏の日本經濟史に就て
日本經濟史研究の必要と困難
ロイヤ經濟史概説
經濟史研究に就て
エルンスト・フリードリッヒの經濟階段説
經濟發達の常序に就きて
カンニングハムの經濟史の立場
經濟發達階段説に對するゲオルグ・フォン・ペロウの批評
日本の經濟史の特性
經濟發達階段説の性質
ヒルデブランドの階段説の

本庄榮治郎	〔經義〕	大八八	六
瀧本 誠一	〔三學〕	大八二三	二
本庄榮治郎	〔經義〕	大九二	二
内藤吉之助	〔國家〕	大九三四	七
木村 莊五	〔三學〕	大九二四	九
本庄榮治郎	〔經義〕	大九二	二
本庄榮治郎	〔經義〕	大九二	二
本庄榮治郎	〔經義〕	大九二	二
佐野 學	〔國家〕	大九二五	五
野村兼太郎	〔三學〕	大九二五	二
黒正 巖	〔經義〕	大九二四	三
財部 静治	〔商經〕	大九二四	三
本位田祥男	〔經論〕	大九二四	三
土屋 喬雄	〔經論〕	大九二二	一
本庄榮治郎	〔經義〕	大九二二	一
石田秀一郎	〔同論〕	大九二二	一

立脚點に就て

本庄博士講義大阪經濟史に就て

原始黃金時代の回復 經濟史上に於ける宗教の地位

商業史と經濟史

古代英國經濟史考断片

世界經濟の成立過程

經濟の發達に就て(講演) Thomas More, Utopia を通

じて見たる當時の經濟狀

經濟史講話 經濟史の研究方法

【經濟事情】

明治十年以後の我邦經濟事情

日獨經濟小觀

國際經濟競爭と我國民經濟

石田秀一郎(同論) 大五 一 二五

肥田 昌三(商經) 大五 一 二二

石川三四郎(我等) 大五 七 三

石濱 知行(我等) 大五 七 四

大野 辰見(商經) 大五 一 二〇

野村兼太郎(三學) 大五 二〇 一

作田 莊一(經濟) 大五 三 一四

本庄榮治郎(彦) 大五 一 一

本位田祥男(經論) 大五 四 四

田崎 仁義(長卷) 大五 七 四一

福本 和夫(社科) 大五 二 五

參照 海運、貨幣、恐慌、競爭、銀行、金融、景氣、經濟、政策、工業、財政、産業、社會、商業、物價、貿易、(尙各國名を見よ)

田口 卯吉(統集) 四三 一 九四

田島 錦治(内外) 四五 一 一

政策の大本 世界經濟上に於ける農業及工業の調和

經濟界の前途に就て 日本國民經濟の轉趨

本邦經濟界の趨向 經濟的海外發展論

伊藤公と財政經濟(講演) 水災の經濟界に及ぼす影響

如何 財政經濟の將來

ペルンに於ける經濟學會議に就て(講演)

改元と經濟 經濟上の大日本主義

我國經濟の地位 明治大帝の崩御と經濟上の影響

明治後半期の經濟的變化 氣候と世界經濟

帝國經濟上の概観(講演) 憐れむべき日本の世界經濟上の地位

神戸 正雄(京法) 四四 三 二

氣賀 勲重(國經) 四四 一 三

瀧 臺水(東經) 四四 一 五七

松崎藏之助(國經) 四四 一 七

米澤 貞二(國經) 四四 一 九

服部文四郎(外時) 四四 一 三

澁澤 榮一(國家) 四四 二 四

北崎 進(東經) 四四 三 一五

片岡 直温(洋經) 四四 一 三六

阪谷 芳郎(法協) 四四 三 〇

阪谷 芳郎(新報) 四四 三 三

黒澤 龍演(東經) 四四 六 一六

植松 考昭(洋經) 四四 五 一

高野岩三郎(統集) 四四 五 一

阪谷 芳郎(日經) 大五 一 一〇

安田典四郎(洋經) 大五 一 一三

石橋 五郎(國經) 大五 一 二

早川千吉郎(國家) 大五 二 七

神戸 正雄(京法) 大五 二 八

戰爭と經濟 中央調查局建設の議

財政經濟問題の骨子 經濟的戰時準備有りや

大藏大臣の經濟觀を評す 我國經濟の實況

歐洲戰亂の經濟的教訓 パナマ運河の日本經濟上に及ぼす影響

戰後の經濟界に於けるの策 交戦國の軍費と戰時經濟

歐洲戰亂と我經濟界 大局上經濟的不利益にあらず

戰後に於ける日本の資本的獨立 歐洲戰爭の我經濟に及ぼす影響

歐洲大戰の經濟界に及ぼす影響如何 戰爭と經濟

閉却せられたる英國の要訣 經濟界の憂は歐洲戰後 戰後の經濟的變動

國歩艱難の秋なり(戰後の經濟界を論ず)

戰爭が齎せる經濟の混亂 歐洲交戦國の資本回收と日本經濟

世界的經濟戰爭 戰後の國際經濟競爭と日本の地位

歐洲開戦の一周年 世界經濟の變動と日本地位

依然たる財政經濟上の懸案 財政經濟本位の國際競爭

戰爭と經濟組織 歐洲大亂と本邦の經濟界

我國經濟界の將來 中歐經濟同盟說に就て

戰後の經濟的革新 經濟界の現勢と趨勢と大勢

聯合國經濟同盟に對する我國の態度 解決されざる財政經濟問題

多難なる我が經濟界の前途 時局と戰時經濟上の教訓

我國の立脚地より觀たる經濟事情

河津 暹(財經) 大五 一 一

河田 嗣郎(京法) 大五 一 〇

戸田 海市(財經) 大五 二 一

テリ 一(國際) 大五 二 四

本多 精一(財經) 大五 二 五

本多 精一(財經) 大五 二 八

本多 精一(財經) 大五 二 九

本多 精一(財經) 大五 二 一

本多 精一(財經) 大五 二 二

本多 精一(財經) 大五 二 三

本多 精一(財經) 大五 二 四

濟同盟
戰時經濟論
戰後に於ける世界の經濟戰
聯合國經濟同盟論
戰後の經濟戰に對する準備
戰後經濟調査の要目に就て
日支兩國の經濟關係
排獨經濟聯合と日本の立脚地
經濟問題と日本
經濟界の前途如何
米國の資本と日本の頭腦
巴里經濟會議の決議に就て
聯合國經濟同盟問題
戰後の經濟競爭と我國の問題
經濟同盟の價值
我國當面の經濟問題
戰後に對する二大準備
過去一ヶ年に於ける財政經濟の大勢
米獨斷交と我國經濟界
本年の我が經濟界如何
經濟上に於ける安全第一

河津 暹	(財經)	大五	三	五
岡本兵太郎	(國家)	大五	三	五
阪谷 芳郎	(財經)	大五	三	五
河津 暹	(國家)	大五	三	五
神戶 正雄	(經叢)	大五	三	五
本多 精一	(財經)	大五	三	五
添田 壽一	(財經)	大五	三	五
本多 精一	(財經)	大五	三	五
神戶 正雄	(國際)	大五	三	五
早川千吉郎	(財經)	大五	三	五
雪 堂 生	(財經)	大五	三	五
阪谷 芳郎	(財經)	大五	三	五
戶田 海市	(外時)	大五	三	五
河津 暹	(外時)	大五	三	五
小林丑三郎	(東經)	大五	三	五
辻村 楠造	(財經)	大五	三	五
河田 嗣郎	(經叢)	大五	三	五
熊谷貞次郎	(國經)	大五	三	五
小川郷太郎	(經叢)	大五	三	五
伊藤 欽亮	(財經)	大五	三	五
内田 嘉吉	(財經)	大五	三	五

日支經濟關係改善の骨子
戰後の經濟準備に就て
日米協定と日本の經濟
經濟上の變態と其の調節策
戰後の國際經濟同盟
對敵經濟封鎖策の效果如何
戰後の經濟と自給政策
戰後經濟準備と資金充實策
戰時經濟論
我國の經濟活力に就て
經濟調査機關再興の必要
我國現下の經濟問題
東洋に於ける日本の經濟上及び金融上の位置
内外經濟界に及ぼす講和の影響
戰後經濟と物價調節問題
經濟的反動の趨向
財政問題よりも經濟問題
大戰の本邦經濟界に及ぼせる影響の統計的觀察
經濟界の將來に就いて
憲法と財政經濟
戰後の我が經濟的地位

本多 精一	(財經)	大六	四	六
橋本圭三郎	(財經)	大六	四	六
神戶 正雄	(經叢)	大六	四	六
橋本圭三郎	(財經)	大六	四	六
雪 堂 生	(財經)	大六	四	六
山本源太郎	(東經)	大六	四	六
田尻稻次郎	(財經)	大六	四	六
早川千吉郎	(財經)	大六	四	六
上田貞次郎	(保評)	大六	四	六
岡 實	(國家)	大六	四	六
志立鐵次郎	(財經)	大六	四	六
橋本圭三郎	(財經)	大六	四	六
井上準之助	(國家)	大六	四	六
本多 精一	(財經)	大七	五	一
添田 壽一	(財經)	大七	五	一
氣賀 勲重	(三學)	大七	五	一
橋本圭三郎	(財經)	大七	五	一
原田作之助	(國經)	大七	五	一
志立鐵次郎	(財經)	大七	五	一
神戶 正雄	(經叢)	大七	五	一
早川千吉郎	(財經)	大七	五	一

講和會議に反映せる日本の經濟的地位
今後の經濟に處する途
世界の經濟事情と我が産業政策
過去の五年と未來の五年
經濟界不安の繼續
經濟界の將來は樂觀か悲觀
經濟界の推移と將來の準備
新時代の經濟生活
日獨今後に於ける經濟關係に就て
經濟界と金融機關
日本に於ける社會上及び經濟上の推移に就て
思想問題と經濟問題との關係
經濟界の前途と吾人の覺悟
米國の世界不況救濟論
經濟界更新の急務と其政策
經濟聯盟大會に就て
理想主義より見たる經濟問題
東亞經濟力樹立に關する私題

本多 精一	(財經)	大八	六	六
木村 雄次	(財經)	大八	六	六
添田 壽一	(財經)	大八	六	六
安田與四郎	(洋經)	大八	六	六
戶田 海市	(經叢)	大八	六	六
早川千吉郎	(財經)	大八	六	六
井上準之助	(財經)	大八	六	六
大隈 重信	(東經)	大八	六	六
ゾル フ	(東經)	大八	六	六
田中鐵三郎	(經究)	大八	六	六
ジョーンス	(國經)	大八	六	六
稻田周之助	(新報)	大八	六	六
利田 豊治	(財經)	大八	六	六
平沼 淑郎	(財經)	大八	六	六
小林丑三郎	(財經)	大八	六	六
福井 盛太	(辯協)	大八	六	六
中込本治郎	(社政)	大八	六	六

見
複雑なる經濟界の現状
東亞大陸策樹立の要
世界の經濟問題概論
海外經濟近情
世界經濟の復活と獨逸賠償問題
支那關稅改正と日支經濟關係
國際經濟會議に就て
國際經濟會議
國際經濟戰と産業參謀本部
世界の經濟と軍備
經濟問題と國際爭議の關係
經濟議會論
我國經濟の將來
國際日本政治及經濟復興事業と經濟界の現況
經濟的豫見とその限界
經濟的亡國論
我國經濟發達の一轉期
新年の經濟界の景況と國民の社會的自覺
内外經濟事情の研究

高橋 是清	(外時)	大八	六	六
箕浦 勝人	(東經)	大八	六	六
長尾 半平	(東經)	大八	六	六
志立鐵次郎	(財經)	大八	六	六
志立鐵次郎	(財經)	大八	六	六
中島久萬吉	(國聯)	大八	六	六
高柳松一郎	(財經)	大八	六	六
高岡 熊雄	(財經)	大八	六	六
諸井 四郎	(東經)	大八	六	六
後藤 新平	(外時)	大八	六	六
後藤 新平	(東經)	大八	六	六
清水文之輔	(東經)	大八	六	六
丸谷 喜市	(國經)	大八	六	六
小林丑三郎	(經商)	大八	六	六
岡 實	(國知)	大八	六	六
河田 嗣郎	(經叢)	大八	六	六
福田敬太郎	(國經)	大八	六	六
池田 龍藏	(エコ)	大八	六	六
瀧谷 善一	(エコ)	大八	六	六
神戶 正雄	(時經)	大八	六	六
藤谷 國藏	(商事)	大八	六	六

經濟封鎖の法律的概観	坂本 毅 (外時) 六三	二
明年度豫算と經濟社會	堀江 歸一 (エコ) 六三	一八
經濟界の前途	神戶 正雄 (時經) 六二	一
經濟復興に關する諸研究	堀江 歸一 (資料) 六三	二〇
大正十三年の經濟社會	堀江 歸一 (エコ) 六三	二二
我國經濟恢復に關する一二の考察	河津 暹 (經論) 六三	三
經濟的意見論について	福田敬太郎 (國經) 六三	三
官役調査會の成績	伊藤 政行 (財經) 六三	二
復興景氣と戰爭經濟學	津田 武二 (國經) 六三	五
社會主義より見たる經濟狀態	濱島 覺成 (經商) 六三	三
歐米諸國經濟調査機關の施設及批判	丹羽 豊 (資料) 六三	一〇
經濟的困難の彼方	丹羽 豊 (銀叢) 六三	二
刻下の經濟問題に關する考察	中岡源一郎 (エコ) 六三	二
經濟難救治の根本主義と國民精神	成田 篤 (エコ) 六三	二
世界經濟界に於ける日本の地位	伊藤米治郎 (外時) 六三	四〇
經濟界の根本的恢復案	神戶 正雄 (時經) 六三	一
矛盾に充ちたる我經濟界	神戶 正雄 (時經) 六三	一
我邦現時の經濟界の症狀、	神戶 正雄 (時經) 六三	一

病源及療法	神戶 正雄 (時經) 六三	一
經濟的意見の發達と目的	福田敬太郎 (國經) 六三	三
ドーゾ案の國際經濟理論	堀井 光藏 (國經) 六三	九
復興途上の世界經濟	森 賢吾 (國知) 六三	五
内外經濟戰の一進一退	神戶 正雄 (時經) 六三	一
經濟界の現状と國產愛用運動	神戶 正雄 (時經) 六三	一
貿易及對外經濟大觀	神戶 正雄 (時經) 六三	一
政變と經濟界	神戶 正雄 (時經) 六三	一
最近經濟界大觀	神戶 正雄 (時經) 六三	一
先づ經濟的國是を進めよ	坂本 霞溪 (金融) 六三	二
經濟戰線と外交	太田 正孝 (外時) 六三	二
本邦に於ける社會經濟組織の推移	高野岩三郎 (原雅) 六三	一
高橋龜吉氏編「日本經濟の解剖」	生松 淨 (經研) 六三	一
國際經濟會議の意義	平野英一郎 (外時) 六三	一
最近三年の内外經濟問題	堀江 歸一 (エコ) 六三	一
國際經濟會議に就て	大熊 眞 (國知) 六三	一
經濟循環の統計的觀察	小林 新 (統集) 六三	一
經濟界根柢	米山 梅吉 (經評) 六三	一
經濟界の安定と振興	堀江 歸一 (エコ) 六三	一
最近の經濟界	神戶 正雄 (時經) 六三	一
貿易及爲替を中心としたる	神戶 正雄 (時經) 六三	一

我經濟界

【經濟政策】

國家經濟獨立主義	倉知 鐵吉 (法政) 六三	六
經濟政策 (講演)	金子堅太郎 (國家) 六三	一八
輸出入の超過と一國經濟政策	神戶 正雄 (國家) 六三	一八
正統經濟學派及歴史經濟學派の經濟政策に對する關係並地位を論ず	松崎藏之助 (國經) 六三	一
經濟政策編纂	河上 肇 (日經) 六三	一
諸經濟學派の經濟政策觀	松崎藏之助 (日經) 六三	一
最新經濟學派殊に社會政策及社會主義の經濟政策に對する關係並地位を論ず	松崎藏之助 (國家) 六三	二
經濟政策と基礎觀念	關 一 (明學) 六三	二
國際經濟統賣と我國民經濟政策の大本	神戶 正雄 (京法) 六三	二
經濟政策の倫理的方面	筑山 生 (東經) 六三	二
鐵血宰相の經濟政策を追想す	河津 暹 (日經) 六三	二

參照：經濟、經濟學、經濟事情、產業政策。

經濟政策と所謂實際問題	松崎藏之助 (法協) 六三	二七
經濟財政金融政策	田尻稻次郎 (日經) 六三	一
學者政策を論ずるの權威ありや	河上 肇 (京法) 六三	二
實際經濟政策に對する經濟學の意義	小泉 信三 (三學) 六三	三
立法事業と經濟政策	稻田周之助 (日經) 六三	八
經濟政策の科學的性質	山本 祐作 (國家) 六三	二七
經濟政策上の緩急	氣賀 勤重 (國經) 六三	一〇
經濟政策と經濟的自由	氣賀 勤重 (三學) 六三	一七
世界の趨勢に適應するの道	仲小路 廉 (財經) 六三	一八
經濟政策に對する私見	山本美越乃 (京法) 六三	一九
經濟政策の意義に就て (山本京大助教授の論文を讀む)	松崎 壽 (三學) 六三	三
「經濟政策」の意義に於て	山本美越乃 (三學) 六三	五
松崎壽氏に答ふ	松崎 壽 (三學) 六三	六
再び經濟政策の意義に就て	山本美越乃 (三學) 六三	九
「經濟政策」に關して再び	松崎 壽 (三學) 六三	九
松崎壽氏に答ふ	山本美越乃 (三學) 六三	九
經濟政策に關する山本助教授の答辯に答ふ	松崎 壽 (三學) 六三	九

地方經濟振興策
經濟政策の基礎觀念
戰時經濟政策の批判
法律化しつゝある經濟政策
我が最高經濟政策と海運政策

堀切善兵衛〔三學〕大五二〇 六
松崎 壽〔志林〕大六二九 八
森戸 辰男〔國家〕大六三一 一
謝花 寛齋〔新聞〕大八一 一五七
小島昌太郎〔經濟〕大九二二 三
武富 時敏〔財經〕大九七 七
小林丑三郎〔財經〕大〇八 六
瀧本 誠一〔亞經〕大二六 一
前田幸太郎〔亞經〕大二六 一
阪谷 芳郎〔財經〕大一九 五
高橋誠一郎〔三學〕大二二六 一〇
今西 兼二〔東經〕大二八四 二〇九
森山 小六〔東經〕大二八四 二〇七
大内 武次〔經商〕大二二 六
西川 喜一〔亞經〕大二八 三
上田貞次郎〔商研〕大二三 一
向井 鹿松〔三學〕大三八 七
堀江 歸一〔エコ〕大二三 二
馬場 敬治〔經濟〕大二三 二
堀江 歸一〔エコ〕大二三 二
阿部 賢一〔社科〕大四一 四

四大經濟的國策
危し微温的經濟策
經濟原論と經濟政策
對支經濟政策の基調
アダム・スミスの經濟政策
經濟政策の極致
消極的經濟政策の意義
經濟政策學の對象、其成立
の可能性及限界
對支經濟政策と日本
經濟政策定立上の豫件

七イの經濟政策論
グイルブランド「經濟政策の根本思想」(譯)
普選と新經濟政策
新經濟政策とロシア労働立法
對外經濟的國策樹立の急務

增井 幸雄〔三學〕大四一九 八
中山伊知郎〔商研〕大二三 四
高橋 龜吉〔洋經〕大二四 一
末川 博〔經濟〕大五三三 六
上田貞次郎〔外時〕大五五 五

【經濟地理】 參照||各圖名。

經濟地理學研究に對するグ
ル―ベル博士の見解
經濟地理學研究に關するシ
ユミツドの見解
伊藤 秀一〔三學〕大五二〇 三

【經濟哲學】 經濟學を見よ

【經濟統計】

ハウスホーフエル氏經濟生活のスタチステック
經濟生活のスタチステック
經濟スタチステック論
吳 文聰〔スタ〕四四二 三
吳 文聰〔スタ〕四三三 一
吳 文聰〔スタ〕四三三 一

經濟統計の基本
經濟に關する統計の方法に就て

河合 利安〔統集〕四二八 一
花房直三郎〔統集〕四三三 一
道家齊一郎〔統集〕四四一 一
中川 友吉〔統集〕四四一 一
大内 武次〔經商〕大五五 一
藤本博士著「經濟統計」と
卷川學士譯「經濟統計」
要

郡 菊之助〔國經〕大五四〇 一

【警 察】 參照||監獄。言論の自由。司法警察。新聞紙。犯罪。

警察訓令權の監視を論ず
警察根本法を殺す勿れ
一八八九年伊國公安取締法
(保安警察法)
警察權の所有權に對する關係
帝國現行警察法規に就て
警察と臣民の權利
警察法研究の必要
警察權の根據
本邦警察の沿革
言論の自由

久米 金彌〔國家〕四二〇 一
江木 衷〔新報〕四二四 一
阿成樓主人〔新報〕四二六 三
森田 茂吉〔法協〕四二八 三
一木喜徳郎〔國家〕四二九 一〇
松井 茂〔國家〕四二九 一〇
渡邊清太郎〔法政〕四三三 四
松井 茂〔法協〕四三三 四
宮本平九郎〔志林〕四三三 二〇

法治の觀念より論及して學者の所謂警察の主義を排す
警察の意義を論ず
營業の自由と警察權
警察作用並警察作用の分類
模倣性と豫防警察
警察權の限界
行政警察處分令行為の根據及限界
個人の自由に對する警察干渉權の限界
比較內務行政組織論
佛國に於ける無届社團の法律上の地位
出版と著作
社會と警察
地方警察とは何ぞや
獨逸の新結社法に就て
行政犯の性質を論じて警察犯に及ぶ
結社警察に就て
警察の觀念を論じて憲法第

鮫島東四郎〔法政〕四四三 五
副島 義一〔明法〕四四五 一
岡 實〔新報〕四三五 二
島田 俊雄〔新報〕四三三 三
穂積 陳重〔國家〕四三六 一
美濃部達吉〔新聞〕四三六 一
鮫島東四郎〔新聞〕四三六 一
泉二 新熊〔新報〕四三七 一
ホルンハック〔内外〕四三七 一
マルガ〔法協〕四三九 三
佐々木惣一〔京法〕四四二 三
留岡 幸助〔辯協〕四四二 三
佐々木惣一〔明學〕四四二 一
佐々木惣一〔京法〕四四二 一
佐々木惣一〔京法〕四四二 一
織田 萬〔京法〕四四三 一

九條に依る獨立命令權の範圍に及ぶ
 朝鮮の内務行政殊に警察行政に就て
 朝鮮警察の今昔
 警察許可の限界
 朝鮮警察の今昔
 農村と警察
 警察の觀念
 殖民地警察の特質
 警察の觀念を論ず
 警察權の限界を論ず
 警察許可を論ず
 警察官の抜擢
 國際警察權
 女巡查
 警察と人民
 英國法制上警察權の限界
 極東と國際警察權
 第一回國際司法警察會議
 警察廳の探偵犬の無能なるを喜ぶ
 警察制度の改善を望む
 國際行政警察

都市の警察自治を論ず
 米大陸に於ける國際警察
 テロン「國際團體と警察」
 (譯)
 警察行政に就て
 警察廳制度の改正に就て
 朝鮮警察の沿革
 新警察を要求す
 所謂高等警察に就て
 警察許可の限界
 警察廳の操體審取締問題
 官吏の待遇を論じて警察官の優遇問題に及ぶ
 社會と警察力(講演)
 警察官の觀念及服制
 社會と警察
 勞働爭議に對する警察權行使の範圍
 使の範圍
 願取締法
 警察行政に就て
 警察の軍隊化に就て
 警察署の人事相談所は憲法違反なるや否
 風俗警察に就いて

- 美濃部達吉〔志林〕四二二 二六
- 松井 茂〔國家〕四二二 二二
- 松井 茂〔法記〕四二二 一一
- 市村 光惠〔京法〕四二二 七一
- 松井 茂〔刑評〕四二二 三六
- 横井 時敏〔日經〕四二二 二二
- 美濃部達吉〔法協〕四二二 九八
- 對馬郁之進〔京法〕四二二 七九
- 美濃部達吉〔評論〕四二二 一
- 美濃部達吉〔法協〕四二二 三
- 美濃部達吉〔新報〕四二二 二二
- 美濃部達吉〔新報〕四二二 二二
- 泉 哲〔國際〕四二二 三
- 泉 哲〔國際〕四二二 三
- タイ ト〔國際〕四二二 二九
- 丸山 鶴吉〔新聞〕四二二 九八
- 村田岩次郎〔三學〕四二二 一
- 泉 哲〔國際〕四二二 三
- 牧野 英一〔志林〕四二二 八
- 鈴木富士彌〔辯協〕四二二 一九
- 今井力三郎〔新聞〕四二二 一〇三
- 泉 哲〔國際〕四二二 二

- 村田岩次郎〔三學〕四二二 五
- 泉 哲〔國際〕四二二 七
- 東 讓三郎〔國際〕四二二 一〇
- 清水 澄〔新聞〕四二二 二〇
- 中野勇治郎〔新聞〕四二二 二八
- 對馬郁之進〔京法〕四二二 二九
- 工藤 日東〔辯協〕四二二 二二
- 水野鎮太郎〔法政〕四二二 六
- 市村 光惠〔法論〕四二二 七
- 布施 辰治〔新聞〕四二二 二七
- 小川郷太郎〔法論〕四二二 一四
- 松井 茂〔日社〕四二二 一二
- 對馬郁之進〔法憲〕四二二 三
- 松井 等〔社政〕四二二 七
- 谷 健太郎〔新聞〕四二二 一八
- 石原雅二郎〔法政〕四二二 九
- 荒木 櫻洲〔新聞〕四二二 一七
- 山口鹿太郎〔新聞〕四二二 一〇
- 松倉慶三郎〔新聞〕四二二 二〇
- 市村 光惠〔法憲〕四二二 二

【警察犯處罰令】

警察制度の創設
 繪畫彫刻と風俗警察
 警察官の既決權を剝奪す可し
 司法官と警察官の抗爭に就て
 羽翼を断たれた移動警察
 監察機關を設くるの議
 矛盾した監視廳官制の批判
 警察の所屬は孰れが是乎
 支那の警察制度

刑事雜感
 刑事雜說
 最近刑事雜觀
 刑事大檢査論
 刑事雜記
 韓國刑事一斑
 巡視せし地方刑事界の實況
 泰西刑事界近狀
 刑事雜感
 臺灣刑事狀況
 刑事論斷片
 國際刑事學協會スイス部の復活
 國際刑事學協會ドイツ部會第十八回會議の議題及び決議
 國際刑事學協會の近況
 國際刑事學協會獨逸部會大會
 刑事制度の一大缺陷

- 尾佐竹 猛〔法曹〕六三二 二六
- 草野豹一郎〔新報〕六三二 七
- 和光 未房〔法新〕六三二 二
- 荒木 櫻洲〔新聞〕六三二 一三七
- 山川 道三〔新聞〕六三二 一三三
- 播磨 龍城〔新聞〕六三二 一三五
- 荒木 櫻洲〔新聞〕六三二 一三八
- 荒木 櫻洲〔新聞〕六三二 一四六
- 三田 勝〔法曹〕六三二 一五
- 石山 彌平〔辯協〕四二二 二二
- 川島 千司〔辯協〕四二二 二二
- 佐々木惣一〔京法〕四二二 三

- 伊谷龜太郎〔京法〕四二二 三
- 勝本勲三郎〔志林〕四二二 二二
- 富田 山壽〔京法〕四二二 二〇
- 宮島 大郎〔辯協〕四二二 一三
- 花井 卓藏〔刑評〕四二二 一八
- 安住時太郎〔刑評〕四二二 一六
- 河村讓三郎〔刑評〕四二二 一七
- 小川 平吉〔刑評〕四二二 一
- 天野 徳也〔刑評〕四二二 一三
- 手島兵次郎〔刑評〕四二二 一五
- 岡田 庄作〔國際〕四二二 二五
- 大喜多 光〔志林〕四二二 五
- 大喜多 光〔志林〕四二二 二五
- 大塚 郷二〔志林〕四二二 二
- 大塚 郷二〔志林〕四二二 二
- 大塚 郷二〔志林〕四二二 二七
- 佐伯 復堂〔新聞〕四二二 一〇

【警察】 【警察犯處罰令】 【刑事】 【刑事社會學】 【刑事人類學】

【刑事政策】

参照ニ感化事業。監獄。刑事統計。犯罪。冤囚保護。

刑事政策に於ける二問題	岡田朝太郎【明法】三三三
刑事政策と労働問題	菱谷 精吾【法協】三三三
刑事政策の梗概	牧野 英一【志林】三三三
刑事政策學に就て	泉二 新熊【法記】三三三
刑事政策論	寺崎 勝治【新報】三三三
刑事政策大綱に就て	菱谷 精吾【志林】三三三
刑事政策の強硬限度	アムシユル【刑評】三三三
刑事政策の二大主義	菱谷 精吾【法政】三三三
亞米利加の刑事政策	大場 茂馬【刑評】三三三
刑事政策上の諸問題	泉二 新熊【法記】三三三
刑事政策の要求の二三	牧野 英一【新報】三三三
刑事政策上の三大姉妹事業	勝本勘三郎【新報】三三三
刑事政策大綱自序	小山 温【刑評】三三三
刑事政策に就て	大場 茂馬【新報】三三三
刑事政策論の要領	大場 茂馬【新報】三三三
死刑の刑事政策上の價值	吉田 知道【刑評】三三三
朝鮮の刑政に就て	石山 彌平【辯協】三三三
刑政研究會	牧野 英一【法協】三三三
徳川時代の刑政	三上 參次【新報】三三三
支那往時の刑事政策一斑	不破 清登【新報】三三三

【刑事訴訟】

歐米に於ける刑事政策上の努力	泉二 新熊【法記】六四二
刑事政策としての労働權	K I 生【新報】六七二
刑事政策と保安處分	長尾 景徳【臺法】六八二
佛教思想と刑事政策	竹内 三郎【法政】六八二
刑事政策制度の概要	泉二 新熊【志林】六九二
刑事政策と精神病者	福島 一郎【新報】六〇一
参照ニ刑事訴訟法。刑事訴訟手續。檢察。抗告。公訴。控訴。公判。裁判。裁判所。私訴。證據。上告。上訴。捜査。訴訟費用。辯護士。保釋。豫審。	
刑事訴訟を論し朝野の學者及政治家に留意を望む	井本 常治【辯協】三三三
刑事訴訟の現状及其改善	佐藤 博愛【新報】三三三
刑事訴訟に關する意見	磯谷幸次郎【法記】三三三
幼年者に對する監督保護と刑事訴訟手續	泉二 新熊【法記】三三三
刑事訴訟の強制に關する獨逸國の立法問題	豊島 直通【法記】三三三
裁判公開主義	富田 山壽【志林】三三三
直接審理論	富田 山壽【京法】三三三
ビルクマイエル「刑事訴訟權の性質」	豊島 直通【新報】二二八
刑事訴訟論	富田 山壽【京法】二二八
心神喪失者に對する公訴と其裁判	大場 茂馬【新報】二二八
刑事訴訟と被告人の當事者能力	大場 茂馬【新報】二二八
辯護人の任務	大場 茂馬【新報】二二八
刑事訴訟の要訣	大場 茂馬【新報】二二八
刑事訴訟論	大場 茂馬【新報】二二八
刑事訴訟に於ける人	大場 茂馬【新報】二二八
刑事被告人の心理	大場 茂馬【新報】二二八
刑事辯護制に就いて	大場 茂馬【新報】二二八
刑事辯護制の採用に就て	大場 茂馬【新報】二二八
辯護人の地位	大場 茂馬【新報】二二八
公設辯護人の制度に就て	大場 茂馬【新報】二二八
資力なき刑事被告人の辯護	大場 茂馬【新報】二二八
刑事訴訟法第四二條の解釋	大場 茂馬【新報】二二八
より所謂假辯護屆の効力に及ぶ	大場 茂馬【新報】二二八
豫審判事受託判事は罰金の刑に該る被告人に對して拘引狀を發することを得	大場 茂馬【新報】二二八

訟の革新 (譯)

刑事訴訟	山岡萬之助【法記】二二八
刑事訴訟上の一大繁文縟禮	板倉松太郎【志林】二二八
刑事訴訟政策論	磯谷幸次郎【新報】二二八
刑事訴訟の終了	岡田 庄作【國國】二二八
刑事訴訟手續の併合	板倉松太郎【新報】二二八
刑事訴訟に於ける審判の範圍を論ず	林 頼三郎【新報】二二八
刑務官の眞使命	原 惣兵衛【法政】二二八
訴訟主體	後藤 文夫【臺法】二二八
代言人の地位	植村 俊平【新報】二二八
代言制の進化	穂積 陳重【法協】二二八
被告人の辯護權	鹽谷恒太郎【新報】二二八
陳述禁止と忌避申請	卜部喜太郎【新報】二二八
檢察と上官の關係	信岡雄四郎【辯協】二二八
刑事被告人の待遇	鳩山 和夫【辯協】二二八
辯護士の職務關係に就て	大石健太郎【新報】二二八
辯護權の縮少、人權の蹂躪	石山 彌平【新報】二二八
外國水兵の犯罪	信岡雄四郎【志林】二二八
刑事裁判に於ける辯護人の位置	石渡 敏一【法政】二二八
國際司法共助に關する我國の現行制度	新井要太郎【辯協】二二八
	松田 道一【志林】二二八

る乎

保釋論 平佐榮太郎〔法協〕三二六 甲五
花井 卓蔵〔辯協〕三三四 三七
信岡雄四郎〔志林〕三三三 三〇

刑事訴訟法の猶豫期間 裁判所は無罪の判決言渡後 検事の控訴申立前保釋の 決定を爲すを得るか
清家 宇吉〔新聞〕三七 一九二

控訴期間中控訴提起前に於て第一審裁判所は保釋を 許否するの権限なきか
平井彦太郎〔新聞〕三八 三二六

保釋の取消権を論ず 川島 龜夫〔辯協〕三六 七〇
ローメン「未決拘留の賠償」

竹山 三朝〔明學〕三〇〇 一二五
現行犯の場合に於ける司法 警察官の特別處分事件
豊島 直通〔新報〕二八 四

行刑猶豫の取消決定ありた るときは直ちに逮捕状を 發することを得るか
出口 元久〔新聞〕四二 五九

検事及司法警察官の爲す特 別處分 大場 茂馬〔新報〕四一九 二
富田 山壽〔志林〕二六三 二

刑事訴訟行為の無効を論ず 刑事行為に於ける條件概念 の一斑
板倉松太郎〔志林〕四二二 二
富田 山壽〔京法〕四二二 二

拘留の取消 山内 公允〔新聞〕四二五 五九
未決拘留に就て同僚に望む

津田 進〔新報〕六二五 九
北島 與吉〔法曹〕六二五 六
參照—違警罪即決。刑事訴訟。 刑法。少年法。 陪審法。
豊島六一郎〔法政〕三三 一九

【刑事訴訟法】

未決拘留に関する法律に付 力
ツイジ ソシヨウキウ

刑事訴訟法の改正を論ず 改正刑事訴訟法草案に對す る意見
栗原藤太郎〔新報〕三三二 二二五
野村 嘉六〔新聞〕三三三 二二八

刑事訴訟法と違警罪即決例 人權問題として刑事訴訟法 の一部改正を絶叫す
佐々木清綱〔新聞〕三三三 一九九
中川孝太郎〔法協〕三七三 九

刑事訴訟法の改正に就て 個人識別法と刑事訴訟法の 改正
平沼騏一郎〔法記〕四二一 三二〇

刑事訴訟法改正漫言 大場 茂馬〔新報〕四二一 八
富田 山壽〔京法〕四二二 二

刑事制度の變遷と刑事訴訟 法の改正 鶴澤 總明〔新聞〕四二二 五三
大演 隆〔新聞〕四二二 五三

刑事改正私考 豊島學士著修正刑事訴訟法 新論殊に其第三編第七章 (訴訟行為の性質及び効

豊島學士著修正刑事訴訟法 新論殊に其第三編第七章 (訴訟行為の性質及び効

令狀正本の意義に就て 判事の自由裁量と上告裁判 所の權限

刑事訴訟法上の里程の猶豫 に就て 天野 敬一〔辯協〕六三六 一八三
天野 德也〔辯協〕六二七 三二七

訊問を爲さざる判事の拘留 狀發布 林 頼三郎〔新報〕六四二 一〇

不合法なる正式裁判請求と 不合法なる附帯犯罪理決 定 板倉松太郎〔志林〕六五八 五

豫審判事は自己に被告人を 引渡すべく拘引狀の發布 と管轄地外の豫審判事又 は區裁判所判事に囑託す ることを得るか
平井彦三郎〔新聞〕六七 一四八
飯島 善齋〔新聞〕六八 一四九

未決拘留論 津田 進〔新報〕六二 三三 八
津田 進〔新報〕六二 三三 八

刑事法上の期日及期間 被告人召喚記載事項と召喚 狀の効力 八太 茂〔新聞〕六一 二〇三
津田 進〔法曹〕六二 一 一

刑事時効の期間及起算點 津田 進〔法曹〕六二 一 一
刑事時効の中斷及停止 津田 進〔法曹〕六二 一 一

刑事手續の改正を論ず 千賀 孝善〔法曹〕六三 二 一九
未決拘留を改善すべし 齋藤 巖〔新聞〕六三 二 一九

刑事訴訟法の時に關する効 力(を論ず 富田 山壽〔京法〕四二五 五
井本 常治〔辯協〕四二五 五
川島 仞司〔辯協〕四二五 五
石川 彌平〔辯協〕四二五 五
笠原文太郎〔辯協〕四二五 五
平松 市藏〔辯協〕四二五 五
新井要太郎〔辯協〕四二五 五
林 頼三郎〔新報〕六四二 一〇
猪股 清〔辯協〕六五〇 一〇
中川孝太郎〔新聞〕六五 一 一九三
不破 清誓〔新聞〕六五 一 一九五
松本 重敏〔新聞〕六五 一 一九八

刑事訴訟法改正草案(未定 稿)を評す 維本 朝造〔京法〕六六 二 一
岡田 庄作〔國圖〕六六 二 一
平沼騏一郎〔法記〕六六 二 一
平沼騏一郎〔法協〕六六 二 一
磯谷幸次郎〔新報〕六六 二 一
播磨辰治郎〔辯協〕六六 二 一

刑事訴訟法改正案に對する 私議 大澤 眞吉〔辯協〕六六 二 二
木村 尙達〔法政〕六六 二 二
宮本 英脩〔京法〕六六 二 二
新井要太郎〔辯協〕六六 二 二

刑事訴訟法改正案に就て 刑事訴訟改正案私議 刑事訴訟法改正案私議

刑事訴訟法改正の根本義と幕府の拷問制度
 刑事訴訟法改正案と陪審制度
 噫検事訴訟法
 法學に於ける訴訟法の地位
 刑事訴訟法改正案を讀む
 刑事訴訟法改正案要旨
 刑事訴訟法改正に就て
 刑事訴訟法改正案と陪審制度
 刑事訴訟法改正案の要旨
 刑事訴訟法改正案に就て
 日本刑事訴訟法
 刑事訴訟法改正に就て
 刑事訴訟法の規定の缺陷と其運用
 彈劾主義と陪審制度
 刑事訴訟法改正案成立の經過及要綱
 改正刑事訴訟法案に對する卑見
 改正刑事訴訟法に就て
 刑事訴訟法改正の要旨
 改正刑事訴訟法の特質

播磨	龍城	〔國國〕	六六	五	三五
猪股	洪清	〔國國〕	六六	五	四
岩田	唯雄	〔國國〕	六六	五	四
板倉松太郎	〔法政〕	六六	四	七	四
岩井	尊文	〔新聞〕	六六	二	八
平沼	一郎	〔新聞〕	六六	一	八
播磨	龍城	〔新聞〕	六六	一	八
猪股	洪清	〔新聞〕	六六	一	八
平沼	一郎	〔新聞〕	六六	一	八
谷田	勝之助	〔新聞〕	六六	一	八
富田	山壽	〔法論〕	六六	一	八
原	嘉道	〔新聞〕	六六	一	八
林	賴三郎	〔新聞〕	六六	一	八
谷	健太郎	〔辯協〕	六六	一	八
林	賴三郎	〔新報〕	六六	一	八
小齊	甚治郎	〔辯協〕	六六	一	八
八太	茂	〔辯協〕	六六	一	八
林	賴三郎	〔臺法〕	六六	一	八
岡田	庄作	〔法治〕	六六	一	八

新刑訴の森通罪其の他との關係
 刑事訴訟法案を評す
 日本刑事訴訟法史論
 新刑事訴訟法の特色
 新刑事訴訟法に關する特例
 新刑事訴訟法と告訴權の拋棄
 刑事訴訟法史論
 新刑事訴訟法と新聞記事
 新刑事訴訟法に就て
 新刑事訴訟法の要綱
 新刑事訴訟法の實施に就て
 新法實施の効果如何
 日本新刑事訴訟法と獨逸新陪檢規定に就て
 刑事訴訟法の改善歟改惡歟
 新刑事訴訟法の實蹟
 刑事訴訟法の解釋
 堀太利
 堀太利刑事訴訟法改正案に就て
 獨逸に於ける刑事訴訟法改

上田	恒三郎	〔臺法〕	六二	一六	九
大谷	忠四郎	〔新聞〕	六二	一	九
花井	卓藏	〔新報〕	六三	三	一
林	賴三郎	〔新報〕	六三	三	一
三好	一八	〔臺法〕	六三	一八	二
林	賴三郎	〔新報〕	六三	三	一
花井	卓藏	〔臺法〕	六三	一八	六
富岡	重雄	〔法新〕	六三	一	六
淺野	豊三郎	〔新聞〕	六三	一	六
林	賴三郎	〔新聞〕	六三	一	六
齋藤	巖	〔新聞〕	六三	一	六
不破	清誓	〔新聞〕	六三	一	六
小南	又一郎	〔新聞〕	六三	一	六
播磨	龍城	〔新聞〕	六三	一	六
岸井	辰雄	〔辯協〕	六三	一	六
板倉	松太郎	〔法政〕	六三	一	六
山岡	萬之助	〔新聞〕	六三	一	六

【刑事統計】

正の委員會決議の要領
 獨逸に於ける刑事訴訟法改正運動の經過並に其改正の主要點の一たる裁判所構成問題に對する草案規定の理由
 ドイツ新刑事訴訟法草案に就て
 ケイジトウケイ
 刑事統計報告
 佛國刑事統計の話
 本邦民刑事統計に就て
 萬國統計會議決議刑事統計調査法
 獨逸帝國刑事裁判統計調査法
 伊國刑事統計の組織及刑事統計國際比較の困難に關するエル・ボジョ氏の報告
 刑事統計の研究と新刑法の運用

中川	孝太郎	〔法協〕	四三	二	七
武田	鬼十郎	〔法記〕	六六	二	七
小野	清一郎	〔志林〕	六二	二	四
ケイ	ジトウケイ	參照	犯罪統計		
高橋	二郎	〔統集〕	四二	八	八
石川	惟安	〔統雜〕	四三	〇	九
高橋	二郎	〔統集〕	四三	〇	九
相原	重政	〔統集〕	四三	〇	九
高橋	二郎	〔統集〕	四四	一	二
牧野	英一	〔志林〕	四四	二	一

【刑事訴訟法】 【刑事統計】 【藝術】 【刑事略式手續】

【藝術】

獨逸の刑事統計に就て
 刑事統計の特質
 ケイ
 藝術上の犯人
 藝術の企業化に就て
 藝術と經濟
 文藝の官營
 勞働の藝術化
 ウキリアム・モリスの文明
 觀と藝術觀と勞働觀
 民衆藝術の一考察
 藝術と藝術的人生觀
 藝術と道德(講演)
 社會政策より見たる藝術
 ケイジヤクシキテツク
 【刑事略式手續】
 刑事略式手續法論
 刑事略式手續諸問題
 刑事略式命令に就て
 刑事略式手續法に就て

谷田	三郎	〔刑評〕	四四	二	七
光岡	安藝	〔刑評〕	四四	三	八
小杉	天外	〔刑評〕	四四	二	七
岡田	重次	〔國經〕	六六	一	三
阿部	秀助	〔三學〕	六八	一	〇
權田	保之助	〔國家〕	六八	三	六
森戸	辰男	〔國家〕	六八	三	二
河田	嗣郎	〔經叢〕	六九	一	〇
横山	有策	〔我等〕	六九	一	〇
大山	善男	〔我等〕	六九	一	〇
石丸	悟平	〔法政〕	六九	一	〇
圓谷	弘	〔法政〕	六九	一	〇
岡田	庄作	〔國國〕	六二	一	五
篠崎	昇	〔志林〕	六二	一	五
豊島	直通	〔法協〕	六二	一	五
高木	國尚	〔新聞〕	六二	一	五
駒澤	辰明	〔新聞〕	六二	一	五

三三五

略式手続に於ける忌避申請に就て
 刑事略式手続法廢止論
 略式命令異議申立及正式裁判申立と代理によりて爲したる場合の効力
 略式命令に對する管見
 略式命令請求書は果して起訴狀に非る乎

【形成権】

形成権（私權の新分類）
 形成権の消滅時効を論ず
 形成権の性質
 形成権の消滅時効に關する新考案
 エンネックチエルス形成権の一種としての取得權
 ゼツケル「民法上の形成権」(譯)

【繼續航海】

一八五六年戰時法及連續航海の先例十件
 繼續航海の法則に關する米國主義を論じて「ブन्दースラート」號事件に及ぶ
 繼續航海主義
 繼續航海を論ず
 戰時禁制品に關する連續航海主義の擴張（英國の捕獲審檢新判例批評）
 連續航海に關する英米の主張
 Continuous Voyage-The Present Position
 Bary

【刑の執行猶豫】

刑の執行猶豫を論ず
 刑の執行猶豫法に就て
 刑の執行猶豫論
 刑の執行猶豫制度
 刑の執行猶豫
 刑の執行猶豫の立法例
 憲法上の赦免大權と新刑法

案の刑の執行の猶豫の免除
 刑の執行猶豫の法理
 刑の執行猶豫に就て
 刑の執行猶豫に關する法律を論ず
 刑の執行猶豫に關する法律に就て
 刑の執行猶豫
 刑罰猶豫制度の趣旨
 刑の執行猶豫
 刑の執行猶豫法及裁判所構成法中改正法律に就き
 刑の執行猶豫と併科刑たる財産刑
 執行猶豫の期間満了後の犯罪の執行猶豫
 刑の執行猶豫に關する要件に就て
 執行猶豫の取消決定ありたるときは檢察事は直ちに逮捕狀を發することを得るや

【刑の執行猶豫】

刑の執行猶豫中の者の法律上の地位
 刑の執行猶豫
 刑の執行猶豫に就て
 刑の執行猶豫に關する大審院の判例を讀む
 刑の執行猶豫に關して過失犯の拘留と執行猶豫の無視
 刑の執行猶豫取調に關する一疑義
 田中氏の刑の執行猶豫取締に關する疑義を讀む
 刑の執行猶豫取消に關する疑義に付て山中天外君に質す
 刑の執行猶豫に關し裁判所の猛省を促す
 辯護士綿野玉次君の刑の執行猶豫論を讀む
 刑の執行猶豫を論ず
 近時に於ける刑の執行猶豫に就て
 刑の執行猶豫と公民權停止

刑の執行猶豫の要件
 出口 元久〔新聞〕四四一—五三九
 牧野 英一〔志林〕四四二—二二

植松 金章〔辯協〕四四二—二六〇

總積 八東〔新報〕四三三—一
 岩井 章文〔法協〕四三三—三
 岡田朝太郎〔法協〕四三三—三
 岡松參太郎〔内外〕四三三—二
 勝本勘三郎〔内外〕四三三—四
 泉二 新熊〔法協〕四三三—五
 淺見倫太郎〔新聞〕四三三—六
 金子富次郎〔新聞〕四三三—七
 淺野豊三郎〔新聞〕四三三—七
 牧野 英一〔志林〕四三三—九
 牧野 英一〔志林〕四三三—二
 小嶋 傳〔法政〕四三三—二

遠藤 源六〔法記〕四三三—一
 花井 卓藏〔刑評〕四三三—一
 遠藤 源六〔明學〕四三三—二
 末松 正行〔新聞〕四三三—五
 成瀬 邑雄〔新聞〕四三三—五
 池田 直江〔辯協〕四三三—九
 田中 智作〔新聞〕四三三—七
 山中 天外〔新聞〕四三三—七
 田中 智作〔新聞〕四三三—七
 綿野 玉次〔新聞〕四三三—七
 山内 公允〔新聞〕四三三—七
 伊藤藤三郎〔刑評〕四三三—五

の關係を論ず
執行猶豫の全廢と贖責刑の
新設を提案す
刑の執行猶豫の條件として
の禁酒
執行猶豫廢止論
以上の處刑
刑の執行猶豫に就て
刑の執行猶豫を論ず
支那法と刑の執行猶豫
刑の執行猶豫を論ず
上訴と刑の執行猶豫
刑の執行猶豫の言渡と免官
處分との關係

【刑罰】
カイ
バツ
參照ニ感化院。監獄。刑の執行
懲戒。罰法。犯罪。

横山勝太郎〔辯論〕	六一	二六	一七〇
長岡 熊雄〔新聞〕	六一	二六	一九〇
牧野 英一〔志林〕	六三	二六	九
不破 清善〔新聞〕	六三	二六	九二五
山岡萬之助〔新聞〕	六四	二五	六
山岡萬之助〔新聞〕	六四	二五	一〇一〇
大場 茂馬〔新聞〕	六六	二七	九
東川 徳治〔京法〕	六七	二三	二二
津田 進〔法記〕	六八	二二	一
津田 進〔志林〕	六八	二二	四
島村他三郎〔新聞〕	七〇	三二	四
小山 松吉〔法記〕	七九	六	五九
小河滋次郎〔法政〕	八三	四	三八
仲小路 慶〔法記〕	八三	一〇	一〇四
岡 實〔新聞〕	八三	三	七
グラニエー〔新聞〕	八三	一	五九八

舜帝の刑法に於ける刑の發
達
刑の觀念に關する研究
刑罰に關する所見一斑
國家刑罰權の目的
刑罰權の眞正基礎
刑罰權の社會的基礎
性相學上の刑罰を論ず
原始の刑罰觀念
刑罰學に就て
新刑法と刑罰個別論
刑罰權の觀念
應報刑論
復讐刑論
善良の風俗と目的刑
應報刑と保護刑
年賀と目的刑主義
社會初期の刑罰
刑罰の社會的效果に就て
蒙古の刑罰
刑罰論
倫理學者の觀たる刑の目的
刑の目的

田能村梅士〔明法〕	八六	一	六二
鶴澤 總明〔明學〕	八六	一	一〇九
蓋谷 精吾〔法記〕	八七	二〇	一〇九
川島 仟司〔辯論〕	八七	二〇	一〇九
フランク〔明學〕	八七	二〇	一〇九
播磨 龍城〔明學〕	八七	二〇	一〇九
鶴澤 總明〔明學〕	八七	二〇	一〇九
ホイース〔新聞〕	八七	二〇	一〇九
牧野 英一〔法記〕	八七	二〇	一〇九
松野 祐齋〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
鶴澤 總明〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
鶴澤 總明〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
牧野 英一〔志林〕	八七	二〇	一〇九
小竹 早雄〔國家〕	八七	二〇	一〇九
鞍 嶺子〔志林〕	八七	二〇	一〇九
鶴澤 總明〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
樋口 秀雄〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
佐々木安五郎〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
レツクス〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
藤井健治郎〔刑評〕	八七	二〇	一〇九
横山勝太郎〔辯論〕	八七	二〇	一〇九

性相學上犯罪及刑罰觀
刑罰の目的を論ず
性と刑
刑罰の目的
ビルク・マイヤー「ドクト
ル・ヨハン・テイレン氏
論「刑法改正の主義第一
刑罰の社會的任務刑罰組
織」に就ての評論」(譯)
刑罰と保安處分とに就て
罪と罰
犯罪の主觀主義と刑罰の主
觀主義
性と刑
法無ければ刑なし
取締と刑罰
法なければ刑なしの原則
法なければ刑なしの原則
と我刑法

【刑罰】

播磨 龍城〔新聞〕	八六	一	二
岡田 庄作〔刑評〕	八六	一	二
花井 卓藏〔辯論〕	八六	一	二
大場 茂馬〔評論〕	八六	一	二
岡田 庄作〔志林〕	八六	一	二
牧野 英一〔志林〕	八六	一	二
花井 卓藏〔新聞〕	八六	一	二
牧野 英一〔志林〕	八六	一	二
花井 卓藏〔新聞〕	八六	一	二
武田鬼十郎〔法記〕	八六	一	二
市村 富久〔評論〕	八六	一	二
武田鬼十郎〔新聞〕	八六	一	二
武田鬼十郎〔新報〕	八六	一	二
武田鬼十郎〔法記〕	八六	一	二
牧野 英一〔日社〕	八六	一	二
十時 彌〔日社〕	八六	一	二
武田鬼十郎〔新報〕	八六	一	二

刑罰の觀念を明かにす
刑罰の效力
刑罰法上に於ける應報思想
と目的觀念
處罰論
處罰の意義及び研究
處罰者に對する「刑罰の能
作」と「刑罰不感應の理」
刑罰に類似する處分
處罰條件と訴追條件
刑罰と保安處分とに就て
刑罰法上に於ける豫防思想
罪刑の消滅を論ず
理想的刑罰
刑罰法令の適及及追及效
を論ず
現代科學に於ける刑罰問題
嚴罰か寬罪か
臺灣人の刑罰感應性と刑量
裁定との關係
罪刑法定主義の歴史的考察
刑法の目的と刑罰の目的
一般豫告の爲めの嚴罰論
決定論的應報刑の「典型」

大場 茂馬〔新報〕	八五	二六	五
大場 茂馬〔新報〕	八五	二六	七
木村 尙達〔法政〕	八六	一四	一
大場 茂馬〔新報〕	八六	一七	一
大場 茂馬〔法政〕	八六	一四	二
谷本 弘二〔國圖〕	八六	一五	五
大場 茂馬〔新報〕	八六	一七	六
大場 茂馬〔國圖〕	八六	一五	七
池田 重雄〔志林〕	八六	一七	三
木村 尙達〔法記〕	八六	一七	一〇
大場 茂馬〔國圖〕	八六	一五	一〇
大場 茂馬〔國圖〕	八六	一五	二
宮本 英倫〔京法〕	八七	二三	一
南 勝治〔志林〕	八七	二〇	三
泉田吉次郎〔新聞〕	八七	二一	七
上内恒三郎〔臺法〕	八八	二三	二
瀧川 幸辰〔法叢〕	八八	一	六
杉本 榮次〔臺法〕	八九	一四	七
齋藤 巖〔新聞〕	八九	一四	〇

ルケルの決定論に就て) ビルクマイヤー「刑罰と保全處分」

刑罰の本質としての應報 刑罰とは何ぞや 刑罰の統一の立場から 刑罰の否定と教化的考察 行刑の結果報告に就て 家人奴婢の犯罪及び之に科せられたる刑罰 支那古代の刑罰思想 國際聯盟制度と刑罰制裁問題 米國に於ける刑罰學發展の傾向 刑餘りありて教足らざるなきか 松倉辯護士の刑餘ありて教足らざるなきかを讀んで 刑罰は犯罪豫防の手段なり 經驗に基く實地刑罰執行上の提唱 刑罰について 刑罰の時代的變遷

瀧川 幸辰	〔法叢〕	六二〇	五	五	一
瀧川 幸辰	〔法叢〕	六二〇	五	五	一
瀧川 幸辰	〔法叢〕	六二〇	五	五	一
宮本 英術	〔法叢〕	六一一	八	七	一
寺崎 勝治	〔法政〕	六一九	七	七	一
千賀 孝善	〔法記〕	六一三	三	三	一
寺崎 勝治	〔法記〕	六一三	三	三	一
瀧川政次郎	〔志林〕	六二二	三	三	一
加藤 行吉	〔辯協〕	六二二	七	七	一
塚原 太郎	〔國知〕	六二二	三	三	一
山名 壽三	〔法政〕	六二二	〇	九	一
松倉慶太郎	〔新聞〕	六二二	一	二〇	五
藤塚 林平	〔新聞〕	六二二	一	二〇	三
河邊 義一	〔新聞〕	六二二	一	二五	四
清水 鼎良	〔法曹〕	六二三	二	二	一
瀧川 幸辰	〔法叢〕	六二三	三	三	一
橋本 渡	〔新聞〕	六二三	一	二〇	三

刑罰は必ずしも犯罪者に對するに非ず ペンナムの功利主義的犯罪 及び刑罰觀 斷罪の資料としての行刑成績報告 支那古代の刑罰觀念に就て 公刑罰の成立について 刑罰の廢止と社會政策の振興

モーリス「犯罪學の發達と刑罰觀念の變遷」(譯) 刑罰主義と寬刑主義 刑罰の適用 法國輕減加重新法 酌量減輕と改正刑法草案 伊庭想太郎被告事件を論じて酌量減輕の法廷に及ぶ 特別宥恕並罪様の列舉に付て 關帝判決と刑の時効 關帝判決と刑の期滿免除に付き平島氏に質す 刑罰量定の標準と被告人の

松倉慶三郎	〔新聞〕	六二三	一	二五	三
永澤 邦男	〔法研〕	六二四	四	二	一
寺崎 勝治	〔新報〕	六二四	五	五	一
加藤 行吉	〔法政〕	六二四	三	六	八
小野清一郎	〔志林〕	六二四	七	九	一
松倉慶三郎	〔新聞〕	六二四	一	二四	二
安東 禾村	〔法新〕	六二五	一	七	五
中根 四郎	〔新聞〕	六二五	一	二四	二
岩野 新平	〔法記〕	六二五	二	五	一
花岡 敏夫	〔法協〕	六二六	二	二	一
花井 卓藏	〔新報〕	六二六	九	九	一
岡田朝太郎	〔志林〕	六二六	三	三	一
平島直太郎	〔新聞〕	六二六	一	三三	一
岡本 至徳	〔新聞〕	六二六	一	二八	一

惡性及其特別關係 民事刑事の一紙觸問題 刑罰の適用に就て 量刑の標準と刑罰の量定 舊刑法の刑と新刑法の刑との間に併合罪に屬する規定を適用する場合 新刑法第五條削除論 新刑法第五條に就て 新刑法第六條と新舊刑法の比照 刑法第六條新舊刑法の對照に就て 親告罪に對する新舊二法の比照 及川辯護士の所謂新刑法の疑義に就て 不動産を沒收することを得るか 未決拘留日數の通算に就て 刑罰の裁量と賠償的分子 刑法第十九條の疑義 刑の量定標準に關する大審院の判決を讀む

大場 茂馬	〔法記〕	四二一	八	四	四
飯島 喬平	〔法協〕	四二二	六	六	一
泉二 新熊	〔法協〕	四二二	六	七	一
大場 茂馬	〔新報〕	四二二	八	九	一
牧野 英一	〔志林〕	四二二	〇	二	一
横山勝太郎	〔辯協〕	四二二	三	三	一
宮島 大郎	〔辯協〕	四二二	三	三	一
山内牧三郎	〔新聞〕	四二二	一	五	八
鮎江 學人	〔新聞〕	四二二	一	五	六
長岡 熊雄	〔新聞〕	四二二	一	五	六
渡川 漁夫	〔新聞〕	四二二	一	五	六
T N 生	〔新聞〕	四二二	一	四	四
小崎 傳	〔法政〕	四二二	三	一	一
牧野 英一	〔志林〕	四二二	二	〇	一
反響・生	〔新聞〕	四二二	一	五	六
大矢 早利	〔新聞〕	四二二	一	五	七

刑の執行の時効に就て 刑の裁量に就て 刑罰の量定に對する批評に就て 過失犯の拘留と執行猶豫の無視 老年犯罪者に對する科刑に就て 新舊刑法比照の結果輕き舊法を適用して懲役刑に處する場合に新法時代の未決拘留を刑罰に通算することを得るか 刑の執行に關して余か所信を述ぶ 刑法第一四條の適用に就て 量刑標準の研究 刑の量定に就きて 懲役又は駐額二倍以下の罰金に處すべき場合に於て 懲役刑を選擇したるときは駐額を判示するの必要なきか 刑法、比照新舊、從輕處斷

齋藤常三郎	〔京法〕	四二五	五	五	一
元田 肇	〔刑評〕	四二五	二	八	一
平沼騏一郎	〔刑評〕	四二五	二	一〇	一
池田 直江	〔辯協〕	四二五	一	三	九
今村 正美	〔新聞〕	四二五	一	六	三
山内 公允	〔新聞〕	四二五	一	六	三
市場學而郎	〔刑評〕	四二五	四	四	一
岡田 庄作	〔志林〕	四二五	一	六	一
瀧本駒太郎	〔新聞〕	四二五	一	六	一
阿部文二郎	〔新聞〕	四二五	一	九	二
菱川 憲正	〔新聞〕	四二五	一	二	七

新刑法の運用	三浦英五郎〔刑評〕四四二
舊刑律と新刑法	泉二 新熊〔法協〕四四二
刑法の立法事業	横田 國臣〔刑評〕四四二
新刑法と時代思潮	河上 肇〔日経〕四四二
新刑法に就て	吉田平治郎〔新聞〕四四二
世界最新の刑法草案	富井 政章〔東経〕四四二
新刑法の例示規定に就て	大場 茂馬〔新聞〕四四二
新刑法と豫審	宮島 次郎〔辯協〕四四二
新刑法の運用の一大變調	新井要太郎〔辯協〕四四二
新刑法の運用に就て	小山五郎一〔辯協〕四四二
新刑法の効果	富井 政章〔刑評〕四四二
刑法時事觀	木名瀬禮助〔刑評〕四四二
松田前法相と刑法	牧野 英一〔法協〕四四二
老刑法と老犯人	菊池 武夫〔刑評〕四四二
最近三大刑法案に就て	花井 卓藏〔新報〕四四二
刑法の經世觀	泉二 新熊〔志林〕四四二
刑事立法政策	花井 卓藏〔新報〕四四二
刑事法の活用	勝本勲三郎〔新報〕四四二
加藤清正の法度書と新刑法の精神	卜部喜太郎〔新報〕四四二
大寶令の刑法	鈴木 天眼〔刑評〕四四二
	池邊 義象〔京法〕四四二

刑法と慣習法	富田 山壽〔刑評〕四四二
刑法運用の現状	花井 卓藏〔新聞〕四四二
新刑法實施の結果に就て	谷田 三郎〔法協〕四四二
刑事立法の變遷に就て	勝本勲三郎〔志林〕四四二
刑法と正義觀念	大場 茂馬〔評論〕四四二
新刑法の主義	山岡萬之助〔法記〕四四二
刑法實施の効果	植松 金章〔辯協〕四四二
●ハン・テイレン氏論「刑法改正の主義第一刑罰の社會的任務刑罰組織」に就ての評論」(譯)	岡田 庄作〔志林〕四四二
刑法と社會性の發展	天野 徳也〔評論〕四四二
我刑法は最優良の刑法か最劣悪の刑法か	大場 茂馬〔新報〕四四二
刑法の解釋方法に就て	牧野 英一〔志林〕四四二
法なければ刑なしとの原則と我刑法	武田魂十郎〔新報〕四四二
佛敎の正法律(二千五百年前の法律特に刑法)	花井 卓藏〔辯協〕四四二
刑法上に於ける目的思想に付て	武田魂十郎〔新聞〕四四二

刑法の補助科學の教育	寺田 精一〔志林〕四四二
刑法に於ける主觀主義の適用と其の制限	牧野 英一〔志林〕四四二
我神代の刑法	澤田順次郎〔國圖〕四四二
徳川刑法の論評	中田 薫〔志林〕四四二
世界の刑法	岡田朝太郎〔志林〕四四二
刑法に於ける危險性	山岡萬之助〔法政〕四四二
刑法の演習問題	小野清一郎〔志林〕四四二
戦前及戦後に於ける刑法の社會的任務	小野清一郎〔志林〕四四二
刑法の根本觀念	宮本 英脩〔法論〕四四二
不孝無不孝無道徳刑法の根本問題	播磨 龍城〔新聞〕四四二
日本刑法の主義	不破 清誓〔新聞〕四四二
羅馬尼一刑法學者の日本刑法評	寺田 四郎〔志林〕四四二
犯罪及び刑法の社會的及び進化的意義	牧野 英一〔志林〕四四二
刑法に於ける進化的精神	大塚 郷二〔志林〕四四二
刑法の目的と刑罰の目的	杉本 榮次〔臺法〕四四二
理論及實施に於ける民法及刑法	石崎皆一郎〔臺法〕四四二
刑事學の新思潮と新刑法を讀む	山本 龜市〔志林〕四四二

刑法の實踐論的改正の企	牧野 英一〔法協〕四四二
刑法の解釋と主觀主義	牧野 英一〔志林〕四四二
刑事法に關する研究	鶴澤 總明〔辯協〕四四二
刑法悪きか執法官其人なきか	緒方 清繼〔臺法〕四四二
第四十五議會通過の新法律と刑法典	泉二 新熊〔法政〕四四二
刑法の改正に就て	岡田朝太郎〔法政〕四四二
刑法上の孝道觀	長岡 熊雄〔新聞〕四四二
刑法今後の趨勢に就て	草野 一郎〔新聞〕四四二
國家社會的共存生活の規準の爲否我が刑法の爲めに科學的使命と刑法	播磨 龍城〔新聞〕四四二
刑法に於ける社會防禦と階級防禦	安平 政吉〔法曹〕四四二
最近刑法上の諸問題	大塚 春富〔辯協〕四四二
三箇の問題	清水 鼎良〔法曹〕四四二
本邦固有刑法の特色	牧野 英一〔志林〕四四二
新理想主義刑法論の提唱	泉二 新熊〔法新〕四四二
刑法に於ける正義	島田 武夫〔法新〕四四二
無政府主義と刑法	小野清一郎〔志林〕四四二
小題三則	豊島 直通〔法曹〕四四二
刑法一大改正評論	牧野 英一〔志林〕四四二
各國の刑法改正事業一瞥	不破 清誓〔新聞〕四四二
	小齋甚治郎〔正義〕四四二

イタリヤ刑法改正準備草案 正文	〔志林〕九〇三三九二二
イタリヤ刑法改正準備草案 に就て	牧野 英一〔志林〕九〇三三九二二
獨逸刑法改正案の對照	泉二 新熊〔新報〕六二二三 八
英國刑法大意	花井 卓哉〔刑評〕四四三三九一〇
英吉利國刑法歴史一斑	谷野 格〔刑評〕四四三三九一〇
ドイツ・オーストリアの刑 法統一問題	小野清一郎〔志林〕六二二二四 二〇
埃太利刑法改正一九二二年 案正文	〔志林〕六二二二五 二七
支那刑法志	松 鎮 子〔新報〕四八 五
清國の刑法草案に付て	岡田朝太郎〔志林〕四四三三 二
大清刑律草案	〔志林〕四四三三 二
清國改正刑事草案(總則)	岡田朝太郎〔法協〕四四三三 二
中華民國に於ける刑政の一 斑	板倉松太郎〔法記〕六九三〇 四
中華に於ける動靜刑法の一 斑	板倉松太郎〔法政〕六二二二 一
漢代刑名一斑	東川 徳治〔志林〕六二二二六 八

獨逸刑法論	リス ト〔法協〕四三二二六 二〇
刑法改正に關する獨逸社會 民主黨の決議に就て	泉二 新熊〔志林〕四三九 八 一三
獨逸刑法草案に對する獨逸 諸學者の批評	鳩山 秀夫〔法協〕四四二八 二六
獨逸刑法草案(現行法對比)	古川 五郎〔刑評〕四四三三 一〇
獨逸新刑法草案に就て	松岡 林平〔法記〕六二〇三 二
獨逸刑法改正一九一九年草 案正文	〔志林〕六二二二四 三二
獨逸刑法改正案の對照	泉二 新熊〔新報〕六二二三 八
ドイツ・オーストリアの刑 法統一問題	小野清一郎〔志林〕六二二二四 二〇
ドイツに於ける刑法改正事 業の研究	小野清一郎〔志林〕六二二二六 九 二二
最近獨逸刑法の變更	安平 政吉〔法曹〕六二二 二
差別刑論と獨逸新刑法草案	鶴澤 總明〔正義〕六二四 一 三
獨逸刑法一九二五年草案の 成立	大塚 郷二〔志林〕六二四二七 五
新獨逸刑法草案について	藥師寺志光〔法協〕六二四三三 六
獨逸新刑法草案に就て	〔志林〕六二四二七 六八
ドイツ刑法協會の成立	守安富太郎〔法曹〕六二四三三 七
	大塚 郷二〔志林〕六二四二七 二

獨逸新刑法草案評論	守安富太郎〔法曹〕六二四三三 一六
チャールズ五世の刑法	岡田朝太郎〔志林〕四四三三 四 三〇
佛國刑法百年紀念號發刊に 付て	富井 政章〔志林〕四四三三 二
佛蘭西刑法の發達	牧野 英一〔志林〕四四三三 二
北米合衆國の刑法典	泉二 新熊〔刑評〕四四三三 二二三
委內瑞拉合衆國新刑法典 概評	岡田朝太郎〔法協〕六六三五 二九
米國加洲刑法釋義	岩本 英夫〔法治〕六二五 五 六
露國新刑法	泉二 新熊〔法政〕四三九一〇三二二
ソヴイエット・ロシアの刑 法	小野清一郎〔國家〕六二二三七 一 二
勞農露西亞の刑法に就て	小泉 英一〔法曹〕六二四三三 五
羅馬法上に於ける私犯法と 刑法との發達關係一般	木村 禮祐〔辯協〕六二二七 一 二
歐洲大陸刑法典籍解題	寺田 四郎〔志林〕六二四一七 二
婆利維亞刑法典	岡田朝太郎〔法協〕六二四一七 二
チエコ・スロヴァキアの刑 法草案に就て	小野清一郎〔國家〕六二二三七 五
ポーランドの刑法草案に就 て	

瑞西刑法一九一八年草案正 文	小野清一郎〔志林〕六二二二五 八
暹羅王國刑法法典	〔志林〕六二二二六 九 二二
國外の犯罪に對する刑法の 效力を論ず	岡田朝太郎〔早法〕六二三 三
新なる非刑罰の適及力に付 て	大島喜三郎〔法協〕四三九二四 二
時に關する刑罰法規效力の 範圍	泉二 新熊〔新報〕四三六 三 三
刑法の適及力に付て	小崎 傳〔法記〕四三九 二六 三
新刑法第五條制除論	泉二 新熊〔志林〕四四〇 九 二
新刑法第五條に就て	横山勝太郎〔辯協〕四四一 二 三
新刑法第六條と新舊刑法の 比照	宮島 次郎〔辯協〕四四一 二 三
刑法第六條新舊刑の對照に 就て	山内牧二郎〔新聞〕四四一 一 五 八
刑法第二條と國民自衛權と の關係	錦江 學人〔新聞〕四四一 一 五 六
刑法の場所的及び人的效力 に關する研究問題	秋山雅之助〔志林〕四四二 二 二
歐米各國に於ける刑法の適 及	泉二 新熊〔法記〕四四三 二 一〇

時に關する刑法の施行力の範圍を論ず

刑法解釋の基礎及要點
刑法第六條に付きて

刑法進化主義

刑法學理の一新
刑法學理の一新
第八回萬國刑法學會記事
刑法學の施行の學說に就て
刑法新派の基礎を論ず
ベツカリアの經歷及其學說の概要

刑法上の新舊學派を評して
改正刑法に及ぶ
刑法理論に於ける舊派新派及び最新派となる今の通理

クラシック學派の主張とツチオロデツチエ學派の主張の異同

牧野助教授著「刑事學の新思潮と新刑法」を讀む

梅原 武雄〔法記〕	四五三	六
大場 茂馬〔新報〕	六六三	九
大場 茂馬〔法協〕	六八〇	一〇
花村 美樹〔朝司〕	六二一	七
穂積 陳重〔法協〕	四〇五	五
富井 政章〔法協〕	四二四	九
富井 政章〔國家〕	四二四	五
淺見倫太郎〔新聞〕	四三六	一
牧野 英一〔志林〕	四七六	六
古賀 廉造〔志林〕	四八八	九
勝本勘三郎〔新報〕	四八二	一
大場 茂馬〔新報〕	四一九	四
大場 茂馬〔法記〕	四一九	五
吉野 作造〔國家〕	四二二	八

刑事三學派に就て
保護刑主義の代表者たるリ
スト氏と應報刑主義の代
表者たるビルクマイヤー
氏と論争を批評して我刑
法の規定に及ぶ

大場茂馬氏の刑法各論を讀
む

大場氏の刑法各論に對する
某判事の論評を讀む

黒田如水の刑法觀

刑事舊學派の主張
泉二學士の日本刑法論の一
節を讀む

刑法學及其補助科學
刑法新派の要領及び之に對
する評論

刑法俗論を讀む(附子の儼
悔と冀望)

現代に於ける刑事法學の思
潮に就て

憲法の精神と背馳する帝大
教授法學士牧野英一君の
刑法論

山岡萬之助〔法記〕	四二〇	二
勝本勘三郎〔京法〕	五三三	三
在野野利事某〔新聞〕	六一七	一
本郷 藍七〔新聞〕	四二七	六
福本 日南〔刑評〕	四三三	六
山岡萬之助〔刑評〕	四三三	一〇
河井善太郎〔新聞〕	四四一	七
大場 茂馬〔評論〕	六八一	一
大場 茂馬〔法記〕	六八三	九
村瀬 孝文〔新報〕	六二二	九
原 夫次郎〔志林〕	六二二	一〇
天野 德也〔新聞〕	六二一	九

道義の準則と背馳する刑法論

最近十五年間に於ける刑法學の變遷

豫防主義を批評す(講演)

刑法學の任務及び方法

チエザレ・ベツカリアとトマンナタレ(刑法學の先驅者)

心理強制主義と意思の自由
舊學派より見たる新學派ビ
ルクマイヤー・リスト氏
は刑法に何を殘すか(解
說)

刑法法理と刑事政策
故獨外相ラテナウ氏の刑法
未來觀

タルドの刑事社會學と刑法
二人の刑法學者の思出

國際刑法協會の大會
刑法的觀察と私法的觀察
刑法各論の對象及び方法に
就て

刑法主觀主義に對する疑惑

天野 德也〔新聞〕	六三	一
牧野 英一〔新聞〕	六四	一〇〇〇
大場 茂馬〔日社〕	六四	二
山根 要治〔志林〕	六八二	三
瀧川 幸辰〔法叢〕	六九	一
瀧川 幸辰〔法叢〕	六九	三
瀧川 幸辰〔法叢〕	七〇	二
岩井 尊文〔新聞〕	七〇	一九八
宮本 英脩〔法叢〕	七一	八
風早八十二〔國家〕	七二	七
瀧川 幸辰〔法叢〕	七三	二
大塚 郷二〔志林〕	七四	七
島田 武夫〔法政〕	七五	一
小野清一郎〔志林〕	七五	三
坂本 英雄〔法曹〕	七五	三

ケイホウシ コウホウ
【刑法施行法】

新刑法施行法第六條第一號
の場合に併合の規定に依
る理由

刑法施行法第六條の解釋

刑法施行法に就て

刑法施行法第八條と刑法第
二一條との關係

果して刑法施行法の缺點な
るか

刑法施行法第五八條につい
て

刑法施行法第一九條により
刑名を變更せられたる他
の法律と新舊法の比照に
付て

再び遠藤博士の垂教を仰ぐ
山内檢事の刑法施行法第一
九條刑法第二五條に由る
新舊法の比照に付ての論
説を評す

遠藤 源吉〔新報〕	四二八	八
淺野豊三郎〔新聞〕	四二二	九
遠藤 源六〔明學〕	四二二	一三二
山内牧二郎〔新聞〕	四二二	五〇九
瓊浦 學人〔新聞〕	四二二	五〇九
山内牧二郎〔新聞〕	四二二	五二四
山内牧二郎〔新聞〕	四二二	五二四
鈴木 生〔新聞〕	四二二	五二五